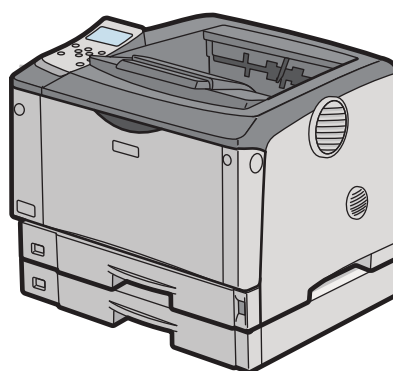
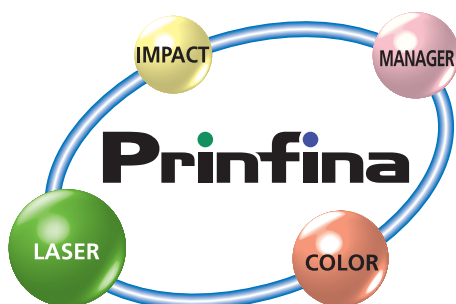


HITACHI
Inspire the Next

日立モノクロページプリンター
Prinfina LASER BX3541

Prinfina

PC-PL3541シリーズ ページプリンター取扱説明書 ソフトウェアガイド



マニュアルはよく読み、保管してください。

- ・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分に理解してください。
- ・このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

■重要なお知らせ

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- (2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- (4) 本製品を運用した結果については(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 弊社指定のオプションまたは消耗品以外を装着してのトラブルについては(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

■プリンターの信頼性について

本プリンターは、一般事務用を意図して設計・作成されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。

■規制、対策などについて

●電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●高調波電流規格：JIS C 6100-3-2 適合品

JIS C 6100-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第3-2部：限度値 - 高調波電流発生限度値（1相当の入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

●プリンターでの印刷について

紙幣、有価証券などをプリンターで印刷すると、その印刷物の使用如何に拘らず、法律に違反し、罰せられます。

(1) 複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

- ・紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- ・日本や外国の郵便切手、印紙
 - ・関連法規 刑法 第148条、第149条、第162条
 - ・通貨及証券模造取締法 第1条、第2条
 - ・郵便切手類模造等取締法
 - ・紙幣類似証券取締法
 - ・印紙等模造取締法

(2) 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- ・外国の紙幣、貨幣、銀行券
- ・株券、手形、小切手などの有価証券
- ・国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- ・個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
 - ・関連法規 刑法 第149条 第155条 第159条 第162条
 - ・外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

(3) 著作権法で保護されているもの

- ・著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

●輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■保守部品について

本プリンターの保守用部品の保有期限は製造打ち切り後5年です。

■著作権についてのお知らせ

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

はじめに

このたびは、日立ページプリンターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
本機を正しくお使いいただくために、本書は必ずお読みください。
また、お読みいただいたあとも大切に保管してください。

添付品に欠損・欠品等ありましたら、担当営業またはご購入先までご連絡ください。

お問い合わせ先

●プリンターの操作方法などについてのお問い合わせ

HITAC カスタマ・アンサ・センターにお問い合わせください。

製品の技術的なお問い合わせについて回答いたします。

ただし、各言語によるユーザープログラム等の技術支援は除きます。

また、明らかに故障であると思われる内容につきましては、販売会社、担当営業、または保守会社にご連絡ください。

HITAC カスタマ・アンサ・センター（HCA センター）

フリーダイヤル 0120-2580-12

受付時間 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

（土・日・祝日・弊社指定休日を除く）

■コールバック方式

受付担当者がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話またはメールでお答えします。

●故障や保守サービスについてのお問い合わせ

トラブルが発生した場合は、まず、取扱説明書（本書）をご確認ください。

故障と判断される場合は販売会社、担当営業、または保守会社にご連絡ください。

目次

使用説明書について	9
使用説明書の紹介	9
使用説明書一覧表	10
マークについて	11
サポート終了 OS について	11
IP アドレスについて	11
おもなオプションと略称	12
表示画面とキー操作について	13

1. 印刷するための準備

接続方法を確認する	15
ネットワーク接続	15
Windows の印刷ポートを使用する	15
プリントサーバーを使用する	16
ローカル接続	17
プリンタードライバについて	18
おすすめインストール	19
各ポート別インストール	21
Network Monitor for Client ポートを使う	21
Network Monitor for Client のインストール	21
プリンタードライバのインストール (TCP/IP)	22
プリンタードライバのインストール (IPP)	25
Network Monitor for Client ポートの設定を変更する	28
Standard TCP/IP ポートを使う	30
LPR ポートを使う	33
WSD ポートを使う	35
Windows ネットワークプリンターを使う	37
USB 接続	40
Windows 2000 と USB で接続する	40
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する	41
Windows Vista、Windows Server 2008 と USB で接続する	43
Windows 7 / Windows Server 2008 R2 と USB で接続する	44
USB 接続がうまくいかないとき	45
パラレル接続	46
CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき	48
Windows 2000 の場合	48
Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合	48
Windows XP Home Edition の場合	49
Windows Vista、Windows Server 2008 の場合	49
Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合	50
オプション構成の設定	51
双方向通信が働く条件	51
双方向通信が働かない場合	52

2. 印刷する

2 種類の操作画面	53
プリンタードライバーの設定画面を表示する	54
プロパティを表示する	54
印刷設定を表示する	55
アプリケーションから印刷設定を表示する	56
よく使う印刷	57
通常印刷する	57
両面印刷する	59
両面印刷可能な用紙サイズ、用紙種類	60
両面印刷の種類	61
複数のページを集約して印刷する	64
集約印刷の種類	65
原稿にイメージや文字をスタンプする	67
スタンプの種類	68
ワンクリック設定を使用する	70
便利な機能	71
プリンタードライバーのタブについて	71
プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する	73
表紙を印刷する	75
合紙を挿入する	76
部単位で印刷する（ソート）	77
スプール印刷をする	78
PDF ファイルを直接印刷する	79
コマンドを使用して印刷する	80
PDF ファイルを送信する	80
PDF パスワードを設定する	80
文書の複製を抑止する	81
不正コピーガード機能	81
マスクパターン	83
おことわり	84
プリントジョブに分類コードを入力する	85
仮想プリンターを使用する	86
仮想プリンターを追加する	86
仮想プリンターの設定を変更する	88
仮想プリンターの設定内容を確認する	89
仮想プリンターを削除する	90
仮想プリンターで印刷する	91
メモリー容量と用紙サイズ	92
片面印刷（600 dpi 600 dpi）の場合	92
片面印刷（1200 dpi 1200 dpi）の場合	92
両面印刷（600 dpi 600 dpi）の場合	92
両面印刷（1200 dpi 1200 dpi）の場合	93
用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき	94
トレイの用紙設定を変更して印刷する	94
強制印刷する	95
印刷を中止する	96
手差しトレイからの印刷を継続する	97

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

文書印刷機能を使用する	99
文書印刷画面を表示する	99
文書一覧画面から文書を印刷する	102
試し印刷する	102
2部目以降を印刷する	103
試し印刷文書を消去する	104
機密印刷する	105
操作部を使って機密印刷する	106
機密印刷文書を消去する	108
保留文書を印刷する	109
操作部を使って保留文書を印刷する	110
保留印刷文書を消去する	111
保存文書を印刷する	112
操作部を使って保存文書を印刷する	113
保存文書を消去する	114
ユーザー ID 一覧から文書を印刷する	115
文書を選択して印刷する場合	115
文書をすべて印刷する場合	116
印刷を中止する	118
中止したいデータが印刷されている場合	118
中止したいデータが印刷されていない場合	119
印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える	120

4. プリンター本体の設定

[メニュー] キー機能一覧	121
メモリー内残存データ状態確認メニュー	126
メモリー内のデータ状態を確認する	126
用紙設定メニュー	127
用紙設定メニューの設定項目	127
用紙設定メニューの設定を変更する	129
特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す	129
優先給紙トレイを設定する	130
調整 / 管理メニュー	132
調整 / 管理メニューの項目	132
調整 / 管理メニューの設定を変更する	135
保存文書をすべて消去する	135
テスト印刷メニュー	137
テスト印刷メニューの項目	137
テスト印刷をする	139
システム設定リストを印刷する	139
システム設定リストの見かた	140
システム設定メニュー	142
システム設定メニューの設定項目	142
システム設定メニューの設定を変更する	145
印刷設定メニュー	146
印刷設定メニューの設定項目	146
印刷設定メニューの設定を変更する	152
セキュリティー管理メニュー	153
セキュリティー管理メニューの設定項目	153
セキュリティー管理メニューの設定を変更する	156

インターフェース設定メニュー	158
インターフェース設定メニューの設定項目	158
インターフェース設定メニューの設定を変更する	162
表示言語切替	164
補助メニュー	165
補助メニューの項目	165
エラー履歴を確認する	167

5. 機器の監視

Web ブラウザーを使う	169
Web Image Monitor について	169
トップページを表示する	171
ユーザー認証が設定されているとき	172
Web Image Monitor からのログインのしかた	172
Web Image Monitor からのログアウトのしかた	172
メニュー構成とモード	173
Web Image Monitor のヘルプについて	175
ヘルプへのアドレス (URL) リンク	175
分類コードを登録する	177
分類コードの設定	178
アドレス帳をバックアップする	179
アドレス帳をリストアする	180
Network Monitor for Admin を使う	181
Network Monitor for Admin のインストール	182
ネットワークインターフェイスボードの設定を変更する	183
機器側プリンター操作部のメニューをロックする	184
用紙を設定する	185
ユーザー情報を管理する	186
ユーザー情報管理ツールを起動する	186
印刷枚数を表示する	187
印刷枚数の情報を保存する	187
印刷枚数の情報をリセットする	188
利用制限を設定する	190
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する	191
省エネモードを設定する	193
パスワードを設定する	194
機器の状態を表示する	195
本体名とコメントを変更する	196
スプール印刷ジョブの一覧を確認する	197
アドレス情報を管理する	198
Network Monitor for Client を使う	199
監視する機器を設定する	199
機器の状態を表示する	200
Network Monitor for Client で IPP を使用する場合	201
機器の状態をメールで通知する	202
メール通知用アカウントの設定	204
メールの認証について	205
「自動メール通知」の設定	206
「要求時メール通知」の設定	207
要求メールの書式について	208
telnet を使う	209
操作の流れ	209
8021x	210

access	211
authfree	212
autonet	213
bmlinks	214
bonjour	215
devicename	216
dhcp	216
dhcp6	217
diprint	217
dns	218
domainname	219
etherauth	220
etherconfig	220
help	220
hostname	220
ifconfig	221
info	222
ipp	222
ipsec	223
ipv6	223
logout	224
lpr	224
passwd	224
pathmtu	225
prnlog	225
rhpp	226
route	226
set	228
show	230
smb	231
snmp	231
sntp	234
spoolsw	235
ssdp	235
ssh	236
status	236
syslog	237
upnp	237
web	237
wiconfig	238
wins	242
wsmfp	243
SNMP	244
ネットワーク経由で確認できる情報	245
機器の状態	245
機器情報	249
取得情報の内容	250
プリントジョブ情報	250
プリントログ情報	251
ネットワークインターフェースボードの情報	252
メッセージ一覧	259
システムログ情報	259

6. プリントサーバーの準備

Windows ネットワークプリンターを設定する	267
Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする	268
プリントサーバーの設定をする	268
クライアントの設定をする	269

7. UNIX で使う

セットアップ	271
IP アドレスの設定	272
インストールシェルの実行	272
インストールシェルの実行結果	275
/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加	275
/etc/printcap へのエントリーの追加	275
スプールディレクトリの作成	276
ログファイルの作成	277
オプション指定 (UNIX)	278
エミュレーションとプログラム	279
漢字フィルター	280
給紙トレイ	281
用紙サイズ	282
用紙種類	283
排紙トレイ	283
印刷部数	284
ソート部数	284
両面印刷	285
解像度	285
usercode	286
オプション指定の変更方法	286
本機の状態表示	287
表示する場合	287
ファイルにコピーする場合	287

8. 付録

CD-ROM 収録ソフトウェア	289
ファイル一覧	289
ドライバー (RPCS)	290
RPCS プリンタードライバー	290
ドライバー (PS3)	290
PS3 プリンタードライバー	290
Network Monitor for Admin	291
Network Monitor for Client	292
Network Monitor for Client	293
マニュアル	294
『セキュリティガイド』の格納場所と PDF のパスワードについて	294
Windows からのファイル直接印刷	295
セットアップ	295
IP アドレスの代わりにホスト名を使用する	296
DNS を使用している場合	296
DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合	296
その他の場合	296
印刷方法	297





lpr	298
rcp	298
ftp	299
sftp	300
DHCP を使用する	301
AutoNet 機能を使用する	301
WINS サーバーを使用する場合	302
Web ブラウザーを使用する方法	302
telnet を使用する方法	302
ダイナミック DNS 機能を使用する	303
更新処理について	303
動作対象の DNS サーバー	304
動作対象の DHCP サーバー	304
ダイナミック DNS 機能の設定方法	304
使用上の注意	305
ネットワークに ISDN 回線を接続している場合	305
拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき	305
設定を行う場合	305
ネットワーク接続している場合	306
本機でできるセキュリティー対策	307
認証機能の利用とユーザー管理	307
情報の漏洩を防ぐ	307
アクセスの制限と管理	308
ネットワークのセキュリティー強化	308
SSL (暗号化通信) の概要	309
注意と制限	310
プリンターおよびシステムについて	310
最新情報の入手	310
接続について	310
仕様 (プリントタイム、本体・消耗品寿命)	311
PDL について	312
電源について	313
使用環境	313
使用上の注意と制限事項	313
OS のサポートについて	315
ソフトウェアに関して	315
ドライバーインストール・アンインストール	315
ドライバーに関する注意と制限事項	316
RPCS プリンタードライバーに関しての注意と制限事項	319
PostScript ドライバーについて	326
Network Monitor for Admin に関しての注意と制限事項	328
Network Monitor for Client に関しての注意と制限事項	330
印刷ポートについての注意と制限事項	334
TCP/IP 使用時の注意と制限	334
ハードウェアに関して	335
使用上の条件	335
用紙の保管について	335
再生紙について	336
再生紙の購入、保管	336
用紙が詰まったとき	337
注意と制限事項	337
トナー寿命について	338
保守・運用	338
運用上の注意事項	338
保守・運用について	338

性能低下の条件	339
その他	339
形名の読み替え	339
USB について	339
C/S560 について	340
印刷結果の相違について注意事項	340
印字品質について	340
移行に関する注意事項	341
清掃について	341
内蔵フォント	343
有償定期交換部品と有償寿命部品について	343
寿命および保守について	344
装置寿命	344
保守部品の保有期間	345
サービス期間について	345
サポート対象外機能一覧	345
本体、オプション、消耗品一覧	346
最新ソフトウェアのダウンロード	347
最新の OS について	347
搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報	348
expat について	348
NetBSD について	349
FreeBSD 4.6.2 について	356
Sablotron (Version 0.82)	356
JPEG LIBRARY	357
SASL	357
RSA BSAFE®	358
Open SSL	358
Open SSH	361
Open LDAP	365
Heimdal	366
IPS™ print language emulations	366
AppleTalk	366
SPX/IPX	367
WPA Supplicant	367
nana	368
ILU	368
racocon	369
TrouSerS	369
Samba(Ver 3.0.4)	373
索引	379

使用説明書について

本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書  と画面で見る使用説明書 (PDF)  が用意されています。画面で見る使用説明書  は付属の CD-ROM  に収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「使用説明書の使いかた」を参照してください。本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じです。

◆ かんたんセットアップ ()

プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバをインストールするまでの手順を説明しています。

◆ クイックガイド ()

困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

◆ ハードウェアガイド ()

オプションの接続方法や用紙に関する情報、消耗品の交換手順、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。

◆ ソフトウェアガイド (本書) ()

プリンタードライバのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。

◆ セキュリティーガイド ()

管理者向けの説明書です。本機を不正な使用やデータの改ざんといった脅威から守るための方法、各管理者の設定方法、ユーザー認証の設定方法などについて説明しています。セキュリティー強化機能や認証の設定を行う前に必ずお読みください。









◆ PostScript 3 ガイド ()

PostScript 3 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

↓ 補足

- PDF形式の使用説明書を表示するには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Readerが必要です。

使用説明書一覧表

分冊名	紙マニュアル 	画面で見る使用説明書  PDF 形式のマニュアル
かんたんセットアップ	有り ()	なし
クイックガイド	有り ()	なし
ハードウェアガイド	なし	有り ()
ソフトウェアガイド	なし	有り ()
セキュリティーガイド	なし	有り ()
PostScript 3 ガイド	なし	有り ()

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

★重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

↓補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

目参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。各タイトルの一番最後に記載しています。

[]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

サポート終了 OS について

Microsoft のサポートが終了している OS については、サポート対象外となります。Windows 2000 について本書中に記載がありますが、Microsoft のサポートが終了しているため、サポート対象外となります。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

おもなオプションと略称

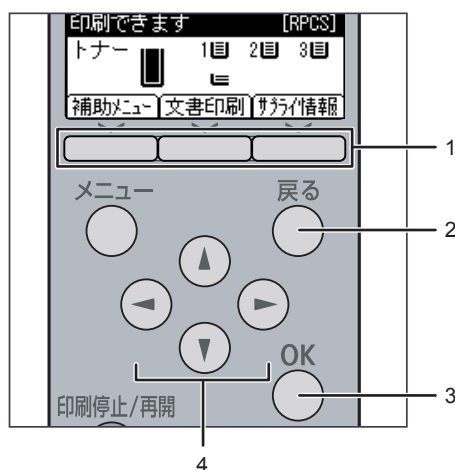
本体に用意されているおもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
500 枚増設トレイ ユニット	500 枚増設トレイ
250 枚増設トレイユニット	250 枚増設トレイ
両面印刷ユニット	両面印刷ユニット
拡張 HDD タイプ M	拡張 HDD
SDRAM モジュール VIII 256MB タイプ C	SDRAM モジュール 256MB
拡張無線 LAN ボード タイプ A	拡張無線 LAN ボード
拡張 1284 ボード タイプ A	拡張 1284 ボード
1Giga イーサネットボード タイプ B	拡張ギガビットイーサネットボード

商品名	略称	総称
PS3 カード タイプ E	PS3 カード	拡張SDカード
セキュリティカード タイプ E	セキュリティーカード	

表示画面とキー操作について

表示された画面とキー操作について説明します。



BVN013

1 選択キー

画面下部に表示された項目を選ぶときに押します。

本文中で「[補助メニュー] を押します。」と説明されているときは、左の選択キーを押します。

2 [戻る] キー

設定を有効にせずに上位の階層に戻るとき、メニューから通常の表示に戻るときに使用します。

3 [OK] キー

設定や設定値を確定させるとき、または下位の階層に移動するときに使用します。

4 スクロールキー

カーソルを上下左右に移動します。

本書で[▲][▼][▶][◀]と表記されているときは、同方向のスクロールキーを押します。



1. 印刷するための準備

同梱の CD-ROM からドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについての説明です。

1

接続方法を確認する

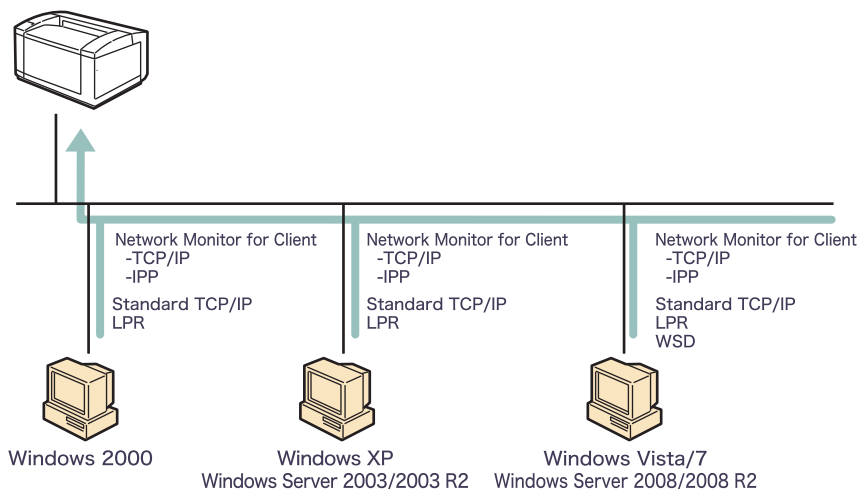
プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続することができます。プリンタードライバーをインストールする前に、プリンターをどのように接続したかを確認し、ご使用の接続方法でのインストール方法を参照し、プリンタードライバーをインストールしてください。

ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへダイレクト印刷 (Peer-to-Peer ネットワーク)、またはサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。インターフェースは、イーサネット、拡張無線 LAN ボードを使用します。



BVN536

◆ Windows 2000/XP の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	<ul style="list-style-type: none">• Network Monitor for Client ポート (推奨)• Standard TCP/IP ポート• LPR ポート

◆ Windows Server 2003/2003 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	<ul style="list-style-type: none"> • Network Monitor for Client ポート (推奨) • Standard TCP/IP ポート • LPR ポート

◆ Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	<ul style="list-style-type: none"> • Network Monitor for Client ポート (推奨) • Standard TCP/IP ポート • LPR ポート • WSD ポート

↓ 補足

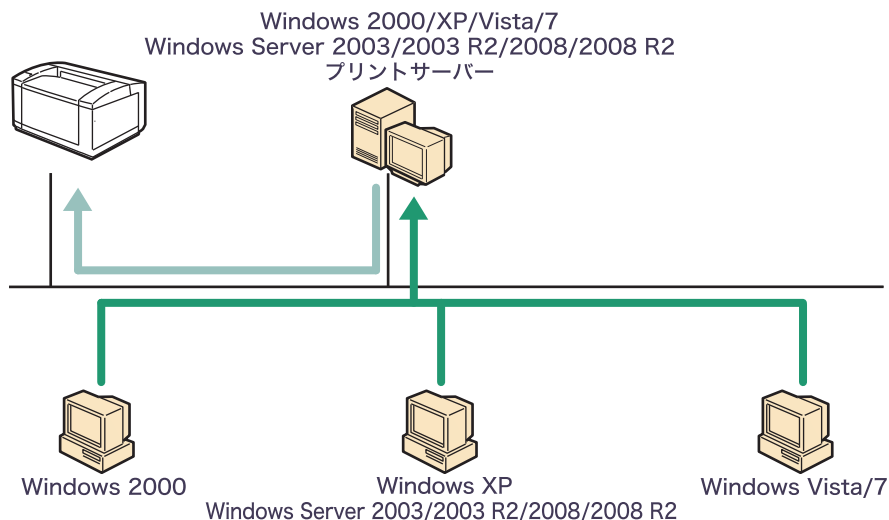
- 各ポートごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のポートの記載を参照してください。

目 参照

- P.21 「Network Monitor for Client ポートを使う」
- P.30 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.33 「LPR ポートを使う」
- P.35 「WSD ポートを使う」

プリントサーバーを使用する

Windows ネットワークプリンターとして使用できます。



BVN535

↓ 補足

- ネットワークプリンターの種類ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のネットワークプリンターの記載を参照してください。

目 参照

- P.37 「Windows ネットワークプリンターを使う」

ローカル接続

ローカル接続には、USB 接続、パラレル接続があります。

↓ 補足

- 接続方法ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用の接続方法の記載を確認してください。

☰ 参照

- P.40 「USB 接続」
- P.46 「パラレル接続」

プリンタードライバーについて

プリンタードライバーのダウンロードとサポートについて説明します。

1

◆ プリンタードライバーのダウンロードについて

プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、日立プリンタホームページからダウンロードしていただく必要があります。

ドライバーをダウンロードするには、日立プリンタホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。

(<http://prinfinajp>)

↓ 補足

- ・ダウンロードできるプリンタードライバーの OS 別対応状況については、日立プリンタホームページで確認できます。(<http://prinfinajp>)

おすすめインストール

同梱の CD-ROM から簡単にソフトウェアをインストールすることができます。
 [おすすめインストール] ボタンをクリックすると、プリンターをネットワーク接続している場合は「プリンタードライバ」と「Network Monitor for Client」がインストールされ、Network Monitor for Client ポートが設定されます。プリンターをパラレル接続している場合は「プリンタードライバ」がインストールされ、LPT1 ポートが設定されます。

★重要

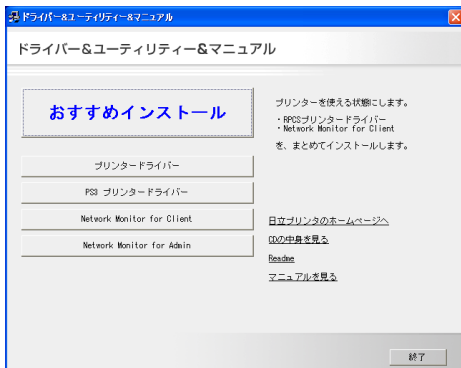
- ・「プリンターの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・本機を USB 接続で使用する場合、おすすめインストールではプリンタードライバをインストールすることができません。USB 接続で使用する場合は、「USB 接続」を参照してください。
- ・パラレル接続で本機とパソコンが双方向通信していない場合、おすすめインストールをすることができません。「双方向通信が働かない場合」を参照して、本機とパソコン間の双方向通信を設定してください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
 インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 [おすすめインストール] をクリックします。



「使用許諾」ダイアログが表示されます。

4 ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し [次へ] をクリックします。

5 [モデル名] をクリックし、使用する機種を選択します。

ネットワーク接続の場合、[接続先] に IP アドレスが表示されているプリンターを選択します。

パラレル接続の場合、[接続先] にプリンタポートが表示されているプリンターを選択します。

6 [インストール] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされ、「導入完了」ダイアログが表示されます。インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

7 [完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示された場合は、Windows を再起動してください。

8 最初の画面で [終了] をクリックし、CD-ROM を取り出します。

↓ 補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。

目 参照

- ・ P.40 「USB 接続」
- ・ P.52 「双方向通信が働かない場合」

各ポート別インストール

1

Network Monitor for Client ポートを使う

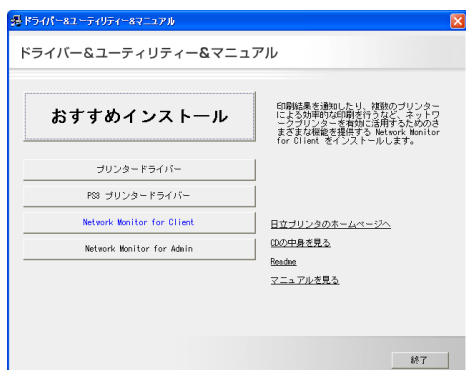
ここでは Network Monitor for Client を使用する場合は方法を説明します。

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・Network Monitor for Client ポートを使う場合、プリンタードライバーをインストールする前に Network Monitor for Client をインストールします。
- ・Network Monitor for Client をインストールすると、同時に Network Monitor for Client ポートもインストールされます。

Network Monitor for Client のインストール

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。インストーラーが起動します。
OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPREXE」をダブルクリックして起動してください。
- 3 [Network Monitor for Client] をクリックします。



Network Monitor for Client のインストーラーが起動します。

- 4 [Network Monitor for Client] をクリックします。
ダイアログが表示されます。内容の確認をしたあと、[はい] をクリックします。
- 5 Network Monitor for Client のセットアップ画面が表示されます。[次へ] をクリックします。

- 6 「使用許諾」 ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し [はい] をクリックします。
- 7 ユーザー名、会社名を入力し、[次へ] をクリックします。
- 8 [フルインストール] または [カスタムインストール] をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Client をインストールします。
インストールが完了するとメッセージが表示されます。
- 10 [完了] をクリックします。
「Windows の再起動」 ダイアログが表示されます。Windows を再起動してください。

補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。

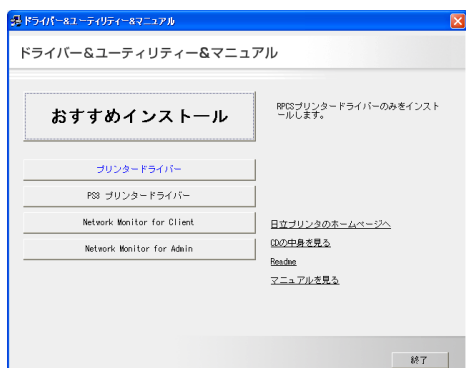
プリンタードライバーのインストール (TCP/IP)

TCP/IP を使用する場合の、インストール方法です。

重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
インストーラーが起動します。
OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



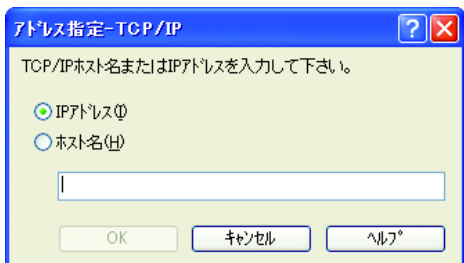
- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」ダイアログで、使用するプリンタードライバーをチェックし、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する[プリンター名]をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバー:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。
- 8 「Network Monitor for Client」を選択し、[OK] をクリックします。



- 9 [TCP/IP] をクリックします。

- 10 [機器検索] をクリックします。

TCP/IP プロトコルで印刷可能なプリンターが検索され、一覧表示されます。コンピューターからのブロードキャストに回答したプリンターだけが表示されます。表示されないプリンターに印刷するときは、[アドレス指定] をクリックし、本機のアドレスまたはホスト名を直接入力してください。



- 11 印刷するプリンターをクリックして選択します。

- 12 [OK] をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

13 [ポート:]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

14 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大8桁です。英字や記号はご使用になれません。

15 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

16 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

17 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

18 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖 参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

プリンタードライバーのインストール (IPP)

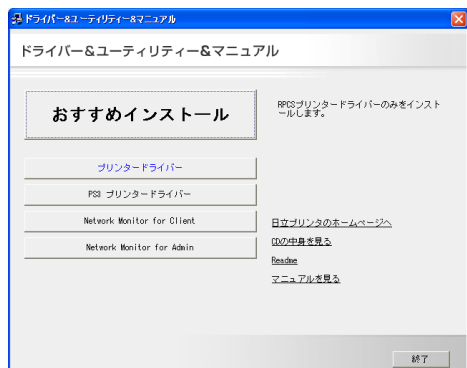
IPP を使用する場合のインストール方法です。

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

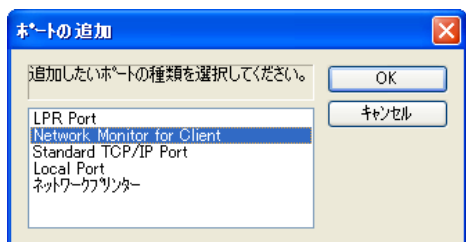
1

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
OSの設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある「SETUPREXE」をダブルクリックして起動してください。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



- 4 「使用許諾」 ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」 ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」 ダイアログで、使用する [プリンタ名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

- 8** 「Network Monitor for Client」を選択し、[OK] をクリックします。



- 9** [IPP] をクリックします。

「IPP の設定」ダイアログが表示されます。

- 10** [プリンタの URL] に「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /printer」のように入力します。

SSL (暗号化通信) の設定を有効にしている場合、「https:// (本機のアドレスまたはホスト名) /printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。

[プリンタの URL] には「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /ipp」のように入力することもできます。

- 11** 必要に応じて [IPP ポート名] にプリンターを区別するための名前を入力します。すでにある他の IPP ポート名と違う名前を入力してください。

入力を省略すると、[プリンタの URL] に入力したアドレスが IPP ポート名に設定されます。

- 12** プロキシサーバーや IPP ユーザー名などの設定を行う場合は、[詳細設定] をクリックし、必要な項目を設定し、[OK] をクリックします。

詳しい設定項目については、Network Monitor for Client のヘルプを参照してください。

- 13** [OK] をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

- 14** [ポート:]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

- 15** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

- 16** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

17 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

18 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

19 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- 「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」で本機のアドレスまたはホスト名を入力するとき、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくことで、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

Network Monitor for Client ポートの設定を変更する

TCP/IP のタイムアウト、代行印刷や並行印刷、プリンタグループなど、Network Monitor for Client の設定を変更することができます。

1

■ Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
- 2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■ Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■ Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ハードウェアとサウンド] から [プリンタ] をクリックします。
- 3 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックします。
- 4 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■ Windows 7、Windows Server 2008R2 の場合

- 1 [デバイスとプリンター] ウィンドウを表示します。
- 2 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プリントサーバープロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

↓ 補足

- 印刷通知、代行印刷 / 並行印刷の設定は拡張機能設定でおこないます。Network Monitor for Client を起動し、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックして [拡張機能設定] を選択してください。
- [代行印刷 / 並行印刷] はポート毎に設定できます。Network Monitor for Client を起動し、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックして [拡張機能設定] を選択し、[代行 / 並行印刷をポート毎に設定する] にチェックを付けます。
- IPP の場合、IPP ユーザー設定、プロキシ設定、タイムアウト設定ができます。
- 設定方法の詳細は、Network Monitor for Client のヘルプを参照してください。

Standard TCP/IP ポートを使う

Standard TCP/IP ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★重要

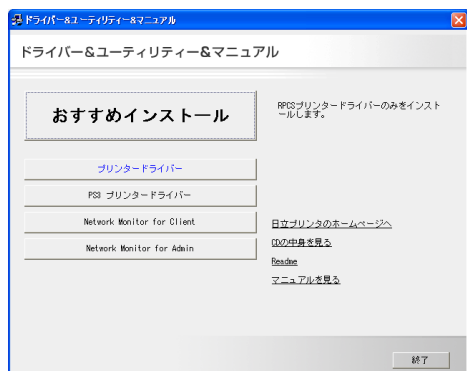
- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
インストーラーが起動します。

OSの設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある「SETUPREXE」をダブルクリックして起動してください。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

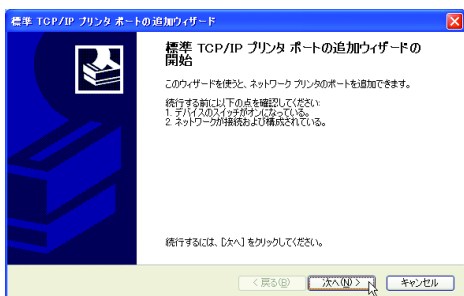
7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

8 「Standard TCP/IP Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「Standard TCP/IP Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して Standard TCP/IP の設定をしてください。

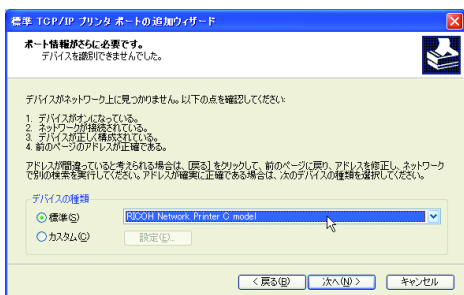
9 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」の開始画面で、[次へ] をクリックします。



10 [プリンタ名または IP アドレス]ボックスにプリンター名または本機のアドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

[ポート名] ボックスには自動的にポート名が入力されます。必要があれば変更してください。

デバイスの種類を選択する画面が表示された場合は、「RICOH NetworkPrinter C Model」を選択してください。



11 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード完了」の画面で、[完了] をクリックします。

プリンタードライバの導入画面に戻ります。

12 [ポート:]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

13 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

14 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

15 [完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

16 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

17 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくことで、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

LPR ポートを使う

LPR ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★重要

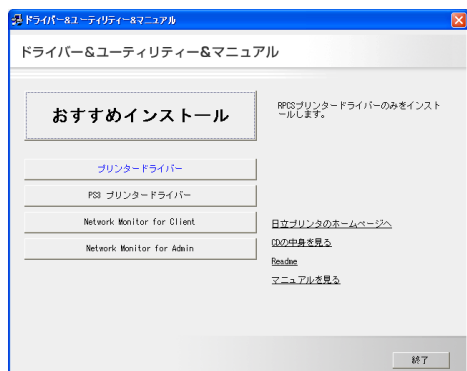
- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
インストーラーが起動します。

OSの設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある「SETUPREXE」をダブルクリックして起動してください。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ]をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ]をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

8 「LPR Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「LPR Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して組み込んでください。

9 [lpd を提供しているサーバーの名前またはアドレス] ボックスに、本機のアドレスを入力します。

10 [サーバーのプリンタ名またはプリンタキュー名] ボックスに「lp」と入力し、[OK] をクリックします。

ポートが追加されます。

11 [ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

15 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

16 「導入完了」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておく、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖 参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

1

WSD ポートを使う

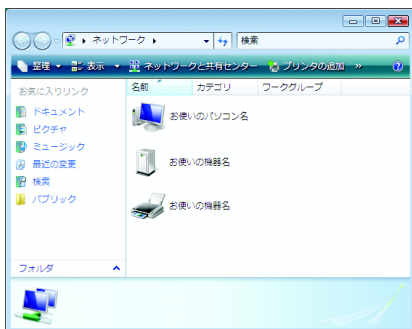
WSD ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★重要

- Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合にご使用いただけます。
- 管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。
- 本機とパソコンが異なるネットワークセグメントに接続されている場合や、Windows Vista の「ネットワーク探索」が無効になっている場合、本機を検出することができません。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 [スタート] ボタンをクリックし、[ネットワーク] をクリックします。
[ネットワーク] ウィンドウが表示され、機器の検索が自動的に始まります。



3 本機のプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [インストール] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。
「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが表示されます。

4 [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。
[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

5 [オンラインで検索しません] をクリックします。

6 [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します (上級)] をクリックします。

7 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

「自動再生」ダイアログが表示された場合は、[クローズ] ボタンをクリックして次の手順に進みます。

8 [参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合 「D:¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 (32bit)、
D:¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 (64bit)」 です。

9 [次へ] をクリックします。

インストールの途中で [ドライバソフトウェアの発行元を検証できません] というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

10 [閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「WSD」から始まるポートを [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「WSD」に続くポート名は不特定の文字列になります。任意に変更することはできません。
- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。再度インストールを行う場合は、[ネットワーク] ウィンドウで本機のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [アンインストール] を実行してください。

Windows ネットワークプリンターを使う

Windows ネットワークプリンターを使う場合は、プリンタードライバーを「ネットワークプリンタ」を指定してインストールし、Windows ネットワーク上の共有プリンターを選択します。

★重要

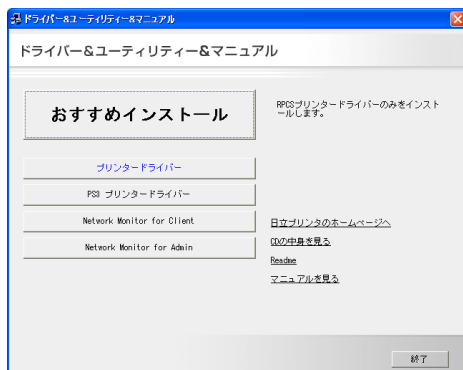
- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・Network Monitor for Client ポートで本機を接続しているネットワークプリンターをご使用の場合、クライアントからの代行印刷、並行印刷を行うことはできません。
- ・Windows の共有プリンターの場合、クライアントに印刷通知が行われない場合があります。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
インストーラーが起動します。

OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ]をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

- 6** 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

- 7** [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

- 8** [ネットワークプリンター] を選択し、[OK] をクリックします。



- 9** ネットワークツリー上で、プリントサーバーとして使用するコンピューターの名前をダブルクリックします。

- 10** 印刷するプリンターを選択し、[OK] をクリックします。

- 11** [ポート:] に選択したプリンターのパスが表示されていることを確認します。

- 12** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

- 13** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

- 14** 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

- 15** 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておく、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。
- Windows ネットワークプリンターが正しく設定されていないと、インストールを続けることができません。インストールをキャンセルしてから、「Windows ネットワークプリンターを設定する」を参照して Windows ネットワークプリンターを設定してください。

目 参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」
- P.267 「Windows ネットワークプリンターを設定する」

USB 接続

1

ここでは、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、必要なドライバーをインストールする方法を説明します。

セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。

- ・ OS 以外のソフトウェアが起動していない
- ・ 印刷を行っていない

Windows 2000 と USB で接続する

Windows 2000 の USB 接続について説明します。

★重要

・ 管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows 2000 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

- 1** 本機の電源が切れていることを確認します。
- 2** 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。
- 3** 本機の電源を入れます。
プラグアンドプレイが働き [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。
- 4** [次へ] をクリックします。
- 5** [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 6** [場所を指定] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 7** キーボードの左側の [Shift] キーを押しながら、本機に同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の [Shift] キーを押し続けます。CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。

8 [参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1」です。

9 [製造元のファイルのコピー元] にプリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。**10** [次へ] をクリックします。**11** プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

12 [完了] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- ・P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の USB 接続について説明します。

★ 重要

・管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機の電源が切れていることを確認します。**2** 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

3 本機の電源を入れます。

プラグアンドプレイが働き [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。

4 [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] をチェックし、[次へ] をクリックします。

5 キーボードの左側の [Shift] キーを押しながら、本機と同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の [Shift] キーを押し続けます。CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。

6 [次の場所で最適のドライバを検索する] の [次の場所を含める] をチェックし、[参照] をクリックしてプリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D: の場合は「D:\DRIVERS\86\RPCS\WIN2K_XP\DISK1 (32bit)、D:\DRIVERS\64\RPCS\XP_VISTA\DISK1 (64bit)」です。

7 プリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[次へ] をクリックします。

8 プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

9 [完了] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷先のポート先] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- 「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows Vista、Windows Server 2008 と USB で接続する

Windows Vista、Windows Server 2008 の USB 接続について説明します。

★重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。プリンタードライバがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバをインストールします。

1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

[新しいハードウェアが見つかりました] ダイアログが表示されます。

2 [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

3 [オンラインで検索しません] をクリックします。

本機に付属している CD-ROM の挿入を促すメッセージが表示されます。

4 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

自動的に検索が始まり、プリンタードライバの一覧が表示されます。

5 本機の RPCS プリンタードライバを選択し、[次へ] をクリックします。

インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

6 [閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖 参照

- ・P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

Windows 7 / Windows Server2008R2 と USB で接続する

1

Windows 7 / Windows Server2008R2 の USB 接続について説明します。

★重要

- ・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンター] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

2 [デバイスとプリンター] 画面を開き、「未指定」に作成されたプリンターアイコンを右クリックし、プロパティを表示し、[ドライバーの更新] をクリックします。

3 [コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します] の [参照] をクリックし、本機の RPCS プリンタードライバーのある場所を指定します。

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM で RPCS ドライバーの場合、インストール元は CD-ROM の D:\DRIVERS\86\RPCS\WIN2K_XP\DISK1 (32bit)、D:\DRIVERS\64\RPCS\XP_VISTA\DISK1 (64bit) になります。

4 [次へ] をクリックします。

インストールの途中で「ドライバーソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、[このドライバーソフトウェアをインストールします] をクリックします。

5 「プリンタードライバーが正常に更新されました」というメッセージが表示されたら、[閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、[デバイスとプリンター] 画面の「未指定」にあったプリンターアイコンが「プリンターと FAX」に移動します。

↓補足

- ・「新しいドライバーが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖参照

- ・P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルが緩んでいないかを確認して再接続し、電源を ON にしてください。
Windows が自動的に USB 接続の設定をしなかった。	Windows のデバイスマネージャで、不正なデバイスを [ユニバーサル シリアル バス コントローラ] または [USB(Universal Serial Bus) コントローラ] から削除してください。不正なデバイスは、アイコンに黄色の [!] がついたり、黄色の [?] がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようご注意ください。デバイスマネージャへのアクセス方法、デバイスの削除について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

パラレル接続

プリンターをパラレル接続して使う場合は、プリンタードライバーを「ローカルポート」に指定してインストールします。

1

★重要

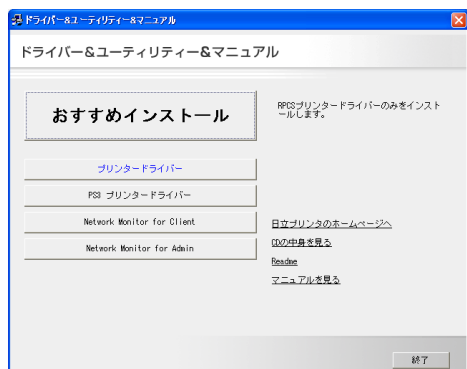
- ・「プリンターの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
インストーラーが起動します。

OSの設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する[プリンター名]をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート:] にプリンターを接続したポート（通常は、LPT1:）が設定されていることを確認します。

8 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

9 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、必要に応じて選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

10 [完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

11 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

12 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ユーザーコードを設定しておくことで、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- P.48 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき

おすすめインストールに失敗したときは、「Network Monitor for Client ポートを使う」を参照してインストールしてください。CD-ROM の [プリンタードライバー] のインストールにも失敗したときは、以下の手順でインストールしてください。

参照

- ・P21 「Network Monitor for Client ポートを使う」

Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
- 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 [プリンタの追加] をクリックします。
- 3 [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 (32bit)、¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 (64bit) になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows XP Home Edition の場合

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [プリンタとその他のハードウェア] をクリックします。
- 3** [プリンタと FAX] をクリックします。
- 4** [プリンタのインストール] をクリックします。
- 5** [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [ハードウェアとサウンド] をクリックします。
- 3** [プリンタ] をクリックします。
- 4** [プリンタのインストール] をクリックします。
- 5** [プリンタの追加] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 (32bit)、¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 (64bit) になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

1

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [デバイスとプリンター] をクリックします。
- 3** [プリンターの追加] をクリックします。
指示に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 (32bit)、
¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 (64bit) になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。
- 4** ポートを設定します。

オプション構成の設定

双方向通信が働いていない場合は、本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定してください。

↓ 補足

- ・本体オプションを設定する方法は、「双方向通信が働かない場合」を参照してください。

1

双方向通信が働く条件

双方向通信が働いていると、本機にセットされている用紙サイズなどの情報が自動的にパソコンに伝わります。またパソコン側からも本機の状態を確認することができます。双方向通信が働く条件についての説明です。

◆ ネットワーク接続の場合

- ・標準 TCP/IP ポートが使用されている
- ・RPCS プリンタードライバーの [ポート] タブにある [双方向サポートを有効にする] が選択されており、[プリンタプールを有効にする] が選択されていない

標準 TCP/IP ポートを使用しない場合、上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- ・プロトコルに TCP/IP を使っている
- ・IPP プロトコル使用時に、ポート名に IP アドレスを含んでいる

◆ ローカル接続の場合

- ・パソコンが双方向通信に対応している
- ・プリンターのプロパティで双方向通信が可能な設定になっている

上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- ・本機の平行コネクタとパソコンの平行コネクタが、双方向通信に対応したインターフェースケーブルで接続されている
- ・本機の USB インターフェースコネクタとパソコンの USB コネクタが、USB ケーブルで接続されている

双方向通信が働かない場合

双方向通信が働かない場合は、手動で本体オプションの構成をプリンタードライバに設定します。

1

★重要

- ・ [プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008/2008 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[ハードウェアとサウンド] のカテゴリの中から、[プリンタ] をクリックします。Windows 7、Windows Server2008 R2 の場合は、[デバイスとプリンター] ウィンドウを開きます。

2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

インストール後最初にプリンターのプロパティを表示する場合、または装着しているオプションを設定していない場合は、オプション設定を促す画面が表示されます。[OK] をクリックします。

3 [オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブをクリックします。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブの項目がグレー表示になっていて選択できないときは、双方向通信が働いています。このときオプションの設定は必要ありません。

4 [オプション選択:] ボックスで、取り付けたオプションにチェックを付けます。

5 SDRAM モジュールを増設した場合は、[トータルメモリー:] で増設後の合計メモリー容量を選択し、[OK] をクリックします。

6 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、「ファイル」メニューの [印刷設定] をクリックします。

7 [基本] タブの [給紙トレイ:] で設定するトレイを選択し、[原稿サイズ]・[原稿方向]・[用紙種類] を正しく設定します。

8 [OK] をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。

2. 印刷する

プリンタードライバーの画面と印刷方法についての説明です。

2 種類の操作画面

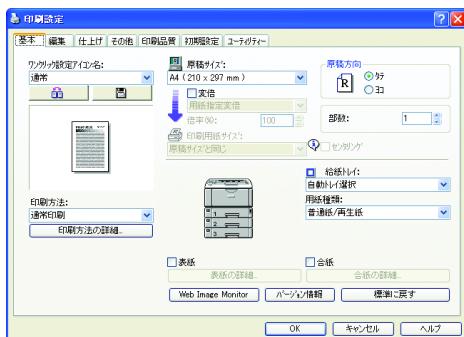
2

プリンタードライバーの設定画面は「機能別ウィンドウ」と「ワンクリック設定」の2つの表示タイプがあります。

本書では「機能別ウィンドウ」の画面例を使用しています。表示タイプの切り替え方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

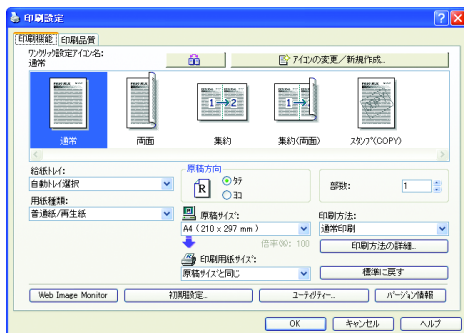
◆ 機能別ウィンドウ

印刷のたびに設定を変更することが多く、さまざまな印刷をする方に向いているウィンドウタイプです。



◆ ワンクリック設定

あまり印刷条件を変えず、いつも決まった印刷のしかたをする方に向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定の表示はオプションの装着状態によって変化することがあります。

プリンタードライバーの設定画面を表示する

プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法について説明します。

2

プロパティを表示する

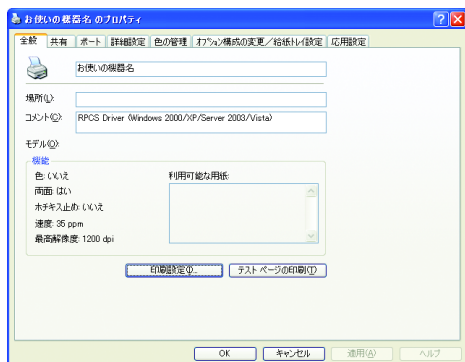
[プリンタと FAX] ウィンドウから、プリンタードライバーのプロパティを表示させる方法です。

★重要

- Windows XP Professional および Windows Server 2003/2003 R2 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

[プリンタと FAX] ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、Windows XP では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。

Windows Vista/7、Windows server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ] タブは Windows が追加するタブで、Windows の機能に関する設定を行います。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

[プリンタと FAX] を、Windows 2000、Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は [プリンタ]、Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は [デバイスとプリンター] に読み換えてください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
[プリンタと FAX] ウィンドウが表示されます。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、
[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ・ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。

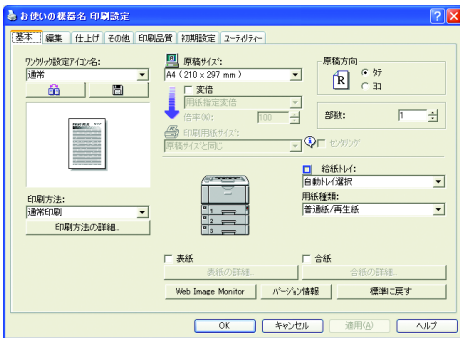
印刷設定を表示する

[プリンタと FAX] ウィンドウから、プリンタードライバーの印刷設定を表示させる方法です。

★重要

- ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- ・プリントサーバーから配布されたドライバーの場合は、プリントサーバーで設定された [標準の設定] の内容が初期値として表示されます。

[プリンタと FAX] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
[プリンタと FAX] ウィンドウが表示されます。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、
[ファイル] メニューの [印刷設定] をクリックします。
印刷設定が表示されます。

アプリケーションから印刷設定を表示する

アプリケーションからプリンタードライバーの印刷設定を表示させる方法です。アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[表紙/合紙]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



これらのタブには [プリンタと FAX] ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

2 本機を選択し、[詳細設定] をクリックします。

[印刷設定] ダイアログが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳しくは、アプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの [印刷] ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。

よく使う印刷

通常印刷、両面印刷、集約印刷、スタンプ印刷のしかたについて説明します。
ここで説明するそれぞれの機能は、「ワンクリック設定」と呼ばれる1つの設定にあらかじめ登録されています。ワンクリック設定の設定値を変更するだけで、これらの機能を適用することもできます。

↓ 補足

- ・ワンクリック設定については、「ワンクリック設定を使用する」を参照してください。

📖 参照

- ・P.70 「ワンクリック設定を使用する」

2

通常印刷する

プリンタードライバで文書を通常印刷する方法について説明します。

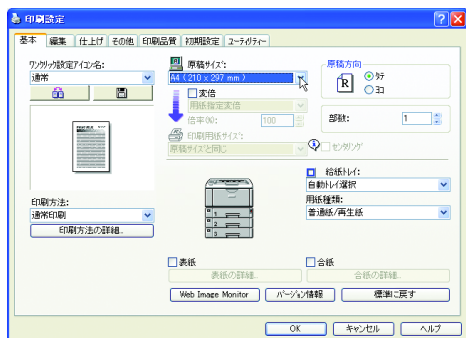
★ 重要

- ・印刷する前に、本機に取り付けたオプションとセットした用紙の情報を必ず設定してください。

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバの印刷設定を開きます。

[基本] タブが表示されます。

2 [原稿サイズ:] プルダウンメニューから、印刷する原稿のサイズを選択します。



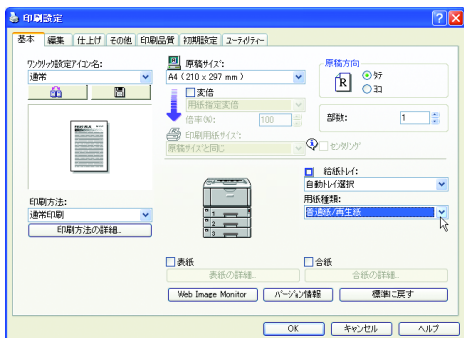
3 印刷する原稿の向きを [原稿方向] の [タテ] または [ヨコ] から選択します。

4 [印刷方法:] プルダウンメニューから [通常印刷] を選択します。



複数の部数を印刷する場合は、[部数] ボックスに部数を入力します。

5 [給紙トレイ:]、[用紙種類:] プルダウンメニューから、印刷に使用する給紙トレイと、指定した給紙トレイにセットされている用紙種類を選択します。



[給紙トレイ:] で [自動トレイ選択] を選択した場合は、用紙サイズと用紙種類に応じて給紙トレイが自動的に選択されます。

6 [OK] をクリックします。

7 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 本機の給紙トレイにセットされている用紙の種類は、[用紙設定] の [用紙種類] で確認できます。
- プリンタードライバーで選択できる用紙種類の設定値と、本機の画面での用紙種類表示は異なる場合があります。プリンタードライバーで用紙の種類を選択するときは、どのトレイにどの種類の用紙がセットされているかも確認してください。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

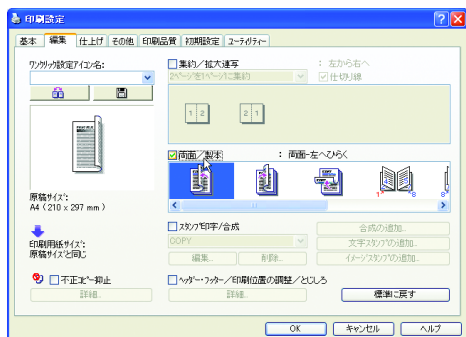
参照

- P.94 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」

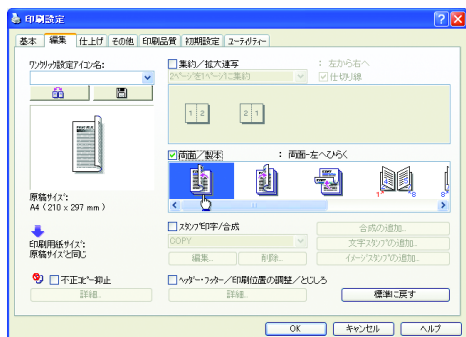
両面印刷する

プリンタードライバーで用紙の両面に印刷する方法について説明します。

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
[基本] タブが表示されます。
- 2 [編集] タブをクリックします。
- 3 [両面/製本] にチェックを付けます。



- 4 用紙のひらきかたをアイコンの中から選択します。



とじしるを付ける場合は [ヘッダー・フッター/印刷位置の調整/とじしる] にチェックを付け、[詳細 ...] をクリックして [両面印刷時のとじしる] を設定します。

- 5 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。
- 6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 1つの文書内に原稿サイズの異なるページがある場合、そのページの前で改ページすることがあります。

両面印刷可能な用紙サイズ、用紙種類

本機で両面印刷できる用紙サイズと用紙種類について説明します。

◆ 両面印刷可能な用紙サイズ

- A3☐
- A4☐
- A4☐
- A5☐
- A5☐
- B4☐
- B5☐
- B5☐
- 11×17☐
- 8¹/₂×14☐
- 8¹/₂×11☐
- 8¹/₂×11☐

◆ 両面印刷可能な用紙種類

- 普通紙
- レターヘッド
- 特殊紙 1
- 再生紙

↓ 補足

- 不定形サイズは両面印刷に対応していません。

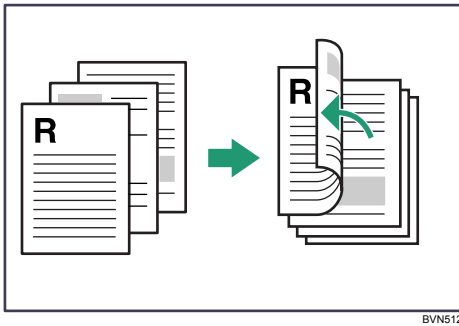
両面印刷の種類

両面印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。

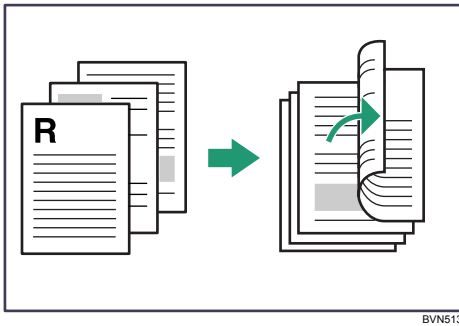
設定できる用紙のひらきかたは、用紙の一边でとじる形態と、用紙の中央でとじる形態があります。

◆用紙の一边でとじる形態

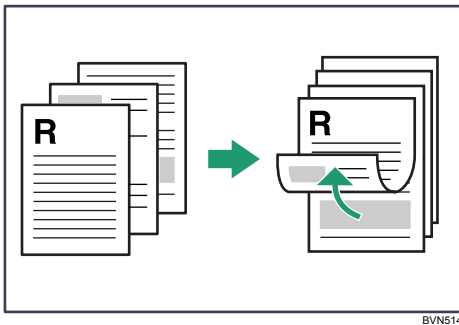
- ・両面（左へひらく）



- ・両面（右へひらく）

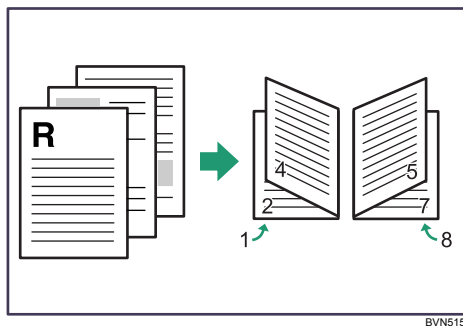


- ・両面（上へひらく）

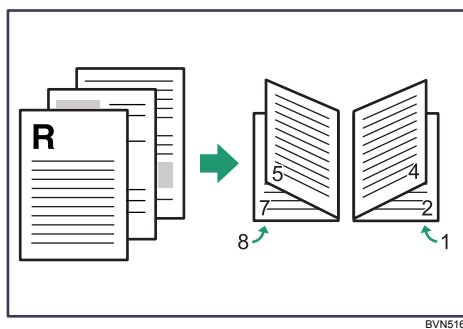


◆ 用紙の中央でとじる形態

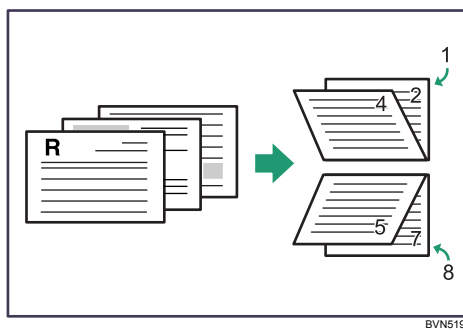
- ・ ミニ本（左へひらく）



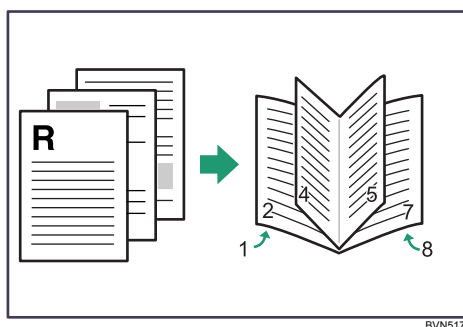
- ・ ミニ本（右へひらく）



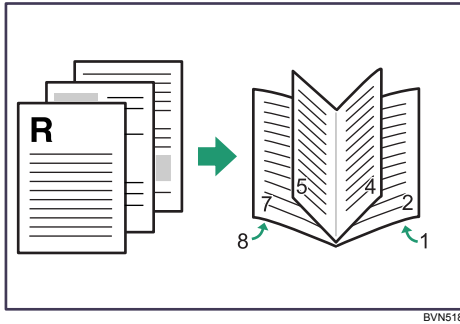
- ・ ミニ本（上へひらく）



- ・ 週刊誌（左へひらく）

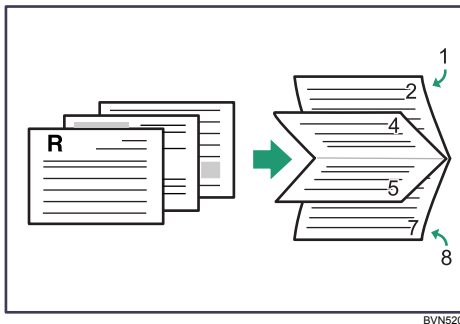


- ・週刊誌（右へひらく）



BVN518

- ・週刊誌（上へひらく）



BVN520

↓ 補足

- ・ミニ本（左へひらく）、ミニ本（右へひらく）、週刊誌（左へひらく）、週刊誌（右へひらく）は「原稿方向」が「タテ」の場合のみ指定できます。
- ・ミニ本（上へひらく）、週刊誌（上へひらく）は「原稿方向」が「ヨコ」の場合のみ指定できます。

複数のページを集約して印刷する

プリンタードライバーで集約印刷する方法について説明します。集約を設定すると、複数のページを縮小して1ページにまとめて印刷することができます。

★重要

- 不定形サイズの内紙には集約を設定することができません。定型サイズの内紙を使用してください。

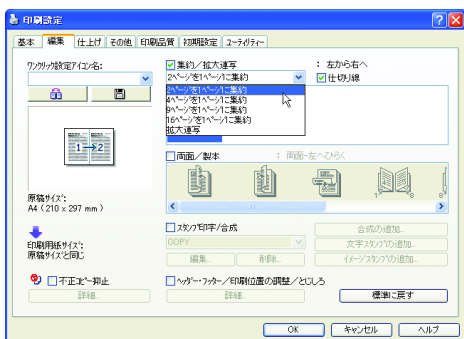
2

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

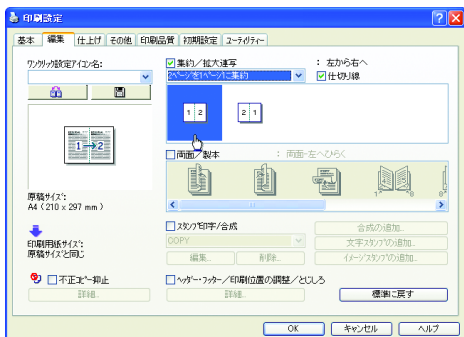
[基本] タブが表示されます。

2 [編集] タブをクリックします。

3 [集約/拡大連写] にチェックを付け、プルダウンメニューから集約の種類を選択します。



4 ページの並べ方をアイコンの中から選択します。



5 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。

6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

↓ 補足

- 1つの文書内に原稿方向の異なるページがある場合は、そのページの前で改ページします。
- 同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。
- 縦横が混在する原稿を集約する場合など、詳しくはプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

2

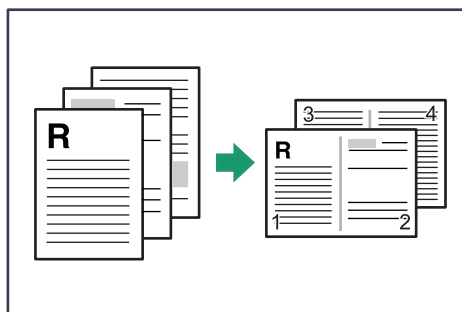
集約印刷の種類

集約の種類について説明します。

集約印刷で1ページにまとめることができるのは、2ページ、4ページ、9ページ、16ページです。ページの並べ方は最大4つのパターンの中から任意に選択することができます。

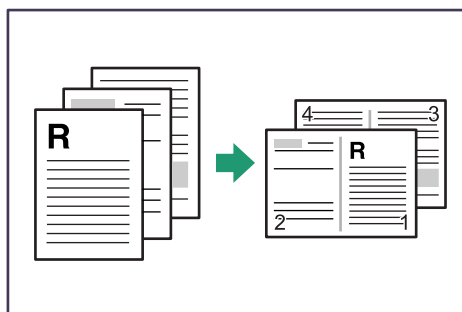
◆ 2ページを1ページに集約

- 左から右へ



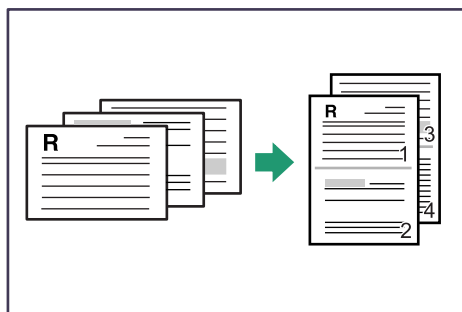
BVN521

- 右から左へ



BVN526

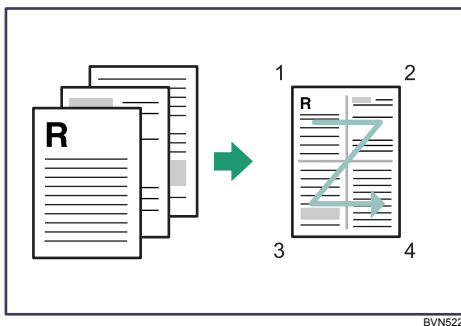
- 上から下へ



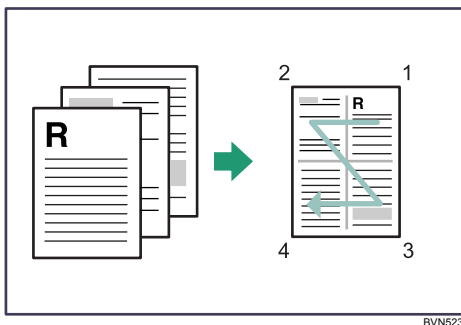
BVN527

◆ 4 ページを 1 ページに集約

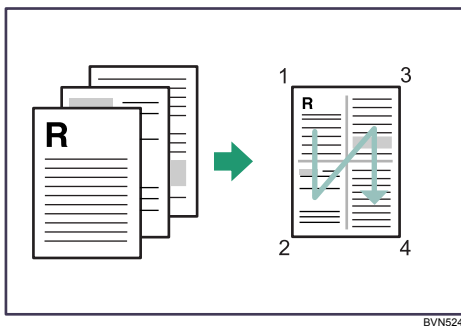
- ・ 左上→右上→左下→右下



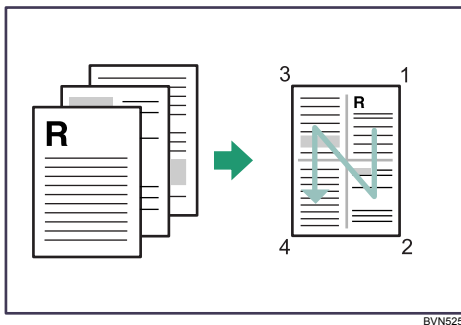
- ・ 右上→左上→右下→左下



- ・ 左上→左下→右上→右下



- ・ 右上→右下→左上→左下



原稿にイメージや文字をスタンプする

プリンタードライバーでスタンプ印刷する方法について説明します。スタンプを設定すると、作成した文書にイメージデータや文字を重ねて印刷することができます。

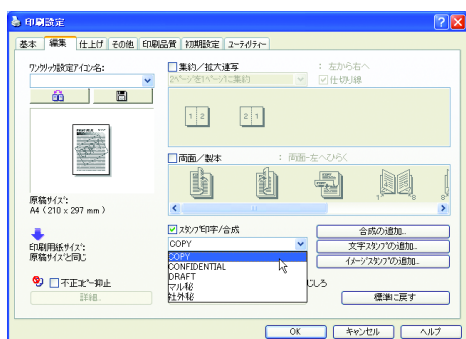
スタンプには、ビットマップファイル (.bmp) を使った「イメージスタンプ」と、文字データを使った「文字スタンプ」があります。一度に指定できるスタンプはどちらかのみです。

1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。

[基本] タブが表示されます。

2 [編集] タブをクリックします。

3 [スタンプ印字/合成] にチェックを付け、プルダウンメニューからスタンプの種類を選択します。



選択したスタンプの内容を変更するときは [編集 ...] をクリックします。

4 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。

5 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

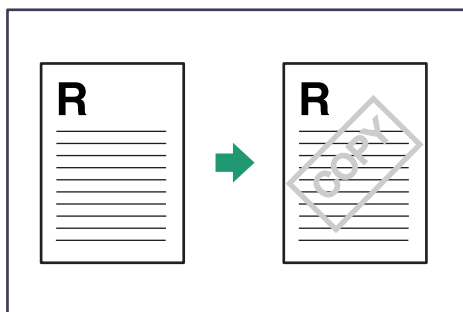
- あらかじめ用意されているスタンプのほかにも、任意にスタンプを作成し、使用することができます。
- スタンプの作成・編集方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スタンプの種類

スタンプの種類について説明します。

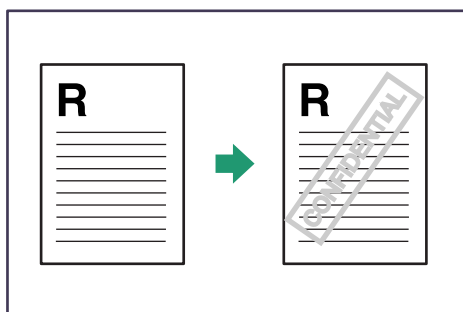
本機のプリンタードライバーにはいくつかの文字スタンプがあらかじめ登録されています。利用できるスタンプの種類は次のとおりです。

- COPY



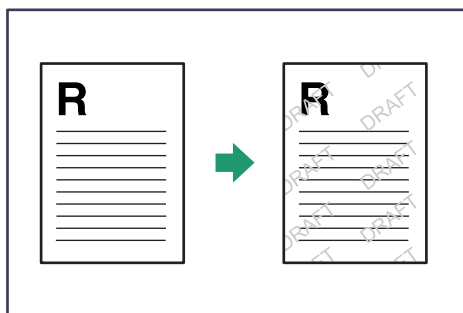
BVNS28

- CONFIDENTIAL



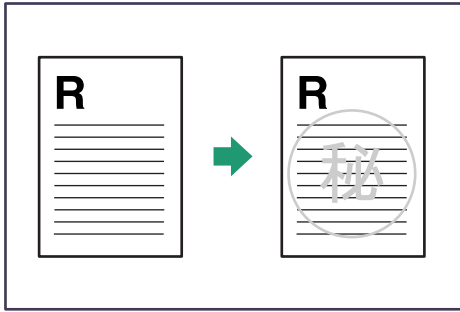
BVNS29

- DRAFT



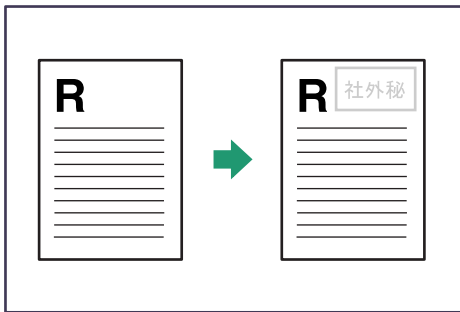
BVNS30

・ マル秘



BVN531

・ 社外秘



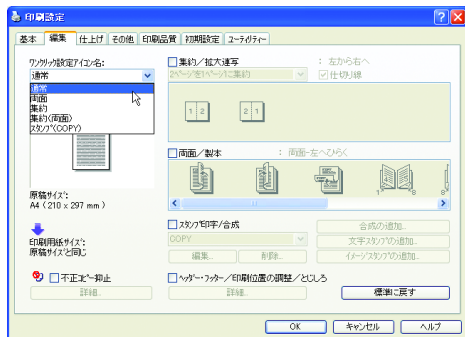
BVN532

ワンクリック設定を使用する

プリンタードライバーのワンクリック設定について説明します。

「よく使う印刷」のそれぞれの機能は、[基本] タブの「ワンクリック設定」にあらかじめ登録されています。メニューから設定名を選択するだけで、両面印刷や集約印刷などを指定することができます。

ワンクリック設定を使用するには、[ワンクリック設定アイコン名:] から、適用したい設定名をクリックします。



設定名を選択するだけで登録されている設定内容が反映されるため、印刷するときに何箇所も設定を変更したり、誤って設定して無駄な印刷をしてしまうミスを防ぐことができます。ワンクリック設定は任意に追加、変更、削除することができます。また、複数のメンバーで同じワンクリック設定を共有して使用することもできます。プリンタードライバーに関する特別な知識がなくても、登録したワンクリック設定を使うだけで、さまざまな機能を活用することができます。

ワンクリック設定の登録や削除、変更については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

便利な機能

表紙用の用紙への印刷、合紙の挿入、またはソートなどの、便利な印刷機能について説明します。

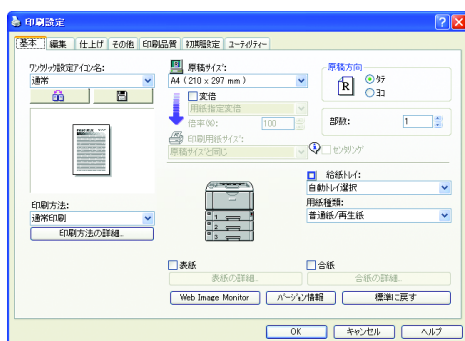
「よく使う印刷」で使用する機能のほかにも、各タブから印刷に関する機能を設定することができます。

プリンタードライバーのタブについて

[基本]、[仕上げ]、[その他] タブから、便利な印刷機能を設定することができます。ここで説明するそれぞれの機能は、次のタブから設定することができます。

◆ [基本] タブ

用紙サイズや用紙種類、給紙トレイに関する設定のほかに、表紙や合紙について設定することができます。



- 原稿サイズ、用紙種類

印刷に使用する原稿サイズ、用紙種類を指定します。本機に設定されている用紙サイズ、用紙種類と一致しない場合でも、手差しトレイから印刷を続けることができます。この機能の説明については「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」を参照してください。

- 表紙

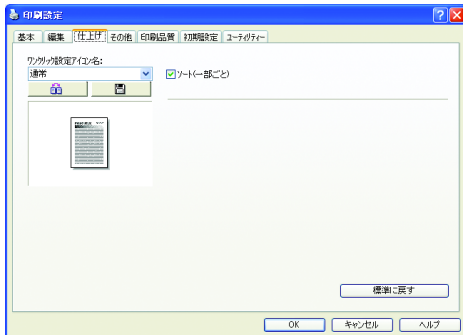
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。表紙には両面印刷することもできます。この機能の説明については「表紙を印刷する」を参照してください。

- 合紙

ページごとに合紙を挿入します。この機能の説明については「合紙を挿入する」を参照してください。

◆ [仕上げ] タブ

ソートついて設定することができます。

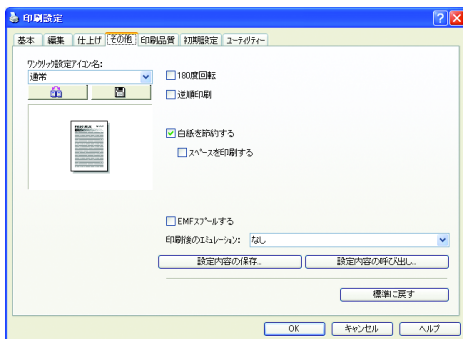


・ ソート

会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。
この機能の説明については「部単位で印刷する（ソート）」を参照してください。

◆ [その他] タブ

スプール印刷やその他の印刷オプションを設定することができます。



・ スプール印刷

パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。
この機能の説明については「スプール印刷について」を参照してください。

↓ 補足

・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

目 参照

- ・ P.73 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」
- ・ P.75 「表紙を印刷する」
- ・ P.76 「合紙を挿入する」
- ・ P.77 「部単位で印刷する（ソート）」
- ・ P.78 「スプール印刷をする」

プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する

本機の操作部を使って、[印刷設定] の [トレイ設定選択] で、[手差しトレイ] を [全用紙サイズ・用紙種類許可] または [全不定形サイズ・用紙種類許可] に設定しておく、本機用の紙設定をあらかじめ変更、確認することなく、指定した用紙に印刷することができます。

プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙サイズ、用紙種類が、本機のどのトレイとも一致しない場合、指定した用紙サイズ、用紙種類の設定を手差しトレイに適用し、手差しトレイを使って、そのまま印刷を継続することができます。異なる用紙を頻繁に使用する場合や、普段は使用しない用紙に印刷する場合などに、操作部から用紙の設定を変更しておく必要がありません。

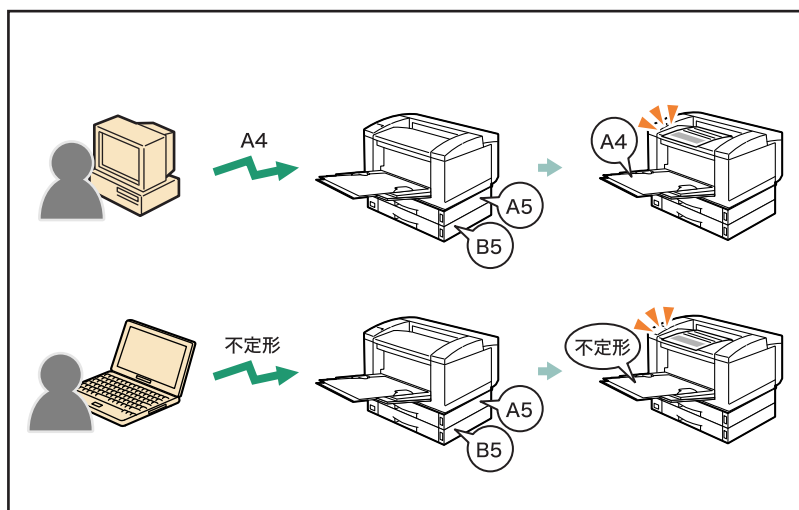
★重要

- すべての用紙サイズで手差しトレイからの印刷継続を許可する場合は、[印刷設定] の [トレイ設定選択] で、[手差しトレイ] を [全用紙サイズ・用紙種類許可] に設定してください。不定形サイズの用紙のみを印刷継続の対象とする場合は、[印刷設定] の [トレイ設定選択] で、[手差しトレイ] を [全不定形サイズ・用紙種類許可] に設定してください。各設定項目については、「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。
- プリンタードライバーの [基本] タブで、[給紙トレイ] を [自動トレイ選択] に設定してください。自動トレイ選択でジョブを送ると、[用紙設定] の [優先給紙トレイ] で設定したトレイから順に、ジョブで指定した用紙設定に一致するトレイを検出します。[優先給紙トレイ] を [手差しトレイ] に設定すると、手差しトレイに用紙がセットされている場合は、常に手差しトレイから給紙、印刷します。プリンタードライバーの設定については、「プリンタードライバーのタブについて」を参照してください。[優先給紙トレイ] の設定については、「用紙設定メニューの設定項目」を参照してください。

手差しトレイを [全用紙サイズ・用紙種類許可] または [全不定形サイズ・用紙種類許可] に設定しておく、下記の例のように給紙、印刷します。

◆ [全用紙サイズ・用紙種類許可] の場合

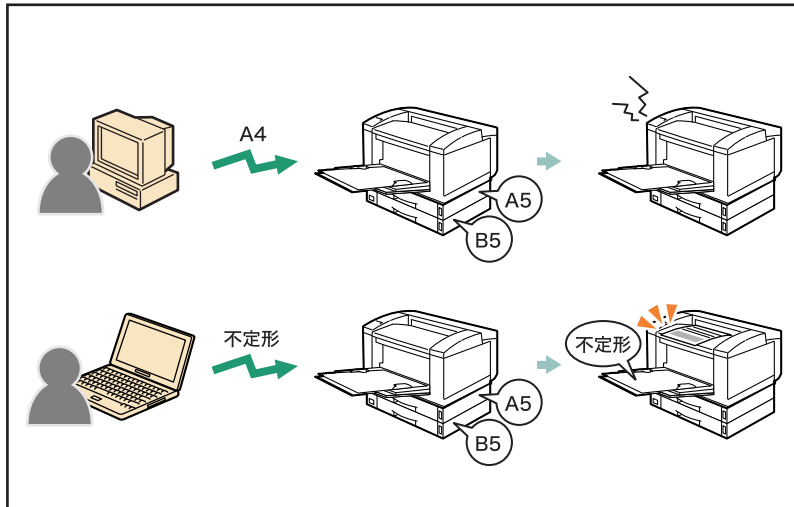
ジョブの用紙設定が本機の用紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定を手差しトレイに適用して印刷できます。



BVN754

◆ [全不定形サイズ・用紙種類許可] の場合

ジョブの用紙設定が本機用の紙設定と一致しない場合、ジョブの用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷できます。



↓ 補足

- ・印刷速度は通常の印刷に比べて遅くなります。
- ・ジョブを受信したとき、手差しトレイに用紙がセットされていない場合は、用紙の補給を促すメッセージが操作部に表示されます。表示されている用紙サイズ、用紙種類を確認し、印刷したい面を上にして用紙をセットしてください。
- ・1つの文書に用紙サイズの異なるページが混在している場合で、本体トレイに一致する用紙がない場合は、すべてのページを手差しトレイから印刷します。本体トレイに一致するページがある場合は、一致するページのみ本体トレイから印刷します。
- ・ジョブで指定した用紙サイズと手差しトレイから給紙された用紙サイズが異なるときは、操作部に警告画面が表示されます。対処方法については「手差しトレイからの印刷を継続する」を参照してください。

目 参照

- ・P.71 「プリンタードライバーのタブについて」
- ・P.97 「手差しトレイからの印刷を継続する」
- ・P.127 「用紙設定メニューの設定項目」
- ・P.146 「印刷設定メニューの設定項目」

表紙を印刷する

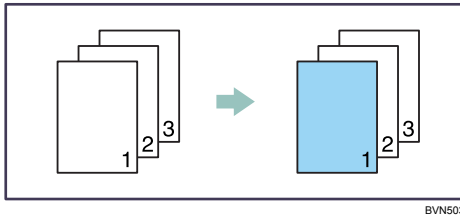
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

★重要

- ・ソートの設定が必要です。
- ・表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものと同じ方向にセットします。

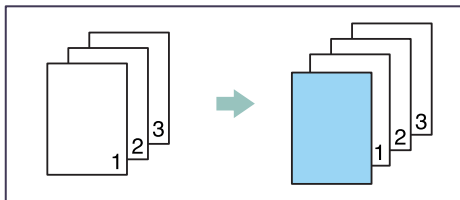
◆片面印刷の場合

- ・表紙用の用紙に印刷するとき



BVN503

- ・表紙用の用紙に印刷しないとき

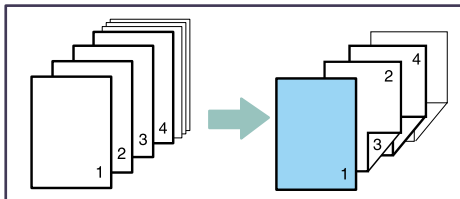


BVN505

◆両面印刷の場合

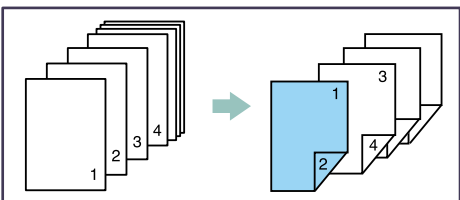
1 ページ目の原稿と最終ページの原稿を、表紙用の用紙に印刷します。

- ・表紙用の用紙に片面印刷するとき



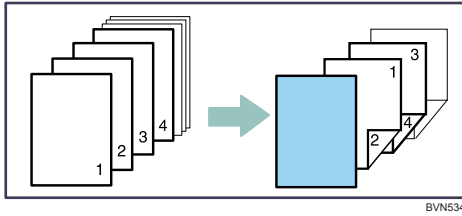
BVN533

- ・表紙用の用紙に両面印刷するとき



BVN504

- ・表紙用の用紙に印刷しないとき



2

↓ 補足

- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

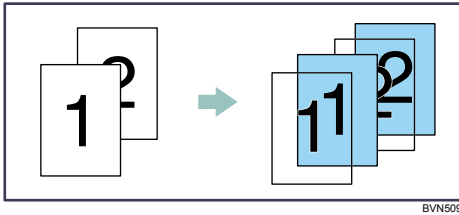
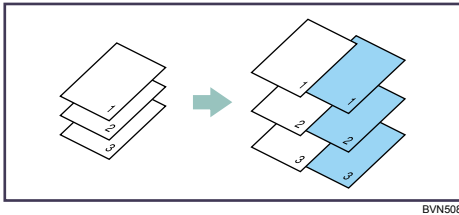
合紙を挿入する

ページごとに合紙を挿入します。

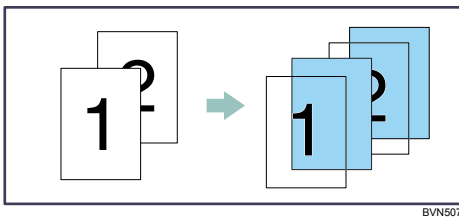
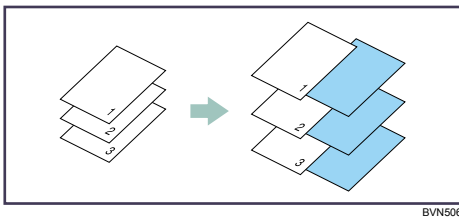
★ 重要

- ・両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。

◆ 合紙に印刷する



◆ 合紙に印刷しない



↓ 補足

- ・合紙用の用紙は、印刷する用紙と同じサイズのものと同じ方向にセットします。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

部単位で印刷する（ソート）

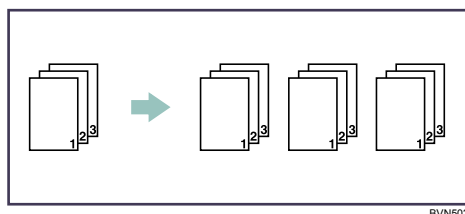
会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

★ 重要

- ・ソート可能なページ数は、RAM による場合は最大 150 ページ、ハードディスクを増設した場合は最大 1,000 ページです。
- ・1 部目でエラースキップや強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。

◆ ソートの種類について

- ・ソート
1 部ずつそろえて印刷します。



↓ 補足

- ・プリンタードライバーでソートの設定をするときは、アプリケーションのソート（部単位印刷設定）が無効になっていることを確認してください。アプリケーションのソート設定を有効にして印刷をすると、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スプール印刷をする

スプール印刷とは、パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。スプール印刷をすると、大容量のデータのと看、パソコンが早く印刷処理から開放されます。

★重要

- ・スプール印刷を行うには、拡張 HDD が必要です。
- ・スプール印刷中は、拡張 HDD へのアクセスが行われ、データインランプが点滅します。スプール印刷中に本機やパソコンの電源を切ると、拡張 HDD が破損するおそれがあります。スプール印刷中は本機やパソコンの電源を切らないでください。
- ・BMLinkS、diprint、ftp、IPP、LPR、SMB (TCP/IP (IPv4))、sftp、WSD (Printer) 以外のプロトコルで受信したデータは、スプール印刷できません。
- ・本機の操作部の画面にはスプールジョブの一覧は表示されません。

◆スプール印刷を設定する

Web ブラウザーと telnet で設定できます。

- ・Web ブラウザーの場合
詳しくは、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ・telnet の場合
「spoolsw spool on」で設定します。詳しくは、「telnet を使う」を参照してください。

◆Web ブラウザーからスプールジョブを閲覧・削除する

Web ブラウザーを起動し、URL としてプリンターの IP アドレスを指定すると、Web Image Monitor のトップページが表示されます。

↓補足

- ・一度に最大 150 ジョブまでスプールできます。
- ・スプール印刷をすると、1 ページ目の印刷開始は遅くなります。
- ・プリンターに蓄積されたスプールジョブは、Web ブラウザーから閲覧・削除することができます。詳しくは、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ・スプール印刷の指定方法については、プリンタードライバのヘルプを参照してください。

E) 参照

- ・P169 「Web ブラウザーを使う」
- ・P209 「telnet を使う」

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。

PDF ファイルを直接印刷するには、コマンドを使って印刷する方法があります。

★重要

- この機能は、オプションの PS3 カードを装着しているときに使用できます。
- Adobe 純正の PDF のみ可能です。
- 対応している PDF ファイルのバージョンは、1.3、1.4、1.5、1.6、1.7 です。
- PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter や、8 コンポーネントを超える DeviceN のカラースペースには対応していません。
- PDF バージョン 1.6 の固有機能であるウォーターマーク注釈や、バージョン 1.6 で機能拡張されたオプションコンテンツには対応していません。
- PDF バージョン 1.7 の固有機能を使用していない PDF ファイルは印刷できます。
- 透明機能を含むデータを印刷する場合、オプションの SDRAM モジュール 256MB の増設が必要です。ただし、メモリの容量を最大まで増設した場合でも、印刷するデータによっては印刷できないことがあります。この場合はプリンタードライバーを使用して印刷してください。

↓補足

- 不定形サイズ用の紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

📖参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」
- P.209 「telnet を使う」

コマンドを使用して印刷する

PDF ダイレクトプリントの方法について説明します。

PDF ファイルを本機に送信して直接印刷するには、lpr コマンドを使用します。

補足

- ・直接印刷や lpr コマンドについて、詳しくは「Windows からのファイル直接印刷」を参照してください。

参照

- ・P.295 「Windows からのファイル直接印刷」

PDF ファイルを送信する

lpr コマンドで PDF ファイルを送信する方法について説明します。

lpr コマンドでは、プリンターの IP アドレスのほか、PDF ファイル名を指定します。書式は次のとおりです。

C:¥>lpr -S プリンターの IP アドレス (またはホスト名) [-o 1] ¥パス ¥ファイル名

PDF パスワードを設定する

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷する方法について説明します。

パスワード保護された PDF ファイルを直接印刷するには、操作部または Web Image Monitor、PJL コマンドのいずれかでパスワードを指定します。PJL コマンドでパスワードを指定した場合は、操作部または Web Image Monitor で指定したパスワードは無視されます。

◆ PJL コマンドを使う

PJL コマンドを使用して PDF ファイルにパスワードを設定するには、以下のコマンドと値を使用します。

- ・コマンド：SET
- ・値：PDFPASSWORD
- ・使用例：@PJL SET PDFPASSWORD = セットしたいパスワードの文字列

PDF パスワードは ASCII 文字 (0x20~0x7E (ただし 0x22 は除く)) で、32 文字まで設定できます。

◆ 操作部を使う

操作部を使用して PDF パスワードを設定するには、[印刷設定] の [PDF 設定] で [PDF パスワード] を設定します。

◆ Web Image Monitor を使う

Web Image Monitor を使用して PDF パスワードを設定するには、[設定] の [PDF 一時パスワード] を設定します。

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の地紋と文字列を埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷には、「不正コピーガード機能」と「マスクパターン」があります。

★重要

- ・不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
- ・不正コピーガード機能は、トナーセーブモードには対応していません。

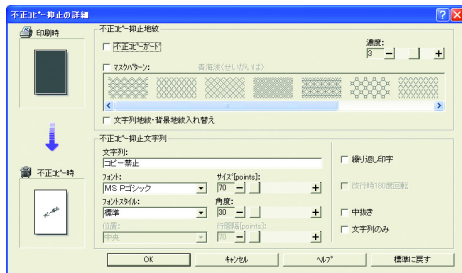
2

■不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

- 1 プリンタードライバーの印刷設定を開き、[編集] タブをクリックします。
- 2 [不正コピー抑止] のチェックボックスにチェックし、[詳細 ...] をクリックします。

不正コピーガード機能

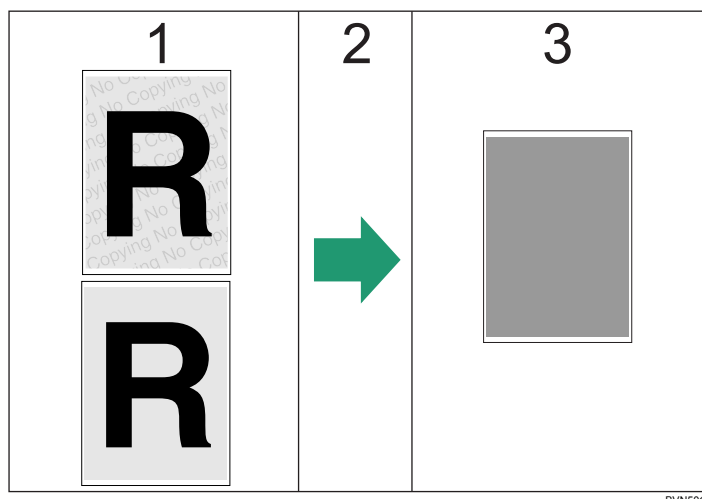
プリンタードライバーで不正コピーガード用の地紋を埋め込んで、印刷することができます。



◆必要な設定項目

- ・[不正コピーガード] のチェックボックスにチェックを入れます。[文字列] に、不正コピー抑止文字列を入力することもできます。
- ・[マスクパターン] を選択することはできません。
- ・不正コピーガードでグレー地に印刷するには、本機側での設定もあわせて必要です。設定方法については、管理者に確認してください。

◆ 不正コピーガードを設定した文書を印刷すると



BVN501

- 1 不正コピーガードを設定すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が埋め込まれて印刷されます。
- 2 不正コピーガードモジュールが搭載された複写機／複合機を使って、コピーを行います。
- 3 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

↓ 補足

- ・RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- ・印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- ・用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- ・用紙種類は普通紙、または白色度 70% 以上の再生紙をご使用ください。
- ・両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- ・地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- ・「不正コピー抑止の詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

マスクパターン

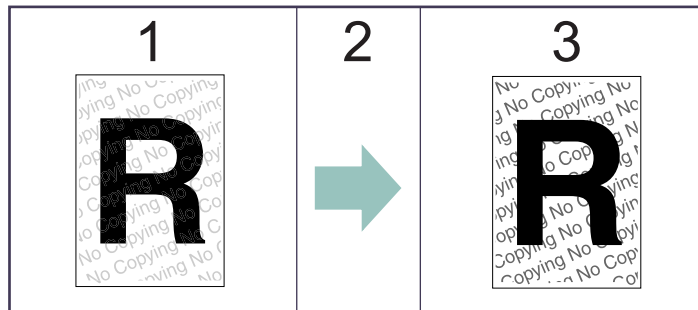
プリンタードライバーで不正コピー抑止地紋と不正コピー抑止文字列を設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

◆ 必要な設定項目



- ・ [マスクパターン] で不正コピー抑止地紋を選択し、[文字列] で不正コピー抑止文字列を設定します。
- ・ [文字列] だけを設定することはできますが、[マスクパターン] だけを設定することはできません。

◆ 「不正コピー抑止印刷」を設定した文書を印刷すると



- 1 不正コピー抑止印刷を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。
- 2 本機や他の複写機 / 複合機を使って、コピーやスキャン、ドキュメントボックスへの蓄積を行います。
- 3 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

↓ 補足

- ・ RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- ・ 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- ・ 地紋効果は、コピー、スキャン、ドキュメントボックスへの蓄積結果をすべて保証しているものではありません。また蓄積結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- ・ 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- ・ 不正コピー抑止印刷のための文字列地紋を効果的に浮き上がらせるために、文字列サイズは 70~80pt (最低 50pt)、文字列角度は 30~40 度の範囲内で設定してください。
- ・ 「不正コピー抑止の詳細」の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

おことわり

- 1) 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
- 2) 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

プリントジョブに分類コードを入力する

分類コードが必須の環境で印刷するときは、プリントジョブに分類コードを指定して印刷します。

★重要

- 入力した分類コードはプリンタードライバーに保持されます。
- 複数の分類コードを切り替えたい場合は、プリンタードライバーを別の名前で複数インストールし、それぞれに個別の分類コードを設定します。

2

■RPCS プリンタードライバーの場合

- 1 印刷したいアプリケーションから本機の印刷設定画面を開きます。
- 2 [基本] タブから [印刷方法の詳細 ...] をクリックします。
- 3 [分類コード:] ボックスに分類コードを入力します。
分類コードは半角英数字と-(ハイフン)を合計32文字まで使用することができます。
- 4 [OK] をクリックします。

仮想プリンターを使用する

仮想プリンターについて説明します。

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。また、割り込み印刷を設定することができます。割り込み印刷とは、印刷中や処理中のジョブを一時停止させて、別のジョブを先に印刷することです。この機能を使うには、拡張 HDD が必要です。UNIX や Solaris などから印刷するときには仮想プリンターを指定すると、コマンドによる印刷オプションの指示ができない場合でも、さまざまな印刷をすることができます。

2

仮想プリンターを追加する

仮想プリンターを追加する手順について説明します。

★重要

- ・仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。
- ・仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、[TCP/IP（指定なし・通常）]、[TCP/IP（指定なし・優先）] [TCP/IP (DIPRINT)]、[TCP/IP (RHPP)]、[AppleTalk] です。

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

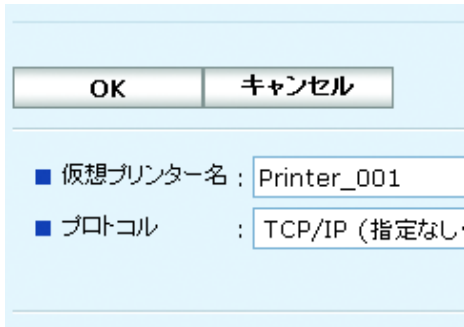
本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。

仮想プリンター機能が無効になっています。
基本設定画面で設定を変更できます。

仮想プリンター数: 1		
	仮想プリンター名	プロトコル
<input type="radio"/>	Default	---

3 [追加] をクリックします。

仮想プリンターの追加画面が表示されます。



OK キャンセル

■ 仮想プリンター名 : Printer_001

■ プロトコル : TCP/IP (指定なし)

4 [仮想プリンター名] に任意のプリンター名を入力し、[プロトコル] を選択してください。

5 [OK] をクリックします。

仮想プリンターが追加されます。

↓ 補足

- [AppleTalk] は、PS3 カード装着時に表示されます。
- [プロトコル] で [AppleTalk] を指定した場合、仮想プリンターの名前を任意に設定することはできません。
- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、[追加] ボタンは表示されません。

📖 参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターの設定を変更する

仮想プリンターの設定を変更する手順について説明します。

★重要

- 仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。

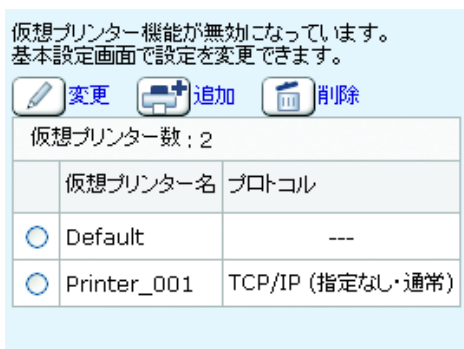
2

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

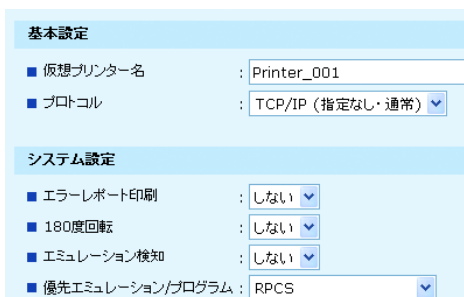
2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 変更したい仮想プリンターを選択し、[変更] をクリックします。

変更可能な設定項目の一覧が表示されます。



ここで設定した仮想プリンターを割り込み印刷用の仮想プリンターとして設定する場合は、[プロトコル] で [TCP/IP (指定なし: 優先)] を選択します。

4 各項目の設定内容を任意に変更し、[OK] をクリックします。

↓ 補足

- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

目 参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターの設定内容を確認する

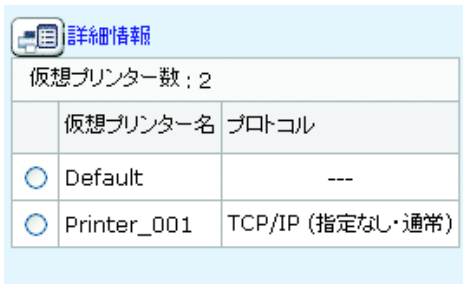
仮想プリンターの設定内容を確認する手順について説明します。

1 Web Image Monitor を起動します。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



詳細情報	
仮想プリンター数: 2	
仮想プリンター名	プロトコル
<input type="radio"/> Default	---
<input type="radio"/> Printer_001	TCP/IP (指定なし・通常)

3 確認したい仮想プリンターを選択し、[詳細情報] をクリックします。

設定内容の一覧が表示されます。

補足

- ・管理者モードでログインしている場合、[詳細情報] は表示されません。[変更] で現在の設定内容を確認してください。
- ・ゲストモードでログインしている場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

参照

- ・P91 「仮想プリンターで印刷する」
- ・P169 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターを削除する

仮想プリンターを削除する手順について説明します。

★重要

- 仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。

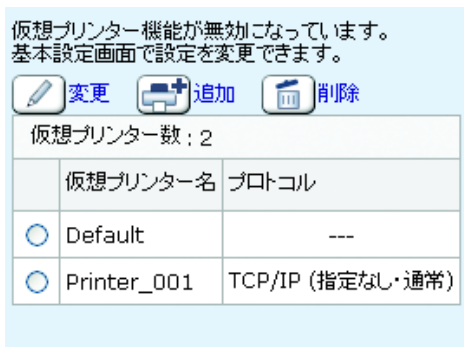
2

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 削除したい仮想プリンターを選択し、[削除] をクリックします。

仮想プリンター削除の確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

↓補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、[削除] ボタンは表示されません。

目参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに [仮想プリンター名] を指定します。割り込み印刷をする場合は、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターの名前を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを [有効] に設定してください。

★重要

- 仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。

- 1 Web Image Monitor に**管理者モード**でログインします。
ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリの中の [プリンター基本設定] をクリックします。
- 3 [仮想プリンター] の項目から [有効] を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 パソコンから印刷の指示を出します。

◆ lpr の場合

```
c:> lpr -S プリンターの IP アドレス (またはホスト名 [-P 仮想プリンター名]
[-o 1] ¥パス名 ¥ファイル名
```

◆ rcp の場合

```
c:> rcp [-b] ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名 ...] プリン
ターのホスト名: [仮想プリンター名]
```

◆ ftp の場合

```
ftp> put ¥パス名 ¥ファイル名 [仮想プリンター名]
```

↓補足

- 現在印刷中のジョブが下記の条件を満たしている場合、割り込み印刷用に設定した仮想プリンターを印刷しても、割り込み印刷できません。現在のジョブの印刷が終了してから割り込んだジョブの処理が開始されます。
 - 手差しトレイから印刷されている場合
 - 現在のジョブが表紙や合紙の機能を使用している場合
- 現在のジョブで大量のメモリーを消費していたり、大量の印刷をしている場合、割り込んだジョブを処理するメモリーが不足したり、すべてのページが印刷できなかったりします。この場合、蓄積が解除されたり、通常の最大枚数より少ない枚数でソートされる場合があります。

目参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」

メモリー容量と用紙サイズ

本機に搭載されているメモリー容量による、印刷可能な解像度と用紙サイズについての説明です。

↓ 補足

- ・長尺紙についての詳細については、『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」を参照してください。

2

片面印刷（600 dpi × 600 dpi）の場合

◆ 256 MB（標準）、512 MB（標準 + 256 MB）

- ・A3、B4、A4、B5、A5、はがき、長形3号封筒、角形2号封筒、11×17、Legal（8¹/₂ × 14）、Letter（8¹/₂ × 11）、不定形の用紙に印刷できます。
- ・長尺は、搭載メモリーが256MBで「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合に限り、ほとんどの画像で印刷が可能です。

片面印刷（1200 dpi × 1200 dpi）の場合

★ 重要

- ・長尺紙を使用する場合、片面印刷（1200 dpi × 1200 dpi）の設定で印刷を行うと画像が乱れる場合があります。長尺紙を使用する場合は片面印刷（600 dpi × 600 dpi）での印刷を推奨します。

◆ 256 MB（標準）

- ・B4、A4、B5、A5、はがき、長形3号封筒、角形2号封筒、Legal（8¹/₂ × 14）、Letter（8¹/₂ × 11）の用紙に印刷できます。
- ・A3、11×17、不定形、長尺の用紙にほとんどの画像で印刷が可能です。

↓ 補足

- ・「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合、B4 はほとんどの画像で印刷が可能です。長尺の用紙は一部の複雑な画像で印刷ができない場合があります。

◆ 512 MB（標準 + 256 MB）

- ・A3、B4、A4、B5、A5、はがき、長形3号封筒、角形2号封筒、11×17、Legal（8¹/₂ × 14）、Letter（8¹/₂ × 11）、不定形、長尺の用紙に印刷できます。

両面印刷（600 dpi × 600 dpi）の場合

◆ 256 MB（標準）、512 MB（標準 + 256 MB）

- ・A3、B4、A4、B5、A5、11×17、Legal（8¹/₂ × 14）、Letter（8¹/₂ × 11）の用紙に印刷できます。

両面印刷（1200 dpi × 1200 dpi）の場合

◆ 256 MB（標準）

- A5、B5 の用紙に印刷できます。
- A3、B4、A4、11×17、Legal (8¹/₂ × 14)、Letter (8¹/₂ × 11) の用紙にほとんどの画像で印刷が可能です。

↓ 補足

- 「優先メモリー」が「ユーザーメモリー」の場合、B5 はほとんどの画像で印刷が可能です。

◆ 512 MB（標準 + 256 MB）

- A3、B4、A4、A5、B5、11×17、Legal (8¹/₂ × 14)、Letter (8¹/₂ × 11) の用紙に印刷できます。

用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき

印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致したトレイがないときや手差しトレイから給紙した用紙がジョブの設定と異なる場合は、操作部に警告画面が表示されます。表示された内容に応じて対処してください。

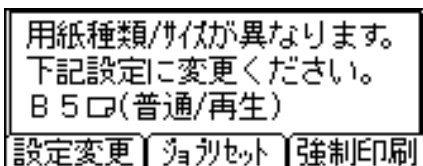
2

トレイの用紙設定を変更して印刷する

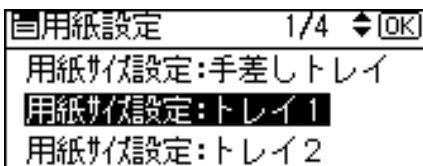
本機の各トレイに設定している用紙サイズ、用紙種類を変更して、印刷を継続する方法について説明します。

- 1 警告画面で [設定変更] を押します。

[用紙設定] 画面が表示されます。

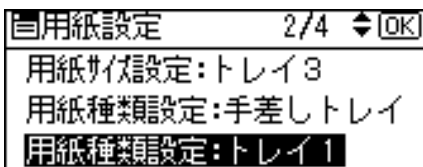


- 2 [▼] [▲] キーを押して用紙サイズを変更したいトレイを選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▼] [▲] キーを押して使用する用紙サイズを選択し、[OK] キーを押します。
[用紙設定] 画面が表示されます。

- 4 [▼] [▲] キーを押して用紙種類を変更したいトレイを選択し、[OK] キーを押します。



- 5 [▼] [▲] キーを押して使用する用紙種類を選択し、[OK] キーを押します。
[用紙設定] 画面が表示されます。

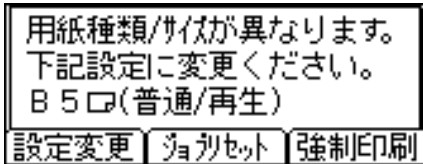
- 6 [戻る] キーを押します。

設定した用紙が印刷ジョブに一致した場合、印刷が開始されます。

強制印刷する

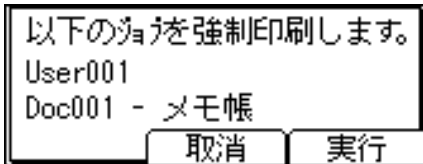
警告画面が表示された場合に、強制印刷する方法について説明します。

1 警告画面で [強制印刷] を押します。



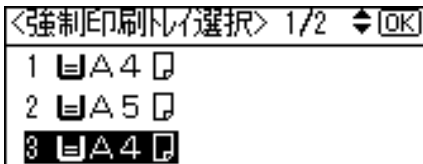
確認画面が表示されます。

2 [実行] を押します。



強制印刷を取り消す場合は、[取消] を押します。

3 [▼] [▲] キーを押して使用するトレイを選択し、[OK] キーを押します。



選んだトレイで印刷されます。

用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

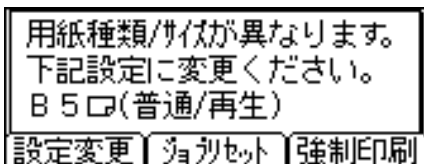
補足

- 用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。
- ソート印刷の 1 部目で強制印刷を実行した場合、1 部のみ指定した給紙トレイから印刷し、ソート印刷は解除されます。
- ソート印刷の 2 部目以降で強制印刷を実行した場合、実行中の部のみ印刷を行います。

印刷を中止する

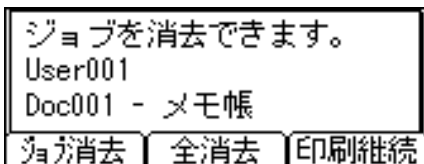
警告画面が表示された場合に、印刷を中止する方法について説明します。

1 警告画面で [ジョブリセット] を押します。



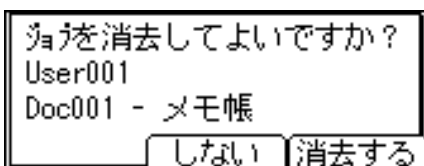
蓄積されている印刷データを消去して印刷を中止します。
確認画面が表示されます。

2 現在のジョブを中止する場合は、[ジョブ消去] を押します。すべてのジョブを中止する場合は、[全消去] を押します。



印刷を継続したい場合は、[印刷継続] を押します。

3 [消去する] を押します。



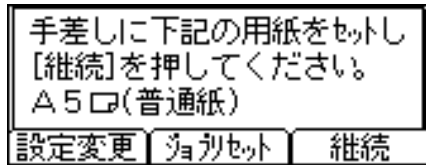
文書が消去されます。
消去を取り消す場合は、[しない] を押します。

↓ 補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、[インターフェース設定] の [インターフェース切替時間] を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、[ジョブリセット] を押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

手差しトレイからの印刷を継続する

手差しトレイが [全用紙サイズ・用紙種類許可] または [全不定形サイズ・用紙種類許可] に設定されている場合、ジョブで指定した用紙サイズと異なる用紙が給紙されたときには警告画面が表示されます。



この画面が表示されたときは、セットした用紙のサイズを確認してください。

1 画面に表示されている用紙を手差しトレイにセットします。

2 [継続] を押します。

エラーが発生したページから印刷が再開されます。

補足

- ・ [設定変更] から用紙サイズや用紙種類を変更しても、実行中のジョブに対しては適用されません。用紙設定を変更する場合は、ジョブリセットしてから、再度、印刷を実行してください。
- ・ [全用紙サイズ・用紙種類許可] または [全不定形サイズ・用紙種類許可] については、「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」および「印刷設定メニューの設定項目」を参照してください。
- ・ ドライバーで設定した用紙サイズによっては、表示されない場合があります。

参照

- ・ P.73 「プリンタードライバーまたはコマンドの用紙設定を優先させて印刷する」
- ・ P.146 「印刷設定メニューの設定項目」

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

試し印刷、機密印刷、保留文書印刷、保存文書印刷や印刷の中止などの注意事項についての説明です。

文書印刷機能を使用する

本機に蓄積された文書を印刷する、文書印刷機能の説明です。

文書印刷機能では、あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機の拡張 HDD に蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。

試し印刷文書、機密印刷文書および保留文書は、文書印刷機能で指示された印刷が終了すると蓄積されていた文書は消去されます。保存文書は、印刷が終了しても消去されません。文書印刷機能を使うためには、拡張 HDD が必要です。

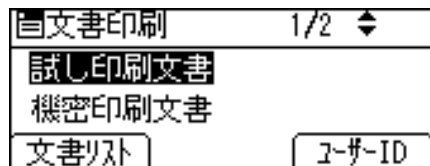
3

文書印刷画面を表示する

本機に拡張 HDD が装着されている場合、電源を入れたときに以下の初期画面が表示されます。



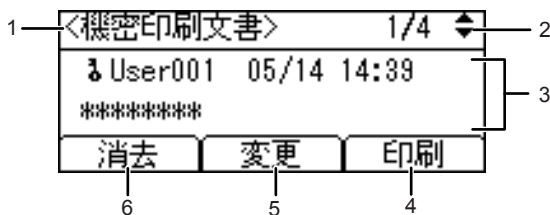
初期画面で [文書印刷] を押すと、文書印刷の種類を選択する画面が表示されます。



文書を選択する画面は、[文書リスト] を押したときに表示される文書一覧画面と、[ユーザー ID] を押したときに表示されるユーザー ID 一覧画面の 2 種類があります。

◆ 文書一覧画面

プリンター初期画面で [文書印刷] を押して文書印刷の種類を選択し、[文書リスト] を押すと、次の画面が表示されます。



1 文書印刷機能表示

選択した文書印刷の種類を表示します。

2 画面ページ数表示

蓄積されている文書を表示します。[▼] [▲] キーを押すごとに選択した種類の印刷文書を1画面ずつ表示します。

3 ユーザー ID / 日時 / 文書名表示

- ・ユーザー ID には、プリンタードライバーで設定したユーザー ID が表示されます。
- ・日時には、パソコンから印刷を指示した時刻が表示されます。
- ・文書名には文書名が表示されますが、機密印刷文書は文書名が「*****」と表示されます。

4 [印刷]

選択している文書を印刷します。

5 [変更]

保存文書にパスワードを追加したり、パスワードを設定した文書からパスワードを変更または削除できます。パスワードを変更または削除する場合は、[変更] を押して最初に設定したパスワードを入力した後、新しいパスワードを入力するか、削除する場合は新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに [OK] キーを押します。機密印刷文書に対しては、パスワードの変更ができます。

6 [消去]

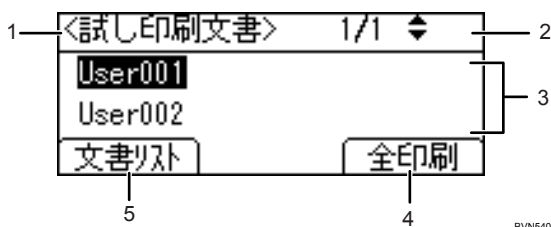
選択している文書を消去します。

↓ 補足

- ・パスワードの変更、削除に関しては、最初に設定したパスワードを正しく入力してください。パスワードが一致しない場合、パスワードの変更、削除はできません。
- ・[変更] を押してパスワードを追加、削除する機能は保存文書が本機に蓄積されている場合に使用できます。

◆ ユーザー ID 一覧画面

プリンター初期画面で [文書印刷] を押して文書印刷の種類を選択し、[ユーザー ID] を押すと、次の画面が表示されます。



1 文書印刷機能表示

選択した文書印刷の種類を表示します。

2 画面ページ数表示

現在のページ番号を表示します。[▼] [▲] キーを押すごとに画面を切り替えます。

3 ユーザー ID

- ・ 選択した種類の文書を蓄積しているユーザーの ID が表示されます。
- ・ プリンタードライバで設定したユーザー ID が表示されます。

4 [全印刷]

選択した ID のユーザーが蓄積した文書をすべて印刷します。

5 [文書リスト]

文書一覧画面の表示に切り替えます。ここでは、ユーザー ID 画面で選択したユーザーのジョブのみが表示されます。

↓ 補足

- ・ 文書の選択を取りやめる場合は、[戻る] キーを押します。
- ・ 文書一覧やユーザー ID 一覧を表示しているときに新たに文書が蓄積された場合、表示は更新されません。表示を更新するには、いったん [戻る] キーをプリンター画面に戻るまで押してから、もう一度 [文書印刷] を押してください。
- ・ 本機に多くの文書を蓄積・保存している場合は、お使いの機能によっては機器の反応が一時的に遅くなることがあります。

文書一覧画面から文書を印刷する

試し印刷、機密印刷、保留印刷、保存印刷について説明します。

試し印刷する

複数部数印刷する場合など、最初に1部だけ印刷し、その結果を確認した後に操作部を使用して残り部数を印刷できます。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。内容や印刷の指定を間違えたときなどに大量のミスプリントを防ぐことができます。

★重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
 - 拡張HDDが装着されていない場合
 - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が100ジョブのときに、送信された101番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - 1文書あたり1,000ページを超える文書
 - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて9,000ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■ 1 部目を印刷する

1 試し印刷する文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーの【印刷設定】の【基本】タブで、【印刷方法】から【試し印刷】を選択します。

ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、【印刷機能】タブをクリックします。

3 【印刷方法の詳細】をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 【ユーザーID】を半角英数字8文字以内で入力します。

5 【OK】をクリックします。

6 印刷の指示をします。

1部目が印刷され、本機に文書が蓄積されます。

7 印刷結果を確認し、操作部から2部目以降を印刷するか消去するかを指示します。

補足

- ・拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ・ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 ガイド』を参照してください。
- ・本体の電源を「Off」にしても、蓄積された試し印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。

参照

- ・P132 「調整 / 管理メニュー」
- ・P167 「エラー履歴を確認する」

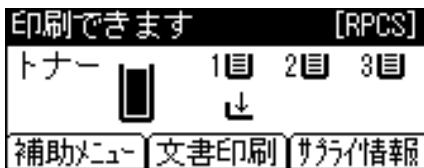
2 部目以降を印刷する

試し印刷で、2 部目以降を印刷する方法について説明します。

重要

- ・印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。

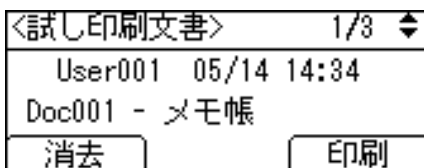


- 2 [▼][▲]キーを押して[試し印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。
[ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている試し印刷文書の一覧が表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。最大 999 部が印刷できます。

4 [印刷] を押します。

2 部目以降が印刷されます。

補足

- ・2 部目以降の印刷中に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- ・他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- ・用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

参照

- ・P.94 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」
- ・P.115 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

3

試し印刷文書を消去する

試し印刷の内容を確認し、2 部目以降を印刷しない場合は、本機に蓄積されている文書を消去します。

1 [文書印刷] を押します。

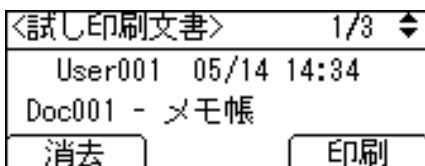


2 [▼][▲] キーを押して [試し印刷文書] を選択し、[文書リスト] を押します。

セキュリティの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。



3 [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。



消去の確認画面が表示されます。

4 [消去] を押します。

文書が消去されます。

補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

機密印刷する

ネットワークでプリンターを共有している場合など、他人に見られたくない文書を印刷するときなどに有効な機能です。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。機密印刷を使うと本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなりますので、他人に見られる心配がありません。

★重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
 - 拡張 HDD が装着されていない場合
 - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
 - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■プリンターに文書データを送る

- 1 機密印刷する文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバの [印刷設定] の [基本] タブで、[印刷方法] から [機密印刷] を選択します。
ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。
- 3 [印刷方法の詳細] をクリックします。
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5 [パスワード] を半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力します。
- 6 [OK] をクリックします。
パスワードの確認画面が表示されます。
- 7 パスワードを再度入力して、[OK] をクリックします。
- 8 印刷の指示をします。
本機に文書が蓄積されます。
- 9 操作部でパスワードを入力し、印刷するか消去するかを指示します。

補足

- ・拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ・ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 ガイド』を参照してください。
- ・本体の電源を「Off」にしても、蓄積された機密印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。

参照

- ・P.132 「調整 / 管理メニュー」
- ・P.167 「エラー履歴を確認する」

3

操作部を使って機密印刷する

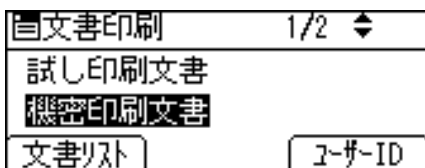
重要

- ・印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。

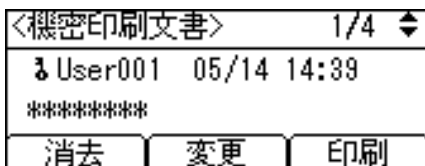


- 2 [▼][▲]キーを押して[機密印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。
[ユーザー ID] を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



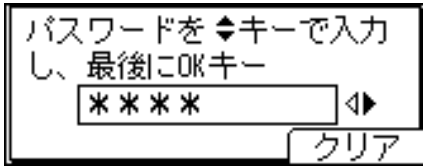
本機に蓄積されている機密印刷文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



パスワード入力画面が表示されます。

4 スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。



印刷の確認画面が表示されます。入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されますので [確認] を押して、再度入力します。

パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

5 [印刷] を押します。

機密印刷文書が印刷されます。

↓ 補足

- 印刷開始後に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

目 参照

- P.94 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」
- P.115 「ユーザー ID 一覧から文書を印刷する」

機密印刷文書を消去する

- 1 [文書印刷] を押します。

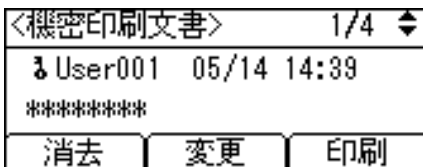


- 2 [▼][▲]キーを押して[機密印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。



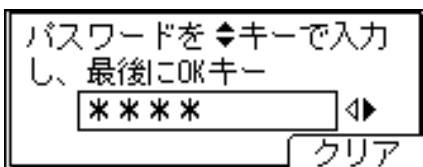
本機に蓄積されている機密印刷文書が1文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼][▲]キーを押して消去したい文書を選択し、[消去]を押します。



パスワード入力画面が表示されます。

- 4 スクロールキーでパスワードを入力し、[OK] キーを押します。



消去の確認画面が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときは、確認画面が表示されます。[確認]を押して、再度入力します。パスワードが分からなくなった場合は、文書管理者にご相談ください。

- 5 [消去] を押します。

文書が消去されます。

補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

保留文書を印刷する

本機に文書を一時的に蓄積し、必要に応じて印刷を行います。複数の文書をまとめて印刷するときなどに有効です。

★重要

- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
 - 拡張 HDD が装着されていない場合
 - 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
 - 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

3

■プリンターに文書データを送る

- 1 保留印刷文書で印刷する文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバーの【印刷設定】の【基本】タブで、【印刷方法】から【保留印刷】を選択します。
ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、【印刷機能】タブをクリックします。
- 3 【印刷方法の詳細】をクリックします。
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 【ユーザー ID】を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5 印刷の指示をします。
文書が本機に蓄積されます。

↓補足

- 拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合は『PostScript 3 ガイド』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保留印刷文書は消去されずに残りますが、【一時置き文書自動消去設定】や【保存文書自動消去設定】が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。
- 保留文書には文書名を設定できます。ただし、必須ではありません。

📖参照

- P.132 「調整 / 管理メニュー」
- P.167 「エラー履歴を確認する」

操作部を使って保留文書を印刷する

★重要

- 印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。

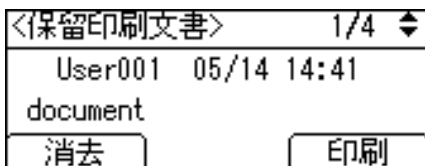


2 [▼][▲]キーを押して[保留印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。 [ユーザーID]を押すことによっても印刷できます。詳しくは「ユーザーID 一覧から文書を印刷する」を参照してください。



本機に蓄積されている保留印刷文書が1文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 [▼][▲]キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷]を押します。



印刷の確認画面が表示されます。

4 [印刷] を押します。

保留文書が印刷されます。

↓補足

- 保留印刷文書として蓄積された文書を印刷するときに、部数の変更はできません。
- 印刷開始後に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

📖参照

- P.94 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」
- P.115 「ユーザーID 一覧から文書を印刷する」

保留印刷文書を消去する

- 1 [文書印刷] を押します。



- 2 [▼][▲]キーを押して[保留印刷文書]を選択し、[文書リスト]を押します。



本機に蓄積されている保留印刷文書が1文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

- 3 [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。



消去の確認画面が表示されます。

- 4 [消去] を押します。

文書が消去されます。

補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

保存文書を印刷する

本機に文書を蓄積し、必要に応じて印刷を行います。印刷終了後にも文書が消去されない
ので、繰り返し印刷するときなどに有効です。

★重要

- ・ 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー履歴で確認できます。
 - ・ 拡張 HDD が装着されていない場合
 - ・ 本機に蓄積されている文書と保存文書の合計が 100 ジョブのときに、送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - ・ 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書
 - ・ 送信した文書が、本機に蓄積されている文書と保存文書の総ページ数と合わせて 9,000 ページを超える場合（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります。）
 - ・ エラー履歴の確認方法については、「エラー履歴を確認する」を参照してください。

■プリンターに文書データを送る

1 保存文書にする文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーのプロパティの [基本] タブで、[印刷方法] から [プリンターに保存する] または [プリンターに保存して印刷] を選択します。

- ・ [プリンターに保存する] を選択した場合は、本機に蓄積のみを行い、後から本機の操作部で印刷します。
- ・ [プリンターに保存して印刷] を選択した場合は、1 部目をすぐに印刷し、本機にも文書を蓄積します。
- ・ ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。

3 [印刷方法の詳細] をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。

5 [OK] をクリックします。

6 印刷の指示をします。

本機に文書が蓄積されます。

↓補足

- ・ 拡張 HDD が装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。

- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3 ガイド』を参照してください。
- 本体の電源を「Off」にしても、蓄積された保存印刷文書は消去されずに残りますが、[一時置き文書自動消去設定] や [保存文書自動消去設定] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」を参照してください。
- 保存文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

目 参照

- P.132 「調整 / 管理メニュー」
- P.167 「エラー履歴を確認する」

操作部を使って保存文書を印刷する

1 [文書印刷] を押します。



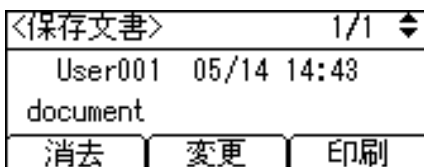
2 [▼] [▲] キーを押して [保存文書] を選択し、[文書リスト] を押します。



蓄積されている保存文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間やユーザーID、文書名が表示されます。

3 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷部数を変更する場合は、スクロールキーで部数を入力します。

文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4 [印刷] を押します。

保存文書が印刷されます。

印刷が終了しても、保存文書は消去されません。

補足

- ・印刷開始後に [ジョブリセット] を押すと、印刷を中止することができます。[ジョブリセット] を押しても、保存文書は消去されません。
- ・文書にパスワードを追加するには、文書一覧画面で [変更] を押して、パスワードを設定します。
- ・文書に設定したパスワードを削除するには、文書一覧画面で [変更] を押して、設定したパスワードを入力して [OK] キーを押し、新しいパスワードを入力、確認する画面で何も入力せずに [OK] キーを押します。
- ・用紙の種類や用紙サイズの不一致による警告画面が表示された場合は「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」を参照してください。

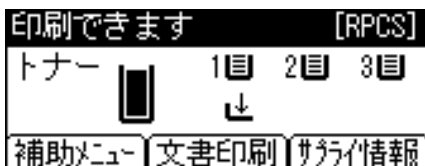
参照

- ・P94 「用紙のサイズや用紙の種類が本機の設定と異なるとき」

3

保存文書を消去する

1 [文書印刷] を押します。

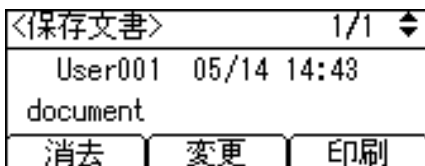


2 [▼] [▲] キーを押して [保存文書] を選択し、[文書リスト] を押します。



蓄積されている保存文書が 1 文書ずつ表示されます。セキュリティーの設定によっては、すべての文書が表示されない場合があります。

3 [▼] [▲] キーを押して消去したい文書を選択し、[消去] を押します。



消去の確認画面が表示されます。
文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力の画面が表示されます。
パスワードを入力してください。
パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

4 [消去] を押します。

文書が消去されます。

補足

- ・消去を取り消す場合は、[取消] を押します。

ユーザー ID 一覧から文書を印刷する

ユーザー ID 一覧から文書を選択し、印刷する方法の説明です。

文書を選択して印刷する場合

★重要

・印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。



2 [▼] [▲] キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、[ユーザー ID] を押します。



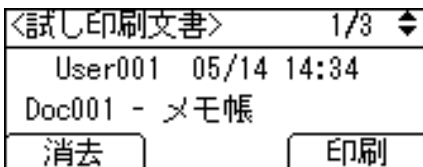
選択した種類の印刷文書を蓄積しているユーザー ID 一覧が表示されます。

3 [▼] [▲] キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、[文書リスト] を押します。



選択したユーザー ID が蓄積した文書のみが 1 文書ずつ表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して印刷したい文書を選択し、[印刷] を押します。



印刷の確認画面が表示されます。印刷を取りやめる場合は、[取消] を押します。

5 [印刷] を押します。

選択した文書が印刷されます。

↓補足

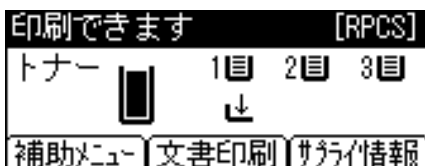
・手順 4 で [印刷] の代わりに [消去] を押すと、表示されている文書を消去できます。

文書をすべて印刷する場合

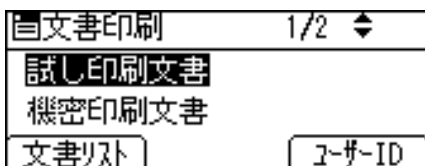
★重要

・印刷が終了すると、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書は消去されます。

1 [文書印刷] を押します。



2 [▼] [▲] キーを押して選択したい文書印刷の種類を選択し、[ユーザーID] を押します。



選択した種類の印刷文書を蓄積しているユーザー ID 一覧が表示されます。

3 [▼] [▲] キーを押して選択したいユーザー ID を選択し、[全印刷] を押します。

選択した種類の文書印刷を蓄積しているユーザー ID の文書をすべて印刷します。選択した種類以外の印刷文書は、同じユーザー ID で本機に蓄積していても、印刷されません。



[機密印刷文書]、[保留印刷文書] を選択した場合は、印刷の確認画面が表示されます。
[試し印刷文書]、[保存文書] を選択した場合は、部数を設定する画面が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して印刷部数を設定します。



5 [印刷] を押します。

印刷が実行されます。印刷を中止する場合は [取消] を押します。

↓ 補足

- ・蓄積されていない種類の文書を選択することはできません。
- ・保存文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。選択した種類のすべての文書が、指定した部数で印刷されます。部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定してある部数中もっとも少ない部数で、すべての文書が印刷されます。
- ・複数の文書がある試し印刷文書を選択した場合は、印刷の確認画面で印刷部数を指定できます。選択した種類のすべての文書が、指定した部数で印刷されます。確認画面で部数を指定しなかった場合は、プリンタードライバーで設定した中でもっとも少ない部数より1部少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。設定した部数の中でもっとも少ない部数が1の場合は、すべての文書が1部ずつ印刷されます。
- ・機密印刷文書を選択した場合は、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書だけが印刷の対象になります。
- ・保存文書を選択した場合、蓄積されている保存文書にパスワードが設定されているときは、パスワード入力画面が表示されます。複数のパスワードが設定してある場合は、パスワードが一致した文書と、パスワードが設定されていない文書だけが印刷の対象になります。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機とパソコン両方から行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なりますので、状況を確認し、以下の手順で操作してください。

1 印刷を中止したいデータが、現在本機から印刷されているか確認します。
データが印刷されていなくてもデータインランプが点滅 / 点灯していれば、本機はデータを受信しています。

2 印刷を中止します。
データの印刷状況によって、次のいずれかの操作を行ってください。

3

中止したいデータが印刷されている場合

印刷を中止したいデータが印刷されている場合の、操作方法です。

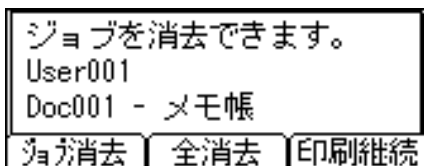
1 [ジョブリセット] キーを押します。



BVN500

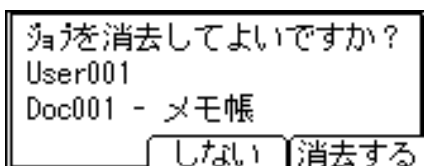
確認画面が表示されます。

2 [ジョブ消去] を押します。



印刷を継続したい場合は、[印刷継続] を押します。

3 [消去する] を押します。



文書が消去されます。

消去を取り消すときは、[しない] を押します。

↓ 補足

- 印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、[インターフェース設定] の [インターフェース切替時間] を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、[ジョブリセット] キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

中止したいデータが印刷されていない場合

印刷を中止したいデータが、まだ印刷されていない場合の操作方法です。

- 1** Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。
印刷中のプリンターのウィンドウが開くので、印刷を中止する文書の状態を確認します。
- 2** 印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。
- 3** [ドキュメント] メニューの [キャンセル] をクリックします。
印刷が中止されます。

↓ 補足

- [プリンタ] メニューの [すべてのドキュメントの取り消し] をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、[すべてのドキュメントの取り消し] を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

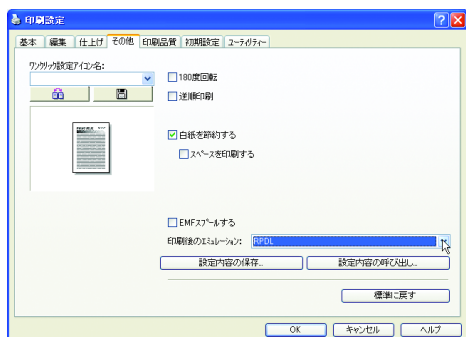
印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える

複数のパソコンでプリンターを共有している場合で、その中に DOS または UNIX で印刷しているパソコンがあるときに使用する機能です。

通常、DOS または UNIX から印刷するには、使用するアプリケーションに応じてプリンターのエミュレーションを設定しておく必要があります。印刷後のエミュレーションとして DOS または UNIX から印刷するときのエミュレーション（または、プログラム）を選択しておく、次の印刷が DOS または UNIX からの場合でもエミュレーションを切り替えずに印刷することができます。

3

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバの設定画面を表示します。
- 2 [その他] タブをクリックします。
ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブで [アイコンの変更/新規作成] をクリックし、[その他] タブをクリックします。
- 3 [印刷後のエミュレーション:] ボックスからエミュレーションを選択します。



Windows だけでお使いの場合は、[なし] または [直前のエミュレーション] を選択してください。[直前のエミュレーション] を選択すると、印刷前に設定されていたエミュレーションに戻ります。

- 4 ウィンドウタイプで「ワンクリック設定」を選択しているときは、[名前をつけて保存] または [上書き保存] をクリックし、設定を保存します。



- 5 [OK] をクリックします。
- 6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

4. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目についての説明です。

[メニュー] キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

◆ メモリー内残存データ状態確認

拡張 HDD が装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

↓ 補足

- ・メモリー内残存データ状態確認はセキュリティーカード装着時に表示されます。

目 参照

- ・P.126 「メモリー内残存データ状態確認メニュー」

◆ 用紙設定

設定項目
用紙サイズ設定：手差しトレイ
用紙サイズ設定：トレイ 1
用紙サイズ設定：トレイ 2
用紙サイズ設定：トレイ 3
用紙サイズ設定：トレイ 4
用紙種類設定：手差しトレイ
用紙種類設定：トレイ 1
用紙種類設定：トレイ 2
用紙種類設定：トレイ 3
用紙種類設定：トレイ 4
両面印刷トレイ
自動トレイ選択
優先給紙トレイ

↓ 補足

- ・本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

目 参照

- ・P.127 「用紙設定メニュー」

◆ 調整 / 管理

設定項目
品質調整
一般管理
時刻タイマー設定
ハードディスク管理
機器設定値エクスポート

↓ 補足

- ・ハードディスク管理は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・ P.132 「調整 / 管理メニュー」

4

◆ テスト印刷

設定項目
一括リスト印刷
システム設定リスト
エラー履歴
ネットワークサマリー
サプライ情報リスト
印刷条件リスト
メニューリスト
登録フォームリスト
全文字印刷
フォントリスト
PS 情報リスト
PDF 情報リスト
ヘキサダンプ

↓ 補足

- ・上記メニューは、使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。

目 参照

- ・ P.137 「テスト印刷メニュー」

◆ システム設定

設定項目
エラーレポート印刷
エラースキップ
画像エラー処理
エラー表示設定
補助用紙サイズ
省エネモード
エミュレーション検知
圧縮データの解凍印刷
優先エミュレーション/プログラム
優先メモリー
スプール印刷
RAM ディスク
自動メール通知

↓ 補足

- ・使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。
- ・スプール印刷は、拡張 HDD を装着しているときに表示されます。
- ・RAM ディスクは、拡張 HDD を装着していると表示されません。

目 参照

- ・ P.142 「システム設定メニュー」

◆ 印刷設定

設定項目
一般設定
システム設定 (EM)
PCL 設定
PS 設定
PDF 設定

↓ 補足

- ・使用するエミュレーションによって項目が表示されないものがあります。
- ・RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

目 参照

- ・ P.146 「印刷設定メニュー」

◆ セキュリティー管理

設定項目
セキュリティー強化
サービスモード移行禁止設定
ファームウェアバージョン表示
ネットワークセキュリティーレベル
メモリー自動消去設定
メモリー全消去
ログ転送設定

↓ 補足

- ・メモリー自動消去設定とメモリー全消去は、セキュリティーカードを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.153 「セキュリティー管理メニュー」

◆ インターフェース設定

設定項目
受信バッファ
インターフェース切り替え時間
ネットワーク設定
パラレルインターフェース設定
無線 LAN
USB 設定

↓ 補足

- ・無線 LAN は、拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。
- ・パラレルインターフェース設定は、拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.158 「インターフェース設定メニュー」

◆ シャットダウン

電源スイッチを「Off」にするための準備をします。HDD やメモリーが破損し、誤作動を起こすのを避けるため、操作部からシャットダウンを行った後に電源スイッチを「Off」にしてください。

↓ 補足

- ・シャットダウンの方法は、『ハードウェアガイド』「電源を切る」を参照してください。

◆ 表示言語切替

設定項目
日本語
English

メモリー内残存データ状態確認メニュー

拡張 HDD が装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

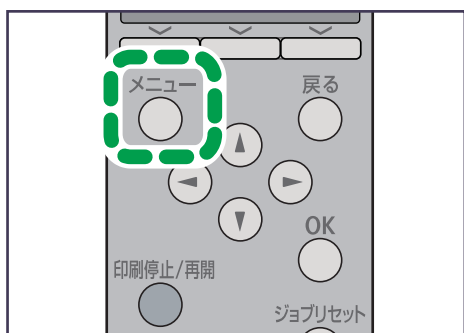
↓ 補足

- ・メモリー内残存データ状態確認はセキュリティーカード装着時に表示されます。

メモリー内のデータ状態を確認する

4

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。



BVN011

- 2 [▼] [▲] キーを押して「メモリー内残存データ状態確認」を選択し、[OK] キーを押します。
- 3 メモリー内にデータが残っている場合は「消去対象残存データあり」、データが残っていない場合は「消去対象残存データなし」と表示されます。
- 4 【メニュー】キーを押します。
メニュー画面に戻ります。

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

- ◆ **用紙サイズ設定：手差しトレイ**
手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 1**
トレイ 1 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 2**
トレイ 2 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 3**
トレイ 3 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙サイズ設定：トレイ 4**
トレイ 4 にセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙種類設定：手差しトレイ**
手差しトレイにセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙種類設定：トレイ 1**
トレイ 1 にセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。
- ◆ **用紙種類設定：トレイ 2**
トレイ 2 にセットする用紙の種類を設定します。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ 用紙種類設定：トレイ 3

トレイ 3 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ 用紙種類設定：トレイ 4

トレイ 4 にセットする用紙の種類を設定します。

設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

◆ 両面印刷トレイ

「対象にする」を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが**対象にする**になっています。

◆ 自動トレイ選択

「対象にする」を選択すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが**対象にする**になっています。

◆ 優先給紙トレイ

「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択やリミットレス給紙のときに一番最初に対象となるトレイです。工場出荷時の設定は**トレイ 1**です。

↓ 補足

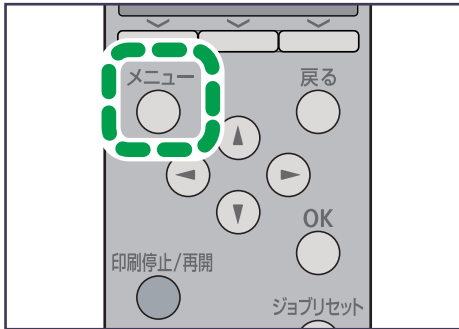
- RPCS プリンタードライバーを使用している場合、A4□をトレイ 1、A4□をトレイ 2 にセットし、優先給紙トレイ設定でトレイ 1 を選択しても、用紙はトレイ 1 ではなく□向きの用紙がセットされたトレイ 2 から優先的に給紙されます。
- 「用紙サイズ設定」と「用紙種類設定」は、本機に装着されているトレイのみ画面に表示されます。

用紙設定メニューの設定を変更する

特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す

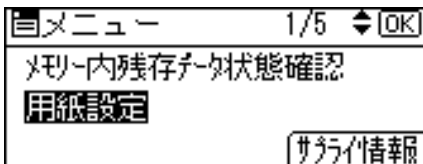
自動トレイ選択の対象としないトレイを設定します。

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。

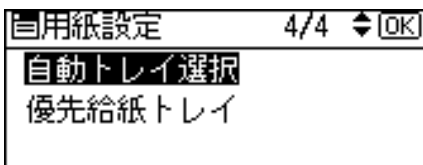


EVN011

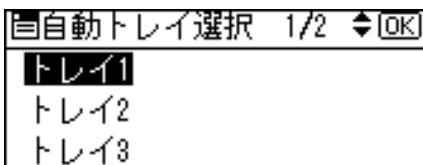
- 2 [▼] [▲] キーを押して、「用紙設定」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▼] [▲] キーを押して、「自動トレイ選択」を選択し、[OK] キーを押します。

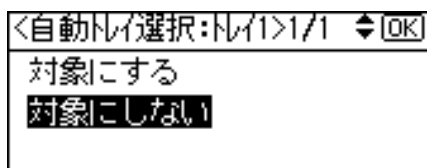


- 4 [▼] [▲] キーを押して、自動トレイ選択の対象としないトレイを選択し、[OK] キーを押します。



対象にするかどうかの選択画面が表示されます。

- 5 [▼] [▲] キーを押して、「対象にしない」を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、自動トレイ選択メニューに戻ります。

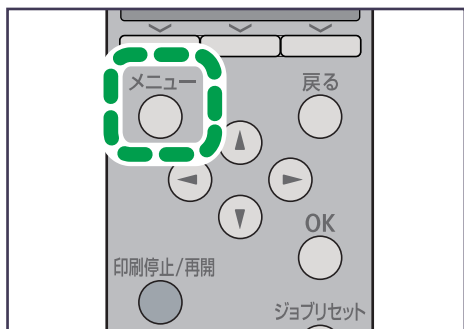
- 6 [メニュー] キーを押します。
通常の画面が表示されます。

優先給紙トレイを設定する

4

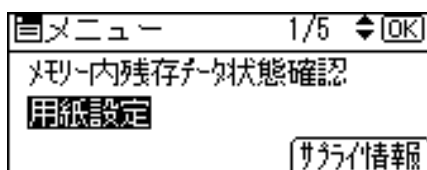
優先給紙トレイを設定します。

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します

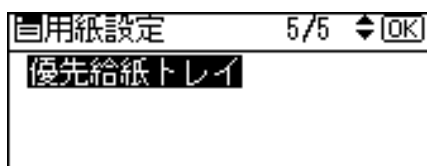


BVN011

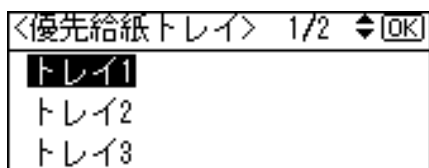
- 2 [▼] [▲] キーを押して、「用紙設定」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▼] [▲] キーを押して「優先給紙トレイ」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4** [▼] [▲] キーを押して目的のトレイを選択し、[OK] キーを押します。



設定が完了し、1秒後に用紙設定メニューに戻ります。

- 5** [メニュー] キーを押します。
通常の画面が表示されます。

調整 / 管理メニュー

調整 / 管理メニューでは、階調や濃度など印刷時の設定調整など本機の管理についての設定ができます。

調整 / 管理メニューの項目

調整管理メニューの設定項目です。

◆ 品質調整

◆ 濃度調整

印刷面にかすれや汚れが出たときなどに印刷濃度を調整します。
-6 から+3 の範囲で設定します。
工場出荷時の設定は 0 です。

↓ 補足

- ・できるだけ工場出荷時の設定でお使いください。
- ・濃度調整の手順については『ハードウェアガイド』「印刷濃度を調整する」を参照してください。

◆ 印刷位置調整

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイや、両面印刷ユニットを取り付けたときに調整します。
印刷位置の調整方法は、『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」を参照してください。

◆ カール低減

印刷後の用紙の反りを減らしたいときに設定します。

- ・する
- ・しない（工場出荷時の設定）

◆ 一般管理

各用紙についての詳細は、『ハードウェアガイド』「用紙に関する注意」を参照してください。

◆ サプライ残量表示

待機画面に、トナー残量を表示させるかさせないかを選択します。

- ・待機画面に表示する（工場出荷時の設定）
- ・表示しない

◆ 封筒レバーメッセージ

待機画面に、封筒レバーの状態を表示させるかさせないかを選択します。

- ・表示する（工場出荷時の設定）
- ・表示しない

◆ メニュープロテクト

メニュープロテクトをするかしないかを設定できます。する場合はそのレベルを選択します。

- ・レベル 1
- ・レベル 2 (工場出荷時の設定)
- ・しない

↓ 補足

- ・プロテクトの強さを弱めたい場合は、[レベル 1] を選択します。

◆ テスト印刷禁止

テスト印刷を禁止するかしないかを設定できます。

- ・する
- ・しない (工場出荷時の設定)

◆ ブザー音

パネルのキーを押したときやプリンターに異状が発生した場合に、音を出すか出さないかを選択します。

- ・ON (工場出荷時の設定)
- ・OFF

◆ ウォームアップ通知音

ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。

- ・ON
- ・OFF (工場出荷時の設定)

↓ 補足

- ・[ブザー音] の設定が [ON] の場合にのみ有効です。

◆ 画面コントラスト調整

画面のコントラストを選択します。

◆ キーリピート設定

[▼] [▲] [▶] [◀] キーの長押しで、画面のスクロール、数値を入力するときの数値の増減、文字を選択するときの左右の移動をさせるかさせないかの設定をします。また、させる場合はその長押しの時間を設定できます。

- ・リピートしない
- ・通常 (工場出荷時の設定)
- ・リピート時間：中
- ・リピート時間：長

◆ 時刻タイマー設定

◆ オートリセット時間設定

一定時間操作を行わなかったとき、設定内容を電源投入直後の状態に戻すかどうかを設定します。また、戻すまでの時間を設定します。

・ する (工場出荷時の設定)

オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を 10~999 秒 (1 秒単位) の範囲で設定します。工場出荷時は **60 秒** に設定されています。

・ しない

◆ 年月日設定

年月日を設定します。

◆ 時刻設定

時刻を設定します。

◆ ハードディスク管理

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

◆ 一時置き文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書 (試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書) をすべて消去します。

◆ 保存文書全消去

拡張 HDD に蓄積されている保存文書をすべて消去します。

◆ 一時置き文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている一時置き文書 (試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書) を、自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

・ する

自動消去する場合は、自動消去する時間を 1~200 時間 (1 時間単位) の範囲で設定します。工場出荷時は **8 時間** に設定されています。

・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 保存文書自動消去設定

拡張 HDD に蓄積されている保存文書を自動的に消去するかしないかを設定できます。する場合はその間隔を設定します。

・ する (工場出荷時の設定)

自動消去する場合は、自動消去する時間を 1~180 日 (1 日単位) の範囲で設定します。工場出荷時は **3 日間** に設定されています。

・ しない

◆ 機器設定値エクスポート

SD カードに本機の設定内容を保存します。保存した内容は、本機や他の弊社製プリンター機に設定を引き継ぐことができます。

保存の対象となるのは、[システム設定]、[印刷設定] 内の各項目と、[インターフェース設定] 内の [ネットワーク設定] の「本体 IPv4 アドレス」の項目と [USB 設定] の「USB ポート固定」の項目です。機種間で共通する設定項目のみ引き継ぐことができます。設定の引き継ぎをするときは、電源が Off の状態で SD カードをスロットに挿入し、[ジョブリセット] キーを押しながら電源を On にしてください。

SD カードの挿入方法やスロットの位置などについては、お使いの機種ハードウェア機能を説明している使用説明書を参照してください。

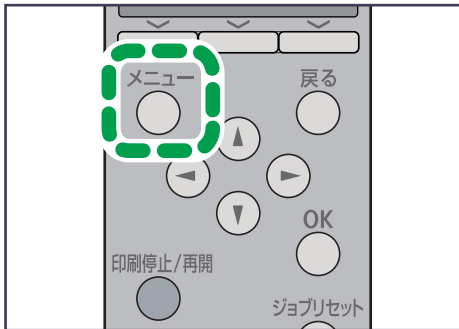
調整 / 管理メニューの設定を変更する

調整 / 管理メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

保存文書をすべて消去する

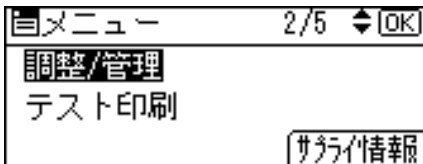
拡張 HDD に蓄積された保存文書を消去する方法の説明です。

- 1 操作部の [メニュー] キーを押します。

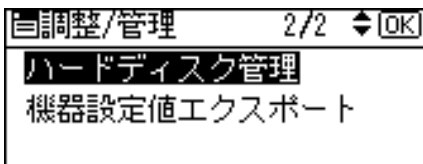


BVN011

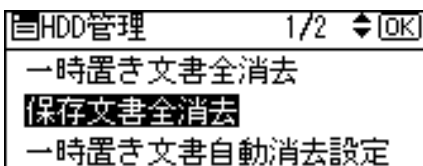
- 2 [▼] [▲] キーを押して「調整 / 管理」を選択し、[OK] キーを押します。



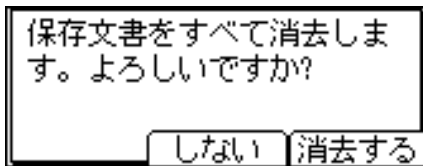
- 3 [▼] [▲] キーを押して「ハードディスク管理」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4 [▼] [▲] キーを押して「保存文書全消去」を選択し、[OK] キーを押します。



- 5** 確認のメッセージが表示されていることを確認し、[消去する] キーを押します。



- 6** 消去終了のメッセージが表示されていることを確認し、[確認]を押します。ハードディスク管理メニューに戻ります。

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。

また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

テスト印刷メニューの設定項目です。

◆一括リスト印刷

システム設定リストとエラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆システム設定リスト

本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

詳細は、「システム設定リストの見かた」を参照してください。

◆エラー履歴

エラーになったジョブの履歴が印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ネットワークサマリー

ネットワークの設定内容が印刷されます。

◆サプライ情報リスト

サプライ情報が印刷されます。

◆印刷条件リスト

印刷条件の設定内容が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆メニューリスト

設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆登録フォームリスト

拡張 HDD が装着されているときのメニュー項目です。

登録されているフォームの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆全文字印刷

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できる全ての文字が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆ **フォントリスト**

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆ **PS 情報リスト**

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳しくは、『PostScript 3 ガイド』を参照してください。

◆ **PDF 情報リスト**

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの PDF が対象となります。

4

◆ **ヘキサダンプ**

印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

参照

- P.140 「システム設定リストの見かた」

テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

システム設定リストを印刷する

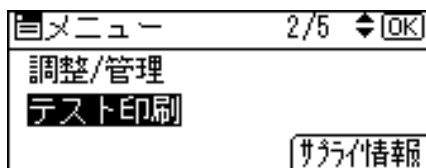
システム設定リストの印刷方法です。

- 1 【メニュー】 キーを押します。

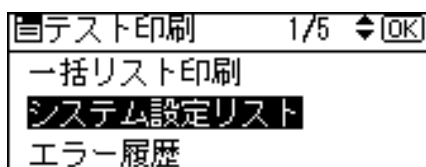


BVN011

- 2 【▼】 【▲】 キーを押して「テスト印刷」を表示させ、【OK】 キーを押します。



- 3 【▼】 【▲】 キーを押して印刷したいリスト名を表示させ、【OK】 キーを押します。



印刷終了後、テスト印刷メニューに戻ります。

- 4 【メニュー】 キーを押します。

通常の画面が表示されます。

補足

- ・システム設定リストはA4またはLetter (8 1/2"×11") で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイにA4またはLetter (8 1/2"×11") の用紙をセットしてください。

システム設定リストの見かた

システム設定リストの見かたの説明です。

4

システム設定リスト		お使いの機器名	
1	システム構成情報 機種 搭載メモリ 384 MB トータルカウンター 328 ファームウェアバージョン プリンター[0.29 / M0475831A], システム[0.29 / M0475830A], エンジン[0.20:02 / M0455810], NIB[9.06 / M0475834A] 接続デバイス ハードディスク: 無接続LAN HDD: フォント/マクロ 空き容量 510438 KB, 最大容量 510446 KB 搭載エミュレーション R95 [5.21a], R16 [5.20a], R55 [5.20a], RPL2 [7.4.tl], RPL2 [7.4.tl], RTIFF [11.1096], RPL4 [7.36a], EML InkS [0.01], Adobe PostScript 3 [0.05], Adobe PDF [0.05], RPCS [3.9.3], PCL 5e Emulation [0.05], PCL XL Emulation [0.05], MSIS [7.40.02], KAN-G [1.03.00] 両面ユニット, 給紙ユニット	2009年01月18日 15時03分04秒	
2	用紙設定 トレイ1 優先給紙トレイ 手差しトレイ トレイ1 トレイ2 トレイ3	B5 257.0 x 182.0mm レターヘッド A4 297.0 x 210.0mm 普通紙 A4R 210.0 x 297.0mm 普通紙 A3R 297.0 x 420.0mm 普通紙	
3	調整/管理 濃度調整-濃度調整(厚紙) 0 印刷位置調整-ヨコ: トレイ1 0.0 印刷位置調整-ヨコ: トレイ3 0.0 印刷位置調整-ヨコ: 両面時裏面 0.0 印刷位置調整-タテ: オフセット 給紙トレイ 0.0 印刷位置調整-タテ: 両面時裏面 0.0 サプライ残量表示 *表示しない プザー音 *OFF 画面コントラスト調整 オートリセット時間設定 する 一時書き文書自動消去設定 しない 保存文書自動消去設定 する	濃度調整-濃度調整(厚紙2以外) 0 印刷位置調整-ヨコ: トレイ2 0.0 印刷位置調整-ヨコ: 手差しトレイ 0.0 印刷位置調整-タテ: 標準装備給紙トレイ 0.0 印刷位置調整-タテ: 手差しトレイ 0.0 カール低減 封筒レバーメッセージ 表示する ウォームアップ通知音 OFF キーリピート設定 4 リセットまでの時間 60 消去までの時間 8 消去までの日数 3	
4	システム設定 エラーレポート印刷 しない 画面エラー処理 補助用紙サイズ しない 省エネモード移行時間 5分 圧縮データの解凍印刷 しない 廃棄メモリー ページメモリー 自動メール通知 *しない	エラースキップ しない エラー表示設定 すべて表示 省エネモード移行設定 移行する エミュレーション検知 しない 優先311レゾ/720/96 4 スプール印刷 しない	*マークは設定値が初期値と異なる項目です。
5	用紙一般設定 印刷枚数 1 スムージング する レターヘッド紙使用設定 使用する(自動判定) トレイ1 機器設定優先 トレイ3 機器設定優先 拡張リミットレス給紙 しない	180度回転 しない トナーセーブ しない 手差しトレイ *全用紙サイズ/用紙種類許可 トレイ指定動作切り替え 機器設定優先 しない	
6	EM設定 白紙排紙 しない 自動排紙時間 自動排紙しない 水平補正初期値 100.00	用紙なしエラー マクロキャッチ 垂直補正初期値 100.00	印刷実行時 マクロ無し 100.00
7	登録プログラム一覧 プログラム番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 エミュレーション名 - - - - - - - - - - - - - - - -		
8	印刷設定 用紙サイズ A4 両面印刷 しない 行数 64 フォント番号 0 フォントタッチ 10.00 クーリエフォント レギュラー LF設定 LF=LF	最大領域印刷 印刷方向 フォントソース ポイントサイズ シンボルセット A4サイズ最大印刷 白紙排紙	しない タテ 内蔵メモリー 12.00 PG=6 しない する
9	PS設定 ジョブタイムアウト デライバ/コマンド優先 ウェイトタイムアウト デライバ/コマンド優先 両面印刷 しない データ形式 バイナリデータ 最大領域印刷 しない	ジョブタイムアウト時間(秒) 0 ウェイトタイムアウト時間(秒) 300 白紙排紙 する 解像度 600dpi 印刷方向自動検知 する	
10	PDF設定 両面印刷 しない 逆順印刷 しない 最大領域印刷 しない	白紙排紙 解像度 600dpi 印刷方向自動検知	する 600dpi する
11	インターネット設定 受信バッファ 128KB DHCP Off サブネットマスク 255.255.255.0 IPアドレス設定 IPsec 有効 IPsec 有効 イーサネット速度 自動選択 インターフェース選択 イーサネット SSID設定 送信速度 自動設定 WPA番号方式 COSE (AES) WPA速度 自動設定	I/F切り替え時間 IPv4アドレス IPv4ゲートウェイ IPsec IPsec AppleTalk イーサネット用IEEE 802.1X認証 通信モード アドホックチャンネル セキュリティ方式選択 WPA認証方式	15秒 192.168.0.240 192.168.0.1 無効 無効 *無効 無効 インフラストラクチャーモード 11 *WEP WPA-PSK
12	インターネットフェース情報 物理アドレス ワークグループ名(SMB) 物理アドレス(無線LAN) 無効インターフェース	WORKGROUP 物理アドレス(無線LAN) なし	ホスト名 ネットワークバス名(SMB)
13	ユーザー用紙種類 1: *ハガキ 3: *Custom 3 5: *Custom 5 7: *Custom 7	厚紙1 普通紙 普通紙 普通紙	2: *Custom 2 4: *Custom 4 6: *Custom 6 8: *Custom 8 普通紙 普通紙 普通紙 普通紙

BVN544

- 1 システム構成情報**

本機のカウンター情報やバージョン情報、オプションの装着状況、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。
- 2 用紙設定**

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。
- 3 調整／管理**

濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。
- 4 システム設定**

システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。
- 5 一般設定**

一般設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。
- 6 EM 設定**

エミュレーションの RPD L の項目と設定値です。
*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。
- 7 登録プログラム一覧**

登録されているプログラムのエミュレーションが印刷されます。
- 8 PS 設定**

PS3 カードが装着されているときの項目と設定値です。
*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。
- 9 PDF 設定**

PS3 カードが装着されているときの設定値です。
*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。
- 10 インターフェース設定**

システム初期設定またはプリンター初期設定の、インターフェース設定の項目と設定値です。
- 11 インターフェース情報**

動作モードやプリンター名など、インターフェース設定の情報です。
- 12 ユーザー用紙種類**

ユーザー用紙種類に登録されている用紙名称と用紙種類が印刷されます。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

◆ エラーレポート印刷

エミュレーションがRPCS、PS3 または PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定できます。

- ・ する
- ・ しない（工場出荷時の設定）

◆ エラースキップ

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

・ しない（工場出荷時の設定）

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。

- ・ 即時
用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。
- ・ 1分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 5分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 10分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 15分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

◆ 画像エラー処理

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

・ ジョブリセット（工場出荷時の設定）

エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。

・ エラーシート印刷

エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大 16 ページ分印刷します。

◆ エラー表示設定

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定できます。

- ・ 簡易表示
- ・ **すべて表示（工場出荷時の設定）**

◆ 補助用紙サイズ

A4 と Letter (8 1/2" × 11") の切り替えをするかどうかを設定します。

切替を行った場合、A4 と Letter (8 1/2" × 11") では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れたり、正常に印刷されなかったりします。

- ・ 自動
- ・ **しない（工場出荷時の設定）**

◆ 省エネモード

省エネモードとは、本機の消費電力を節約する機能です。

・ 移行設定

省エネモードに移行するかしないかを選択できます。

- ・ **移行する（工場出荷時の設定）**
- ・ 移行しない

・ 移行時間

省エネモードに移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間本機を使用しないと、省エネモードに切り替わります。省エネモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。

- ・ **1分（工場出荷時の設定）**
- ・ 5分
- ・ 15分
- ・ 30分
- ・ 45分
- ・ 60分

◆ エミュレーション検知

本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのはPS3です。これら対象エミュレーションが2種類以上搭載されている場合に表示されます。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

- ・ する
- ・ **しない（工場出荷時の設定）**

◆ 圧縮データの解凍印刷

本機に送られた圧縮データを扱うか扱わないかを選択します。

- ・ する
- ・ **しない（工場出荷時の設定）**

◆ 優先エミュレーション/プログラム

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

「プログラム 1」～「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。

・RPCS（工場出荷時の設定）

- ・RPDL
- ・R98
- ・R16
- ・R55
- ・RPGL2
- ・RTIFF
- ・PCL
- ・PCLXL
- ・PS3
- ・PDF
- ・BMLinkS
- ・プログラム 1～16

◆ 優先メモリー

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

・ユーザーメモリー

外字やフォントなどのデータを登録するためにメモリーが優先的に使用されます。

・ページメモリー（工場出荷時の設定）

印刷の高速化のためにフレームメモリーとして使用されます。

◆ スプール印刷

スプール印刷をするかどうかを設定します。スプール印刷とは、パソコンから転送されるプリントジョブを一時的に本機に蓄積し、印刷する機能です。

拡張 HDD を装着時にのみ表示されます。

「する」を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

- ・する
- ・しない（工場出荷時の設定）

◆ RAM ディスク

拡張 HDD を装着していないときのみ表示されます。

PDF ダイレクトプリントをする場合で、拡張 HDD を装着していないときに指定します。2MB 以上の値を指定してください。

- ・0MB
- ・2MB
- ・4MB（工場出荷時の設定）
- ・8MB
- ・16MB

◆ 自動メール通知

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかを指定します。

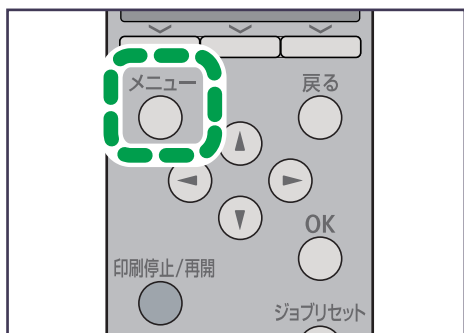
設定を変更したときは、いったん電源を OFF にし、あらためて電源を ON にしてください。

- ・する（工場出荷時の設定）
- ・しない

システム設定メニューの設定を変更する

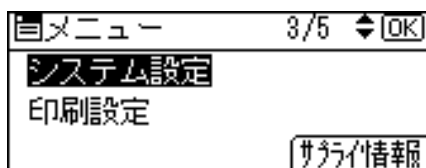
システム設定メニュー「省エネモード」の変更方法を、例として説明します。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

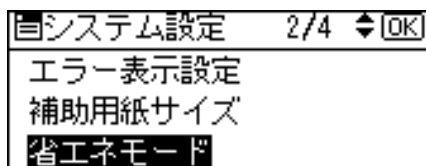


BVN011

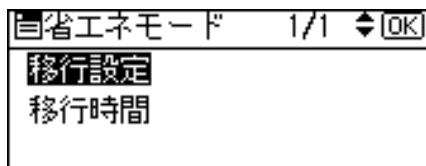
- 2 [▼] [▲] キーを押して、「システム設定」を選択し、[OK] キーを押します。



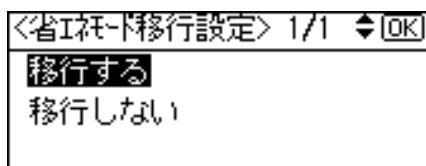
- 3 [▼] [▲] キーを押して、「省エネモード」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4 [▼] [▲] キーを押して設定を変更する項目を選択し、[OK] キーを押します。



- 5 [▼] [▲] キーを押して変更する設定値を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、省エネモードメニューに戻ります。

- 6 【メニュー】キーを押します。
通常の画面が表示されます。

印刷設定メニュー

印刷を行うときの印刷条件を設定します。

印刷設定メニューの設定項目

◆ 一般設定

◆ 印刷枚数設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。印刷枚数を 1~999 枚の間で設定できます。プリンタードライバーで印刷部数を指定した場合は、プリンタードライバーの設定が有効になります。

- ・ 1 (工場出荷時の設定)

◆ 180 度回転

180 度回転印刷をするかしないかを設定できます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ スムージング

RPCS が選択されているとき、または PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。文字や図形の輪郭のギザギザを自動的になめらかにして印刷するかどうかを設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ トナーセーブ

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。薄めに印刷することで、トナーを節約するかどうかを設定します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ レターヘッド紙使用設定

レターヘッド紙印刷を行うかどうかを設定します。

レターヘッド紙印刷を行うと、両面印刷のとき、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。

両面印刷を許可しているトレイからソート印刷をすると、1 部目と 2 部目以降で印刷面が異なる場合があります。印刷する面をすべて同一にしたいときは、両面印刷を禁止しているトレイから給紙してください。

レターヘッド紙を使用するときは用紙のセット方向に注意が必要です。

- ・ 使用しない
レターヘッド紙印刷を行いません。
- ・ 使用する (自動判定) (工場出荷時の設定)
レターヘッド紙が指定されたときに行います。
- ・ 使用する (常時)
常にレターヘッド紙印刷を行います。

◆ トレイ設定選択

用紙設定（用紙サイズ、用紙種類）を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

◆ 手差しトレイ

手差しトレイの用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

・ ドライバー/コマンド優先（工場出荷時の設定）

給紙トレイを指定して印刷する場合、本機に設定されている用紙設定にかかわらず、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を適用して印刷します。

・ 機器側設定優先

本機に設定されている用紙設定で印刷します。プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定と本機の用紙設定が一致しない場合は、エラーになります。

・ 全用紙サイズ・用紙種類許可

プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定を手差しトレイに適用し、印刷を継続することができます。

・ 全不定形サイズ・用紙種類許可

プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が本機のどのトレイとも一致しない場合、プリンタードライバーやコマンドで指定した用紙設定が不定形サイズである場合に限り、その設定を手差しトレイに適用して印刷を継続することができます。

↓ 補足

- ・ [全用紙サイズ・用紙種類許可] および [全不定形サイズ・用紙種類許可] を設定して蓄積された文書の場合、蓄積後に設定を変更しても蓄積したときの設定で印刷されます。
- ・ [全用紙サイズ・用紙種類許可] および [全不定形サイズ・用紙種類許可] に設定した場合、手差しトレイも、拡張リミットレス機能の対象となります。

◆ トレイ 1

トレイ 1 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ・ ドライバー/コマンド優先
- ・ 機器側設定優先（工場出荷時の設定）

◆ トレイ 2

トレイ 2 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ・ ドライバー/コマンド優先
- ・ 機器側設定優先（工場出荷時の設定）

◆ トレイ 3

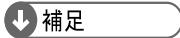
トレイ 3 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ・ ドライバー/コマンド優先
- ・ 機器側設定優先（工場出荷時の設定）

◆ トレイ 4

トレイ 4 の用紙設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

- ・ ドライバー / コマンド優先
- ・ **機器側設定優先 (工場出荷時の設定)**



- ・ 本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

◆ トレイ指定時動作切り替え

プリンタードライバーから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

PS3、PDF のいずれかが搭載されているときのみ設定できます。

- ・ する
- ・ **しない (工場出荷時の設定)**

◆ 拡張リミットレス給紙

自動用紙選択ではなく、給紙トレイ指定時でもリミットレス給紙をするように設定します。

- ・ する

[する] を選択したときは、プリンタードライバーや印刷条件の「リミットレス給紙」の設定に関係なく、リミットレス給紙機能が有効になります。

- ・ **しない (工場出荷時の設定)**

◆ システム設定 (EM)

エミュレーションの RPD L のメニュー項目です。

RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

◆ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- ・ する
- ・ スペース

排紙コマンドの前にスペースコード (20H、A0H、8140H) があるときは排紙します。

- ・ **しない (工場出荷時の設定)**

◆ 用紙なしエラー

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。「印刷実行時」に設定すると用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。「用紙なし時」に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

- ・ **印刷実行時 (工場出荷時の設定)**

用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。

- ・ 用紙なし時

用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

◆ 自動排紙時間

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。「自動排紙しない」に設定するとデータは自動的に印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

・ 自動排紙しない（工場出荷時の設定）

- ・ 10 秒
- ・ 15 秒
- ・ 20 秒
- ・ 25 秒
- ・ 60 秒
- ・ 300 秒

◆ マクロキャッシュ

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリの上限を設定します。

・ マクロ無し（工場出荷時の設定）

- ・ マクロ 2.1MB
- ・ マクロ 4.3MB
- ・ マクロ 8.4MB

◆ PS 設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。

◆ ジョブタイムアウト

ジョブが中断した場合に、現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します。（秒単位）

「0」に設定した場合、ジョブタイムアウトは行われません。

・ ドライバー/コマンド優先（工場出荷時の設定）

- ・ 機器側設定優先

〔機器測定優先〕を選択した場合、0~999 の値を入力します。工場出荷時は、0 に設定されています。

◆ ウェイトタイムアウト

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します。

「0」に設定した場合、ウェイトタイムアウトは行われません。

・ ドライバー/コマンド優先（工場出荷時の設定）

- ・ 機器側設定優先

〔機器測定優先〕を選択した場合、0~999 の値を入力します。工場出荷時は、300 に設定されています。

◆ 両面設定

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

・ しない（工場出荷時の設定）

- ・ 長辺

- ・短辺

◆ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ データ形式

データ形式を設定します。

- ・ バイナリーデータ (工場出荷時の設定)
- ・ TBCP

◆ 解像度

解像度を設定します。

- ・ 600dpi (工場出荷時の設定)
- ・ 1200dpi

◆ 最大領域印刷

用紙サイズいっぱい印刷するかしないかを設定できます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 印刷方向自動検知

データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ PDF 設定

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。

◆ PDF パスワード変更

印刷するPDFファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

◆ 両面印刷

両面印刷をするかしないかを設定できます。する場合はその方向を設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
- ・ 長辺
- ・ 短辺

◆ 白紙排紙

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定できます。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ 逆順印刷

ページ順を逆にし、最終ページから印刷することができます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 解像度

解像度を設定します。

- ・ 600dpi (工場出荷時の設定)
- ・ 1200dpi

◆ 最大領域印刷

用紙サイズいっぱい印刷するかしないかを設定できます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 印刷方向自動検知

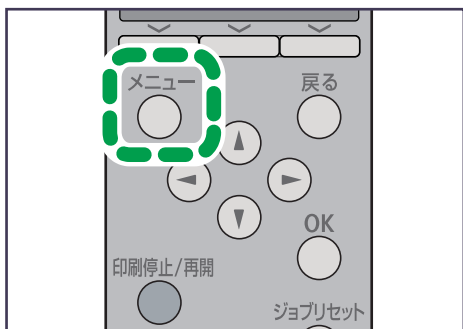
データの印刷方向を自動検知するかしないかを設定できます。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

印刷設定メニューの設定を変更する

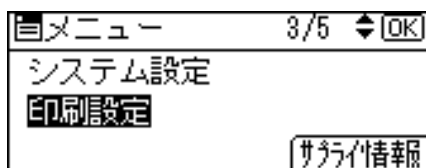
印刷設定メニュー「180度回転」を有効に設定する方法を、例として説明します。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

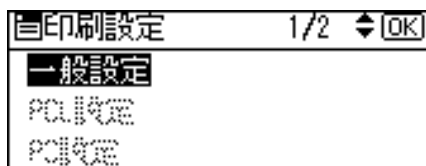


BVN011

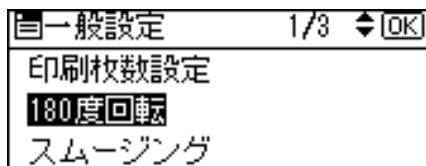
- 2 [▼] [▲] キーを押して、「印刷設定」を選択し、[OK] キーを押します。



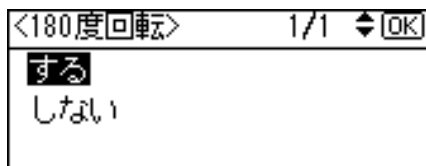
- 3 [▼] [▲] キーを押して、「一般設定」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4 [▼] [▲] キーを押して、「180度回転」を選択し、[OK] キーを押します。



- 5 [▼] [▲] キーを押して「する」を選択し、[OK] キーを押します。



設定が確定し、一般設定メニューに戻ります。

- 6 【メニュー】キーを押します。
通常の画面が表示されます。

セキュリティ管理メニュー

セキュリティに関する設定を行います。

セキュリティ管理メニューの設定項目

◆ セキュリティ強化

◆ ドライバー暗号鍵

ユーザー認証を設定しているときに送信するパスワードの暗号化を行います。ドライバー暗号鍵を設定する場合は本機で設定した暗号鍵を印刷するドライバーに入力してください。パスワードの暗号化を行います。

◆ アドレス帳暗号化

アドレス帳の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合は暗号鍵を設定します。本機のアドレス帳情報を暗号化します。内部の部品が流出したときにも暗号化によりアドレス帳の情報を読み取ることはできません。

- ・ する
[暗号鍵] を押し、暗号鍵を設定します。
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 個人情報表示制限

ユーザー認証を設定しているときに設定することができます。

個人認証ができない接続方法でジョブ履歴を確認する際に、個人情報を全て「*****」表示にすることができます。登録者の情報がわからないため、不特定のユーザーに登録した文書の情報が漏れることを防ぐことができます。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 文書保護強化

パスワード設定によって、文書の印刷や消去などの操作が制限され、不特定の人による文書アクセスが避けられます。文書保護強化を設定した場合、誤ったパスワードを10回入力すると文書はロックされ、アクセスできなくなります。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ SNMPv1, v2 による設定

SNMPv1, v2 を使った設定を禁止するかしないかを設定できます。

- ・ 禁止する
- ・ 禁止しない (工場出荷時の設定)

◆ 簡易暗号化使用制限

高度な暗号化が設定できないときに、簡易暗号化処理 (利用制限) を行います。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 実行中ジョブへの認証の実施

ジョブキャンセル等の操作に認証を必要とするかしないかを設定できます。

[ログイン権限] に設定すると認証の許可があるユーザー、および機器管理者が操作可能です。

[アクセス権限] に設定すると印刷を行ったユーザー、および機器管理者が操作可能です。

- ・ログイン権限
- ・アクセス権限
- ・しない (工場出荷時の設定)

◆ パスワードポリシー

ベーシック認証が設定されている場合に設定できます。

- ・複雑さ設定

複雑度 1：英大文字、英小文字、10 進数の数字、記号 (# など) から 2 種類以上を組み合わせるとパスワードを設定します。

複雑度 2：英大文字、英小文字、10 進数の数字、記号 (# など) から 3 種類以上を組み合わせるとパスワードを設定します。

制限しない (工場出荷時の設定)

- ・最小文字数 (0~32)
文字数を制限しない場合は「0」を入力します。

◆ ファームウェアアップデート

ファームウェアのアップデートを禁止するかしないかを設定できます。

- ・禁止する
- ・禁止しない (工場出荷時の設定)

◆ ファームウェア構成変更

ファームウェアの構成変更を禁止するかしないかを設定できます。

- ・禁止する
- ・禁止しない (工場出荷時の設定)

◆ サービスモード移行禁止設定

サービスモードへの移行を禁止するかしないかを設定できます。

- ・する
- ・しない (工場出荷時の設定)

◆ ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

◆ ネットワークセキュリティーレベル

ネットワークセキュリティーのレベルを選択します。

- ・レベル 0
- ・レベル 1
- ・レベル 2

↓ 補足

- ・ネットワークセキュリティーレベルは、工場出荷時には設定されていません。

◆ メモリー自動消去設定

セキュリティカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリーの自動消去をするかしないかを設定できます。する場合は消去方式と上書き回数を設定します。

- ・ する
 - 消去方式
 - ・ NSA 方式
 - ・ DoD 方式
 - ・ 乱数方式
 - 上書き回数（1～9 回の範囲で設定）
- ・ しない（工場出荷時の設定）

◆ メモリー全消去

セキュリティカードが装着されているときのメニュー項目です。メモリー内のデータをすべて消去します。消去方式を選択し、上書き回数を設定します。

- ・ 消去方式
 - ・ NSA 方式（工場出荷時の設定）
 - ・ DoD 方式
 - ・ 乱数方式
- 上書き回数（1～9 回の範囲で設定）

◆ ログ転送設定

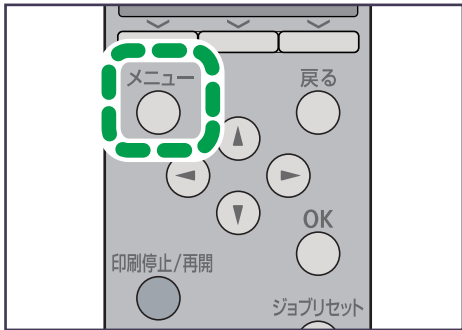
ログの転送をするかしないかを設定できます。

- ・ する（ログ収集サーバーからのみ設定可能）
- ・ しない（工場出荷時の設定）

セキュリティー管理メニューの設定を変更する

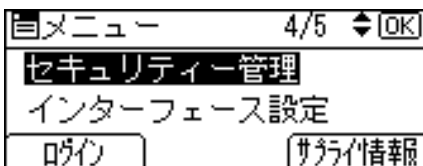
セキュリティー管理メニュー「アドレス帳暗号化」の初回設定方法を例として説明します。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

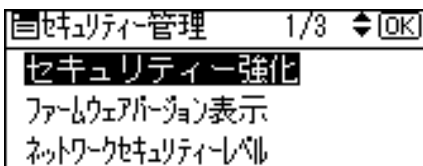


BVN011

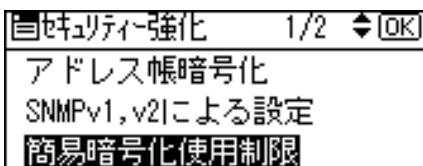
- 2 [▼] [▲] キーを押して、「セキュリティー管理」を選択し、[OK] キーを押します。



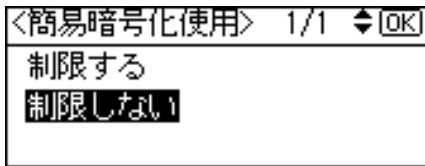
- 3 [▼] [▲] キーを押して、「セキュリティー強化」を選択し、[OK] キーを押します。



- 4 [▼] [▲] キーを押して、「簡易暗号化使用制限」を選択し、[OK] キーを押します。



- 5 [▼] [▲] キーを押して、「制限する」「制限しない」を選択し、[OK] キーを押します。



セキュリティ強化メニューに戻ります。

- 6 [メニュー] キーを押します。
通常画面に戻ります。

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

◆受信バッファ

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 128KB (工場出荷時の設定)
- 256KB

◆インターフェース切り替え時間

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると1つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- 10 秒
- 15 秒 (工場出荷時の設定)
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒

◆ネットワーク設定

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するための設定をします。詳しい各項目の設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

- 本体 IPv4 アドレス
 - 自動的に取得 (DHCP)
On
 - Off (工場出荷時の設定)
- 指定
 - IP アドレス
 - サブネットマスク
 - ゲートウェイ
- IPv6 ステートレス設定
 - 有効 (工場出荷時の設定)
 - 無効
- IPsec
 - 有効
 - 無効 (工場出荷時の設定)

- 有効プロトコル
 - IPv4
 - 有効 (工場出荷時の設定)
 - 無効
 - IPv6
 - 有効
 - 無効 (工場出荷時の設定)
 - SMB
 - 有効 (工場出荷時の設定)
 - 無効
 - AppleTalk
 - 有効
 - 無効 (工場出荷時の設定)

[AppleTalk] は、PS3 カードを装着しているときに表示されます。
 - イーサネット速度

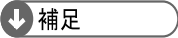
イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。

 - 自動設定 (工場出荷時の設定)
 - 10Mbps 半二重固定
 - 10Mbps 全二重固定
 - 100Mbps 半二重固定
 - 100Mbps 全二重固定
 - イーサネット用 IEEE 802.1X 認証

イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。

 - 有効
 - 無効 (工場出荷時の設定)

IEEE 802.1X 認証については『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。
 - IEEE 802.1X 認証初期化

IEEE 802.1X 認証の設定値を初期化します。
 - インターフェース選択
 - イーサネット (工場出荷時の設定)
 - 無線 LAN
-  補足
- インターフェース選択は、拡張無線LANボードを装着しているときに表示されます。

◆ パラレルインターフェース設定

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張1284ボード装着時に表示されます。

・パラレルタイミング

パラレルインターフェースのタイミングを設定します。

- ・ACK inside
- ・**ACK outside (工場出荷時の設定)**
- ・STB down

・パラレル通信速度

パラレル通信でDMA転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。

- ・**高速 (工場出荷時の設定)**
- ・標準

・セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

- ・**HIGH (工場出荷時の設定)**
- ・LOW

・インプットプライム

インプットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。

- ・有効
- ・**無効 (工場出荷時の設定)**

・双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、「OFF」に設定します。

- ・**ON (工場出荷時の設定)**
- ・OFF

◆ 無線 LAN 設定

無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。拡張無線 LAN ボード装着時に表示されます。

◆ 通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- ・802.11 アドホックモード
- ・**インフラストラクチャーモード (工場出荷時の設定)**

◆ SSID 設定

SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。

SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号(ASCII 文字列 0x20~0x7e)で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。

SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

◆ アドホックチャンネル

アドホックモード選択時に使用するチャンネルを設定します。使用できるチャンネルは、以下のとおりです。

- ・IEEE 802.11a :
1~14、36、40、44、48
- ・IEEE 802.11b :
1~14
- ・IEEE 802.11g :
1~13

◆ **セキュリティー方式選択**

無線 LAN の暗号化をするかしないかを設定できます。する場合はその方式を選択し、キーを設定します。

・ **しない（工場出荷時の設定）**

・ WEP

[詳細設定] キーを押し、WEP キーを入力します。WEP キーは、16 進数または ASCII 文字列で入力します。

64bit WEP を使用する場合、16 進数では 10 桁、ASCII 文字列では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、ASCII 文字列では 13 桁の文字列が使用できます。

WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

・ WPA

[詳細設定] キーを押し、暗号方式または認証方式を選択します。

暗号方式：TKIP/CCMP (AES)

認証方式：WPA-PSK (ASCII 文字列で 8 桁の文字が使用できます) /WPA/WPA2-PSK/WPA2 (この方式を選択した場合は、別途 Web Image Monitor にて証明書を導入してください)

◆ **電波状態**

無線 LAN の電波状態を確認します。

◆ **設定値初期化**

無線 LAN の設定を初期化します。

◆ **USB 設定**

USB の速度設定を選択します。

・ USB 速度

・ **自動設定（工場出荷時の設定）**

・ フルスピード

・ USB ポート固定

・ レベル 1

・ レベル 2

・ **しない（工場出荷時の設定）**

↓ 補足

- ・ Web Image Monitor からの設定方法について詳しくは「Web ブラウザーを使う」、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

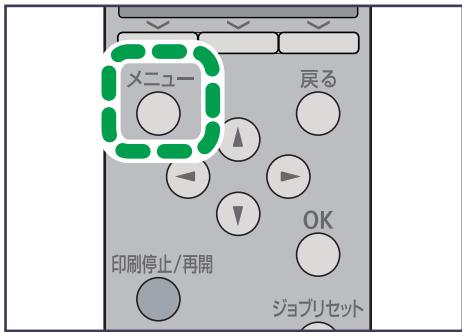
☰ 参照

- ・ P.169 「Web ブラウザーを使う」

インターフェース設定メニューの設定を変更する

インターフェース設定メニュー「ネットワーク設定」で、IPv4 アドレスを自動的に取得する（DHCP）ように変更する方法を、例として説明します。

1 操作部の [メニュー] キーを押します



BVN011

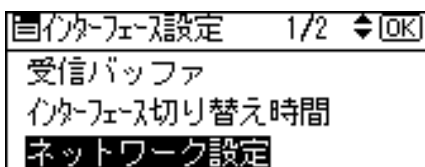
メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して、[インターフェース設定] を選択し、[OK] キーを押します。

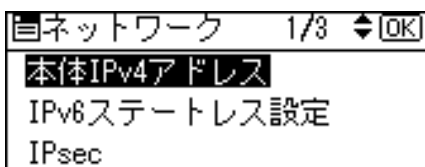


インターフェース設定画面が表示されます。

3 [▼] [▲] キーを押して、[ネットワーク設定] を選択し、[OK] キーを押します。



4 [▼] [▲] キーを押して [本体 IPv4 アドレス] を選択し、[OK] キーを押します。



- 5** [▼] [▲] キーを押して [自動的に取得 (DHCP)] を選択し、[OK] キーを押します。

＜IPv4アドレス表示＞1/1 ◆ [OK]		
自動的に取得 (DHCP)		
指定		
IPアドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ

約 2 秒後にネットワーク設定画面に戻ります。

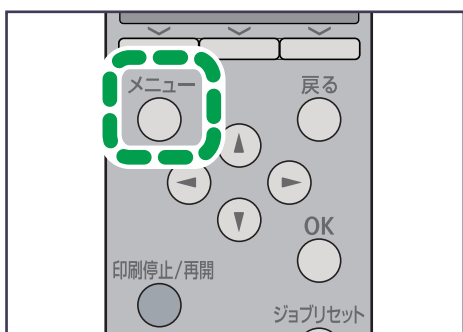
- 6** [メニュー] キーを押します。
通常の画面が表示されます。

表示言語切替

操作部の画面に表示する言語として、日本語と英語を選択できます。工場出荷時は、日本語に設定されています。

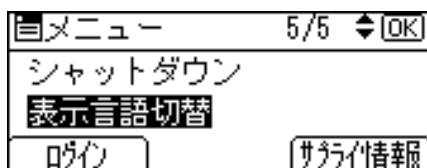
ここでは、日本語から英語に切り替える場合を例に説明します。

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。

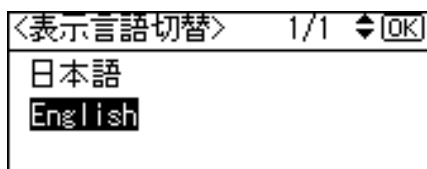


BVN011

- 2 [▼] [▲] キーを押して「表示言語切替」を選択し、[OK] キーを押します。



- 3 [▼] [▲] キーを押して「English」を選択し、[OK] キーを押します。



画面に表示される言語が英語になります。

- 4 【メニュー】キーを押します。
通常の画面が表示されます。

補助メニュー

補助メニューでは、強制排紙やエラー履歴、エミュレーションの設定などを行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目の一覧を説明します。

補助メニューの項目

補助メニューの設定項目です。

◆ 強制排紙

改行コードがないなどの理由で印刷できないデータを印刷します。

◆ エラー履歴表示

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラーの履歴が残り、操作部で確認することができます。

- ・すべて
- ・試し印刷文書
- ・機密印刷文書
- ・保留印刷文書
- ・保存文書

◆ 給紙トレイ

印刷する給紙トレイを切り替えます。

- ・トレイ 1 (工場出荷時の設定)
- ・トレイ 2
- ・トレイ 3
- ・トレイ 4
- ・手差しトレイ

↓ 補足

- ・RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- ・本機に装着されているトレイが画面に表示されます。

◆ エミュレーション呼び出し

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

- ・RPCS (工場出荷時の設定)
- ・RPDL
- ・R98
- ・R16
- ・R55
- ・RPGL2
- ・RTIFF
- ・PS3
- ・PDF
- ・BMLinks
- ・プログラム 1~16

↓ 補足

- ・ 搭載されているエミュレーションが登録されているプログラムを選択できます。

◆ 印刷条件

アプリケーションやパソコンに合わせて印刷条件を設定します。

↓ 補足

- ・ RPD L をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

◆ プログラム登録/消去

設定した印刷条件を登録します。

- ・ プログラム登録
- ・ プログラム消去
- ・ プログラム内容印刷

4

↓ 補足

- ・ RPD L をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

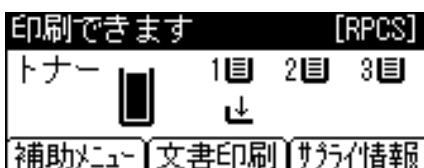
エラー履歴を確認する

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、エラー履歴が残り、操作部で確認することができます。

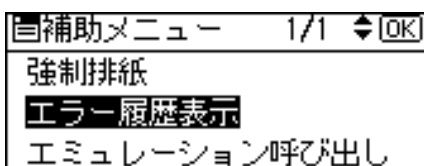
★重要

- ・エラー履歴には最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件が蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。ただし最も古い履歴が次の文書の場合は消去されずに、蓄積エラーとして 30 件まで別に蓄積されます。エラー履歴として、どちらの履歴も確認することができます。
 - ・ 試し印刷文書
 - ・ 機密印刷文書
 - ・ 保留印刷文書
 - ・ 保存文書
- ・ 本体の電源を「Off」にすると、それまでの履歴は消去されます。

1 [補助メニュー] を押します。

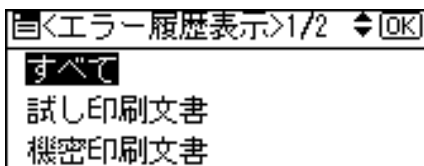


2 [▼][▲] キーを押して [エラー履歴表示] を選択し、[OK] キーを押します。



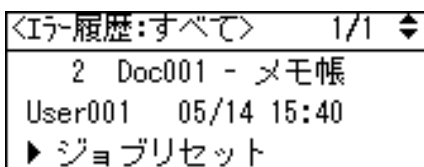
エラー履歴が表示されます。セキュリティの設定によっては、すべてのエラー履歴が表示されない場合があります。

3 [▼][▲] キーを押してエラー履歴の種類を選択し、[OK] キーを押します。



[すべて]、[試し印刷文書]、[機密印刷文書]、[保留印刷文書]、[保存文書] から選択することができます。

4 [▼][▲] キーを押して確認したいエラー履歴を選択し、[戻る] キーを押します。



エラー履歴の詳細が表示されます。確認し終わったら [メニュー] キーを押します。

5. 機器の監視

Web ブラウザーやソフトウェアを使った、機器の監視や設定についての説明です。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

Web Image Monitor について

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

5

◆ どんなことができるのか？

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- メール通知機能の設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定

◆ 本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

◆ 推奨ブラウザ

- Windows 環境：
Internet Explorer 5.5 SP2 以降
Firefox 1.0 以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダーに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 推奨するアプリケーション
95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降
- 動作環境
Windows 環境：Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

↓ 補足

- 使用するブラウザのバージョンが推奨ブラウザより低い場合や、使用するブラウザの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくは管理者に確認してください。
- ブラウザーの [戻る] で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザの [更新] または [再読み込み] をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された [最新の情報に更新] をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれ、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 環境下で Internet Explorer 7.0 を使用する場合、ブラウザのアドレスバーには IP アドレスの代わりに本機のホスト名を入力してください。hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

目 参照

- P.296 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

トップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

1 Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。

IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。

DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL (暗号化通信) の設定をしている場合は、「https:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力します。

Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。



1 ヘッダーエリア

ヘルプ、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2 メニューエリア

ゲストモードと管理者モードとの切り替えのためのログイン / ログアウトボタンが表示され、それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。

メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

3 ヘルプ

ヘルプファイルを閲覧することができます。

4 ワークエリア

トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の「最新の情報に更新」をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの「更新」をクリックしてください。

↓ 補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

ユーザー認証が設定されているとき

Web Image Monitor からのログインのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログインします。

1 [ログイン] をクリックします。

2 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。工場出荷時の設定では、ログインユーザー名は「admin」、ログインパスワードは設定されていません。

↓ 補足

- ユーザーコード認証のときは、ユーザー名にユーザーコードを入力して、[OK] をクリックします。
- ご使用の Web ブラウザーにより操作は異なります。

Web Image Monitor からのログアウトのしかた

ユーザー認証が設定されているときに Web Image Monitor からログアウトするときは、[ログアウト] をクリックします。

↓ 補足

- ログインをした場合、操作が完了したら、必ず [ログアウト] をクリックしてログアウトしてください。

メニュー構成とモード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

◆ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



1 ホーム

給紙トレイ、排紙トレイとトナー残量の状態表示、本機の機能、システム情報とカウンターの表示、および搭載されているエミュレーションが表示されます。

2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4 ジョブ

スプール印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴の一覧表示、および試し印刷／機密印刷の一覧表示ができます。

5 設定

現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。

◆ 管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



1 ホーム

[状態] タブ、[消耗品] タブ、[構成] タブ、[カウンター] タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4 ジョブ

各ジョブの一覧を表示することができます。

5 アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6 設定

本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティーの設定ができます。

7 リセット

トップページの [リセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

8 プリンタージョブリセット

トップページの [プリンタージョブリセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

↓ 補足

- ・表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

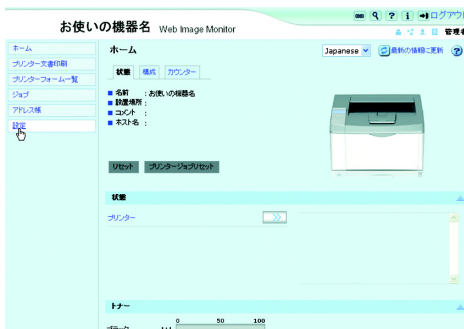
Web Image Monitor のヘルプは添付 CD-ROM に収録されています。

CD-ROM の「(CD-ROM のドライブ名) :¥HELP¥WIMHELP」の中の内容をすべて HDD の適当な場所にコピーの後、以降の設定を行ってください。

ヘルプへのアドレス (URL) リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された [ヘルプ] のアドレス (URL) を次の手順でリンクすることができます。

- 1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックします。

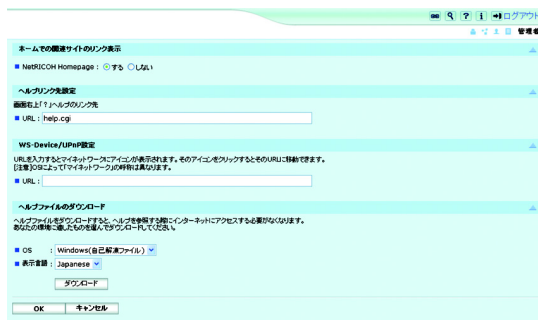


- 3 [Webpage] メニューの [Webpage 設定] をクリックします。



4 「ヘルプリンク先設定」の [URL] にヘルプファイルへのパスを入力します。

例えば、C:\HELP\JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file:///C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーして URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。



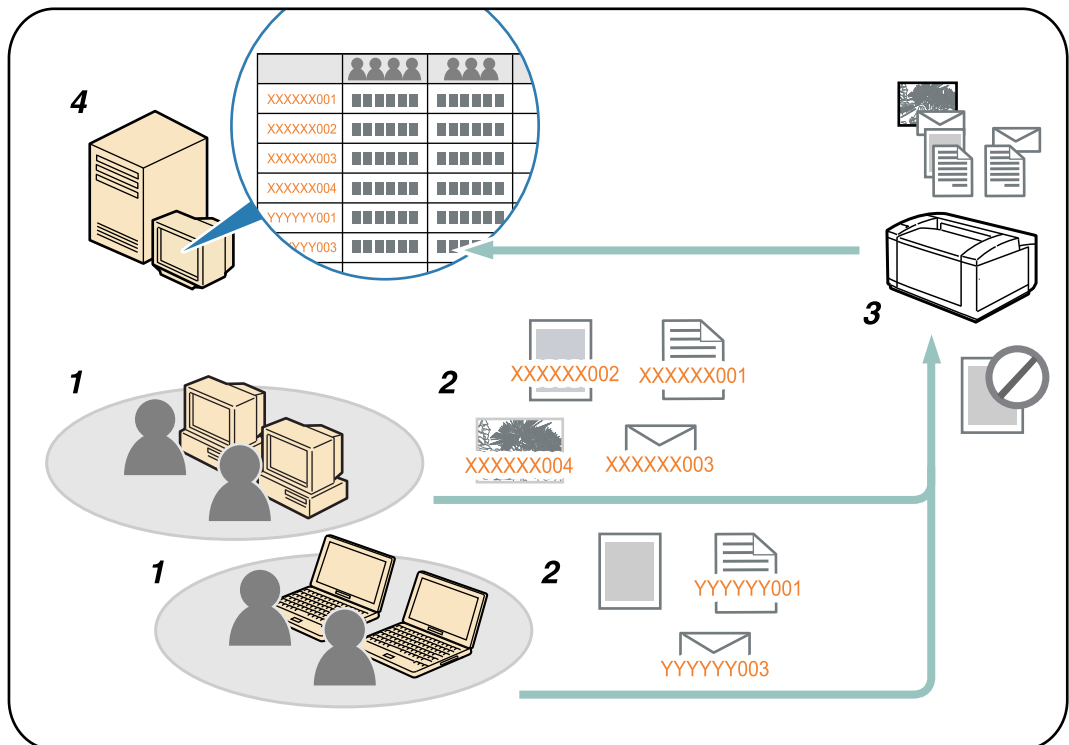
5

5 [OK] をクリックします。

分類コードを登録する

分類コードについて説明します。

分類コードを登録しておく、分類コードごとの印刷枚数がプリンターに記録されます。この機能を使い、たとえば利用目的や個人ごとに分類コードを設定しておく、印刷枚数を利用目的や個人ごとに集計して確認することができます。勘定科目ごとの集計やクライアントごとの課金管理などに適しています。



B/VN511

- 1 管理する部や課、プロジェクトチーム、ユーザーなど
- 2 利用目的に応じて、分類コードをプリントジョブに入力
- 3 印刷
- 4 外部ログ収集システムで分類コードを管理、集計

補足

- ・分類コードを入力する方法については、「プリントジョブに分類コードを入力する」を参照してください。
- ・分類コードが必須の環境では、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷されません。詳しくは、「分類コードの設定」を参照してください。

参照

- ・P.85 「プリントジョブに分類コードを入力する」

分類コードの設定

プリントジョブに分類コードを必須とするか任意とするかを、Web Image Monitor で設定します。

★重要

- 分類コードを必須に設定した場合、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷できません。
- 分類コードを必須に設定した場合でも、システム設定リストは印刷できます。
- 初期状態は任意に設定されています。

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックします。

3 [機器] メニューの中の [ログ] をクリックします。

4 [共通設定] カテゴリの中の [分類コード] をクリックし、[必須] か [任意] をクリックします。

5 [OK] をクリックします。

6 [ログアウト] をクリックします。

7 Web Image Monitor を終了します。

📖参照

- P.172 「Web Image Monitor からのログインのしかた」

アドレス帳をバックアップする

Web Image Monitor で、本機のアドレス帳データを保存する方法を説明します。

- 1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。
ログイン方法については、「Web Image Monitor からのログインのしかた」を参照してください。
- 2 [アドレス帳] をクリックします。



- 3 [メンテナンス] をクリックします。
[メンテナンス] 画面が表示されます。
- 4 暗号鍵を入力し、[バックアップ] をクリックします。
暗号鍵は、アドレス帳暗号化で設定されている暗号鍵を入力します。



詳細は、管理者にお問い合わせください。

- 5 [保存] をクリックします。
表示されるメッセージに従って、ファイルを保存します。
- 6 [戻る] をクリックします。
- 7 管理者モードからログアウトします。
- 8 Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- アドレス帳のバックアップについての詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

📖 参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」

アドレス帳をリストアする

Web Image Monitor で、本機に保存したアドレス帳データを復元する方法を説明します。

- 1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。
ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 2 [アドレス帳] をクリックします。



5

- 3 [メンテナンス] をクリックします。
- 4 [リストア設定] をクリックします。
- 5 表示されるメッセージに従って、リストアするファイルを指定します。
- 6 [OK] をクリックします。
アドレス帳のリストアが開始されます。
- 7 メッセージを確認し、[OK] をクリックします。
- 8 [戻る] をクリックします。
- 9 管理者モードからログアウトします。
- 10 Web Image Monitor を終了します。

補足

- リストアすると、機器に保存されているアドレス帳はリストアするデータで上書きされます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。
- アドレス帳のリストアについての詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

参照

- P.169 「Web ブラウザーを使う」

Network Monitor for Admin を使う

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコルを使ってネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

◆ Windows の対象 OS とプロトコルスタック

- ・ Windows 2000 日本語版
Windows 2000 に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows XP 日本語版
Windows XP に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows Vista 日本語版
Windows Vista に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows 7 日本語版
Windows 7 に同梱の TCP/IP プロトコル

◆ どんなことができるのか？

Network Monitor for Admin では以下の操作ができます。

- ・ 機器の操作部からの設定を制限し、一部の項目を変更できないようにします。
- ・ 機器にセットされている用紙の種類を設定できます。
- ・ 省エネモードへの切り替え、復帰などを設定できます。
- ・ 印刷中、用紙切れなどの情報をパソコン上で確認できます。
- ・ 同時に複数の機器を監視できます。機器の台数が多いときはグループを作り、管理しやすいように機器を分類できます。
- ・ 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- ・ 機器のネットワークに関する設定を変更できます。
- ・ パソコンから行ったジョブの結果を確認できます。
- ・ ユーザーコードごとのカウンター情報を確認できます。
- ・ 登録されたユーザーコードごとに、印刷の利用可・不可を管理できます。
- ・ 機器の状態変化をグループごとに設定し、通知することができます。
- ・ メールの送信者名やフォルダの宛先を保護します。

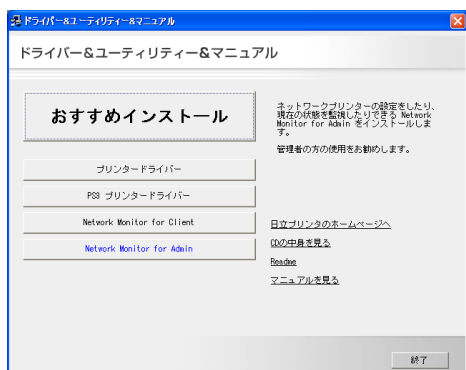
Network Monitor for Admin のインストール

Network Monitor for Admin のインストールについての説明です。

★重要

- ・起動しているすべてのアプリケーションを終了し、パソコンが印刷中でないか確認してください。

- 1 本機に同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 2 セットアップ画面が表示されたら、[Network Monitor for Admin]をクリックします。



Network Monitor for Admin のセットアップ画面が表示されます。

- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [使用許諾契約] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。
- 5 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Admin をインストールします。
インストールが完了するとメッセージが表示されます。
- 6 [完了] をクリックします。
「Windows の再起動」ダイアログが表示される場合は、Windows を再起動してください。

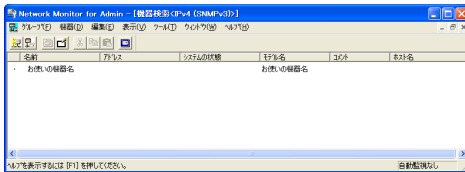
↓補足

- ・システムの設定によってはインストーラーが自動的に起動しないことがあります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPREXE」をダブルクリックして起動してください。

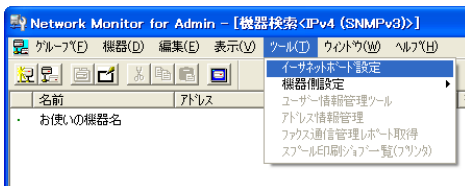
ネットワークインターフェースボードの設定を変更する

Network Monitor for Admin を使って、ネットワークインターフェースボードの設定を変更する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。



- 3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。



イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。

Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 6 必要な項目を入力し、設定します。
- 7 [ログアウト] をクリックします。
- 8 Web Image Monitor を終了します。
- 9 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

機器側プリンター操作部のメニューをロックする

機器側プリンター操作部のメニューをロックする方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。

- 3 一覧からプリンター操作部のメニューをロックしたい機器をクリックして反転表示させます。

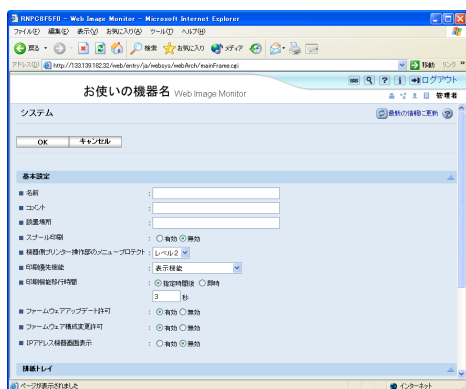
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[システム] をクリックします。

Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

Web Image Monitor にシステムエリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 [機器側プリンター操作部のメニュープロテクト] で [レベル 1]、または [レベル 2] を選びます。

- 7 [OK] をクリックします。

- 8 [ログアウト] をクリックします。

- 9 Web Image Monitor を終了します。

- 10 Network Monitor for Admin を終了します。

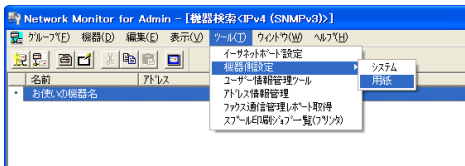
↓ 補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

用紙を設定する

用紙種類を設定する方法の説明です。

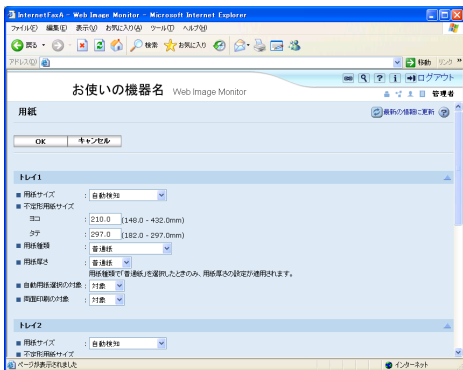
- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から用紙種類を設定したい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[用紙] をクリックします。



Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
Web Image Monitor に用紙エリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 [ログアウト] をクリックします。
- 7 Web Image Monitor を終了します。
- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

- ・設定項目について詳しくは、機器設定エリア内のヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

ユーザー情報を管理する

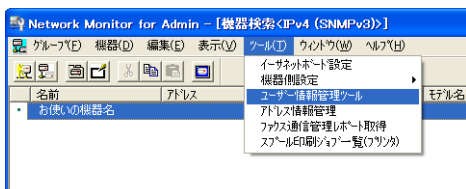
Network Monitor for Admin でユーザー情報を管理する方法の説明です。

ユーザー情報管理ツールを使用して、ユーザーコードごとの印刷枚数を管理したり、利用可能な機能を制限したりすることができます。

ユーザー情報管理ツールを起動する

ユーザー情報管理ツールを起動する方法の説明です。

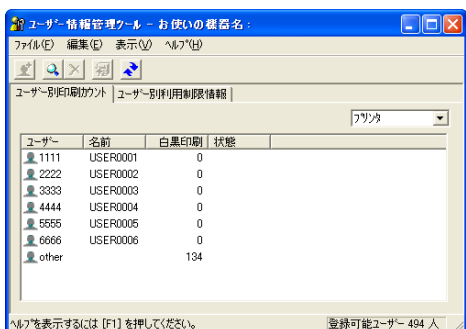
- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[TCP/IP] または [TCP/IP SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
TCP/IP SNMP v3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からユーザー情報を管理する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [ユーザー情報管理ツール] を選択します。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
ユーザー情報管理ツールが起動します。



補足

- ユーザー情報管理ツールについて詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

印刷枚数を表示する

ユーザー別の印刷枚数情報を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



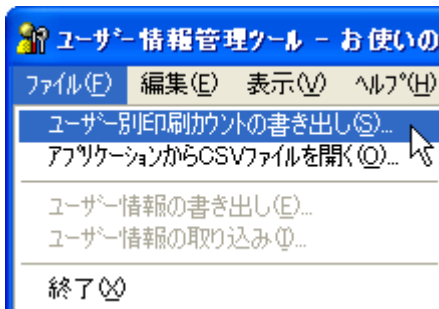
本機で印刷した枚数に関する情報が表示されます。

- 3 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

印刷枚数の情報を保存する

ユーザー別の印刷枚数情報を csv ファイルで保存する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。
- 3 [ファイル] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントの書き出し] をクリックします。



- 4 保存するフォルダとファイル名を指定し、[保存] をクリックします。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

印刷枚数の情報をリセットする

ユーザーごとに、印刷枚数の情報をリセットし、表示を0に戻す方法の説明です。

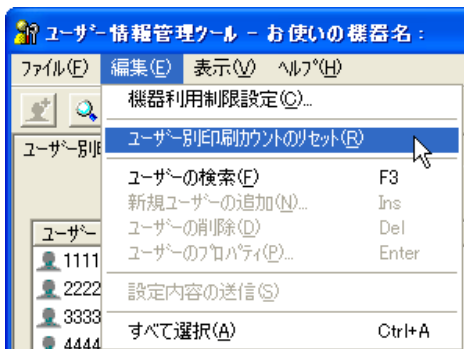
- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



- 3 リセットするユーザーをクリックします。



- 4 [編集] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントのリセット] をクリックします。

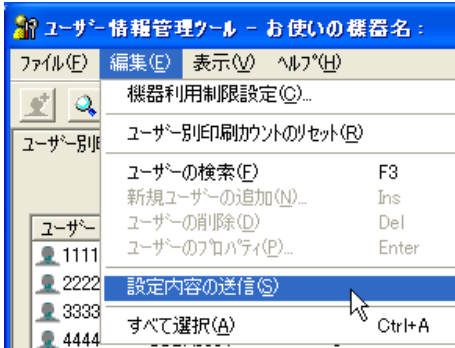


- 5 リセットする項目のチェックボックスにチェックを付け、[OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックします。

7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



変更した情報が本機に反映されます。

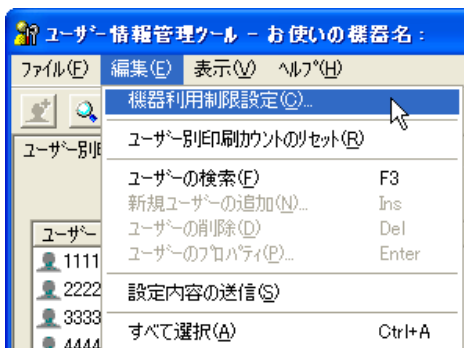
8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

5

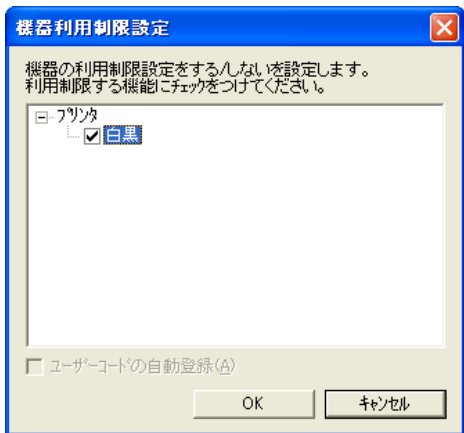
利用制限を設定する

本機の機能について、機能ごとに利用制限を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [編集] メニューをクリックし、[機器利用制限設定] をクリックします。



- 3 利用制限を設定する機能のチェックボックスにチェックを付けます。



- 4 [OK] をクリックします。
設定内容が本機に反映されます。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

ユーザーごとに利用可能な機能を設定する

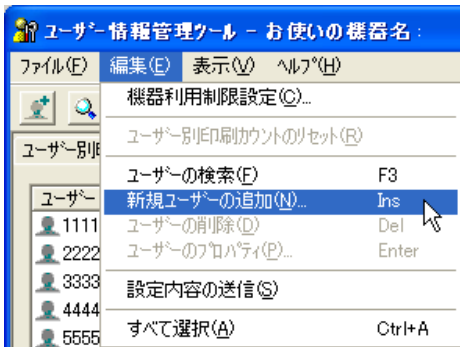
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する方法の説明です。

ここでは、ユーザーを追加して利用可能な機能を設定する方法を説明します。

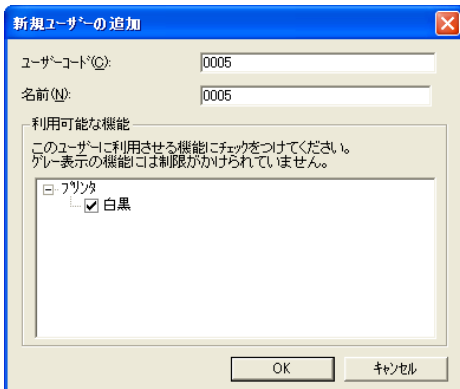
- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別利用制限情報] タブをクリックします。



- 3 [編集] メニューをクリックし、[新規ユーザーの追加] をクリックします。



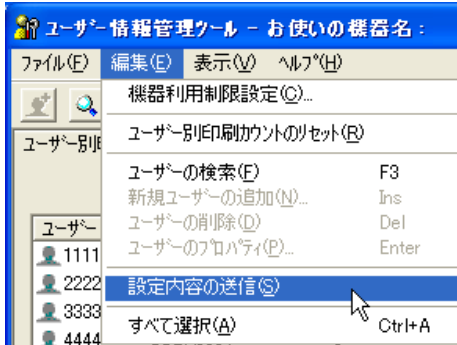
- 4 ユーザーコードと名前を入力します。
- 5 追加したユーザーに使用を許可する機能のチェックボックスにチェックを付けます。



チェックボックスがグレーになっている機能は利用制限が設定されていません。

6 [OK] をクリックします。

ユーザーが追加されます。

7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。

設定内容が本機に反映されます。

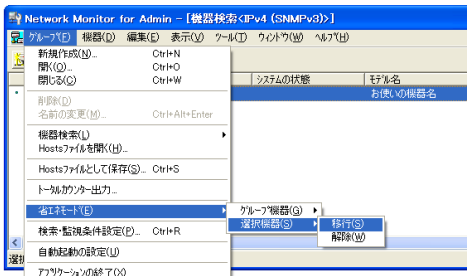
5**8** [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。**補足**

- ・利用制限の設定方法について詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

省エネモードを設定する

省エネモードを設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から省エネモードを設定する機器をクリックして反転表示させます。
グループ内の機器を全て設定したいときには選択する必要はありません。
- 4 [グループ] メニューをクリックし、[省エネモード] - [選択機器] ポイントし、[移行] をクリックします。



グループ内の機器を全て設定する場合は [グループ機器] を選択します。
省エネモードを解除する場合は、[解除] をクリックします。

- 5 Network Monitor for Admin を終了します。

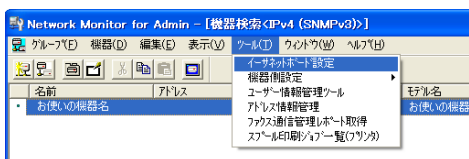
補足

- 省エネモードの設定については、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

パスワードを設定する

パスワードを設定する方法の説明です。

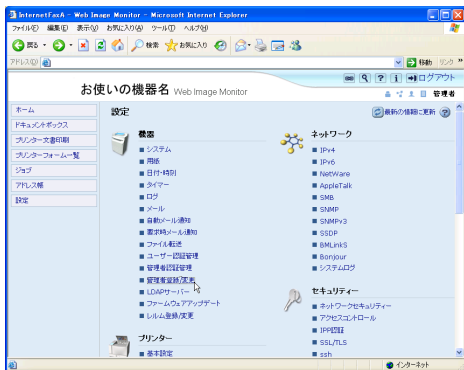
- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。



イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。

Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 6 [機器] エリアの [管理者登録 / 変更] をクリックし、設定を変更します。



- 7 [ログアウト] をクリックします。

- 8 Web Image Monitor を終了します。
- 9 Network Monitor for Admin を終了します。

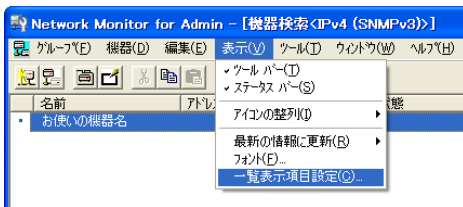
↓ 補足

・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

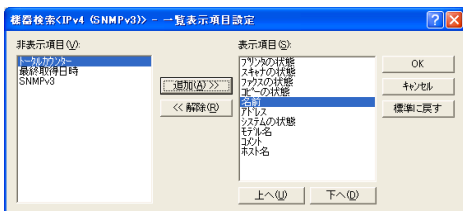
機器の状態を表示する

機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 [表示] メニューをクリックし、[一覧表示項目設定] をクリックします。

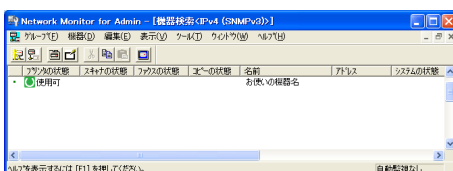


- 4 [一覧表示項目設定] 画面の [非表示項目] から表示させたい項目をクリックして反転表示させ、[追加] をクリックします。



選択した項目が [表示項目] に移動します。

- 5 表示させたい項目をすべて移動させ、[OK] をクリックします。
一覧に機器の状態がアイコンで表示されます。



- 6 より詳しい状態を知りたい場合は、一覧で状態を知りたい機器をクリックして反転表示させ、[機器] メニューの [開く] をクリックします。



選択した機器の情報ダイアログが表示されます。

- 7 状態を表示させたいアプリケーションをクリックします。
機器の状態が表示されます。

5

- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

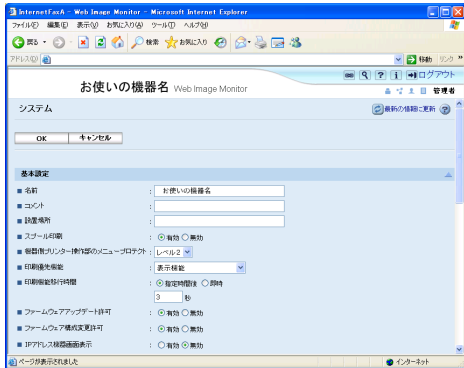
・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

本体名とコメントを変更する

本体名とコメントを変更する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 設定する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [イーサネットボード設定] をクリックします。
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
ネットワークインターフェイスボードが初期設定の状態の場合、イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 [機器] エリアの [システム] をクリックし、設定を変更します。



6 [ログアウト] をクリックします。

7 Web Image Monitor を終了します。

8 Network Monitor for Admin を終了します。

補足

- ・ [名前] には、本体名を半角英数 31 バイト以内で入力します。
- ・ [コメント] には、機器のコメントを半角英数 31 バイト以内で入力します。
- ・ ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

スプール印刷ジョブの一覧を確認する

スプール印刷ジョブの一覧を確認する方法の説明です。

1 Network Monitor for Admin を起動します。

2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[TCP/IP]、[IPX/SPX] または [TCP/IP SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

TCP/IP SNMP v3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。

3 スプール印刷ジョブの一覧を確認したい機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [スプール印刷ジョブ一覧 (プリンタ)] をクリックします。

Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

Web Image Monitor にスプール印刷ジョブ一覧が表示されます。表示されたスプール印刷ジョブを削除することができます。

↓ 補足

- スプール印刷ジョブ一覧を表示するためには、あらかじめ本機のスプール印刷を [有効] に設定する必要があります。
- 詳しくは、スプール印刷ジョブ一覧エリア内のヘルプを参照してください。

アドレス情報を管理する

アドレス情報を管理する方法の説明です。

- 1** Network Monitor for Admin を起動します。
- 2** [グループ] メニューをクリックし、[機器探索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3** アドレス情報を管理する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [アドレス情報管理] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4** ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
アドレス情報管理ツールが起動します。

↓ 補足

- 詳しくは、アドレス情報管理ツールのヘルプを参照してください。

Network Monitor for Client を使う

Network Monitor for Client を使って機器を監視する方法の説明です。

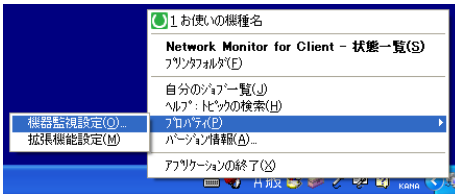
★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

監視する機器を設定する

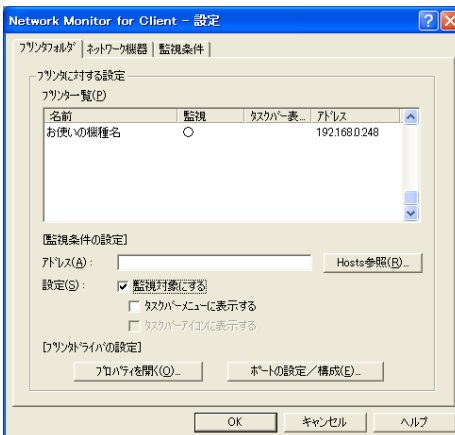
Network Monitor for Client で監視する機器を設定する方法の説明です。

- 1 タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューの [プロパティ]-[機器監視設定] をクリックします。



- 2 [Network Monitor for Client- 設定] ダイアログが表示されます。

- 3 監視するプリンターをクリックして反転表示させ、[設定] の [監視対象にする] にチェックを付けます。



[タスクバーアイコンに表示する] にチェックを付けると、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンにプリンターの状態がアイコンで表示されるようになります。

- 4 [OK] をクリックします。

ダイアログが閉じ、設定したプリンターが監視の対象に含まれます。

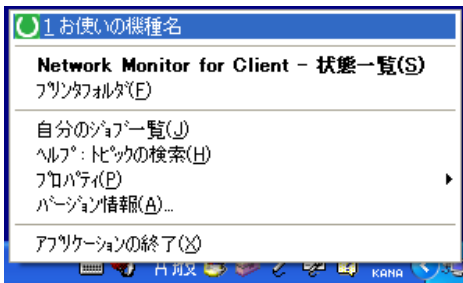
↓ 補足

- ・ 状態アイコンの詳細についてはヘルプを参照してください。

機器の状態を表示する

Network Monitor for Client で機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 タスクトレイの右端の Network Monitor for Client アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、状態を知りたい機器をクリックします。



Web Image Monitor が起動し、機器の状態が表示されます。



↓ 補足

- ・ Web Image Monitor の項目の詳細についてはWeb Image Monitor のヘルプを参照してください。

Network Monitor for Client で IPP を使用する場合

Network Monitor for Client で IPP を使用する際の注意事項です。

- 本機が受け付ける Network Monitor for Client からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Network Monitor for Client を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Network Monitor for Client は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Network Monitor for Client が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが削除されます。この場合、印刷の操作をやり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Network Monitor for Client を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Network Monitor for Client がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https:// (本機のアドレスまたはホスト名) /printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスするとき、[セキュリティの警告] が表示された場合、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信頼されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

↓ 補足

- SSL (暗号化通信) について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

★重要

- ・メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。
- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

本機のメール通知機能は次の2種類です。

◆自動メール通知

あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

◆要求時メール通知

管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

自動メール通知で設定できるものは、以下の通りです。

- ・サービスコールが発生した場合
- ・紙づまりがおきた場合
- ・カバーオープンが検知された場合
- ・紙がなくなった場合
- ・紙の残りがわずかになった場合
- ・給紙トレイでエラーが発生した場合
- ・排紙トレイが満杯になった場合
- ・ユニットの接続にエラーが発生した場合
- ・拡張 HDD の文書保存領域が満杯に近づいた場合
- ・ログエラーになった場合
- ・アクセス攻撃を受けた場合
- ・ユニットの交換時期になった場合
- ・ユニットの交換時期が近づいた場合
- ・カートリッジの交換時期になった場合
- ・カートリッジの交換時期が近づいた場合

1 本機の操作部を使用して、[システム設定] メニューの [自動メール通知] を [する] に設定します (工場出荷時は [する] に設定されています)。

2 Web ブラウザーを起動し、アドレスバーに「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。

SSL (暗号化通信) の設定を有効にしている場合、「https:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」と入力します。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

3 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 画面左のメニューから [設定] をクリックし、[機器] エリアの [メール] をクリックします。

5

6 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「メールの認証について」を参照してください。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「メールの認証について」を参照してください。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール受信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

7 [OK] をクリックします。

メール通知用アカウントの設定

メール通知用アカウントの設定について説明します。

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1 [機器] メニューの [メール] をクリックします。

2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

3 [OK] をクリックします。

4 [ログアウト] をクリックします。

5 Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- メール通知用アカウントでは、ファクスメールアカウントと同じユーザー名とメールアドレスが使えません。

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

◆ SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

- 1) Web Image Monitor に管理者としてログインし、左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [メール] をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
 - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
 - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
 - SMTP 認証：SMTP 認証のする/しないを指定します。
 - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
 - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に @ realmID の形式で追加してください。
 - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
 - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。
[自動選択]：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
[有効]：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
[無効]：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web Image Monitor を終了します。

◆ POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

- 1) 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [メール] をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
 - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする/しないを設定します。
 - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
 - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
 - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
 - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web Image Monitor を終了します。

「自動メール通知」の設定

「自動メール通知」の設定について説明します。

- 1 Web Image Monitor に管理者としてログインします。
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [自動メール通知] をクリックします。
通知項目に関する設定画面が表示されます。



- 3 設定画面に示された以下の項目を設定します。
 - ・ 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
 - ・ 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
 - ・ 項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。
項目の詳細を設定する場合は、[各項目の詳細設定] の [編集] をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して [OK] をクリックします。

- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [ログアウト] をクリックします。
- 6 Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- ・ 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

「要求時メール通知」の設定

「要求時メール通知」の設定について説明します。

- 1 Web Image Monitor に管理者としてログインします。
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [要求時メール通知] をクリックします。
通知項目に関する設定画面が表示されます。



- 3 設定画面に示された項目を設定します。
 - ・ 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
 - ・ 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
 - ・ 機器状態情報通知の制限：機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。
「有効」を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。
「無効」を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
 - ・ 受信可能メールアドレス/ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [ログアウト] をクリックします。
- 6 Web Image Monitor を終了します。

補足

- ・ 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式について

要求メールの書式について説明します。

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。

要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
Subject (メールソフトでは「件名」などと表示される部分)	requeststatus
From (メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分)	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

↓ 補足

5

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

★重要

- ・リモートメンテナンス (mshell) はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。
- ・パスワードは Web ブラウザーによる設定 (Web Image Monitor) で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順についての説明です。

★重要

- ・リモートメンテナンスを同時に複数のユーザーが使用することはできません。
- ・Windows Vista をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバーを有効にしてからお使いください。

5

1 本機の IP アドレス (またはホスト名) を引数にして telnet を起動します。
% telnet 本機の IP アドレス (またはホスト名)

2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ログイン名にはログインユーザー名を、パスワードにはログインパスワードを入力してログインします。

3 コマンドを入力します。

4 telnet を終了します。

```
msh> logout
```

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Enter] キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Enter] キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Enter] キーを押します。

↓補足

- ・「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- ・変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェイスボードがリセットされます。
- ・リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

8021x

IEEE 802.1x 関連パラメータの表示、設定は 8021x コマンドを使用します。

◆ 関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

```
msh> 8021x
```

◆ EAP タイプ及びフェイズ 2 メソッドの指定

```
msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}
```

- 最後の引数は、その前の引数で[tls]を指定した場合には[chap][mschap][mschapv2][pap][md5]が、[peap]を指定した場合には[mschapv2][tls]が指定できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ フェイズ 2 ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username2 ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ドメイン名の指定

```
msh> 8021x domain ドメイン名
```

- ドメイン名は、[@]と[¥]をのぞいた半角英数と表示可能な半角記号で最大 64 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ パスワードの指定

```
msh> 8021x password パスワード
```

- パスワードは、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー証明書の認証を設定

```
msh> 8021x srvcert {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可を指定

```
msh> 8021x imca {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー ID の指定

```
msh> 8021x srvid サーバー ID
```

- サーバー ID は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サブドメイン許可の指定

```
msh> 8021x subdomain {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ユーザー名の消去

```
msh> 8021x clear username
```

◆ フェイズ 2 ユーザー名の消去

```
msh> 8021x clear username2
```

◆ ドメイン名の消去

```
msh> 8021x clear domain
```

◆ パスワードの消去

```
msh> 8021x clear password
```

◆ サーバー ID の消去

```
msh> 8021x clear srvid
```

◆ IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化

```
msh> 8021x clear all
```

- ・初期化しても IEEE 802.1X 認証有効化設定（イーサネット、無線 LAN 共に）は消去されません。

access

5

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> access
```

◆ IPv4 アクセスレンジの表示（エントリ番号指定）

```
msh> access 対象 ID range
```

◆ IPv6 アクセスレンジの表示（エントリ番号指定）

```
msh> access 対象 ID range6
```

◆ IPv6 アクセスマスクの表示（エントリ番号指定）

```
msh> access 対象 ID mask6
```

◆ IPv4 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

◆ IPv6 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

◆ IPv6 のアクセスマスクの設定

```
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32
```

◆ アクセスコントロールの初期化

```
msh> access flush
```

- ・アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻してください。IPv4 環境では「0.0.0.0」、IPv6 環境では「::」となります。

↓ 補足

- ・IPv6 の各エントリは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式の場合は、" 始点アドレス - 終点アドレス "、マスク指定方式の場合は、" 基準アドレス / マスク長 " という形式で表示されます。
- ・アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- ・アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- ・IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。
- ・IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- ・IPv6 のマスク長は 1~128 の範囲で指定できます。
- ・制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

5

authfree

認証限定制御の情報表示、設定は authfree コマンドを使用します。

◆ 現在の認証限定情報を表示

```
msh> authfree
```

◆ IPv4 / IPv6 の認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID
```

◆ IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID range アドレス1 range アドレス2
```

◆ IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID range6 アドレス1 range6 アドレス2
```

◆ IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID mask6 アドレス masklen
```

◆ 認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定

```
msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

◆ 認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定

```
msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

◆ 認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

```
msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する
msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス 2001:DB8:: 32
```

◆ IEEE1284 / USB の認証限定を設定

```
msh> authfree {parallel|usb} {on|off}
```

- ・ 認証しない場合は「on」を、する場合は「off」を指定します。
- ・ 工場出荷時の設定は「off」です。

◆ 認証限定の初期化

```
msh> authfree flush
```

- ・ 認証限定の初期化は、認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

↓ 補足

- ・ authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「認証限定」に設定されている時のみ実行可能です。

5

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> autonet
```

◆ AutoNet 機能の設定

```
msh> autonet {on|off}
```

- ・ AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> autonet priority
```

◆ インターフェースの優先設定

```
msh> autonet priority インターフェース
```

- ・ AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- ・ 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- ・ wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- ・ 工場出荷時の初期値は「ether」です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

↓ 補足

- ・ 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

bmlinks

BMLinkS の表示や設定は、bmlinks コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> bmlinks
```

◆ BMLinkS の設定

```
msh> bmlinks パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
plainonly {on off}	平文通信強制の設定 デフォルトは off に設定されています。 ^{*1}
paused {always selectable none}	Paused Print（機密印刷）の動作方式 デフォルトは selectable に設定されています。 ^{*2}
timeout [30~65535]	印刷データ受信タイムアウト時間（秒）を設定 デフォルトは 900 に設定されています。
devicename	ネットワーク共通名を表示、設定します。
country 文字列	国名情報を設定します。 デフォルトは JP です。
orgnz 文字列	会社／組織名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
branch 文字列	支店名情報を設定します。 デフォルトでは off に設定されています。
building 文字列	ビル名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
floor 文字列	階数情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
block 文字列	ブロック名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
clear country	国名をクリアします。
clear orgnz	会社／組織名をクリアします。
clear branch	部門名をクリアします。
clear building	ビル名をクリアします。
clear floor	階数をクリアします。
clear block	ブロック名をクリアします。

^{*1} 機器共通設定の「SSL/TLS」が有効で、「暗号化通信モード」が暗号化優先あるいは暗号化／平文の場合のみこの設定が機能します。

^{*2} 動作方式は「always：機密印刷のみ可能」、「none：通常印刷のみ可能」、「selectable：機密印刷と通常印刷の両方が可能」です。

bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> bonjour
```

◆ サービス名の設定

```
msh> bonjour cname 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ 設置場所情報の設定

```
msh> bonjour location 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ プロトコルごとの優先順位の設定

```
msh> bonjour diprint [0~99]
```

```
msh> bonjour lpr [0~99]
```

```
msh> bonjour ipp [0~99]
```

- ・diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。初期値は diprint 10、lpr 20、ipp 30 です。

◆ IP TTL 値の設定

```
msh> bonjour ipttl [1~255]
```

- ・IP TTL 値（越えられるルーターの数）を設定します。初期値は 255 です。

◆ サービス名と設置場所情報のリセット

```
msh> bonjour clear {cname|location}
```

- ・cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
- ・location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

◆ インターフェースの設定

```
msh> bonjour linklocal インターフェース名
```

- ・インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
- ・複数のインターフェースが装着されている場合に、linklocal アドレスとの通信を行うインターフェースを設定します。
- ・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- ・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ IPP Advertising Port 番号の選択

```
msh> bonjour ippport {ipp|ssl}
```

- ・ssl の場合は、_ipp_tcp のポート番号を 443 として広告します。
- ・ipp の場合は、_ipp_tcp のポート番号を 631 として広告します。

devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

◆ 本体名の設定

```
msh> devicename name 文字列
```

- ・本体名は 31 バイト以下で指定します。
- ・1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

◆ 本体名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

- ・本体名を工場出荷時の設定に戻します。

5

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

◆ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース {on|off}
```

- ・DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- ・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

◆ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース
```

- ・DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- ・優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

◆ DNS サーバーアドレスの選択

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

- ・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

◆ ドメイン名の選択

```
msh> dhcp domainname {dhcp|static}
```

- ・ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ・ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

☰ 参照

- ・P.218 「dns」
- ・P.219 「domainname」
- ・P.301 「DHCP を使用する」

dhcp6

dhcp6 関連パラメータの表示、設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

◆ dhcp6 情報の表示

```
msh> dhcp6
```

◆ dhcp6-lite の有効・無効の設定と表示

```
msh> dhcp6 インターフェース名 lite {on|off}
```

◆ DNS サーバーアドレスの選択 (dhcp6 サーバーからの取得値・ユーザー設定値) の設定と表示

```
msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}
```

◆ DUID (dhcp ユニーク ID) の削除と表示

```
msh> dhcp6 duid clear
```

◆ dhcp6 で取得したパラメータを再度取得するまでの時間の設定と表示

```
msh> dhcp6 option lifetime [0~65535]
```

- ・設定範囲は 0 から 65535 分です。
- ・初期値は 60 分です。
- ・0 をセットすると再取得することができません。

diprint

コンピュータから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> diprint
```

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
```

```
timeout = 300 (sec)
```

```
bidirect on
```

```
conn multi
```

```
apl async
```

- ・「port」使用するポート番号が表示されます。
- ・「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

◆ タイムアウトの設定

```
msh> diprint timeout [30~65535]
```

- ・ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- ・工場出荷時の設定値は「300 (秒)」です。
- ・lpr コマンドにおいても、ここで設定した時間が使用されます。

◆ 同時接続数の設定

```
msh> diprint conn {multi|single}
```

- ・diprint の同時接続数を multi (複数) か single (1) か設定します。
- ・工場出荷時の設定値は「multi」です。

dns

DNS (Domain Name System) の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dns
```

◆ IPv4 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server アドレス
```

- ・IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- ・対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。
- ・「255.255.255.255」は設定できません。

◆ IPv6 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server6 アドレス
```

- ・IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- ・対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。

◆ ダイナミック DNS 機能の設定

```
msh> dns インターフェース ddns {on|off}
```

- ・ダイナミック DNS 機能の有効/無効を指定します。
- ・ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ レコード重複時の動作指定

```
msh> dns overlap {update|add}
```

- ・レコードが重複したときの動作を指定します。
- ・update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- ・add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- ・CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

◆ CNAME の登録

```
msh> dns cname {on|off}
```

- ・ CNAME を登録するかどうかを指定します。
- ・ CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・登録される CNAME は RNP から始まるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

◆ A レコードの登録

```
msh> dns arecord {dhcp|own}
```

- ・ dhcp は本機を代行して、DHCP サーバーが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- ・ own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「DHCP」で指定した「DNS サーバーアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

◆ レコードの更新間隔の設定

```
msh> dns interval 更新間隔時間
```

- ・ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- ・更新間隔を 1 時間単位で指定します。1~255 の間で指定します。
- ・初期値は「24」です。

◆ resolv.conf の表示

```
msh> dns resolv
```

- ・ resolv.conf の表示を行います。

◆ デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに利用するプロトコルの設定

```
msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}
```

- ・デュアルスタック時のみ表示されます。

domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> domainname
```

◆ 現在の各インターフェースのドメイン名表示

```
msh> domainname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのドメイン名設定

```
msh> domainname インターフェース name ドメイン名
```

- ・ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- ・イーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードは同じドメイン名になります。
- ・ wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ 各インターフェースのドメイン名削除

```
msh> domainname インターフェース clear name
```

etherauth

Ethernet での認証関連パラメーターの表示は、etherauth コマンドを使用します。

◆ 認証関連パラメーターの表示

```
msh> etherauth 8021x {on|off}
```

etherconfig

イーサネットインターフェース速度の表示と設定の変更はetherconfigコマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> etherconfig
```

◆ イーサネットインターフェース速度の設定

```
msh> etherconfig speed {auto|10f|10h|100f|100h}
```

- ・ auto = 自動
- ・ 10f = 10 Mbps 全二重
- ・ 10h = 10 Mbps 半二重
- ・ 100f = 100 Mbps 全二重
- ・ 100h = 100 Mbps 半二重

初期値は auto です。

5

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

◆ コマンド一覧の表示

```
msh> help
```

◆ コマンド使用方法の表示

```
msh> help コマンド名
```

hostname

ホスト名を表示、変更するには、hostname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> hostname
```

◆ 現在の各インターフェースのホスト名表示

```
msh> hostname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのホスト名の設定

```
msh> hostname インターフェース name ホスト名
```

- ・ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- ・RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
- ・イーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードは同じホスト名になります。
- ・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- ・インターフェース名を省略した場合、イーサネットのインターフェース名が設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ 各インターフェースのホスト名の初期化

```
msh> hostname インターフェース clear name
```

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示と設定、およびデフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ifconfig
```

◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース アドレス
```

- ・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- ・wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

(例) イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

◆ IPv6 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長
```

(例) イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

```
msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64
```

◆ ネットマスクの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス
```

(例) イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

```
msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0
```

◆ ブロードキャストアドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 broadcast アドレス
```

◆ インターフェース切り替え

```
msh> ifconfig インターフェース名 up
```

(例) 接続時にイーサネットを使用する

```
msh> ifconfig ether up
```

- ・ 拡張無線 LAN ボード接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

↓ 補足

- ・ 設定するアドレスは管理者に確認してください。
- ・ 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- ・ IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、拡張無線 LAN ボード共通です。
- ・ TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと拡張無線 LAN ボードで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- ・ IPv4 アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

5

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

◆ 機器情報の表示

```
msh> info
```

📖 参照

- ・ P.245 「ネットワーク経由で確認できる情報」

ipp

IPP の使用環境の表示、設定は、IPP コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ipp
```

◆ タイムアウトの設定

```
msh> ipp timeout [30~65535]
```

- ・ 印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30~65535 秒です。

◆ IPP ユーザー認証方式の設定

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

- IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- basic または digest で、認証を行います。
- ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

◆ IPP ユーザー名の登録

```
msh> ipp user
```

メッセージにしたがって設定します。

```
msh> Input user number (1 to 10) :
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
```

```
msh> IPP password:*****
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
User configuration changed
```

ipsec

IPsec 関連パラメーターの表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

◆ 関連パラメーターの表示

```
msh> ipsec
```

◆ 手動 SA モードの表示/設定

```
msh> ipsec manual_mode
```

◆ IPsec の対象から除外するプロトコルの表示/設定

```
msh> ipsec exclude
```

◆ 手動 SA のパラメーターの表示/設定

```
msh> ipsec manual
```

◆ IKE パラメーターの表示/設定

```
msh> ipsec ike
```

◆ IPsec 関連のすべてのパラメーターの初期化

```
msh> ipsec clear_init
```

ipv6

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ipv6
```

◆ ステートレスアドレスの有効/無効設定

```
msh> ipv6 stateless {on|off}
```

logout

telnet を終了します。

◆ telnet の終了

```
msh> logout
```

確認メッセージが表示されます。

```
{yes|no|return}
```

[yes][no][return] のいずれかをフルスペルで入力してください。

- [yes] と入力すると、telnet が終了します。
- [no] と入力すると、telnet が続行します。
- [return] と入力すると、logout の再設定になります。

lpr

5

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> lpr
```

◆ ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効/無効設定

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかった場合はジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は「on」です。

◆ プリンターエラー検知機能対応の有効/無効設定

```
msh> lpr prnerrchk {on|off}
```

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信してしまうことがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません（PCFAX の送信も行えなくなります）。
- 工場出荷時の設定値は「off」です。

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

◆ パスワードの変更

```
msh> passwd
```

- [Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

◆ スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

```
msh> passwd 管理者 ID
```

- ・ [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- ・ [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

↓ 補足

- ・ パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- ・ 入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> pathmtu
```

◆ PathMTU Discovery サービス有効 / 無効の切替設定

```
msh> pathmtu {on|off}
```

- ・ 工場出荷時は「ON」になっています。
- ・ 送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- ・ 環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

5

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

◆ プリントログ情報の表示

```
msh> prnlog
```

- ・ これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog ID 番号
```

- ・ 表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

📖 参照

- ・ P.245 「ネットワーク経由で確認できる情報」

rhpp

rhpp プロトコル情報の表示、設定は rhpp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> rhpp
```

◆ 使用するポート番号の変更

```
msh> rhpp [1024~65535]
```

デフォルト値は 59100 です。

◆ タイムアウトの設定 (秒)

```
msh> rhpp timeout [30~65535]
```

デフォルト値は 300 (秒) です。

↓ 補足

- ・ rhpp は RICOH Host Printing Protocol の略で、独自のプロトコルです。

5

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示と設定は、route コマンドを使用します。

◆ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

- ・ destination は IPv4 のアドレスを指定します。
destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

◆ 指定された IPv4 の destination の有効/無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} destination {on|off}
```

- ・ {host|net} 省略時は host 設定となります。

◆ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} destination gateway
```

- ・ destination で表される host(または network)ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- ・ destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- ・ {host|net} 省略時は host 設定となります。
- ・ destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

◆ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default gateway
```

◆ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} destination
```

- ・ {host|net} 省略時は host 設定となります。
- ・ destination は IPv4 のアドレスを指定します。

◆ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default gateway
```

◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 destination prefixlen [1~128] gateway
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。
- 宛先は prefixlen が 1~127 の場合はネットワーク指定、128 の場合はホスト指定となります。
- destination と prefixlen の両方が登録済みレコードと一致する場合は登録できません。
- destination が ::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000) のレコードは登録できません。

◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

◆ IPv6 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get6 {destination}
```

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

◆ 指定された IPv6 の destination の有効/無効の切り替え設定

```
msh> route active6 destination prefixlen {on|off}
```

◆ 全 route 情報の削除設定

```
msh> route flush
```

↓ 補足

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1~128 の 10 進数です。

set

プロトコルの情報の表示、有効/無効の設定は、set コマンドを使用します。

◆ デバイスの情報（有効/無効）の表示

```
msh> set parallel
msh> set usb
```

◆ プロトコルの情報（有効/無効）の表示

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set ipsec
msh> set appletalk
msh> set smb
msh> set protocol
```

・ protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、smb、ipsec の情報を表示します。

```
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ssl6
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set bonjour
msh> set bonjour6
msh> set nbt
msh> set ssdp
msh> set bmlinks
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
msh> set wsdev
msh> set wsdev6
msh> set wsprn
msh> set rhpp
msh> set rhpp6
```

◆ プロトコルの有効／無効の設定

- ・プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

- ・IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- ・IPv4 を無効にすると lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour、wsdev も使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

- ・IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- ・IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6、bonjour6、wsdev6 も使用できなくなります。

```
msh> set ipsec {up|down}
```

```
msh> set appletalk {up|down}
```

```
msh> set smb {up|down}
```

```
msh> set lpr {up|down}
```

```
msh> set lpr6 {up|down}
```

```
msh> set ftp {up|down}
```

```
msh> set ftp6 {up|down}
```

```
msh> set rsh {up|down}
```

```
msh> set rsh6 {up|down}
```

```
msh> set diprint {up|down}
```

```
msh> set diprint6 {up|down}
```

```
msh> set web {up|down}
```

```
msh> set snmp {up|down}
```

```
msh> set ssl {up|down}
```

```
msh> set ssl6 {up|down}
```

- 本機に SSL (暗号化通信) の機能が無い場合は、有効に設定しても SSL (暗号化通信) を使用することはできません。

```
msh> set nrs {up|down}
msh> set rfu {up|down}
msh> set rfu6 {up|down}
msh> set ipp {up|down}
msh> set ipp6 {up|down}
msh> set http {up|down}
msh> set http6 {up|down}
msh> set bonjour {up|down}
msh> set bonjour6 {up|down}
msh> set ssh {up|down}
msh> set sstp {up|down}
msh> set bmlinks {up|down}
msh> set nbt {up|down}
msh> set sftp {up|down}
msh> set sftp6 {up|down}
msh> set wsdev {up|down}
msh> set wsdev6 {up|down}
```

- wsdev と wsdev6 が共に有効の場合、プロトコル情報の表示では共に「up」と表示されますが、WSD (Device) と WSD (Printer) は IPv4 で動作します。

```
msh> set wsprn {up|down}
msh> set rhpp {up|down}
msh> set rhpp6 {up|down}
```

↓ 補足

- WSD (Printer) と WSD (Device) を IPv6 で動作させたい場合は、"wsdev down""wsdev6 up" と設定します。

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

◆ 現在の設定値の表示

```
msh> show
```

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB プロトコルでコンピュータ名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

E 参照

- P.252 「ネットワークインターフェースボードの情報」

smb

コンピュータ名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

◆ **コンピュータ名の設定**

```
msh> smb comp コンピュータ名
```

- ・半角英数 15 文字以下で設定します。
- ・RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

◆ **ワークグループ名の設定**

```
msh> smb group ワークグループ名
```

- ・半角英数 15 文字以下で設定します。

◆ **コメントの設定**

```
msh> smb comment コメント
```

- ・半角英数 31 文字以下で設定します。

◆ **印刷完了通知の設定**

```
msh> smb notif {on|off}
```

- ・印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

◆ **コンピュータ名の削除**

```
msh> smb clear comp
```

◆ **グループ名の削除**

```
msh> smb clear group
```

◆ **コメントの削除**

```
msh> smb clear comment
```

◆ **プロトコルの表示**

```
msh> smb protocol
```

snmp

コミュニティ名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

◆ **現在の設定の表示**

```
msh> snmp
```

- ・登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
 - コミュニティ名：**public**
 - IPv4 アドレス：**0.0.0.0**
 - IPv6 アドレス：**::**
 - アクセスタイプ：**read-only**
 - 有効プロトコル：**IPv4/IPv6**

- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
 コミュニティ名：HITACHI
 IPv4 アドレス：0.0.0.0
 IPv6 アドレス：::
 アクセスタイプ：read-write
 有効プロトコル：IPv4/IPv6
- p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティ設定内容を表示します。

◆ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

◆ コミュニティ名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティ名
```

- 設定できる登録番号は 1~10 です。
- コミュニティ名は英数半角 15 文字以下で設定します。
- 登録番号の 1~10 に public が存在しない場合、Network Monitor for Admin や Network Monitor for Client から機器を参照することはできません。コミュニティ名を変更した場合、Network Monitor for Admin とともにインストールされる「SNMP コミュニティ名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティ名を変更してください。

◆ コミュニティ名の削除

```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

◆ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません (not accessible)
read	情報の読み出しのみ可能 (read-only)
write	情報の読み出しと書き込みが可能 (read-write)
trap	エラー情報を通知 (trap)

◆ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6} {on|off}
```

- 使用可能なプロトコルを選択します。
- プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません

◆ 登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

- 登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

◆ アクセス設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6} アドレス
```

- 使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。

- ・「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- ・「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6 の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- ・IPv4 を使用するときにはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときには IPv6 アドレスを入力します。

◆ sysLocation の設定

```
msh> snmp location 文字列
```

◆ sysLocation の削除

```
msh> snmp clear location
```

◆ sysContact の設定

```
msh> snmp contact 文字列
```

◆ sysContact の削除

```
msh> snmp clear contact
```

◆ SNMP v1v2 機能の設定

```
msh> snmp v1v2 {on|off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ SNMP v3 機能の設定

```
msh> snmp v3 {on|off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ SNMP TRAP の設定

```
msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ リモート設定許可の設定

```
msh> snmp remote {on|off}
```

- ・SNMP v1, v2 での設定を有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

◆ SNMP v3 TRAP の設定値の表示

```
msh> snmp v3trap
```

```
msh> snmp v3trap [1~5]
```

- ・1~5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

◆ SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] {ipv4|ipv6} アドレス
```

◆ SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] active {ipv4|ipv6} {on|off}
```

◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定

```
msh> snmp v3trap [1~5] account アカウント名
```

- ・アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除

```
msh> snmp v3trap [1~5] clear account
```

◆ SNMP v3 暗号アルゴリズムの設定

```
msh> snmp v3auth {md5|sha1}
```


◆ SNMP v3 暗号化の設定

```
msh> snmp v3priv {auto|on}
```

- ・ auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
- ・ on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

↓ 補足

- ・ 暗号化可能な場合とは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。

sntp

Sntp の表示、設定は、sntp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> sntp
```

◆ NTP サーバーの IPv4 アドレスの設定

```
msh> sntp server アドレス
```

◆ NTP サーバーのホスト名の設定

```
msh> sntp server ホスト名
```

◆ NTP サーバーの設定のクリア

```
msh> sntp server clear
```

◆ インターバルの設定

```
msh> sntp interval インターバル値
```

- ・ 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は「60 (分)」です。
- ・ 設定できる値は 0、15~10080 (分) です。
- ・ 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

◆ タイムゾーンの設定

```
msh> sntp timezone +/-時間
```

- ・ NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は-12:00~+13:00 です。

↓ 補足

- ・ ntp サーバーには IPv4 アドレスまたはホスト名のどちらか一方のみ設定できます。

spoolsw

スプール印刷の表示、設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB (TCP/IP(IPv4))、BMLinkS、WSD (Printer)、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> spoolsw
```

◆ スプール印刷機能の設定

```
msh> spoolsw spool {on|off}
```

- ・スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。工場出荷時の設定は「off」です。

◆ ジョブの初期化の設定

```
msh> spoolsw clearjob {on|off}
```

- ・スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、本機の電源を再投入したときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off の場合はジョブを初期化せずに印刷を再開します。
- ・工場出荷時の設定値は「off」です。

◆ プロトコルの設定

```
msh> spoolsw diprint {on|off}
```

```
msh> spoolsw lpr {on|off}
```

```
msh> spoolsw ipp {on|off}
```

```
msh> spoolsw smb {on|off}
```

```
msh> spoolsw bmlinks {on|off}
```

```
msh> spoolsw ftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw sftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw wsprn {on|off}
```

- ・プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。
- ・工場出荷時の設定値は全て「on」です。

ssdp

SSDP 関連パラメータの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ssdp
```

◆ 有効時間の設定

```
msh> ssdp profile [1801~86400]
```

- ・工場出荷時の設定値は「10800 (秒)」です。

◆ Advertise パケットの TTL の設定

```
msh> ssdp ttl [1~255]
```

- ・工場出荷時の設定値は「4」です。

ssh

SSH および SFTP 関連パラメーターの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の一覧表示

```
msh> ssh
```

◆ データ圧縮通信の設定

```
msh> ssh compression {on|off}
```

- ・工場出荷時の設定値は「on」です。

◆ ssh / sftp で通信するポートの設定

```
msh> ssh port [22,1024~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は「22」です。

◆ ssh / sftp で通信する際のタイムアウト確認（生存確認）の時間設定

```
msh> ssh timeout [0~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は「300」です。

◆ ssh / sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

```
msh> ssh logintimeout [0~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は「300」です。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長（Keylength）の作成

```
msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列 (Salt)
```

- ・工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長（Keylength）が「1024」、複雑化文字列は「NULL（無）」です。
- ・使用できる文字列は、ASCII（0x20~0x7e）文字列です。
- ・パラメーター省略時は初期値で公開鍵を作成します。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵の削除

```
msh> ssh delkey
```

↓ 補足

- ・設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。
- ・ssh を使用できるのは sftp のみです。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

◆ 表示

```
msh> status
```

E 参照

- ・P245 「ネットワーク経由で確認できる情報」

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

◆ メッセージの表示

```
msh> syslog
```

参照

- ・P.259 「メッセージ一覧」

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

◆ 公開 URL の表示

```
msh> upnp
```

◆ 公開 URL の設定

```
msh> upnp url URL
```

- ・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

web

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> web
```

◆ リンク先として登録する URL の設定

```
msh> web x url URL
```

- ・x は対象 ID の 1~2 を指定します。2 件まで登録できます。
- ・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ リンク先として登録されている URL を削除する

```
msh> web x clear url
```

- ・x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録する URL のリンク名の設定

```
msh> web x name リンク名
```

- ・x は対象番号の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

```
msh> web x clear リンク名
```

- ・x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ ヘルプの参照先 URL の設定

```
msh> web help URL
```

- ・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ ヘルプの参照先 URL を削除する

```
msh> web clear help
```

wiconfig

無線 LAN の表示、設定は、wiconfig コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wiconfig
```

◆ 拡張無線 LAN ボードの情報の表示

```
msh> wiconfig cardinfo
```

- ・ 拡張無線 LAN ボードが有効になっていない場合、拡張無線 LAN ボードの情報は表示できません。

◆ 設定

```
msh> wiconfig パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
connectinfo	コネクト情報を取得します。
clear { 各コマンド 1 つ all }	指定されたコマンドの設定値を初期化します。 all を指定するとすべての設定値を初期化します。
mode { ap 802.11adhoc }	インフラストラクチャーモード (ap) または 802.11 アドホックモード (802.11 adhoc) の設定ができます。デフォルトはインフラストラクチャーモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。デフォルトは空白です。
channel frequency チャンネル番号	802.11 ad hoc モードで使用するチャンネルは、1 ~ 14、36、40、44、48 の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは 11 です。

パラメーター	設定される項目
key 文字列 val {1 2 3 4}	<p>WEPキーを16進数で入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。</p> <p>key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。</p>
keyphrase 文字列 val {1 2 3 4}	<p>WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用する場合には、13 文字までの半角英数字が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。</p> <p>keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。</p>
encval {1 2 3 4}	<p>4つのWEPキーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。</p> <p>番号を指定しない場合は1が設定されます。</p>
wepauth {open shared}	<p>WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定値と認証モードは次のとおりです。</p> <p>open : オープンシステム認証 (デフォルト)</p> <p>shared : シェアードキー認証</p>
security {none wep wpa}	<p>セキュリティー方式を設定できます。設定値と認証方式は次のとおりです。</p> <p>none: 暗号化なし (デフォルト)</p> <p>wep:WEP 暗号化方式</p> <p>wpa:WPA 暗号化方式</p>

パラメーター	設定される項目
wpaenc {tkip ccmp}	WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。 設定値は次のとおりです。 tkip:TKIP ccmp:CCMP(AES) (デフォルト)
wpaauth {wpapsk wpa wpa2psk wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk : WPA-PSK 認証 (デフォルト) wpa : WPA 認証 wpapsk2 : WPA2-PSK 認証 wpa2 : WPA2 認証
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 8 文字から 63 文字までです。デフォルトは空白です。
eap {tls ttls leap peap} {chap mschap mschapv2 pap md5 tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls :EAP-TLS (デフォルト) ttls : EAP-TTLS leap : LEAP peap : PEAP {chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls} はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択する時に同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバーへのログインユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 文字までです。デフォルトは空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 文字までです。デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
domain 文字列	Radius サーバーへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" と "%" (0x5C: バックスラッシュ) 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
password 文字列	Radius サーバーへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
srvcert {on off}	サーバー証明書の認証を設定します。 デフォルトは off です。
imca {on off}	サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
srvid 文字列	認証サーバーをサーバー ID 及びサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
miccheck [on off] *1	MICチェックを有効にするかどうかを設定します。 デフォルトは on です。 off に設定すると改ざん検出が一切できなくなります。on の設定で使用することをお勧めします。

*1 拡張無線 LAN ボードの装着されている場合にのみ、使用可能です。

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wins
```

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

◆ WINS 機能の設定

```
msh> wins インターフェース {on|off}
```

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

◆ WINS サーバーのアドレス設定

```
msh> wins インターフェース名 {primary|secondary} IPv4 アドレス
```

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

◆ NBT (NetBIOS over TCP/IP) スコープ ID の設定

```
msh> wins インターフェース scope スコープ ID
```

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	拡張無線 LAN ボード

wsmfp

WSD (Device)、WSD (Printer) の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wsmfp
```

◆ コメントの設定

```
msh> wsmfp comments 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ ロケーションの設定

```
msh> wsmfp location 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ プレゼンテーション URL の設定

```
msh> wsmfp url URL
```

- ・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ WSD (Device) の TCP ポートの設定

```
msh> wsmfp devport [1024-65535]
```

- ・初期値は 53000 です。

◆ WSD (Printer) の TCP ポートの設定

```
msh> wsmfp prnport [1024-65535]
```

- ・初期値は 53001 です。

◆ WSD (Printer) の受信タイムアウト (秒) の設定

```
msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は「900 (秒)」です。

◆ コメントを初期化する

```
msh> wsmfp clear comments
```

◆ ロケーションを初期化する

```
msh> wsmfp clear location
```

◆ プレゼンテーション URL を初期化する

```
msh> wsmfp clear url
```

SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。

本機内蔵のイーサネットインターフェース、およびオプションの拡張無線 LAN ボードでは UDP と IPX 上で動作する SNMP (Simple Network Management Protocol) エージェントが組み込まれています。

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- 本機のコミュニティ名を工場出荷時から変更した場合、Network Monitor for Admin に同梱されている SNMP コミュニティ名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは「SNMP コミュニティ名設定ツール」のヘルプを参照してください。

工場出荷時のコミュニティ名には「public」と「hitachi」が設定されています。このコミュニティ名で MIB 情報を取得することができます。

◆ SNMP コミュニティ名設定ツールの起動

- Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [プログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。
- Windows XP/Vista, Windows Server 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [すべてのプログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種やオプションによっては、表示されないステータスがあります。

- ・UNIX の場合
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp の stat パラメータを使います。
Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 では、rsh/rcp が使用できません。
- ・mshell の場合
status コマンドを使います。

ステータス	意味
Adjusting...	初期設定中です。
Call Service Center	エンジン部、またはコントローラ部に異常が発生しました。サービスに連絡してください。
Canceling Job...	ジョブリセット中です。
Cannot Eject Original Through	原稿を排紙できません。
Cannot multi-install: SD Card	SD カードが他機器にインストール済みです。
Configuring...	設定変更中です。
Cover Open: Duplex Unit	両面ユニットのカバーが開いています。
Cover Open: Exit/Rear Cover	本体排紙口または背面部のカバーが開いています。
Cover Open: Front Cover	本体前カバーが開いています。
Cover Open: Paper Exit Cover	排紙口カバーが開いています。
Current Job Suspended	印刷が停止しています。
Energy Saver Mode	省エネモード中です。
Envelope Setting Error: None	封筒レバーが上がった状態で封筒以外の用紙を指定して印刷が実行されました。
Envelope Setting Error: Others	封筒レバーが下がった状態で封筒を指定して印刷が実行されました。

ステータス	意味
Error: DIMM Value	メモリーエラーが発生しました。
Error: Ethernet Board	イーサネットボードに異常が発生しました。
Error: HDD Board	拡張 HDD にエラーが発生しました。
Error: Media Link Board	データ変換ボードに異常が発生しています。
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: Optional RAM	オプションの SDRAM モジュールにエラーが発生しました。
Error: Parallel I/F Board	パラレルインターフェースにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生しました。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新中にエラーが発生しました。
Error: USB Board	USB ホストボードで異常が発生しています。
Error: USB Interface	USB インターフェースにエラーが発生しました。
Error: Wireless Board	拡張無線 LAN ボードにエラーが発生しました。
Full: Log Data Capacity	ログデータがもうすぐ満杯です。
Full: Standard Tray	本体排紙トレイが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
Independent-supplier Toner	純正でないトナーがセットされています。
In Use: Input Tray	給紙トレイが使用中です。
Jobs Suspended	一時停止中です。
Log Data Transfer failed	ログデータの転送に失敗しました。
Malfuction: Output Tray	排紙トレイのシフト機能に異常が発生しました。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。 または、自動トレイ選択を指定しているとき、指定の用紙種類とサイズがありません。
Mismatch: Paper Size/Image Size	トレイから給紙された紙のサイズが画像サイズと異なります。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。

ステータス	意味
Near Replacing: Develop. Unit K	現像ユニット（ブラック）の交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Fusing Unit	定着ユニットの交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Int. Transfer	中間転写ユニットの交換時期が間近になりました。
Near Replacing: Print Cartridge	トナーカートリッジの交換時期が間近になりました。
Nearly Full: Log Data Capacity	ログデータがもうすぐ満杯です。
No Paper: Selected Tray	指定されたトレイに用紙がありません。
No Paper: Tray 1	トレイ 1 に用紙がありません。
No Paper: Tray 2	トレイ 2 に用紙がありません。
No Paper: Tray 3	トレイ 3 に用紙がありません。
No Paper: Tray 4	トレイ 4 に用紙がありません。
Not Detected: B2 Lever	B2 レバーが正しくセットされていません。
Not Detected: Duplex Feed Unit	両面搬送ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Duplex Unit	両面ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Fusing Unit	定着ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Input Tray	給紙トレイが正しくセットされていません。
Not Detected: Print Cartridge	トナーカートリッジが正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 1	トレイ 1 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 2	トレイ 2 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 3	トレイ 3 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 4	トレイ 4 が正しくセットされていません。
Offline	プリンターがオフライン状態です。
Operating Thermo-range Error	使用可能温度の範囲外です。
Paper Misfeed: Duplex Unit	両面ユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Input Tray	給紙トレイで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Internal/Output	本体内部で紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Output Tray	本体排紙部で紙づまりが発生しました。
Printing...	印刷中またはデータ受信中です。
Proxy Address/Port Incorrect	プロキシアドレス、またはポート番号が不正です。
Proxy User/Password Incorrect	プロキシユーザー名またはパスワードが不正です。
Readjusting...	再調整中です。
Ready	使用可能です。

ステータス	意味
Renewing Remote Certificate	リモートビス証明書を更新中です。
Replace Charger Kit	チャージャーキットの交換時期です。
Replace Cleaning Web	クリーニングフェルトは残りわずかです。
Replace Develop. Unit (Black)	現像ユニット（ブラック）の交換時期です。
Replace Fusing Unit	定着ユニットの交換時期です。
Replace Int. Transfer Unit	中間転写ユニットの交換時期です。
Replace Maintenance Kit	メンテナンスキットの交換時期です。
Replace PCU	ドラムユニットの交換時期です。
Replace Print Cartridge	トナーカートリッジの交換時期です。
Reset IPDS fonts	IPDS フォントにエラーが発生しました。
SD Card Authentication failed	SD カードからの認証に失敗しました。
SD Card not inserted	SD カードがセットされていません。
Tray Error: Chaptering	章区切り紙に本文と同じトレイを指定しているため、給紙トレイ指定エラーが発生しました。
Tray Error: Duplex Printing	両面禁止トレイに両面印刷を指定したため、両面印刷設定トレイエラーが発生しました。
Unit Code Start	ユニットコードの開始位置です。

↓ 補足

- ・エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

📖 参照

- ・P.137 「テスト印刷メニュー」
- ・P.222 「info」
- ・P.287 「本機の状態表示」

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と、項目の説明です。

- UNIX の場合
rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメータを使います。
- mshell の場合
info コマンドを使います。

Input Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
Page Size	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Normal：正常 • NoInputTray：トレイなし • PaperEnd：用紙なし

Output Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Normal：正常 • PaperExist：用紙あり • OverFlow：用紙が満杯 • Error：その他エラー

Emulation

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

参照

- P.222 「info」
- P.287 「本機の状態表示」

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得することができる情報の詳細です。

★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合
status コマンドを使います。

5

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 • 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。 ^{*1}

^{*1} 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

📖参照

- P.236 「status」
- P.287 「本機の状態表示」

プリントログ情報

これまでに印刷した過去20件分のジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
rsh、rcp、ftp、sftp の prnlog パラメーターを使います。
- mshell の場合
prnlog コマンドを使います。

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	<p>通信結果が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 • Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 • Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、sftp、rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。

目 参照

- P.225 「prnlog」
- P.287 「本機の状態表示」

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されない項目があります。

・ mshell の場合

show コマンドを使います。

項目名	意味
Common Mode Protocol Up/Down AppleTalk IPv4 IPv6 IPsec SMB Device Up/Down Parallel USB Ethernet interface Syslog priority NVRAM version Device name Comment Location Contact Soft switch	プロトコル利用設定 デバイス利用設定
AppleTalk Mode Net Object Type Zone	AppleTalk 関連設定
TCP/IP Mode(IPv4) Mode(IPv6) ftp lpr rsh	TCP/IP のポートアドレスなどの設定

項目名	意味
diprint	
web	
http	
ftpc	
snmp	
ipp	
autonet	
Bonjour	
ssl	
nrs	
rfu	
nbt	
ssdp	
bmlinks	
ssh	
sftp	
WSD (Device)	
WSD (Printer)	
rhttp	
IPv4	
DHCP	
Address	
Netmask	
Broadcast	
Gateway	
IPv6	
Stateless	
Manual	
Gateway	
DHCPv6-lite	
DUID	
DHCPv6 option lifetime	
IPsec	
Manual Mode	
Excluded Protocol	
https	
dns	

項目名	意味
dhcp wins EncapType Host name DNS Domain Access Control IPv4 Access Entry [X] IPv6 Access Entry [X] SNTP Server Time Zone SNTP Server polling time SYSLOG server Home page URL1 Home page link name1 Home page URL2 Home page link name2 Help page URL RHPP Port RHPP timeout	アクセス制限設定 X は 1～5 まで設定できます。 X は 1～5 まで設定できます。 時刻関連設定 Websys 関連の設定
SMB Switch Mode Direct print Notification Workgroup name Computer name Comment Share name[1] Protocol	SMB 動作／設定
Wireless LAN Host Name Communication Mode SSID Channel	IEEE 802.11 インターフェース動作／設定

項目名	意味
Security WEP Authentication WEP Encryption key number WEP Encryption keys [X] WPA Encryption WPA Authentication Pre-Shared Key User name Domain name EAP Type Password Phase 2 user name Phase 2 Method TTLS Phase 2 Method PEAP Server cert. Intermediate CA Server ID Sub domain MIC check	X は 1～4 まで設定できます。
Ethernet 802.1X Authentication	
DNS IPv4 Server[X] Selected IPv4 DNS Server IPv6 Server[X] Selected IPv6 Dns Server Resolver Protocol Domain Name ether wlan DDNS ether wlan WINS	DNS 動作／設定 X は 1～3 まで設定できます。 X は 1～3 まで設定できます。
WINS	WINS 動作／設定

項目名	意味
ether Primary WINS Secondary WINS wlan Primary WINS Secondary WINS	
SSDP UUID Profile TTL	SSDP 動作／設定
BMLinkS Plain Only Paused Print Timeout Device Name Country Organization Branch Building Floor Block	BMLinkS 動作／設定
UPnP URL	UPnP 動作／設定
Bonjour Computer Name(cname) Local Hostname (ether) Local Hostname (wlan) Location Priority (diprint) Priority (lpr) Priority (ipp) IP TTL LinkLocal Route for Multi I/F IPP Port	Bonjour (Rendezvous) 動作／設定
SNMP SNMPv1v2	SNMP 動作／設定

項目名	意味
SNMPv3 protocol v1Trap v2Trap v3Trap SNMPv1v2 Remote Setting SNMPv3 Privacy	
ssh Compression Port TimeOut LoginTimeOut	ssh 動作 / 設定
AuthFree IPv4 AuthFree Entry[X] IPv6 AuthFree Entry[X] Parallel USB	認証除外動作 / 設定 X は 1～5 まで設定できます。 X は 1～5 まで設定できます。
LPR lprm check host lpr pnerrchk	
Certificate Verification	
WS-MFP Network Device Name Comments Location Presentation URL WSD (Device) TCP Port WSD (Printer) TCP Port WSD (Printer) Job Timeout MetadataVersion UUID	

項目名	意味
IEEE 802.1X User Name Domain name EAP Type Password Phase 2 user name Phase 2 Method TTLS Phase 2 Method PEAP Server cert Intermediate CA Server ID Sub domain	IEEE 802.1X 関連の設定
Shell mode	リモートメンテナンスツールのモード

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。
- mshell の場合
syslog コマンドを使います。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

add_sess_IPv4:bad trap addr:<IPv4 アドレス>, community:<コミュニティ名>

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv6:bad trap addr:<IPv6 アドレス>, community:<コミュニティ名>

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [::] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv4: community <コミュニティ名> already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

add_sess_IPv6: community <コミュニティ名> already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

adjust time server <NTP サーバー> offset:XX sec.

ncsdがNTPサーバーとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。
NTPサーバー：NTPサーバー名
offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）

authenticating

サブリカントが、アクセスポイントとの認証処理（EAP または WPA）中です。

authentication mode mismatch

アクセスポイントの認証モードが、サブリカントが利用したいものと違います。サブリカントとアクセスポイントの認証モードを同じにしてください。

authenticated

サブリカントは認証されました。

認証が成功した場合は、常にこのメッセージが最後に表示されます。

centrod is disabled.

セキュリティモード設定で centrod（パラレル）が無効に設定されている場合、centrod（パラレル）起動後に出力されます。この場合、パラレル通信はできません。セキュリティモード設定で centrod（パラレル）を有効にしてください。

child process exec error！（プロセス名）

ネットワーク関連のプロセス起動に失敗しました。電源を再投入しても回復しない場合は、保守会社にご連絡ください。

cipher suite mismatch

アクセスポイントのユニキャスト / マルチキャスト暗号化スイート（TKIP/AES/WEP）が、サブリカントが利用したいものと違います。

client EAP method rejected

RADIUS サーバが、サブリカントによって選択された EAP メソッドを拒絶しました。

Client password rejected

ユーザー名またはパスワードが正しくありません。ユーザー名とパスワードを確認してください。

Client TLS certificate rejected

クライアントの TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Connected DHCP Server（<DHCP サーバアドレス>）

DHCP サーバからの IP アドレス取得に成功しました。

connecting

サブリカントが、アクセスポイントとの無線接続待ちです。

Connected DHCPv6 server <IPv6 アドレス>

接続した DHCPv6 サーバーは、<IPv6 アドレス> です。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続時にのみ表示されます。再接続時には表示されません。

connection from <IP アドレス>

ホスト <IP アドレス> よりログインされました。

Current Interface Speed : <Ethernet I/F 速度>

現在の Ethernet I/F の速度です。（10Mbps、100Mbps、または 1Gbps）。

Current IP address (<現在の IP アドレス>).

DHCP サーバから取得した <現在の IP アドレス> で動作します。

Duplicate IP=<IP アドレス> (from<MAC アドレス>)

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

DHCPv6 server not found.

DHCPv6 サーバーが見つかりません。ネットワーク上に DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続失敗時にのみ表示されます。接続に失敗したときは5分ごとに DHCPv6 サーバーに接続を試みますが、再び接続に失敗したときには表示されません。

DHCP lease time expired.

DHCP リース切れになりました。現在使用している IP アドレスは使用できません。IP アドレスを再取得してください。

disconnected

サブリカントは接続されていない状態です。

exiting

lpd のサービスを終了しプロセスを EXIT しています。

IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.

WPA をサポートしていない拡張無線 LAN ボードが装着されています。WPA 対応の拡張無線 LAN ボードを装着してください。

IEEE 802.11 Card Firmware REV.<バージョン>

拡張無線 LAN ボードファームウェアのバージョンです。

IEEE 802.11 current channel <チャンネル番号>

アドホックおよびインフラストラクチャモードでの無線 LAN 接続先変更時に表示される、現在動作中のチャンネル番号です。

IEEE 802.11 MAC Address = <MAC アドレス>

拡張無線 LAN ボードの MAC アドレスです。

IEEE 802.11 SSID <ssid> (AP MAC Address <MAC アドレス>)

インフラストラクチャモード時の接続したアクセスポイントの SSID およびアクセスポイントの MAC アドレスです。

IEEE 802.11 <通信モード> mode

IEEE 802.11 の通信モードを表示します。

(IKE phase-1) mismatched authentication type : local=< 相手認証方式 1> remort = < 相手認証方式 2>

IKE フェーズ 1 における本機の < 相手認証方式 1> と通信相手の < 相手認証方式 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched encryption type : local=< 暗号アルゴリズム 1> remort = < 暗号アルゴリズム 2>

IKE フェーズ 1 における本機の < 暗号アルゴリズム 1> と通信相手の < 暗号アルゴリズム 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched DH group : local=<DH グループ番号 1> remort = <DH グループ番号 2>

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ <DH グループ番号 1> と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ <DH グループ番号 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched hash type : local=< ハッシュアルゴリズム 1> remort = < ハッシュアルゴリズム 2>

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA< ハッシュアルゴリズム 1> と通信相手の ISAKMP SA< ハッシュアルゴリズム 2> が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。

IKE[%s] is disable, set PSK text.

PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリを無効としました。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface (インターフェース名) : Duplicate IP Address (<IP アドレス>) .

本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。

<interface name> card removed

サブリカントによって管理されている無線カードが取り除かれました。

<interface name> interface down

サブリカントに管理されているインターフェースが無効です。

<interface name> interface up

サブリカントに管理されているインターフェースが有効です。

<Interface> started with IP: <IP アドレス>

インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。

<Interface>: Subnet overlap.

<Interface> に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

- job canceled. jobid=< ジョブ ID >.
エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。
- IPP cancel -job : permission denied.
ジョブのキャンセル時にユーザ名による認証に失敗しました。
- LeaseTime=< リース時間 >(sec), RenewTime=< 更新間隔 >(sec).
DHCP サーバーから取得したリソースのリース時間は < リース時間 > 秒、更新時間は < 更新間隔 > 秒です。
- LEAP challenge to access point failed
アクセスポイントへの LEAP チャレンジが失敗しました。
- Login to fileserver < ファイルサーバー名 > (<IP>, <NDS|BINDERY>)
プリントサーバーが動作しているとき、< ファイルサーバー > に NDS または BINDEY モードでログインしました。使用しているトランスポートプロトコルも表示します。
- Manual[%s] is disable, set authentication key.
認証鍵がされていないため、対象の手動 SA エントリを無効としました。
- Manual[%s] is disable, set encryption key.
暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリを無効としました。
- MIC failure TKIP counter measures started
TKIP を用いているサブリカントが、60 秒以内に 2 箇所のデータ改ざんを見つけ、その対策を開始しました。
- MIC failure TKIP counter measures stopped
TKIP を用いているサブリカントが、データ改ざんが見つかり対策を開始して 60 秒経ち、その対策を止めました。
- Name registration failed. name=<NetBIOS 名 >
<NetBIOS 名 > の名前登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。
- Name registration success in Broadcast name =<NetBIOS 名 >
ブロードキャストによる <NetBIOS 名 > の名前登録に成功しました。
- Name registration success. WINS Server=<WINS サーバーアドレス > NetBIOS Name=<NetBIOS 名 >
<WINS サーバーアドレス > への <NetBIOS 名 > の名前登録が成功しました。
- no RADIUS/authentication server
サブリカントが、利用可能な RADIUS サーバがないというメッセージを受信しました。
- no WPA information element in probe response, rescanning
希望している SSID があるアクセスポイントからの Probe Response には、WPA の情報要素がありませんでした。サブリカントは、再スキャンしています。
- papd start. (AppleTalk)
papd (Printer Access Protocol Daemon) を起動しました。

print sessions full

接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。

server certificate invalid

サブリカントが、サーバー証明書が無効であることを検知しました。

server identity invalid

サブリカントが、指定されたサーバー名が無効であることを検知しました。

server not trusted

RADIUS サーバーは信用できません。

session_IPv4 <コミュニティ名> not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session_IPv6 <コミュニティ名> not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

shutdown signal received . network service rebooting ...

ネットワークのリポート処理を行います。

smbd start. (NetBIOS)

smbd (Server Message Block Daemon) が起動しました。

snmpd start.

Snmpd を起動しました。(電源 ON のみ表示します)

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名とネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. [応答コード] (インフォメーション)

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

snmpd start.

Snmpd を起動しました (電源 ON / OFF のみ表示します)。

started.

BMLinkD が起動しました。

stopped

サブリカントが停止しています。

success key received

サブリカントが EAP-Success キーを受け取りました。

success but invalid key

サブリカントは EAP 認証が成功したというメッセージを受け取ったが、EAPOL キーが無効です。

supplicant unbound

サブリカントが起動しましたが、アクセスポイントには接続されていません。

supplicant started

サブリカントが起動しました。

terminated.

手動 SA および IKE の設定がひとつも存在しないため、IKE サービスが停止しました。

terminate.

BMLinkS が無効のため終了します。

There is problem in dhcp server operation.

複数の DHCP サーバを設置している場合は、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバ間で矛盾がないかを確認してください。

trap account is unavailable.

v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。

unauthenticated

認証に失敗しました。サブリカントが、アクセスポイントから拒絶されたか、認証されていない状態です。

usbd is disabled.

セキュリティモード設定により usbd が無効に設定されている場合に、usbd 起動後に出力されます。この場合、PnP および印刷はできません。セキュリティモード設定で、usbd を使用可にしてください。

waiting for keys

サブリカントがセッションキーを待っています。

5

Updated (オプション名) (値) via DHCPv6 Server

DHCPv6 サーバーから取得したパラメータが更新されました。本メッセージは、パラメータ新規取得時と以前取得したものに対して変更があったときに表示されます。

WINS name registration : No response to server (WINS サーバーアドレス)

登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスに誤りがないか確認してください。または、WINS サーバーが正常に動作しているか確認してください。

WINS wrong scopeID = <スコープ ID>

不正なスコープIDが使用されています。正常なスコープIDを設定してください。

write error occurred. (diskfull)

スプールファイル書き込み中にディスクフルが検知されました。印刷処理が進み、HDD の空き容量が増えるのを待ってください。分割スプール対応以前のみ出力されます。

write error occurred. (fatal)

スプールファイル書き込み中に致命的なエラーが検知されました。電源再投入後に復帰しない場合は、サービスを依頼してください。

WSD (Device) started

WS-Device (WSD (Device)) が起動しました。

WSD (Printer) started.

WS-Printer (WSD (Printer)) が起動しました。

6. プリントサーバーの準備

ネットワークプリンターの設定についての説明です。

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Network Monitor for Client 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。

★重要

- ・ [プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには「プリンタの管理」、Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[ハードウェアとサウンド] のカテゴリの中から、[プリンタ] をクリックします。Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は、[デバイスとプリンター] を開きます。

2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

3 [共有] タブをクリックし、[このプリンタを共有する] を選択します。

4 プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、[追加ドライバ] をクリックしてインストールする OS を選択し、[OK] をクリックします。

プリンタードライバをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバをインストールした場合、この操作は必要ありません。

5 [詳細設定] タブの [標準の設定] ボタンから、クライアントに配布するドライバの初期値を設定し、[OK] をクリックします。

6 [OK] をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする

Network Monitor for Client の印刷通知機能を設定する方法の説明です。

プリントサーバーの設定をする

★重要

- プリントサーバーの設定を変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 [スタート] ボタンから、[プログラム] (Windows Vista、Windows Server 2008) では [すべてのプログラム]) - [Network Monitor for Client] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[プリントサーバー設定] をクリックします。

プリントサーバー設定ダイアログが表示されます。

2 「クライアントに印刷通知をする」をチェックして、[OK] をクリックします。

プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して [OK] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、処理を中断します。

3 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。[OK] をクリックします。

これでプリントサーバーの設定は終了です。各クライアントで、印刷通知の設定が必要です。

↓補足

- 印刷中のジョブはスプーラー一時停止後に最初から再印刷されます。
- 拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。

クライアントの設定をする

1 [スタート] ボタンから、[プログラム] (Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 では [すべてのプログラム]) - [Network Monitor for Client] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[拡張機能設定] をクリックします。

拡張機能設定ダイアログが表示されます。

2 「拡張機能設定を使用する」にチェックを付けます。

3 「印刷通知」の「プリントサーバーを利用する場合に通知します。」にチェックを付けます。

4 [OK] をクリックします。

印刷通知設定ダイアログが閉じます。

↓ 補足

- ・ プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。印刷通知の詳しい設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

7. UNIX で使う

UNIX の使用についての説明です。
UNIX はサポート対象外です。

セットアップ

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、セットアップ方法の説明です。セットアップの作業を簡単に行えるようにインストールシェルが用意されています。インストールシェルは通常のリモートプリンターのセットアップ作業 (/etc/hosts の設定、/etc/printcap の設定、スプールディレクトリの作成) をシェルスクリプトにより自動化して行います。

◆ セットアップの流れ

- ・インストールシェルに対応したワークステーションの場合、本機への IP アドレスを設定してからインストールシェルを実行します。
- ・インストールシェルに対応しないワークステーションの場合、本機への IP アドレスを設定してから /etc/hosts を設定します。
- ・lpr コマンドを使うインストールシェルに対応しないワークステーションの場合、本機の IP アドレスを設定し /etc/hosts および /etc/printcap の設定をしてからスプールディレクトリを作成します。

◆ 対応ワークステーション

インストールシェルは次の 6 種類のワークステーションに対応しています。これ以外のワークステーションの場合はインストールシェルを使わないでセットアップしてください。

- ・ SunOS 4.x.x
- ・ Solaris 2.x (SunOS 5.x)、Solaris7、Solaris8
- ・ HP-UX
- ・ RedHat Linux
- ・ UnixWare
- ・ OpenServer

↓ 補足

- ・インストールシェルは、CUPS をサポートしていません。CUPS の設定については、各ワークステーションおよび CUPS のマニュアルを参照してください。
- ・RedHat7.1 以降では、インストール時のセキュリティ設定により rsh/telnet が使用できないことがあります。セキュリティレベルを rsh/telnet で使用できるレベルに変更しておいてください。変更方法については RedHat の使用説明書を参照してください。
- ・Solaris および HP-UX をご使用の場合、付属の admintool でも設定することができます。設定方法については admintool のマニュアルを参照してください。
- ・NIS(Network Information Service) や DNS を使用している場合は、あらかじめサーバ側の設定をしてからインストールシェルを実行してください。

IP アドレスの設定

あらかじめ本機のネットワーク環境を設定しておきます。
IP アドレスを設定したら正しく設定されたかどうかワークステーション側から確認してください。

- TCP/IP プロトコルを有効にする（工場出荷時は有効です）。
- IP アドレスなど TCP/IP に関する項目を設定する。

1 次のように入力して確認します。（IP アドレスが 192.168.15.16 の場合）

```
# ping 192.168.15.16
正しく設定されていると次のように表示されます。
192.168.15.16 is alive
間違って設定されていると次のように表示されます。
no answer from 192.168.15.16
```

補足

- NIS を使用している場合はマスターサーバー上の /etc/hosts に、DNS を使用している場合はネームサーバー上のデータファイルに IP アドレスとホスト名を追加します。追加後、ホスト名を使って正しく設定されたか確認してください。サーバーに登録したホスト名は IP アドレスの代わりに使用できます。

```
# ping ホスト名
```

参照

- IP アドレスの設定方法については、本機に同梱の使用説明書を参照してください。

7

インストールシエルの実行

プリンターに IP アドレスを設定したら、インストールシエルを使ってワークステーションの印刷環境をセットアップします。

インストールシエルは ftp を使ってプリンターから取り出します。

1 プリンターを使用するワークステーションに root でログインします。

2 インストールシエルをプリンターから取り出します。

3 インストールシエルをコピーするディレクトリに移動します。

4 ftp コマンドで、設定した IP アドレスに接続します。

```
# ftp 192.168.15.16
Connected to 192.168.15.16
220 printer FTP server ready.
Name (192.168.15.16:root:)
```

- 5** ユーザー名の入力待ち画面では何も入力しないで [Return] キーを押します。

```
331 Password required for root.  
Password:
```

- 6** パスワードの入力待ち画面では何も入力しないで [Return] キーを押します。

```
230 User root logged in.  
ftp>
```

- 7** インストールシェルを取り出します。

```
ftp> get install
```

- 8** ftp を終了します。

```
ftp> bye  
221 Goodbye.  
#
```

- 9** インストールシェルを起動します。

```
# sh ./install  
カレントディレクトリであることを示すピリオド (.) を付けてください。
```

- 10** 使用しているワークステーションを数字で指定します。

```
Network printer install shell  
Select your workstation OS type.  
1. SunOS 4.x.x  
2. Solaris 2.x, Solaris 7-9(SunOS5.x)  
3. HP-UX  
4. UnixWare  
5. Linux  
6. OpenServer  
7. Quit
```

```
Enter <1-7>:
```

```
1
```

「7」を指定するとインストールシェルは終了します。

- 11** プリンターの IP アドレスを入力します。

```
Enter Printer host IP address <xxx.xxx.xxx.xxx> [return=skip]:  
192.168.15.16
```

ここで入力した IP アドレスが /etc/hosts に設定されます。

すでにプリンターのホスト名が登録されているときは、何も入力しないで [Return] キーを押します。このとき /etc/hosts には何も追加されません。

12 プリンターのホスト名を入力します。

Enter Printer host name :

rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁)

ここで入力した名前が /etc/hosts と /etc/printcap に設定されます。ただし、前の手順で IP アドレスを入力しなかったとき、/etc/hosts には何も追加されません。

13 プリンターの名前を設定します。

Enter logical printer name [default rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prn]:

そのまま [Return] キーを押すと「default」に表示されている名前に設定されます。

この名前を変更したいときは新しい名前を入力します。

ここで入力した名前が /etc/printcap に設定されます。

「default」には前の手順で入力したホスト名に _prn を付けた名前が表示されます。前の手順でホスト名を入力しなかったときは rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prn と表示されます。

14 印刷時のオプションを指定します。

オプションを指定しないときはそのまま [Return] キーを押します。

Enter remote printer name [default lp]:

filetype=RPS

hosts file is modified

#

インストールシェルによるセットアップが終了します。

ここでオプションを指定すると、入力した文字列が /etc/printcap の rp ケーパビリティに設定されます。lpr で印刷すると、このオプションを使って印刷されます。

同じプリンターに対して異なるオプションを指定して印刷するときは、インストールシェルをもう一度実行し、オプションごとにエントリーを作成してください。

15 テスト印刷します。

lpr -Prnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prn ファイル名

参照

- /etc/printcap について詳しくは、P.275 「/etc/printcap へのエントリーの追加」を参照してください。
- /etc/hosts について詳しくは、P.275 「/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加」を参照してください。
- 指定できるオプションについて詳しくは、P.278 「オプション指定 (UNIX)」を参照してください。

インストールシェルの実行結果

インストールシェルを実行すると印刷環境が自動的にセットアップされます。

ここでは、SunOS 4.x でインストールシェルを実行した場合にセットアップされる内容について説明します。

インストールシェルを使わないでセットアップする場合は、ここでの説明を参考に各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加

/etc/hosts に次の行が追加されます。

```
192.168.15.16 rnp xxxxxx(xx は MAC アドレスの下 6 桁) # Network Printer
192.168.15.16 は IP アドレス、rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) はプリンターの
ホスト名、# から行末まではコメントです。
```

↓ 補足

- /etc/hosts はネットワーク内で通信するすべてのホストの IP アドレスとホスト名を登録するファイルです。それぞれの項目はスペースかタブで区切られ、1 行で入力されます。
- NIS や DNS を使用していない場合は、ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上の /etc/hosts に追加が必要です。

/etc/printcap へのエントリーの追加

/etc/printcap に次のエントリーが追加されます。

これは lpr コマンドを使って印刷するための設定です。lpr コマンドを使って印刷するには、/etc/hosts ファイルの設定に加え、/etc/printcap にネットワークプリンターのためのエントリーを追加し、スプールディレクトリを作成する必要があります。

```
rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prn|HITACHI Network Printer:/
:rm=hitachi:/
:rp=filetype=RPS:/
:sd=/usr/spool/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd:/
:lf=/usr/adm/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd-errs:/
:mx#0:
```

↓ 補足

- /etc/printcap はプリンターの名前や属性を登録するファイルです。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーションの /etc/printcap に、ネットワークプリンターのためのエントリーが必要です。
- 同じプリンターに対し異なるオプションを指定して印刷するときは、オプションごとにエントリーを作成してください。
- 1 つのエントリーはコロン (:) で複数のフィールドに区切られています。読みやすくするために途中に改行を入れることができ、その場合は改行の前にバックスラッシュ (\) を入力します。
- 1 行目のフィールドはプリンターの名前です。ワークステーションからネットワークプリンターを指定するときに、この名前を使います。名前を「|」で区切ることで複数の名前を定義できます。

- 2 行目以降のフィールドはプリンターの属性です。プリンターの属性はケーパビリティと呼ばれる 2 文字の名前で表されます。ケーパビリティについて詳しくは次の表を参照してください。

ケーパビリティ	説明
lp	本機のデバイス名です。 通常何も指定しません。
rm	/etc/hosts に登録した本機のホスト名です。
rp	印刷時のオプションを指定します。
sd	作成するスプールディレクトリのパス名です。
lf	ログを格納するファイルのパス名を設定します。 たとえば /usr/adm/lpd-errs
mx	スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを設定します。通常何も指定しないか、適当な値を設定します。 0 を指定すると無制限、指定しないと 1024k バイトに設定されます。

スプールディレクトリの作成

/usr/spool/ ディレクトリにスプールディレクトリが作成されます。名前はプリンターの名前の最後に d を付けた名前です。

7

↓ 補足

- スプールディレクトリは、印刷を行うデータファイルの一時的なコピーが作成されるなど、印刷ジョブを制御するために使われます。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上に、ネットワークプリンターのためのスプールディレクトリが必要です。
- スプールディレクトリは /etc/printcap に書き込まれたネットワークプリンターのエンタリーごとに作成します。
- スプールディレクトリは通常 /usr/spool の下に作成します。スプールディレクトリは、/etc/printcap 中の sd ケーパビリティで指定したパス名と一致させ、オーナーとグループを daemon、許可モードを 775 に設定します。以下はスプールディレクトリとして /usr/spool/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd を作成するときのコマンド入力例です。

```
# cd /usr/spool
# mkdir rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
# chown daemon rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
# chgrp daemon rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
# chmod 775 rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
```

ログファイルの作成

/usr/adm ディレクトリにエラーのログファイルが作成されます。名前はプリンターの名前の最後に d-errs を付けた名前です。

オプション指定 (UNIX)

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

◆ オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

◆ オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ (,) で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール (=) を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ (,) を追加します。

◆ オプション指定の方法に制限がある OS の場合

オプション指定にイコール (=) が使用できない OS では、イコールの代わりにアンダーライン (_) が使用できます。

例えば、filetype をオプションに指定するときは、filetype_RPS (省略形は fil_RPS) のように入力してください。

また、オプション指定にカンマ (,) が使用できない OS では、カンマの代わりにセミコロン (;) が使用できます。

7

◆ Solaris 2.6 以上で指定できるオプションの数について

Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、プリンターの種類やコマンドによって、指定できるオプション数が異なります。

- lpr
 - リモートプリンターの場合
文字列制限の範囲内で複数指定可能
 - ネットワークプリンターの場合
コマンドにかかわらず一つのみ指定可能
- rsh
文字列制限の範囲内で複数指定可能
- rcp
コマンドにかかわらず一つのみ指定可能
- ftp
文字列制限の範囲内で複数指定可能

エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。

◆ filetype (または fil) = エミュレーションの指定値 (またはプログラム登録番号の指定値)

- エミュレーション：指定値
 - RPCS：RCS
 - RPDL：R00
 - GL/GL2 (GL モード)：RGL
 - GL/GL2 (RPGL2 モード)：GL2
 - R98：R98
 - R16：R16
 - R55：R55
 - PostScript 3：RPS, または POSTSCRIPT
 - RTIFF：RTF
 - PDF：PDF
 - BMLinkS：BMLINKS
- プログラム登録番号：指定値
 - プログラム 1：P01
 - プログラム 2：P02
 - プログラム 3：P03
 - プログラム 4：P04
 - プログラム 5：P05
 - プログラム 6：P06
 - プログラム 7：P07
 - プログラム 8：P08
 - プログラム 9：P09
 - プログラム 10：P10
 - プログラム 11：P11
 - プログラム 12：P12
 - プログラム 13：P13
 - プログラム 14：P14
 - プログラム 15：P15
 - プログラム 16：P16

◆ PostScript 3 で印刷場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)

- <rsh> % rsh hostname print filetype=RPS < file1
- <rcp> % rcp file1 hostname:filetype=RPS
- <ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

◆ ftp の cd コマンドの利用

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

ftp> cd オプション

↓ 補足

- 搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。

- ・現在設定されているオプションを表示するには `pwd` コマンドを使います。
`ftp> pwd`

漢字フィルター

漢字フィルターを使用すると、作成したテキストファイルと同じ漢字コードで印刷できます。

★重要

- ・エミュレーションが RPD L のときに有効です。漢字フィルターを指定するときはエミュレーションとして RPD L (`filetype=R00`) を指定します。
- ◆ **filter (または flt) = 漢字コード指定値**
 - ・漢字コード：指定値 (省略値)
EUC : EUC(E)
JIS : JIS(J)
シフト JIS : SJIS(S)
- ◆ **EUC** 漢字コードのテキストファイルを印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 `hostname`、ファイル名 `file1`)
`<rsh> % rsh hostname print filetype=R00,filter=EUC < file1`
`<rcp> % rcp file1hostname:filetype=R00,filter=EUC`
`<ftp> ftp> put file1 filetype=R00,filter=EUC`

給紙トレイ

給紙トレイを指定します。

★重要

- エミュレーションが RPD、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 増設していないトレイを指定しても無効です。

◆RPDL

- tray= 給紙トレイの指定値 (給紙トレイ : 指定値)
給紙トレイ 1 : 1
給紙トレイ 2 : 2
給紙トレイ 3 : 3
給紙トレイ 4 : 4
手差しトレイ : T
- 給紙トレイの指定値は機器情報で得られる給紙トレイ番号に対応しています。
- 給紙トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)
<rsh> % rsh hostname print tray=2 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:tray=2
<ftp> ftp> put file1 tray=2

◆PostScript 3、PDF

- tray= 給紙トレイの指定値 (給紙トレイ : 指定値)
給紙トレイ 1 : tray1
給紙トレイ 2 : tray2
給紙トレイ 3 : tray3
給紙トレイ 4 : tray4
手差しトレイ : bypass
自動トレイ選択 : all
- トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (プリンターのホスト名 hostname ファイル名 file1)
<rsh> % rsh hostname print tray=tray2 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:tray=tray2
<ftp> ftp> put file1 tray=tray2

↓補足

- 本機に装着していないトレイは指定しても無効です。

用紙サイズ

用紙サイズを指定します。

★重要

- ・エミュレーションが RPD L、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

◆ RPD L

- ・ paper= 用紙サイズの指定値 (指定値: 用紙サイズ)
 - A3R: A3 (タテ)
 - A4R: A4 (タテ)
 - A4: A4 (ヨコ)
 - A4X: A4 (タテ / ヨコ)
 - A5R: A5 (タテ)
 - A5: A5 (ヨコ)
 - A5X: A5 (タテ / ヨコ)
 - A6R: A6 (タテ)
 - B4R: B4 (タテ)
 - B5R: B5 (タテ)
 - B5: B5 (ヨコ)
 - B5X: B5 (タテ / ヨコ)
 - B6R: B6 (タテ)
 - DLR: 11"×17" (タテ)
 - LGR: 8¹/₂"×14" (タテ)
 - LTR: 8¹/₂"×11" (タテ)
 - LTX: 8¹/₂"×11" (タテ / ヨコ)
 - HLR: 5¹/₂"×8¹/₂" (タテ)
 - PCR: ハガキ (タテ)
 - WPC: 往復ハガキ (ヨコ)
 - WPCR: 往復ハガキ (タテ)
 - WPCX: 往復ハガキ (タテ / ヨコ)
- ・ A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)


```
<rsh> % rsh hostname print paper=A4R < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=A4R
<ftp> ftp> put file1 paper=A4R
```

◆ PostScript 3、PDF

- ・ paper= 用紙サイズの指定値
 - 指定値: a3 (A3), a4 (A4), a5 (A5), a6 (A6), jlsb (B4), jlsb5 (B5), jlsb6 (B6), ledger (11"×17"), legal (8¹/₂"×14"), letter (8¹/₂"×11"), halfletter (5¹/₂"×8¹/₂"), jpost (はがき), jpostd (往復はがき), jisenvlong3 (長形 3 号封筒), jisenvkaku2 (角形 2 号封筒), jisenvforeignlong3 (洋長 3 号封筒), custom (不定形サイズ)
- ・ A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)


```
<rsh> % rsh hostname print paper=a4 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=a4
<ftp> ftp> put file1 paper=a4
```

用紙種類

用紙の種類を指定します。

★重要

- ・エミュレーションが RPD、PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- ・存在しない用紙種類は指定しても無効です。

◆RPDL

- ・paper= “用紙サイズの指定値”+ “用紙種類の指定値”
指定値：plain (普通紙)、letterhead (レターヘッド付き用紙)、transparency (OHP フィルム)、recycled (再生紙)、special1 (特殊紙 1)、special2 (特殊紙 2)、special3 (特殊紙 3)、thick1 (厚紙 1)、thick2 (厚紙 2)、color (色紙)、envelope (封筒)、labels (ラベル紙)

◆RPDL で A4 (ヨコ) の再生紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> %rsh hostname print paper=A4R.recycled < file1
<rcp> %rcp file1 hostname:paper=A4R.recycled
<ftp> ftp>put file1 paper=A4R.recycled
```

◆PostScript 3、PDF

- ・mediatype= 用紙種類の指定値
plain (普通紙)、letterhead (レターヘッド付き用紙)、transparency (OHP フィルム)、recycled (再生紙)、special1 (特殊紙 1)、special2 (特殊紙 2)、special3 (特殊紙 3)、thick1 (厚紙 1)、thick2 (厚紙 2)、color (色紙)、envelope (封筒)、labels (ラベル紙)、plainorrecycled (普通紙 / 再生紙)

◆PostScript 3、PDF で再生紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:mediatype=recycled
<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled
```

7

排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

★重要

- ・エミュレーションが RPD、PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- ・増設していないトレイを指定しても無効です。

◆RPDL

- ・bin= 排紙トレイの指定値
排紙トレイの指定値は機器情報で得られる排紙トレイ番号に対応しています。
本体排紙トレイ：ST
- ・排紙トレイ番号 2 のトレイに排紙する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)
<rsh> % rsh hostname print bin=2 < file1

```
<rcp> % rcp file1 hostname:bin=2  
<ftp> ftp> put file1 bin=2
```

◆ PostScript 3、PDF

- outbin= 排紙トレイの指定値（排紙トレイ：指定値）
 本体排紙トレイ：upper、manual

印刷部数

印刷部数を指定します。

★重要

- エミュレーションが RPD、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 漢字フィルターを指定すると、印刷部数の指定は無効になります。
- PostScript 3 の場合、「qty」と同時に指定しないでください。

◆ copies= 印刷部数（1~999）

10 部印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）

```
<rsh> % rsh hostname print copies=10 < file1  
<rcp> % rcp file1 hostname:copies=10  
<ftp> ftp> put file1 copies=10
```

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

★重要

- エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- 「copies」と同時に指定しないでください。

◆ qty= ソート部数（1~999）

10 部ソートして印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）

```
<rsh> % rsh hostname print qty=10 < file1  
<rcp> % rcp file1 hostname:qty=10  
<ftp> ftp> put file1 qty=10
```

両面印刷

用紙の両面に印刷できます。

★重要

- ・エミュレーションが RPD、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・プリンター側に両面印刷ユニットが必要です。

◆RPDL

- ・ bothside または bothleft (左とじ)
bothright (右とじ)
flip (上とじ)
singleside (両面印刷の解除：片面印刷)
- ・ 左とじで両面印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)
<rsh> % rsh hostname print bothside < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:bothside
<ftp> ftp> put file1 bothside

◆PostScript 3、PDF

duplex=on (両面印刷する)

duplex=off (両面印刷しない)

- ・ 両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)
<rsh> % rsh hostname print duplex=on < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:duplex=on
<ftp> ftp> put file1 duplex=on

↓補足

- ・ RPD、で印刷オプションに漢字フィルターを指定している場合、両面印刷されないことがあります。このようなときは、漢字フィルターの指定をしないでください。
- ・ 印刷データによって印刷したあと両面印刷が解除されないことがあります。次の印刷時にも両面印刷されるときは singleside を指定してください。

解像度

印刷する解像度を指定します。お使いの機種によっては、設定できる解像度の指定値が異なります。

★重要

- ・ エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。

◆resolution= 解像度 (400,600,1200)

600dpi で印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

<rsh> % rsh hostname print resolution=600 < file1

<rcp> % rcp file1 hostname:resolution=600

<ftp> ftp> put file1 resolution=600

usercode

ユーザーコードを指定できます。

◆ 書式

```
usercode = "ユーザーコード"
```

◆ 説明

- ・ユーザーコードには半角数字 8 文字を指定できます。
- ・ユーザーコードの前後に "" を指定する必要があります。
- ・Windows の FTP クライアントの場合、usercode は指定できません。

↓ 補足

- ・OS によってはダブルクォーテーションは送信されないため、バックスラッシュ"¥" (0x5c) などのエスケープ記号が必要となる場合があります。たとえば rsh の場合、次のような書式となります。
 - ・ rsh hostname print usercode="¥12345¥" < 印刷ファイル
- ・ftp で出力する場合は次のように大文字で指定する必要があります。
 - ・ ftp> put filename USERCODE="¥12345¥"

オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

7

◆ BSD 系 UNIX ワークステーション

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

◆ Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。(例 プリンター名：printer)

- 1) スケジューラを停止します。


```
# /usr/sbin/lpshut
```
- 2) プリンターを削除します。


```
# /usr/sbin/lpadmin -x printer
```
- 3) スケジューラを再起動します。


```
# /usr/lib/lp/lpsched
```

E 参照

- ・P275 「/etc/printcap へのエントリーの追加」

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。(例 プリンター名：printer、ホスト名：hostname)

- lpq コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。
% lpq -P printer
- rsh、ftp または sftp コマンドを使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。
% rsh hostname パラメーター
% ftp hostname
User: ユーザー名
password: パスワード
ftp> get パラメーター
- rsh、rcp、ftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。
stat：機器の状態（ステータス）
stat：印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）
info：給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）
prnlog：これまでに印刷した記録（プリントログ情報）
syslog：ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

ファイルにコピーする場合

rcp、ftp コマンドまたは sftp を使って、指定したパラメータに応じた内容をファイルにコピーできます。(例 ホスト名：hostname、ファイル名：file1)

```
% rcp hostname :パラメータ file1
% ftp hostname
User: ユーザー名
password:
ftp> get パラメータ file1
```

↓ 補足

- パラメータの種類は、表示する場合と同じです。

8. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等についての説明です。

CD-ROM 収録ソフトウェア

ここでは、本機に同梱されている CD-ROM 「ドライバー&ユーティリティ/使用説明書」について説明しています。

ファイル一覧

CD-ROM 「ドライバー&ユーティリティ/使用説明書」に入っているファイルの一覧です。

ファイル名	参照
SETUPEXE	P.19 「おすすめインストール」
Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 用 RPCS プリンタードライバー	P.290 「RPCS プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 用 PS3 プリンタードライバー	P.290 「PS3 プリンタードライバー」
Network Monitor for Client	P.292 「Network Monitor for Client」
Network Monitor for Admin	P.291 「Network Monitor for Admin」
各種マニュアル	P.294 「マニュアル」

ドライバー (RPCS)

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。

RPCS プリンタードライバー

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

◆ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1 (32bit)、

DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 (64bit)

◆ **プリンタードライバーの動作環境**

- ・パソコン

対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ

- ・対象 OS

Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版

- ・ディスプレイ解像度

800×600 ドット以上

↓ 補足

- ・詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー (PS3)

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。PS3 が入っています。

8

PS3 プリンタードライバー

PS3 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

★ 重要

- ・PS3 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PS3 カードが必要です。

◆ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

D:¥DRIVERS¥x86¥PS¥WIN2K_XP¥DISK1 (32bit)、

D:¥DRIVERS¥x64¥PS¥XP_VISTA¥DISK1 (64bit)

◆ **プリンタードライバーの動作環境**

動作環境についての詳細は、『PostScript 3 ガイド』を参照してください。

↓ 補足

- ・詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Network Monitor for Admin

Network Monitor for Admin の機能とファイル格納場所の説明です。

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコルを使ってネットワーク上のプリンターを監視するソフトウェアです。IP アドレスを持つ複数のネットワークプリンターの管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

NETWORK¥x86¥NETMON¥ADMIN¥Disk1 (32bit)

NETWORK¥x64¥NETMON¥ADMIN¥Disk1 (64bit)

目 参照

- P.181 「Network Monitor for Admin を使う」

↓ 補足

- 本製品では、旧バージョンの Network Monitor for Admin はご利用いただけません。以前からご利用いただいている Network Monitor for Admin がインストールされている場合は、本製品に同梱されている CD から最新の Network Monitor for Admin にアップデートしてください。
本製品で使用可能なバージョンは以下になります。
V 7.1.1.1 以上
- 最新の Network Monitor for Admin は旧バージョンで対応していた機種にもご利用いただけます。

Network Monitor for Client

◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

NETWORK¥x86¥NETMON¥CLIENT¥DISK1 (32bit)

NETWORK¥x64¥NETMON¥CLIENT¥DISK1 (64bit)

◆ Network Monitor for Client の動作環境

- ・ パソコン
対象 OS が問題なく動作する PC/AT 互換機
- ・ 対象 OS
Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
- ・ ディスプレイ解像度
SVGA 800×600 ドット以上

↓ 補足

- ・ NEC PC-9800 シリーズ、PC-9821 シリーズ、PC98-NX シリーズでは動作しません。
- ・ 本製品では、旧バージョンの Network Monitor for Client はご利用いただけません。以前からご利用いただいている Network Monitor for Client がインストールされている場合は、本製品に同梱されている CD から最新の Network Monitor for Client にアップデートしてください。
本製品で使用可能なバージョンは以下になります。
V 8.7.5.1 以上
- ・ 最新の Network Monitor for Client は旧バージョンで対応していた機種にもご利用いただけます。

Network Monitor for Client

Network Monitor for Client は以下のような機能を備えたソフトウェアです。

- Windows から TCP/IP プロトコル、IPP を使用して、Peer-to-Peer ネットワークで印刷する機能を提供します。
- TCP/IP プロトコルを使用してネットワークにある機器の状態を常に監視できる機能を提供します。

◆ どんなことができるのか？

Network Monitor for Client では以下の操作ができます。

- Peer-to-Peer プリント機能
 - プリントサーバーが無くても、直接ネットワークプリンターに印刷できます。
 - 指定したプリンターにジョブがたまっていたり、エラーが発生して印刷できないとき、代替りのプリンターに印刷できます（代行印刷）。
 - 複数部数の印刷を複数のプリンターに割り振って印刷できます（並行印刷）。
 - 並行／代行印刷に指定するプリンターをあらかじめグループ登録できます。
- 印刷データを転送中または印刷中に指定したプリンターにエラーが発生した場合、エラーメッセージを通知させることができます。
- 機器監視機能
 - 印刷中、用紙切れなど機器の情報をパソコン上で確認できます。
 - 複数台の機器を使い分けられているときは、それらを同時に監視できます。
 - 機器のネットワークに関する設定や、オプションに関する詳しい情報を確認できます。
 - ユーザー ID を使ったジョブの履歴を確認できます。
- 印刷が完了したときに、[印刷通知] ウィンドウを表示して、印刷の完了を通知することができます。また代行印刷したときだけ表示させるなど、印刷条件により通知するかどうかを設定することができます。
- 自分が印刷した文書の履歴、印刷中のジョブ状態を一覧で確認できます。
- 印刷ページを、「プレビュー表示」と「ページ一覧表示」の2種類の方法で表示することができます。

↓ 補足

- 代行印刷／並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（例えばオプションの給紙テーブルなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。
- 代行印刷／並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターの機種やオプションが違う場合、印刷結果が同じにならないことがあります。
- 試し印刷や機密印刷をする場合、代行印刷／並行印刷はできません。
- Network Monitor for Client の使いかたについては、同梱の製品マニュアルとヘルプを参照してください。

マニュアル

付属の CD-ROM には、PDF 形式の使用説明書が収録されています。
マニュアルのファイル格納場所についての説明です。

◆ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

MANUAL¥PL3541

『セキュリティーガイド』の格納場所と PDF のパスワードについて

◆ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

ADMIN_MANUAL¥SECURITY¥PL3541

◆ **パスワード**

admin

Windows からのファイル直接印刷

Windows でコマンドを使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

★重要

- ・この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、たとえば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。
- ・搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

◆ Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2

lpr、rcp、ftp、sftp コマンドを使って印刷できます。

◆ Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2

lpr、ftp、sftp コマンドを使って印刷できます。

セットアップ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1 本機の操作部でTCP/IPプロトコルを有効にし、IPアドレスなどTCP/IPに関するネットワーク環境を設定します。

本機のTCP/IPプロトコルは、工場出荷時は「有効」に設定されています。

2 WindowsにTCP/IPプロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。

ネットワークに関する設定内容は管理者の方に確認してください。

3 Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2 で lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX 用印刷サービス」を組み込みます。

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合は、「LPD 印刷サービス」「LPR ポートモニター」を組み込みます。

↓補足

- ・IP アドレスの設定方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

E参照

- ・P301 「DHCP を使用する」
- ・P296 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバー上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

↓ 補足

- ・システム設定リストの印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

目 参照

- ・P.137 「テスト印刷メニュー」

その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

1 メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。
¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

2 hosts ファイルに IPv4 と IPv6 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4 の場合

```
192.168.15.16 host # NP
```

192.168.15.16 は IPv4 アドレスの例、host はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

IPv6 の場合

```
2001:DB:::100 host # NP
```

2001:DB:::100 は IPv6 アドレスの例、host はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3 ファイルを上書き保存します。

↓ 補足

- ・IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- ・IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server2003/2003 R2/2008/2008 R2、および Windows Vista/7 です。

印刷方法

lpr、rcp、ftp、sftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

◆ Windows 2000 の場合：

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

◆ Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合：

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

↓ 補足

- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
 - lpr : 10
 - rcp : 5
 - ftp : 3
 - sftp : 3
- ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- コマンドの中で指定する「オプション」はプリンター固有のオプションで、内容は UNIX から印刷する場合と同様です。UNIX を使ってオプションを指定する方法は、「オプション指定 (UNIX)」を参照してください。
- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

📖 参照

- P278 「オプション指定 (UNIX)」

lpr

◆ IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

```
c:> lpr -S プリンターの IP アドレス [-P オプション] [-o 1] ¥パス名 ¥ファイル名
```

◆ IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

```
c:> lpr -S プリンターのホスト名 [-P オプション] [-o 1] ¥パス名 ¥ファイル名
```

バイナリーファイルを印刷する場合は -o l (小文字の O と、小文字の L) オプションを付けてください。

ホスト名が host のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> lpr -Shost -Pfiletype=RPS -o 1 C:¥PRINT¥file1
```

◆ 仮想プリンターから印刷する場合

```
c:> lpr -S プリンターの IP アドレス (またはホスト名) [-P 仮想プリンター名] [-o 1] ¥パス名 ¥ファイル名
```

↓ 補足

- ・仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

目 参照

- ・P86 「仮想プリンターを使用する」

rcp

あらかじめ hosts ファイルにプリンターのホスト名を登録しておきます。

```
c:> rcp [-b] ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名 ...] プリンターのホスト名 : [オプション]
```

- ・ファイル名には「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- ・バイナリーファイルを印刷する場合は -b オプションを付けてください。

ホスト名が host のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 と file2 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> rcp -b C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2 host:filetype=RPS
```

◆ 仮想プリンターから印刷する場合

```
c:> rcp [-b] ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名 ...] プリンターのホスト名 : [仮想プリンター名]
```

↓ 補足

- ・hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- ・仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

目 参照

- ・P86 「仮想プリンターを使用する」
- ・P296 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

ftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

◆ 印刷するファイルが1つの場合

```
ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [オプション]
```

◆ 印刷するファイルが複数の場合

```
ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名 ...]
```

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。

1 本機の IP アドレス(または hosts ファイルに設定したプリンターのホスト名) を引数にして ftp コマンドを起動します。

```
% ftp 本機のアドレス
```

2 ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

```
User:
```

```
Password:
```

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

3 バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

4 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
```

```
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2
```

5 ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- mput コマンドではオプションを指定できません。
- pwd コマンドではオプションを指定できません。
- mput コマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 と file2 という名前のファイルを印刷する例
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2

sftp

sftp コマンドをご使用の場合は、クライアントソフトが必要です。
クライアントソフトは、ssh ver2 に準拠した物をご使用ください。

★重要

- 全てのクライアントが利用できるわけではありません。

1 クライアントソフトを起動します。

[psftp>open “ホスト名”] と表示されます。

2 ホスト名を入力し、[Enter] キーを押します。

[Login as : “ユーザー名”] と表示されます。

3 ユーザー名を入力し、[Enter] キーを押します。

初回アクセス時は [Store key in cache? (y/n)] と表示されるので、鍵情報と鍵を保管する (y) かしないか (n) を選択し、[Enter] キーを押します。

“ユーザー名” と “ホスト名” は入力した名称で表示されます。

4 パスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

パスワードは入力しても表示されません。

↓補足

- 詳しい手順については、クライアントソフトのヘルプまたは取扱説明書をご覧ください。

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows Server 2003/2003 R2、Windows 2000 Server および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- WINS サーバーを使用する場合は、「WINS サーバーを使用する場合」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

E 参照

- P.139 「システム設定リストを印刷する」
- P.302 「WINS サーバーを使用する場合」

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。

↓ 補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。

E 参照

- P.139 「システム設定リストを印刷する」
- P.213 「autonet」

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS (Windows Internet Name Service) サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Network Monitor for Client のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使用する方法

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。
Web Image Monitor のトップページが表示されます。
- 3 [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。
- 5 メニューエリアの [設定] をクリックし、[ネットワーク] エリアの [IPv4] をクリックします。
- 6 [イーサネット+無線 LAN] 欄の [WINS] が「有効」になっていることを確認し、[プライマリー WINS サーバー] と [セカンダリー WINS サーバー] にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 Web ブラウザーを終了します。

telnet を使用する方法

telnet でも WINS の設定ができます。

参照

- P.209 「telnet を使う」

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。

本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。

- ・セキュリティ設定がされていない
- ・セキュリティ設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

◆ 静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、無線 LAN の場合
RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）
ただし、ホスト名が CNAME と同じ（RNPXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

◆ DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- ・本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- ・本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、無線 LAN の場合
RNPXXXXXX（RNPXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

◆ IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

↓ 補足

- ・メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。

動作対象の DNS サーバー

◆ 静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCPv4 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCP サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server (Service Pack 3 以降) に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

8

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

目 参照

- P.218 「dns」

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

弊社製のネットワークユーティリティには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき

設定を行う場合

設定を行う場合は以下の項目に注意してください。

ご利用の環境に応じた設定をしないと拡張無線 LAN ボードが正しく動作しない場合があります。

- ・ネットワークの設定・・・ご利用の環境に応じた正しい設定にしてください。
- ・SSID の設定・・・ご利用のアクセスポイントと同じ設定にしてください。
- ・無線 LAN のセキュリティ設定・・・ご利用のアクセスポイントと同じ設定にしてください。

◆ アクセスポイントの設定

- ・MAC アドレスフィルタ・・・本体側の拡張無線 LAN ボードの MAC アドレスを登録し、通信が許可されているか
- ・IP アドレスフィルタ・・・本体側の IP アドレスを登録し、通信が許可されているか確認してください。
- ・IEEE802.1x の設定・・・ご利用の環境に応じた正しい設定にしてください。

上記の設定が正しいことを確認したら、本体側でインターフェースの選択を無線 LAN に切り替えてご使用ください。

正しく動作しなかった場合は以下の (1) ~ (3) の対応をお試しくください。

- (1) インターフェースの選択を無線 LAN からイーサネットに切り替え、上記〈無線 LAN 設定を行う場合の注意点〉を確認して設定し直してください。
- (2) (1) の手順を実行できない場合は、アクセスポイントの電源を一旦切って、再度 (1) の手順を行ってください。
- (3) (1) (2) の手順を実行しても設定ができない場合は保守会社へお問い合わせください。

ネットワーク接続している場合

ネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

◆ ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- ・ 本機とアクセスポイントを近づける。
- ・ アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- ・ アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

↓ 補足

- ・ アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

本機でできるセキュリティー対策

ここでは本機でできるセキュリティー強化について説明しています。
本章の設定を行うことができるのは管理者となります。

認証機能の利用とユーザー管理

★重要

- ・管理者認証、ユーザーコード認証以外の認証機能を使用するには、拡張 HDD が必要です。
- ◆ **認証機能の設定**
本機の正しい管理者、また正しいユーザーであることを確認するために、ログインユーザー名とログインパスワードを使用した管理者認証、ユーザー認証を行います。認証を行うためには本体の初期設定で、認証機能を有効に設定する必要があります。
- ◆ **ログイン認証情報を設定する**
ユーザーは本機のアドレス帳に登録された個人情報によって管理されます。ユーザー認証を有効に設定することで、アドレス帳に登録されたユーザーのみを機器の利用者として設定することができます。
- ◆ **使用できる機能を設定する**
登録されたユーザーに対して、使用できる機能を設定します。この設定により、ユーザーの使用できる機能を制限することができます。

情報の漏洩を防ぐ

- ◆ **文書の複製を抑止する**
不正コピー抑止機能を使用し、不正コピーを抑止するために文字列の地紋をつけて印刷できます。
- ◆ **文書の複製をガードする**
コピーガード機能を使用し、不正コピーをガードするために地紋を背景全体につけて印刷できます。
不正コピーガード文書を弊社の複写機／複合機でコピーや蓄積をしたときに、文書をグレー地にする効果を得るためには、オプションの不正コピーガードモジュールが必要です。
- ◆ **文書を他人に見せないように印刷する**
機密印刷機能を使用し、出力文書を機密文書として本機に蓄積してから印刷します。本機の操作パネルで印刷を指示し、印刷した文書をすぐに本人が回収するため、他人に見られることを防止することができます。
- ◆ **アドレス帳の登録情報を保護する**
アドレス帳のデータに対して、ユーザーのアクセス権を設定することができます。登録されたユーザー以外の第三者によるアドレス帳のデータの不正利用を防止することができます。
また、アドレス帳のデータを暗号化し、データの読み取りを防止することができます。

◆ ログ情報の管理

本機に記憶されたログを消去することでデータの漏洩を防止したり、ログデータをダウンロードすることで、不正読み取り履歴や読み取り者の確認ができます。

◆ ハードディスクのデータを上書き消去する

本機を廃棄するときに、拡張 HDD に蓄積されていたすべてのデータを上書き消去することや、一時的に保存していたデータを自動で上書き消去することで、データ漏洩を防止することができます。

拡張 HDD のデータを上書き消去するためには、オプションのセキュリティーカードが必要です。

アクセスの制限と管理

◆ 機器設定の変更を防止する

本機の各種機能の設定項目は、管理者の種類によって設定できる項目が異なります。また、管理者が設定すべき項目は、ユーザーでは変更できません。
管理者を登録して本機を運用します。

◆ 機能の使用を制限する

本機の各種機能に対してユーザーのアクセス権を設定し、第三者による不正操作の介入を防止することができます。

ネットワークのセキュリティー強化

◆ 不正なアクセスを防止する

IP アドレスに制限をかけたり、ポートを無効に設定することによって、ネットワーク上での不正アクセスを防止し、アドレス帳や蓄積文書、初期設定のデータなどを保護することができます。

◆ パスワードを暗号化通信する

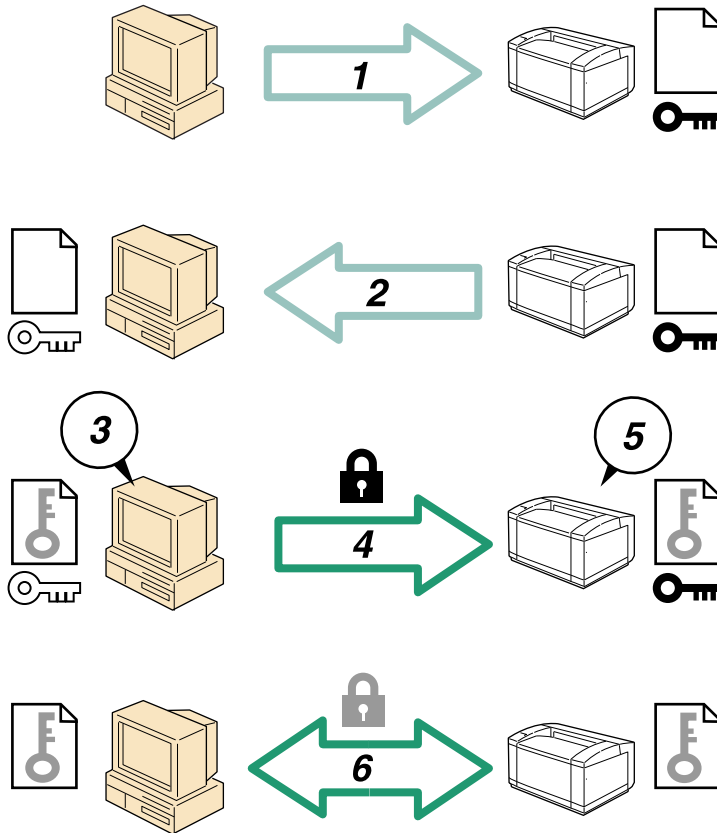
ログインパスワード、PDF 文書のグループパスワード、および IPP 認証のパスワードを暗号化通信し、パスワードを解析される脅威から保護することができます。

◆ 通信経路の保護と暗号化通信

本機では SSL、SNMPv3、IPsec を使用して暗号化通信を確立することができます。通信経路の保護や通信データの暗号化を行うことで、通信途中でのデータの盗聴、内容の解析、改ざんを防止することができます。

SSL（暗号化通信）の概要

通信経路の保護と暗号化通信ができるように、サーバー証明書を作成、導入します。サーバー証明書は、機器自身で作成、導入する自己証明書と、任意の認証局に証明書を申請し機器に導入する2つの運用形態があります。



BVN545

- 1) ユーザーのパソコンから本機へアクセスするとき、SSL のサーバー証明書と公開鍵を要求します。
- 2) 本機からユーザーのパソコンへサーバー証明書と公開鍵が送られます。
- 3) PC で共通鍵を生成し、公開鍵を使用して暗号します。
- 4) 暗号化された共通鍵が本機に送られます。
- 5) 本機で秘密鍵を使用し、暗号化された共通鍵が復号化されます。
- 6) 共通鍵を使用してデータを暗号化し、相手側で復号する安全な通信を実現します。

注意と制限

プリンターおよびシステムについて

最新情報の入手

- ・最新情報の入手については、(株) 日立製作所のホームページ <http://prinfinajp/> をご覧ください。

接続について

- ・インタフェースが複数あるプリンターの場合、プリンターの複数のインタフェースへ同時に印刷した場合、最初に受け付けられたジョブが印刷され、それ以外のジョブはデータ送信が保留され、そのため、保留されたデータについてメッセージやエラーが表示されたり、ジョブが混在する場合があります。また、同じインタフェースからのジョブが継続して送信されている間は、他のインタフェースからのジョブは保留される場合があります。
- ・ローカルポート接続時、大量のデータを印刷した場合、LPT1 エラーが発生することがあります。このような場合には、Windows のスタートメニューから、[設定] - [プリンター] を開き、プリンタプロパティの詳細タブにあるタイムアウトの設定時間を長くしてください。
- ・ネットワークの設定等によっては、プリンターの機能を十分にお使いいただけない場合があります。
- ・プリンターとパソコンの距離が離れている場合は、ネットワーク接続にてご使用願います。長いプリンタケーブルや長い USB ケーブル、中継器などを使用すると、ノイズなどによる文字化けやプリンター情報が取り込めないなどの問題が発生することがあります。中継器、切替器は使用しないでください。
- ・パラレル接続で印刷する場合、パソコンによっては、パラレルポートのモード (ECP/Bi-directional/Standard) によって正常に印刷が行なえないことがあります。この場合はパソコンのパラレルポートのモードを Bi-directional もしくは Standard に変更してください。詳しくはパソコンのハードウェアマニュアルを参照してください。
- ・パラレル接続時、通常は上位装置の電源を入れてからプリンターの電源を入れてください。ただし、上位装置によっては、誤動作によりプリンターに対してゴミデータが送信され、用紙が排出されることがあります。このような場合は、プリンターの電源を入れてから上位装置の電源を入れてください。
- ・ネットワーク接続する場合は、CD-ROM から「Network Monitor for Client」をインストール願います。Network Monitor for Client ポート (TCP/IP ポート) が使用できます。
- ・本装置の USB ポートはすべての USB 機器との接続を保証するものではありません。
- ・パラレル接続をする場合、プリンタケーブルは PC-PC1025H をご使用願います。プリンターのパラレルポートのコネクタ形状は一般的なプリンタコネクタと異なるタイプ C (ハーフピッチ) です。

- ・本製品では USB ポート A は使用できません。接続すると故障や誤動作の原因となる場合があります。

- ・無線 LAN ご使用時の注意

無線 LAN では、LAN ケーブルの代わりに電波を利用して情報のやりとりを行います。無線 LAN の電波は、一定の範囲内であれば壁などの障害物も越えて到達するため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- ・個人情報の漏洩
 - ・ID、パスワード、クレジットカードの番号やメールの内容などが、第三者に盗み見られる。
- ・ネットワークへの不正侵入
 - ・ウィルスなどによってデータやシステムを破壊・改ざんされる。
 - ・特定の人物になりすまして不正な情報を流される。
 - ・機密情報が持ち出される。

これらの問題が発生する可能性を少なくするためには、本機や無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に搭載されている機能を確認し、セキュリティに関する設定を行うことをお勧めします。

下記の条件において通信状態が不安定になることがあります。

- ・本装置とパソコンの間に障害物がある場合
- ・距離がある場合
- ・他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合

また、ご使用の環境によっては、性能が出ないことがあります。

仕様（プリントタイム、本体・消耗品寿命）

- ・ウォームアップタイム（12 秒）、ファーストプリントタイム（6.5 秒）、印刷速度（A4 横 35 ページ/分）、製品寿命（120 万ページ）は仕様値であり最良値です。印刷データや用紙、環境、使用状況により低下する場合があります。印刷を開始するまでには、パソコンでの印刷データ生成、データ転送、プリンター内でのデータ処理の時間が必要なため、複雑な印刷データや大量の印刷データなどの場合は、ウォームアップタイムは 12 秒以上かかったり、ファーストプリントタイムが 6.5 秒以上かかったり、印刷速度が A4 横 35 ページ/分以下になったりする場合があります。また、1 ページごとの断続的な印刷や長時間の連続印刷などではプリンターに負荷がかかるため、製品寿命が 120 万ページ以下になる場合があります。
- ・本製品には、有寿命有償部品が使用されています。交換目安の印刷枚数は用紙サイズ A4 の横送り連続印刷時の目安となります。ただし、お客様の使用条件、使用環境によって半分以下になる場合があります。また、寿命を超えた使用は、ジャムなどの印刷不良や用紙搬送不良につながります。定期的な保守による部品交換（定着ユニットや給紙ローラ、分離パッド等）が必要ですので、交換時期が近づきましたら、保守会社へ連絡をお願いします。

部品名	交換目安
フリクションパッド	印刷枚数 約 9 万 ページ
給紙コ口	印刷枚数 約 9 万 ページ
転写ローラー	印刷枚数 約 9 万 ページ
定着ユニット	印刷枚数 約 9 万 ページ
防じんフィルター	印刷枚数 約 9 万 ページ

- ・本製品は、下記の使用条件下で、パソコンに接続して使用されることを想定して設計・評価した製品です。異なる条件下でご使用になる場合は、独自にその条件下での性能をご確認のうえ、本製品をご採用ください。

- ・設置環境：一般オフィス（動作環境：温度 10～32.5℃、湿度 20～80%RH）
- ・平均稼働時間：一日あたり平均 8 時間 / 1 ヶ月当り 20 日間
- ・月間平均印刷枚数：4,500 ページ（最大 20,000 ページ）
- ・装置寿命：使用期間あるいは総印刷ページ数のいずれか早い方
 - ・使用期間：5 年
 - ・通電時間：9,600 時間（8 時間 / 日 × 20 日 / 月 × 12 月 / 年 × 5 年）
 - ・総印刷ページ：120 万ページ（A4 横）

月間印刷ページ数が：4,500 ページ（最大 20,000 ページ）を超えていたり、1 日に合計 8 時間以上電源が入っていたり、総印刷ページ数が 120 万ページ（A4 横）を超えたりすると、想定された年数より使用年数が短くなる場合があります。

- ・省エネモードの移行設定を「移行しない」に選択して使用された場合、寿命が短くなる場合があります。
- ・本製品は A4 サイズ用紙を横置きにセットした場合のマルチコピーモードで 1 分間に 35 ページを印刷する性能がありますが、印刷データや用紙、環境により性能が変わります。特に、幅が A4 横以下の幅狭用紙や厚紙を印刷する場合は、用紙の通らない両端部分が異常に高温になり故障の原因となるので、定着器保護のため、印刷速度が遅くなる事があります。

用紙サイズ	：	印刷速度（印刷データや用紙、環境により変わります）
A3 縦	：	19.5 ページ / 分
B4 縦	：	22.5 ページ / 分
A4 横	：	35 ページ / 分
A4 縦	：	21 ページ / 分
B5 横	：	40 ページ / 分
A5 縦	：	31 ページ / 分

8

PDL について

- ・本製品の印刷制御言語は RPCS、あるいは PostScript3（オプション）です。RPCS、あるいは PostScript3 以外の印刷データを生成するアプリケーションをご使用の場合、意味不明の文字が印刷されるなど正常に印刷されない場合があります。印刷制御言語を RPCS、あるいは PostScript3 に変更する必要があります。
- ・RPCS、あるいは PostScript3 以外の印刷データを生成するアプリケーションからの印刷には、ご使用頂けません。
- ・LIPS、ESC/P、ESC/Page データを生成するユーザプログラムはご使用いただけません。ユーザプログラムの変更やシステム構成の見直しをお願い致します。
- ・CommuniNet の 560 +（プラス）（パススルー印刷、ページモード印刷）は、ご使用いただけません。GDI モード（プリンタードライバ経由）にてご使用願います。
- ・3050RX や 3500 などの HI-UX/WE2 のプリンター API 印刷機能を使用する PP（OFIS-EX2 シリーズ、UIBT、XP/W、PANEL-EX2 など）はご使用いただけません。
- ・印刷データを PostScript 言語に変更することで HI-UX/WE2 のラインモード出力や HP-UX の lp 出力に対応可能な場合があります。事前に動作確認を行った上で導入願います。PostScript を印刷するためには PS3 カード（オプション）が必要になりますので、ご用意願います。

電源について

- ・プリンターの電源をシステム装置のサービスコンセントから取ることはできません。必ず接地端子のある AC コンセント（AC100V、50/60Hz、9A）を 1 口準備し、プリンター専用で使用してください。プリンターのアースは必ず接地してください。アースが無いとノイズにより文字化けや動作不良を起こすことがあります。また、パソコンのアースも接地することを推奨致します。
- ・電源スイッチを Off にする際には、シャットダウンを行ってから電源スイッチを Off にしてください。先に電源スイッチを Off にすると、HDD やメモリーが破損し、誤作動を起こすおそれがあります。

使用環境

◆ メモリー増設のお願い

- ・標準メモリー容量で速度低下、エラー発生、印刷不良等の問題がある場合、メモリー増設で回避できることがあります。
- ・PostScript をご使用の場合はメモリー増設を推奨します。
- ・透明機能を含む PDF ファイルを直接印刷する場合には、メモリーの増設が必要です。

使用上の注意と制限事項

- ・印刷に関するトラブルは Microsoft のサポート技術情報も併せてご確認ください。
- ・CD-ROM 内の「Readme」には、プリンタードライバーや印刷に関する注意事項、制限事項などが書かれています。必ずお読みください。
- ・用紙に「厚紙」を使うと、印刷物に連続（通紙方向側）した黒点が写る場合があります。
- ・印刷中は、本製品に衝撃を与えないでください。印刷不良の原因になります。
- ・日立カット紙プリンターシリーズにおきましては、ハードウェア、ソフトウェア共に新旧完全互換機種ではありません。ドライバー機能、パネル設定機能、ハードウェア構成、インターフェース構成、デフォルト動作設定、動作環境等において異なる場合があります。旧機種からの移行の場合は、事前に十分ご検証を実施頂きますようお願いいたします。
- ・幅の狭い用紙はプリンターに負荷がかかります。大量にまたは連続して印刷すると寿命が短くなる場合があります。また、印刷速度が遅くなる場合があります。
- ・不定形サイズの印刷は、定形サイズに比べ用紙送り性能や印刷品質が低下することがあります。事前に十分評価の上、ご使用ください。
- ・重要な印刷物は印刷結果の目視チェックを行って、ダメージのあるものは再印刷をお願い致します。
- ・本製品は前面を通して用紙搬送していますので、印刷中は、給紙しているトレイ以外のトレイも引き抜かないようにしてください。紙づまりや故障の原因となります。
- ・用紙カセットに A3/B4 をセットするときは、カセットを伸ばす必要があります。カセットを伸ばした場合、プリンターの背面から 165mm 飛び出します。また、両面印刷ユニットを搭載した場合、プリンターの背面から 115mm 飛び出します。
- ・次の機能は、サポート対象外となっております。印刷および動作等の保証はしておりません。また、質問などにもお答えできかねますのでよろしくご理解願います。この機能をご使用になる場合には、お客様ご自身で十分に動作確認をしていただき、お客様の責任においてご利用いただくようお願いいたします。
 1. 次の用紙サイズ以外への印刷：A3、B4、A4、B5、A5、A6、はがき

2. UNIX・MAC 環境での印刷
3. 提供しているプリンタードライバー以外を使用しての印刷
4. 日本語以外の OS からの印刷

ただし、個別にサポートしている機能・アプリケーションは除きます。

- ・コントローラーボードをセットする場所に手を入れないでください。故障やけがの原因になります。
- ・手差しトレイ、「全用紙サイズ・用紙種類許可」/「全不定形サイズ・用紙種類許可」設定時の注意
 - ・手差しトレイの設定を「全用紙サイズ・用紙種類許可」「全不定形サイズ・用紙種類許可」にすると、様々なサイズの用紙に印刷ができますが、手差しトレイにセットされている用紙サイズよりも印刷指示されたデータの用紙サイズが大きい場合、プリンターの寿命や印刷品質に影響を与えることがありますので、そのような条件ではご使用にならないよう、ご注意ください。
 - ・印刷速度は通常の印刷に比べて遅くなります。
 - ・ジョブを受信したとき、手差しトレイに用紙がセットされていない場合は、用紙の補給を促すメッセージが操作部に表示されます。表示されている用紙サイズ、用紙種類を確認し、印刷したい面を上にして用紙をセットしてください。
 - ・1つの文書に用紙サイズの異なるページが混在している場合で、本体トレイに一致する用紙がない場合は、すべてのページを手差しトレイから印刷します。本体トレイに一致するページがある場合は、一致するページのみ本体トレイから印刷します。
 - ・ジョブで指定した用紙サイズと手差しトレイから給紙された用紙サイズが異なるときは、操作部に警告画面が表示されます。対処方法についてはマニュアルに記載の「手差しトレイからの印刷を継続する」を参照してください。
- ・拡張無線 LAN または拡張ギガビットイーサネットボードのイーサネットインターフェースは、標準のイーサネットインターフェースと同時に使用することはできません。
- ・拡張ギガビットイーサネットボードはジャンボフレームに対応していません。
- ・アプリケーションで不定形サイズの設定ができない場合、不定形サイズの印刷はできません。
- ・両面印刷禁止に設定してあるトレイから給紙した場合、片面で印刷されます。
- ・500 枚増設トレイユニットのトレイの底板にある用紙圧変更スイッチは、使用する用紙の厚さに合わせて変更して使用してください。

OS のサポートについて

- Windows 95/98/Me/NT4.0/2000、NEC 社製 PC-98 シリーズはサポートしていないため、印刷できません。
- DOSV 機上で動作する Microsoft Windows XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 環境でご使用いただけます。ただし、OS に関するサポートは Microsoft の OS サポート期間内のみとなります。
- プリンター添付の CD-ROM にプリンタードライバーを格納していますので、プリンタードライバーをインストールしてからご使用願います。
- MS-DOS、Windows 上の DOS プロンプト及び DOS アプリケーション、Windows 95/98/Me/NT4.0/2000 については、Microsoft の OS サポートが終了しているためサポートいたしません。
- プリンタードライバーは従来機とは異なります。従来機のプリンタードライバーを使用して印刷すると誤印刷の原因になります。各プリンター専用のプリンタードライバーをインストールして印刷願います。
- Windows のネットワークポートについて
 - UNIX 互換 (LPR) ポートは、プリンターの準備ができていない場合、5 分でデータが再送される場合があります。
 - Standard TCP/IP ポートは、プリンターの準備ができていない場合 90 秒でデータが再送される場合があります。

ソフトウェアに関して

ドライバーインストール・アンインストール

- Windows 2000 以降の OS では、プラグアンドプレイの機能がサポートされているため、パラレルポート接続でプリンタードライバーをインストールすると、この機能が働き、OS にバンドルされているミニドライバーがインストールされる場合があります。本製品をインストールする際は、下記いずれかにより、プラグアンドプレイ機能が働かない状態で行ってください。
 - プリンターが起動していない状態。
 - プリンターケーブルを本体に接続していない状態。
 - プリンター追加ウィザード中の「プラグアンドプレイプリンターを自動的に検出してインストールする」のチェックを外す。
 - インストール時のみプリンターポートとしてパラレルインターフェース以外のポートを選択し、インストール後に切り換える。
- インストールする際はすべてのアプリケーションを終了してからインストールを始めてください。インストール作業時、インストールが完了するまでは、CD-ROM を抜かないでください。システムエラーが発生することがあります。
- インストール作業終了後、プリンタードライバー設定画面が正常と思われない場合は、一度インストールされたドライバーを削除し、パソコンなどの上位装置を再起動した後、再度ドライバーのインストール作業を行ってください。

- ・プリンタードライバーのインストール中は、インターフェースケーブルを接続したり抜いたりしないでください。
- ・プリンタードライバーを共有設定で使用する場合には、プリンター同梱 CD-ROM のオートランプログラムまたは、SETUPEXE によるインストールは使用できません。その場合、プリンターフォルダの「プリンターの追加」を用いてプリンタードライバーをインストールしてください。
- ・本製品ドライバーをインストールする際、デジタル署名の確認画面が表示される場合がありますが機能上問題はありません。インストールを継続してください。

ドライバーに関する注意と制限事項

- ・プリンター本体の設定項目の「白紙排紙（ハクシハイシ）」を、「しない」に設定すると、アプリケーションによっては、途中の白紙ページも排出しない場合があります。
- ・異なる Windows OS（クロスプラットフォーム）のプリンタードライバーを使用する場合は、クライアントマシンがプリンタードライバーをロードする前に、必ずサーバーに代替ドライバーをセットアップしてください。
- ・複数のプリンターまたはプリンタードライバーを使用する場合は、プリンターまたはプリンタードライバー毎にプリンターアイコンを作成して、それを切り換えてご使用ください。

印刷に関する制限／注意事項

ご使用のパソコンで、Windows システム上における仮想メモリーの設定が小さいとメモリー不足が発生し、アプリケーションやプリンタードライバーでの描画処理を正常に行うことができず、以下のような現象が発生し、正常に印刷されない場合があります。このような場合には Windows システム上の仮想メモリーの設定を大きくして印刷してください。仮想メモリーの設定を大きくしても効果がない場合には、パソコン上のメモリーを増設してください。

- ・メモリー不足メッセージの表示
- ・アプリケーションエラーの発生
- ・警告なしの印刷中断
- ・プリンター側の表示パネルにエラーメッセージの表示がなされ、印刷が途中で終了する。
- ・ご使用のパソコンの搭載しているメモリーの量によってはアプリケーションからの印刷処理に時間がかかる場合があります。また、メモリーの制限などで OS やアプリケーション側で印刷処理が継続できなくなった場合はアプリケーション側で印刷処理を中断してしまう場合があります。
- ・使用環境や印刷されるデータにより、一般保護違反エラーが発生する場合があります。
- ・使用するディスプレイドライバーにより、一部正常に印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションによってはプリンタードライバーの縮小指定を行うと一部正常に印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションによっては、画面上の網掛けパターンと印刷結果が異なる場合があります。
- ・アプリケーションによっては、画面上のイメージデータが一部印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を開いて印刷設定をおこなう場合、その設定内容（例：両面印刷の指定など）がアプリケーションによっては、印刷後に保持されない場合があります。これらの設定値を保持する・しないはアプリケーション

ン側に依存しているため、繰り返し印刷をおこなう場合や、次のアプリケーション起動時に、前回の設定値が必ずしも正確に反映されない場合があります。アプリケーションから印刷をおこなう場合には、そのつど必ず印刷画面からプロパティを開き、印刷条件を再度設定したうえで印刷を実行するようにしてください。

- 用紙方向が混在する文書の印刷において、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて選択する " 原稿方向 " が、先頭ページの原稿方向と一致していない場合、各ページの用紙方向が適正に設定されているにもかかわらず正しい印刷結果が得られない場合があります。この場合、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて設定する " 原稿方向 " を先頭ページの原稿方向と合わせてください。
- スタンプ文字を印字する際に、大きな文字を印字すると印刷が遅くなる場合があります。このような場合には、スタンプ文字のサイズを小さくして印刷してください。
- Windows XP Professional/Vista/7 および Windows Server 2003/2008 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンターの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンターのプロパティで行った設定が、このプリンタードライバを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- [プリンターと FAX] ウィンドウから、印刷設定のプロパティを表示させる場合、印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定のプロパティで行った設定が、このプリンタードライバを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- アプリケーションソフトによっては、印刷ダイアログを独自に拡張しているものがあります。アプリケーションソフト固有の印刷機能やオプション設定などについては、それぞれのアプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- Adobe Acrobat/Adobe Reader のバージョンまたは印刷データによっては、プリンタードライバ機能との組み合わせによりお客様が期待していない動作、印刷結果となる場合があります。
- アプリケーション (Excel 等) によっては、印刷の設定がファイル保存時に同時に保存される場合があります。それが原因で下記のような動作を起こすことがあります。印刷設定を確認のうえ、ご使用ください。

保存時の「通常使うプリンター」と使用時の「通常使うプリンター」が違う場合

- 保存時の設定が引き継がれない

(例：両面印刷の設定をして保存し、保存したファイルを「通常使うプリンター」と違うプリンターに設定されている状態で印刷すると、片面で印刷されることがある (ツールバーの「印刷」でプリンターをファイル保存時と同じものに変更しても解除されている)、等)

保存時の「通常使うプリンター」と使用時の「通常使うプリンター」が同じ場合

- 保存時の設定が引き継がれる

(例：両面印刷の設定をして保存し、保存したファイルを「通常使うプリンター」と同じプリンターに設定されている状態で印刷すると、デフォルト設定が片面印刷になっ
ていても両面で印刷されることがある、等)

- ・インターネット回線などの外部回線を経由してプリンターとコンピューターが接続されている場合、LAN での接続に比べて、印刷速度が遅くなる場合があります。外部回線を経由した印刷が回線速度を考慮しても著しく遅い場合は、プリンタープロパティの [ポート] タブ → [ポートの構成] → [LPR バイトカウントを有効にする] のチェックを外して印刷速度が改善される場合があります。
- ・アプリケーションの「部単位で印刷」の設定は "OFF" にして印刷を行ってください。ソートの設定はドライバー上の「ソート」の項目で行ってください。
- ・「不正コピー抑止」機能は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
 - ・不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合があります。この点をご理解の上、ご使用ください。
 - ・不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、一切その責任をおい兼ねますので、あらかじめご了承ください。
- ・Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 の Active Directory Service において、機能や属性（例：両面印刷、印刷速度、用紙サイズ）でプリンターを検索する手段が提供されていますが、本製品ドライバーはこの機能に未対応です。本ドライバーの導入時その他で、この検索機能を利用しないでください。
- ・Adobe Acrobat において、文字化けする場合があります。この場合は、印刷ダイアログのプリンタプロパティを開き、「印刷品質」タブの [ユーザー設定の変更] で、「イメージデータに変換して印刷する」に変更するか、「応用設定」タブの [TrueType フォントの置換編集] においてフォントの変更を行うと、解決できる場合があります。（機種によっては [TrueType フォントの置換編集] 機能はありません）
- ・機密印刷機能により拡張 HDD（オプション）に蓄積された文書は、プリンターの電源を切っても消去されずに残ります。機密印刷を実行すると蓄積された機密印刷ジョブは自動的に削除されます。以下の場合、文書は拡張 HDD に蓄積されません。文書が蓄積されなかったことが分かるように通知させるには、「Network Monitor for Client」の印刷ポートを使用し、「印刷通知」の「印刷処理中にエラーが発生した場合に通知する」を有効（チェックあり）にしてください。また、蓄積されなかった文書はエラー履歴で確認できますが、古くなった履歴は削除されます。
 - ・機密印刷と試し印刷の文書が、拡張 HDD に合計して 100 ジョブ蓄積されているときに送信された 101 番目の文書（印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります）
 - ・1 文書あたり 1,000 ページを超える文書を送信した場合
 - ・送信した文書が、拡張 HDD に蓄積されている文書の総ページ数と合わせて、9,000 ページを超える場合（印刷データに）よっては、この文書数よりも少なくなることがあります）
- ・SSL（暗号化通信）印刷のサポート OS は、Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7。プロトコルは IPP です。IPP ポートの接続ポート数は 1 つです。なお、IPP プロトコルでは、データの再送が考慮されていません。IPP ポートを使用する場合は、プリンタービジーやエラーなどによる再送を考慮した運用が必要です。IPP ポートの作成は Network Monitor for Client から行ってください。SSL（暗号化通信）は「Network Monitor for Client」の IPP ポートのご使用を推奨します。プリンターの URL は、「https://（本製品のアドレスまたはホスト名）」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いくださ

- い。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- ・双方向通信がうまくいかない場合は印刷速度が遅くなることがあります。RPCS プリントドライバの印刷処理の配分でコンピューター優先を選択してください。
 - ・Windows Server 2003 ではログイン権限によって双方向通信できない場合がありますのでご注意ください。
 - ・高解像度モード（1200dpi 相当）では高精細な印刷が行えますが、印刷データのサイズが増加したり、モアレが強調される場合があります。また、極細線や極小網点は、印刷されない場合があります。

RPCS プリントドライバに関する注意と制限事項

◆ Windows Server 2003 動作時の制限事項

- ・Windows Server 2003 環境では一般ユーザー権限では以下の機能が使用できなくなります。使用できない機能は半輝度としています。印刷方法、合成の追加、設定内容の保存 / 呼び出しは、Administrator 権限でも使用することができません。
 - ・印刷方法
 - ・合成の追加
 - ・ワンクリックアイコンの登録
 - ・印刷品質—ユーザー設定の登録
 - ・不定形サイズの登録
 - ・合成・スタンプの登録
 - ・設定内容の保存 / 呼び出し

◆ 印刷に関する制限 / 注意事項

- ・Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 環境では、Windows ディレクトリがあるドライブの直下に、"_rpcs" ディレクトリが生成されます（例えば、Windows ディレクトリが C:\Windows の場合には、C:_rpcs が生成されます）。通常このディレクトリは、隠しフォルダで生成されます。
- ・集約印刷・変倍機能を使用して印刷される場合、描画位置によって罫線の太さが違って印刷されることがあります。
- ・スタンプ印字にて文字スタンプの中抜き指定と太字指定を同時指定した場合、ご使用の OS により太字印字が効かない場合があります。
- ・Windows の区切りページを使用すると正常に印刷されない場合があります。
- ・Windows XP の Fast User Switching モードで複数ユーザーからご利用なる場合、以下の機能は、あるユーザーで設定した値が他のユーザーにも反映されるので注意してください。必ず、プリントドライバの画面で正しい設定になっているかを確認してから印刷してください。
 - ・ワンクリック設定アイコン
 - ・印刷品質ユーザー設定アイコン
 - ・印刷方法
 - ・スタンプ
 - ・合成
 - ・不定形サイズの登録
 - ・章区切り

- 複数部数をソート機能を使用しないで1→1→2→2のようにページ単位で印刷する場合には、[プリンター] ウィンドウからプリンタードライバーの設定画面を開き、仕上げタブの [ソート (一部ごと)] のチェックをはずしてください。
- 封筒やパンチ済み紙のように方向を持つ用紙の場合、180 度回転した印刷結果になることがあります。この場合、[その他タブ] の [180 度回転] を指定してご使用ください。この場合には、[初期設定画面] の [原稿方向混在設定] を指定してご使用ください。
- OS の言語と異なる言語のプリンタードライバーを使用すると、文字が正常に印刷されなかったり、プリンタードライバーの画面上の文字が正常に表示されなかったりすることがあります。
- プリンターフォント使用時半角アップバー (~) は上付き直線になります。
- Microsoft Office バインダーからの印刷はできません。
- プリンタードライバーのプリンター名、ポート名が 32 文字以上の場合、アプリケーションからそのプリンターを選択したり、印刷開始するとアプリケーションが強制終了する場合があります。このような場合は、プリンタードライバーのプリンター名やポート名を短くしてください。
- 「不正コピー抑止」機能で [繰り返し印字] を指定すると、フォントの種類によっては印刷ができなくなることがあります。このような場合は、[行間] を広げてご使用ください。
- 「不正コピー抑止」機能で [文字列のみ] を指定すると、マスクパターンは印刷されません。マスクパターンを印刷する場合はこのチェックをはずしてください。
- 「不正コピー抑止」機能で [中抜き] を指定する場合は [文字列地紋・背景地紋入れ替え] も指定してご使用ください。
- 大きなサイズや高解像度のイメージデータを印刷する場合、メモリーの不足により印刷されない場合があります。解像度を 1200dpi で印刷している場合は 600dpi に設定して、改善を試みてください。
- 変倍機能で、独立変倍を指定した場合、文字データが正常に印刷されない場合があります。
- 合紙指定をすると部数指定が無効となります。このとき、[ユーティリティー] タブの「印刷プレビュー画面を表示」をチェックして印刷を行った場合も印刷プレビュー画面の部数指定は無効になります。
- アプリケーションによっては、1 つの印刷ジョブを複数に分割してプリンタードライバーに送信して来るために、[印刷方法] が印刷ジョブの途中で解除されてしまう事があります。このような場合は、[初期設定] - [印刷後の設定] で、通常印刷に戻す設定をオフに変更してください。
- プリンター名を変更すると、ワンクリックアイコンの登録情報は初期化されます。

◆ Windows Terminal Service 動作時の制限事項

- 《ドライバー機能について》
 - Windows Terminal Service 及び Citrix XenApp (旧 Citrix Presentation Server/Meta Frame) 環境では一部の機能が使用できなくなります。使用できない機能は半輝度としています。
- 《印刷について》
 - サイズの大きい画像データなどのデータを印刷した際に、データ抜けが発生する場合があります。

- ・《「自動作成されるクライアントプリンタ」について》
「自動作成されるクライアントプリンタ」とは、サーバー側にクライアントローカルプリンタの情報をコピーして作られる仮想クライアントローカルプリンタを使用して印刷する機能です。
 - ・正しくプリンタードライバーの情報が複製されない場合があります。
 - ・クライアント側にて設定したオプション構成などの一部設定を引き継ぐことができません。
 - ・サイズの大きい画像データなどのデータを印刷した際に、通信回線の帯域制限により印刷されない場合があります。
- ・《プリンタードライバーの複製機能について》(Citrix XenApp のみ)
 - ・プリンタードライバーの複製機能は、プリンタードライバーの情報をサーバーファーム内の他のすべてのサーバーに複製する機能です。
 - ・Citrix XenApp の仕様により正しくプリンタードライバーが複製されない場合があります。ご使用になる前にご確認の上、運用していただきますようお願いいたします。正しく複製がされない場合には、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして運用していただくことを推奨いたします。

◆ EMF での印刷について

- ・《EMF モードで印刷する設定方法》
 - ①「プリンタプロパティ－詳細設定－詳細な印刷機能を有効にする」(初期値はチェック ON です)
 - ②「ドキュメントプロパティ－その他－EMF スプールする」
- ・《Point&Print 時の印刷について》
 - ・「スタンプ印字 / 合成」が正しく印刷されない場合があります。
 - ・「不定形」が正しく指定されない場合があります。
 - ・「章分け / 章区切り」機能が正しく動作しない場合があります。
 - ・「印刷後の設定」機能が正しく動作しない場合があります。

◆ 64bit 対応版について

- ・《ドライバー機能について》
 - ・RPCS プリンタードライバー API は使用できません。
- ・《印刷について》
 - ・32bit アプリケーションから RAW スプールでの印刷を行うと、印刷結果が期待通りにならない場合があります。EMF モードで印刷してください。(設定方法は、「EMF での印刷について」を参照してください)
 - ・出力先指定でファイルは使用しないでください。
 - ・プリンタフォント (ゴシック・明朝) は、アプリケーション上から指定できません。
 - ・プリンタフォント (ゴシック・明朝) をアプリケーション上から指定していた文書をフォントを変更せずに印刷すると、指定と異なるフォントで印刷されます。
- ・《バージョンアップを行う方へ》
 - ・ドライバー暗号鍵を設定されている場合、保存形式の変更のため、Ver7.5x 以下のバージョンからドライバーをバージョンアップした際は、ドライバー暗号鍵の再設定を行ってください。

◆ ヘルプについて

- ・ご使用の機種によっては、Windows 95/98/ME/NT4.0 でヘルプボタンをクリックしても何も表示されません。但し、ドライバーの DISK1 ディレクトリに HTML ヘルプファイ

ルが存在する場合には、そのファイルを直接開くことによりヘルプを参照することができます。そのためには、少なくとも Internet Explorer のバージョン 4.01 以降がインストールされている必要があります。

- Windows Vista 以降では、Windows XP/Windows Server2003 で使用している、Winhelp 形式と呼ばれる古いヘルプモデルが未サポートとなりました。機種によっては、Winhelp形式のヘルプファイルを使用しているためデフォルトでは表示できません。詳細は、マイクロソフト社ホームページをご覧ください。なお、該当機種においては Windows Vista/Server 2008/7 形式のヘルプファイルに対応する予定はございません。

・《不正コピー抑止について》

- [繰り返し印字] を指定すると、フォントの種類によっては印刷ができなくなる場合があります。このような場合は、[行間] を広げてご使用ください。
- [文字列のみ] を指定すると、マスクパターンは印刷されません。マスクパターンを印刷する場合はこのチェックボックスを OFF にしてください。
- [中抜き] を指定する場合は [文字列地紋・背景地紋入れ替え] も指定してご使用ください。
- 不正コピー抑止文字列とフォントの組合せによっては、抑止文字列が印刷されない場合があります。

・《Windows の機能について》

- ご使用の PC で、Windows システム上における仮想メモリーの設定が小さいとメモリー不足が発生し、アプリケーションやプリンタードライバーでの描画処理を正常に行うことができず、以下のような現象が発生し、正常に印刷されない場合があります。

- メモリー不足メッセージの表示
- アプリケーションエラーの発生
- 警告なしの印刷中断
- プリンター側の表示パネルに「P1 コマンドエラー」の表示がなされ、印刷が途中で終了する。

このような場合は、Windows システム上の仮想メモリーの設定を大きくして印刷してください。仮想メモリーの設定を大きくしても効果がない場合には、パソコン上のメモリーを増設してください。

・《印刷プレビューについて》

- プリンタフォルダにてプリンタアイコン名を変更すると、印刷プレビュー時にプレビューされず、印刷されるなどの誤動作を起こす可能性があります。このような場合は、一度名称を変更したプリンターのプロパティを開き、OK ボタンを押下して閉じてください。
- 合紙指定をすると部数指定が無効となります。このとき、[ユーティリティー] タブの「印刷プレビュー画面を表示」チェックボックスを ON にして印刷を行った場合も印刷プレビュー画面の部数指定は無効になります。
- [印刷品質] タブのユーザー

・《Network Monitor for Client 関連について》

- Network Monitor for Client のポートを使用しているとき、以下の画面からは正しくヘルプの印刷が行えない場合があります。
[プリンター] ウィンドウ [プリンタプロパティ-ポート-ポートの構成] ダイアログで [ヘルプ] をクリック。

・《フォント/文字について》

- スタンプ文字を印字する際に、大きな文字を印字すると印刷が異常に遅くなる場合があります。このような場合は、スタンプ文字のサイズを小さくして印刷してください。
- "Adobe Type Manager" がインストールされている環境では、フォントの種類によってはフォントが印刷されない場合があります。このような場合は、"Adobe Type Manager" で以下の設定を行ってください。
 - 1) "Adobe Type Manager" を起動
 - 2) [Settings] タブ
 - 3) [Advanced Settings] 画面の "Print Fonts as Graphics" チェックボックスを ON にする。
- フォントによっては、[その他] タブの「スペースを印刷する」を選択しても、スペースが印刷されない場合があります。このような場合は、[印刷品質] タブのユーザー設定で「TrueType フォントの展開処理を変更する」チェックボックスを ON にすることにより改善される場合があります。
- 機種によっては TrueType フォントをプリンタフォントに置換する機能がないため、次のような影響が出る場合があります。
 - ゴシックなどのデバイスフォントを使用したデータにおいて、正常に出力できない場合があります。
 - MS ゴシックなどの TrueType フォントにおいて、字形が異なって出力される場合があります。
- 機種によってはビットマップ文字が太くなることがある問題を修正したため、ビットマップ文字が細くなります。
- 機種によっては太字を太くする機能がないため、太字の印字結果が細くなります。
- 機種によってはゴシックなどのデバイスフォントを使用する機能が無いため、アプリケーション上からデバイスフォントを指定できません。
- 機種によっては置換テーブルにしたがって他のフォントに置換する機能はありません。
- 文字列スタンプ、ヘッダー・フッター、地紋として指定する文字列に F040 以降の「外字」が含まれている場合、文字列が正常に印刷されません。
- 《双方向通信関連について》
 - IPP ポートおよび IPv6 ポートを使用時、または、Bluetooth 印刷環境において、オプション構成や給紙トレイ用紙の自動設定のための双方向通信に失敗する場合があります。このような場合は、印刷の多くに支障はありませんが、最適な環境での印刷を行うため、プリンタプロパティの [オプション構成の変更 / 給紙トレイ変更] を手動で設定してください。
 - 双方向通信に失敗した場合、印刷速度が遅くなる場合があります。このような場合は、[初期設定] タブの「印刷処理の配分設定」にて「コンピューターの処理を優先」を選択することにより改善される場合があります。
- 奇数ページで終わる印刷データで両面印刷を指定すると、余分な 1 ページが追加される場合があります。追加されたページは、1 ページとしてカウントされる場合があります。
- ご使用のパソコンの搭載しているメモリーの量によってはアプリケーションからの印刷処理に時間がかかる場合があります。また、メモリーの制限などで OS やアプリケーション側で印刷処理が継続できなくなった場合はアプリケーション側で印刷処理を中断してしまう場合があります。
- 使用環境や印刷されるデータにより、一般保護違反エラーが発生する場合があります。

- 使用するディスプレイドライバーにより、一部正常に印刷されない場合があります。
- アプリケーションによってはプリンタードライバーの縮小指定を行うと一部正常に印刷されない場合があります。
- アプリケーションによっては、画面上の網掛けパターンと印刷結果が異なる場合があります。
- アプリケーションによっては、画面上のイメージデータが一部印刷されない場合があります。
- アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を開いて印刷設定をおこなう場合、その設定内容（例：両面印刷の指定など）がアプリケーションによっては、印刷後に保持されない場合があります。これらの設定値を保持する・しないはアプリケーション側に依存しているため、繰り返し印刷をおこなう場合や、次のアプリケーション起動時に、前回の設定値が必ずしも正確に反映されない場合があります。アプリケーションから印刷をおこなう場合には、そのつど必ず印刷画面からプロパティを開き、印刷条件を再度設定したうえで印刷を実行するようにしてください。
- 用紙方向が混在する文書の印刷において、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて選択する「原稿方向」が、先頭ページの原稿方向と一致していない場合、各ページの用紙方向が適正に設定されているにもかかわらず正しい印刷結果が得られない場合があります。このような場合は、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて設定する「原稿方向」を先頭ページの原稿方向と合わせてください。
- Excel 以外のアプリケーションで、プリンタードライバーのプロパティの [応用設定] タブの「アプリケーションが継承する設定項目を増やす」のチェックボックスを ON にして印刷した場合、印刷設定が正常に反映されない場合があります。このような場合は、「アプリケーションが継承する設定項目を増やす」のチェックボックスを OFF にして印刷してください。
- 縦書き時の傾斜は横書き時と同じ方向になる場合があります。
- 集約印刷・変倍機能を使用して印刷される場合、描画位置によって罫線の太さが違って印刷される場合があります。
- クロスプラットフォームのプリンタードライバーを使用する場合は、クライアントマシンがプリンタードライバーをロードする前に、必ずサーバーに代替ドライバーをセットアップしてください。
- 封筒やパンチ済み紙のように方向を持つ用紙の場合、180 度回転した印刷結果になる場合があります。このような場合は、[その他] タブの「180 度回転」を指定してご使用ください。また、原稿の方向が縦横混在した文書でも、縦と横の相対的な回転方向が 180 度反対の結果になる場合があります。このような場合は、[初期設定画面] の「原稿方向混在設定」を指定してご使用ください。
- 複数部数をソート機能を使用しないで 1 → 1 → 2 → 2 のようにページ単位で印刷する場合には、[プリンター] ウィンドウからプリンタードライバーの設定画面を開き、[仕上げ] タブの「ソート（一部ごと）」のチェックボックスを OFF にしてください。
- 2 ページの文書を 3 部印刷する場合、アプリケーションでソートを指定するとパソコンからは 6 ページ分のデータがプリンターに送られて来ることがあります。印刷画面に「部単位で印刷」を持つアプリケーションについては、このチェックボックスを OFF にしてください。
- Microsoft Office バインダーからの印刷はできません。

- ・プリンタードライバーのプリンター名、ポート名が長い場合、アプリケーションからそのプリンターを選択したり、印刷開始するとアプリケーションが強制終了する場合があります。このような場合は、プリンタードライバーのプリンター名やポート名を短くしてください。
- ・「写真・イメージ画像を補正する」機能で、露出オーバー、露出アンダー気味の画像データ以外に補正処理を適用させると補正が正しく行われな場合があります。
- ・「写真・イメージ画像を補正する」機能を使用した場合、画像データによっては正常に補正が行われな場合があります。
- ・大きなサイズや高解像度のイメージデータを印刷する場合、メモリーの不足により印刷されない場合があります。解像度を 1200dpi で印刷している場合は 600dpi に設定して、改善を試みてください。
- ・アプリケーションによっては、1つの印刷ジョブを複数に分割してプリンタードライバーに送信して来るために、[印刷方法] が印刷ジョブの途中で解除されてしまう場合があります。このような場合は、[初期設定] - [印刷後の設定] で、通常印刷に戻す設定を OFF に変更してください。
- ・プリンター名を変更すると、ワンクリックアイコンの登録情報は初期化されます。
- ・トナーセーブ機能とスモーキング機能が同時に指定できない / 機能しない場合があります。トナーセーブ機能を設定したい場合には、スモーキング機能は設定しないでください。スモーキング機能を設定した場合には、トナーセーブ機能は無効になります。
- ・機能選択限定機能を持つ機種において、[応用設定] タブの機能選択限定機能で機能を制限すると、それ以前に作成した「ワンクリック設定アイコン」は、正常に呼び出せない場合があります。機能選択限定を設定する場合には、先に機能選択限定を設定してから、「ワンクリック設定アイコン」を作成してください。
- ・「トンボ印字」機能を持つ機種において、トンボ印字の設定をしても、原稿サイズと用紙サイズが同じ場合や用紙サイズいっぱい面に面付けされる場合など、トンボが印刷されない場合があります。
- ・表紙印刷と章区切りをサポートする機種において、1 ページ目に対して、表紙印刷と章区切りの同時指定ができますが、実際は表紙片面印刷がされます。
- ・原稿方向とトレイの用紙方向が異なる場合に印刷に非常に時間が掛かる場合があります。このような場合は、[初期設定] タブの「印刷処理の配分設定」にて「コンピューターの処理を優先」を選択することにより改善される場合があります。
- ・「Web Image Monitor」機能を持つ機種において、IPv6 をお使いの場合、IPv6 ポートの設定によっては、「Web Image Monitor」ボタンで Web Image Monitor 画面を開けない場合があります。

PostScript ドライバーについて

- (フル) 付きの用紙サイズを指定して印刷を行った場合、アプリケーションや OS によっては、画像が欠けてしまい正常に印刷できない場合があります。
- プリンタードライバー上ではプリンターの HDD の有無に関わらず、「試し印刷」「機密印刷」が常に設定可能ですが、HDD 未装着の状態ではプリンターが「試し印刷」「機密印刷」に非対応のため、自動的に「通常印刷」となります。
- Windows 95/98/Me/NT4.0/2000/XP/Server 2003 から PageMaker から「試し印刷」「機密印刷」「保留印刷」「プリンターに保存」「ユーザーコード」機能は使用できません。また印刷開始時刻の情報も印刷データに反映されません。
- 網掛けなど画像のパターンによっては色味が異なって印刷される場合があります。この場合、印刷品質のユーザー設定にて、ディザリングの設定を印刷する画像（色味）に合ったディザパターンに変更してください。
- OS またはアプリケーションによって、印刷部数に 1000 部以上の部数が設定できますが、1000 部以上の部数は全て 999 部に統一されます。
- カスタム用紙サイズを設定する際、ダイアログに表示している値の範囲内であっても「カスタムページサイズのパラメータに矛盾があります。」の警告ダイアログが表示される場合があります。
- カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- Windows の区切りページを使用すると正常に印刷されない場合があります。その場合には区切りページを使用しないでください。
- 白黒反転印刷の機能は、「画像モード」または「カラープロファイル」を「ユーザー設定」にしたときに有効になります。
- ドライバー上の給紙トレイ指定箇所で「自動選択トレイ」を指定している場合、全ての用紙の種類が選択できます。「手差しトレイ（マルチ）」からしか給紙できない用紙の種類（特殊紙 3）を使用する際は、給紙トレイを「手差しトレイ（マルチ）」に設定して印刷を行ってください。
- 奇数ページで終わる印刷データで両面印刷を指定した場合、PostScript ドライバーとアプリケーションとの組み合わせによっては、自動的に白紙ページが追加される場合があります。自動的に追加される白紙ページは、モノクロ 1 ページとしてカウントされます。自動的に追加される白紙ページをカウントさせない場合には、プリンター本体側の PS パネルメニューより「白紙排紙」の設定を「しない」に設定することにより白紙ページはカウントされなくなります。
- 詳細オプションダイアログ内で「部数」の項目を複数部数に選択すると「部単位」のチェックボックスが表示されますが、この箇所は OFF の設定にして印刷してください。ソート機能の設定は、詳細オプションダイアログの「ドキュメントのオプション」－「プリンターの機能」－「ソート」の箇所で行ってください。
- 印刷中に本体パネルに表示されるファイル名が文字化けする場合があります。例えば、表、能、貼の文字を含むファイル名の文書を印刷した場合、文字化けする場合があります。
- N-up 印刷時に（フル）付きの用紙サイズを指定して印刷を行った場合、アプリケーションや OS によっては、通常用の紙サイズで印刷を行った時に比べ若干大きく印刷される場合があります。
- バイナリデータを使用した EPS ファイルを含む文書を印刷する場合、文字化けしたデータが大量に印刷される恐れがあるため、以下のように設定してください。
プリンター本体の設定（Windows）：「データ形式」を「バイナリ」に設定してください。

ドライバーの設定 (Windows) : データ形式 (Windows 9x)、あるいは、出力プロトコル (Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7) を、「ASCII」あるいは「バイナリ」に設定してください。

- カスタム用紙サイズを設定する際、ドライバー内部での計算上の丸め誤差の影響により次のような現象が発生する場合があります。
 - ドライバーUI上に表示される設定可能な範囲内にカスタム用紙サイズを設定しても警告ダイアログが表示される場合があります。
 - ドライバーUI上で設定できる最大サイズまたは最小サイズを入力しても印刷できない場合があります。
 - ドライバーUI上に表示されている設定可能な範囲外にカスタム用紙サイズを設定しても警告ダイアログが表示されない場合があります。
 - カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- PageMaker よりカスタム用紙サイズ印刷時、アプリケーションでトレイの指定を行っても正しくコマンドが出力されないため「自動選択トレイ」の動作となります。「手差しトレイ」などに設定したカスタム用紙サイズは給紙されません。その場合、プリンターの本体パネルより給紙するトレイを選択し強制印刷を行ってください。
- PageMaker からの印刷では「自動トレイ選択」の選択肢が表示されません。必ずトレイ指定の動作になります。(デフォルトは「トレイ1」)。
- 「Microsoft Office XP」文書のオートシェイプの塗りつぶしでテキストを指定した場合、印刷結果に透過性は反映されません。
- データ形式 (Windows 9x)、出力プロトコル (Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7) を「TCP/IP」に設定した場合、PS エラーが発生したり、部数設定が不正になる場合があります。その場合、データ形式、出力プロトコルは「ASCII」の設定でご使用ください。
- 「Microsoft Word」のカスタム用紙サイズの文書は正常に印刷されない場合があります。
- カスタム用紙サイズを設定する際、ダイアログに表示している値の範囲内であっても「カスタムページサイズのパラメータに矛盾があります。」の警告ダイアログが表示される場合があります。
- カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- 網掛けなど画像のパターンによっては色味が異なって印刷される場合があります。この場合、印刷品質のユーザー設定にて、ディザリングの設定を印刷する画像 (色味) に合ったディザパターンに変更してください。
- アプリケーションによっては、用紙指定変倍が有効にならない場合があります。
- 「不定形のサイズ登録」にて幅と高さの値が変更された後、mm/inch 切り替えを行うと値が変動する場合があります。
- 両面印刷の「長辺とじ」と「短辺とじ」が使用可能な条件の場合、「シートごとのページ」に「小冊子」は表示されません。
- 方向混在の文書を N-up 印刷時に、アプリケーションによって印刷の方向が正しく出力されない場合があります。
- N-up/ 小冊子印刷時、印刷データに特定種別の図形描画オブジェクト (PASSTHROUGH オブジェクト) が含まれていると正しい印刷結果を得ることができない場合があります。具体的には、図形描画オブジェクトの向きが正しくない、オブジェクトが表示されない、あるいは変倍が機能しないなどの症状が発生します。このような場合、ドライバーの「詳細設定」タブ「プリントプロセッサ」からプリントプロセッサ設定画面を表示し、

「WinPrint」を設定することで正しく印刷される可能性があります。

- 出力プロトコルを「TCP/IP」に設定した場合、PS エラーが発生したり、部数設定が不正になる場合があります。その場合、データ形式、出力プロトコルは「ASCII」の設定でご使用ください。
- Windows 2000/XP/Server 2003 を使用して、「PageMaker 6.0J/6.5J」からの印刷時、「オプション」の「和文フォントダウンロード」の項目を「ビットマップ」に設定しないと正しく印刷されない場合があります。
- Windows 2000/XP/Server 2003 を使用して、PageMaker から「オブジェクトの挿入」を使用して他のアプリケーションの文書を挿入した場合、その挿入した部分の TrueType フォントが正常に印刷できない場合があります。
- Windows 2000/XP/Server 2003 を使用時、印刷設定画面の右上にある「？」ボタンを押下しても何も表示されません。ヘルプを表示させるためには、画面右下の「ヘルプ」ボタンを押してください。

Network Monitor for Admin に関する注意と制限事項

◆ インストール時の制限

- Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 でインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- バージョンアップを行う場合は、起動している Network Monitor for Client を終了させてから行ってください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがバージョンアップすると、正しくバージョンアップされません。インストール時と同じユーザーでログオンして行うか、アンインストールしてからインストールを行ってください。
- インストール先のフォルダは Windows ディレクトリを指定しないでください。また、Network Monitor for Client がインストールされている場合は Network Monitor for Client と異なるフォルダを指定してください。
- インストール時にインストール完了画面が背面に表示されることがあります。この場合タスクバー上の該当部分を開いてください。
- ネットワークドライブからインストールするとき、クライアントとサーバーの双方がロングファイルネームをサポートしていない場合、インストールできないことがあります。ロングファイルネームをサポートしていない場合は、インストール元のネットワークドライブのディレクトリ名を DOS8.3 形式で作成してください。

Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 ファミリーでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Admin をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには以下の 2 通りの方法があります。

- 1) [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Admin をインストールします。
- 2) MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /INSTALL
インストール モードを終了するには、MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /EXECUTE
詳しくは Windows のヘルプをご覧ください。

- Windows 95/98/Me のネットワークドライブから Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista /Server 2008/7 へのインストールは行う事が出来ません。インストールを行う際は、ローカルドライブにコピーし実行してください。

◆ アンインストール時の制限

- Network Monitor for Admin が起動している場合は、終了させてからアンインストールを行ってください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがアンインストールすると、データが完全に削除されず正しくアンインストールされません。インストール時と同じユーザーでログオンしてアンインストールを行ってください。
- Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7でアンインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。

◆ 注意 / 制限事項

- ネットワークの負荷が高い場合、機器が応答しなかったり、一部の情報が取得できないことがあります。例えば複数のコンピューターから同じ機器を同時に監視した場合（コンピューターの台数は環境によって異なります）です。この現象が発生するときは、機器情報画面で [設定] をクリックし、[応答待ち時間] を長めに設定してください。
- TCP/IP の機器検索で指定サブネットを用いて機器検索を行った場合、ルータ機器におけるブロードキャストの設定、機器側のサブネットアドレスの設定によっては、機器検索ができないことがあります。
この場合、ネットワーク管理者にご相談ください。
- イーサネットボード設定ツールのイーサネットボードリスト画面においてTCP/IPプロトコルにてプリンターをブラウズした場合、一部の機種でMACアドレスが"未取得"と表示される場合があります。このような機種のMACアドレスを確認する場合は、機種を選択して"次へ"をクリックしてください。
- ネットワークにダイヤルアップ回線を接続しているお客様は、適切な対応を行わない場合、多大な通信料がかかることがあります。本ユーティリティーは周期的に機器と通信を行いますので、設定したアドレスの値によっては回線が接続されたままの状態になることがあります。アドレスを指定するときは回線の接続が発生しない値に設定してください。また、本ユーティリティーをインストールしたコンピューターを移設する場合など、登録済みの機器のアドレスによっては回線の接続が発生する場合がありますので、必ず利用しない機器は監視を止めるか、登録を削除してください。
- 次の環境に該当する場合、Network Monitor for Admin を一度削除し、アップグレード後に再インストールする必要があります。
 - OS を Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 にアップグレードした環境
 - Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 において、Network Monitor for Admin をインストールしたドライブのフォーマットを FAT から NTFS にコンバートした環境
- Windows XP Home Edition においては、IPX/SPX プロトコルによる機器検索はおこなえません。
- 同じパソコンにウィルス対策ソフトが導入されている場合、その設定によっては正しく機器検索を行えない場合があります。
詳しくは、ウィルス対策ソフトのマニュアルを参照してください。
- 次の条件に該当する場合、グループメニューの [機器検索] - [IPX/SPX] がグレーアウトし選択できないことがあります。

- 次の環境に該当する場合、Network Monitor for Client を再インストールする必要があります。
 - OS を Windows XP から Windows Vista/Server 2008/7 にアップグレードした環境
 - Windows 2000/XP/Server 2003 において、Network Monitor for Client をインストールしたドライブのフォーマットを FAT から NTFS にコンバートした環境
- Windows 2000 /Server 2003/Server 2008 ファミリでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Client をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、以下の2通りの方法があります。
 - 1) [コントロール パネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Client をインストールします。
 - 2) MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /INSTALL
インストール モードを終了するには、MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /EXECUTE
詳しくは Windows のヘルプをご覧ください。
- インストール終了時に 再起動を推奨する画面が表示されたら、必ず再起動してください。再起動する際、Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 の環境では Administrator の権限があるユーザーでログインしてください。
- Microsoft Windows95/98/Me のネットワークドライブから Windows XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 のパソコンへのインストールは行う事が出来ません。インストールを行う際は、導入先のパソコンのローカルドライブにコピーし実行してください。

◆ アンインストール時の制限

- Network Monitor for Client が起動している場合は、終了させてからアンインストールを行ってください。
- アンインストールを行う場合、全ての印刷が終了していることを確認してください。Network Monitor for Client のポートを使用して印刷している場合はエラーメッセージが表示されます。印刷が終了してから再度アンインストールを行ってください。
- アンインストールを行う場合、Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っていないことを確認してください。Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っている場合はエラーメッセージが表示されます。ポートの追加、設定を終了してから再度アンインストールを行ってください。
- Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7で アンインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- アンインストール終了時に 再起動を推奨する画面が表示されたら、必ず再起動してください。

◆ 印刷時の制限

- 代行印刷・並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（たとえば両面ユニットやフィニッシャーなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。

- ・代行印刷・並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターに同じサイズ of 用紙をセットしてください。特定の給紙トレイを指定して印刷するときは、同じトレイに同じサイズ of 用紙をセットしてください。RPCS ドライバーを使用して of 印刷時に、給紙トレイを指定すると、代行印刷・並行印刷は動作しません。
- ・並行印刷する場合、アプリケーション of 印刷ダイアログに「部単位で印刷」という項目があるときは、そのチェックを外してください。
- ・代行印刷、並行印刷した場合、実際に印刷したプリンターがアプリケーションから選択したプリンターと異なる場合があります。このため、機器 of 詳細情報画面 of ジョブ履歴には、印刷したジョブが反映されないケースがあります。
- ・代行印刷、並行印刷 of 「プリンター of 選択」画面で、機器検索に時間がかかる場合に、「プリンター of 選択」画面で操作を行うと、プログラム of 終了 of メッセージが表示される場合があります。プログラム of 終了 of メッセージで [すぐに終了] ボタンを押下すると、プリンター of 選択画面が終了してしまい、ジョブが印刷されません。
- ・Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 では、印刷通知 of ダイアログボックスがアプリケーション画面 of 背面に表示されます。(Windows of 仕様) 印刷通知は、タスクバー of 表示でご確認下さい。
- ・IntranetWare Client インストール時、ポート名最大長は 43 文字 (バイト) 以下となります。最大長を超えると NetWare of DLL でエラーが発生します。(NetWare of 制限事項)
- ・プリントサーバー経由で印刷したとき of 印刷通知をクライアント PC に行う場合、プリントサーバーを起動した直後は通知されないことがあります。また、64bit OS の場合は印刷通知をクライアント PC に行うことは出来ません。
- ・以下 of 場合、プリントサーバー経由で印刷したとき of 印刷通知をクライアント PC に行うことができません。
 - ・クライアント PC において、プリントサーバー上にあるプリンターを追加する際、ログオンしたユーザー名と異なるユーザー名でプリントサーバー上 of プリンターに接続した場合
 - ・プリントサーバーに、クライアント PC of ログオンユーザーと同じアカウントがない場合
 - ・プリントサーバー of OS が Windows XP/Vista/Server 2008/7 である場合、サーバー PC of Guest アカウントが有効になっていて、かつ、ローカルユーザーとして印刷を行った場合
 - ・プリントサーバーおよびクライアント PC にウィルス対策ソフトが導入されており、ウィルス対策ソフト of ファイアウォール機能が有効になっている場合
- ・プリントサーバー経由で of 印刷時、プリントサーバー PC とクライアント PC of 導入言語が異なる場合、印刷通知機能は動作保証外となります。
- ・Windows XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 において、2 人目以降にログインしたユーザー of デスクトップがアクティブである時、代行印刷・並行印刷 of 条件を満たした場合でも、代行印刷・並行印刷は行いません。また、エラー通知 / 印刷完了通知も行いません。
- ・Windows XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 において、1 人目にログインしたユーザーがログオフした場合、次にログインしたユーザーで印刷通知、代行印刷・並行印刷を行います。
- ・機器が省エネモード状態 of 時に印刷を行うと、認証情報 of チェックが行なえず代行印刷機能が正しく機能しない場合があります。
- ・以下 of ような場合、機器からジョブ情報が取得できず、「自分 of ジョブ一覧」や「印刷完了通知」でジョブ of 状態が " データ転送完了 " と表示される場合があります。

- ・機器のジョブスプール機能が有効に設定されている場合
- ・PS での印刷など、機器で高負荷な印刷処理を行っている場合
- ・MetaFrame を含むターミナルサービス環境にてクライアントへ印刷通知を行いたい場合は、サーバー経由でクライアントに通知する際と同様の設定を、ターミナルサーバーとクライアントの双方で実施してください。
- ・並行印刷、代行印刷のプリンターの選択や印刷通知画面において機器情報を表示する際、確認画面が表示されることがあります。次回から確認画面を表示させたくない場合、該当する設定を実施してください。
 - ・Windows 2000 において、Internet Explorer 6 を使用している場合、インターネット接続ウィザード画面が表示されることがあります。キャンセルボタンを選択後、"今後、インターネット接続ウィザードを表示しない"にチェックをつけてウィザードを閉じてください
 - ・Windows XP/Server 2003 において、Internet Explorer 7 を使用している場合、フィッシング詐欺検出機能設定画面が表示されることがあります。"自動フィッシング詐欺検出機能を有効にする (推奨)"または"自動フィッシング詐欺検出機能を無効にする"を選択してください。
 - ・Windows 2000/XP/Server 2003 において、Internet Explorer 以外のブラウザを使用している場合、Internet Explorer の設定をインポートするかどうかの確認画面が表示されることがあります。"Internet Explorer"または"インポートしない"を選択してください。
 - ・Windows 2000/XP/Server 2003 において、Internet Explorer 以外のブラウザを使用している場合、Internet Explorer が起動されることがあります。また、既定のブラウザに設定するかどうかの確認画面が表示されることがあります。Internet Explorer を既定のブラウザにしないを選択してください。

◆ ポートの追加 / 設定時の注意事項

- ・プリンターのプロパティ画面における [ポートの構成] ボタンを押した際、機器の応答が無い場合 (電源断など)、ポートの構成ダイアログはしばらく待ち状態になる場合があります。そのままお待ちいただくか、機器の電源が入っていない場合は電源を入れてください。
- ・ポートの追加をするときに、機器のアドレスをホスト名で指定するには、該当する機器のホスト名が、hosts ファイルに記述されているか、DNS サーバーに登録されているか、WINS サーバーに登録されている必要があります。ホスト名の文字数には、それぞれ制限がありますので詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。なお、ホスト名が正しく設定されていないと、ポートの追加や機器監視が行えません。
- ・同じパソコンにウィルス対策ソフトが導入されている場合、その設定によっては正しく機器検索を行えない場合があります。詳しくは、ウィルス対策ソフトのマニュアルを参照してください。
- ・Windows のインターネット接続ファイアウォール機能が有効になっている場合、機器検索 / 機器情報取得を行なえません。インターネット接続ファイアウォールについて、詳しくはマイクロソフト社の HP を参照してください。

◆ 監視時の注意 / 制限事項

- ・ネットワークの負荷が高い場合、機器が応答しなかったり、一部の情報が取得できないことがあります。例えば複数のコンピューターから同じ機器を同時に監視した場合 (コンピューターの台数は環境によって異なります) です。この現象が発生するときは、機器情報画面で [設定] を選択し、[応答待ち時間] を長めに設定してください。

- ・ネットワークにダイヤルアップ回線を接続している場合、適切な対応を行わなければ、多大な通信料がかかることがあります。本ユーティリティーは周期的に機器と通信を行いますので、設定したアドレスの値によっては回線が接続されたままの状態になることがあります。アドレスを指定するときは回線の接続が発生しない値に設定してください。また、本ユーティリティーをインストールしたコンピューターを移設する場合など、登録済みの機器のアドレスによっては回線の接続が発生する場合がありますので、必ず利用しない機器は監視を止めるか、登録を削除してください。

◆ ジョブ操作時の注意事項

- ・機器でユーザーコード認証モードに設定されている場合、ドライバーでユーザーコードが設定されていないと、ジョブ操作を行なえません。
- ・ジョブの一時停止 / 再開機能を使用するためには、プリンターにハードディスクが搭載されている必要があります。また、64bitOS ではジョブの一時停止 / 再開機能は行うことができません。
- ・ジョブのキャンセル機能はデータ転送完了前のジョブのみジョブ操作を行えます。

◆ 64bit 対応 OS のプリンタードライバー連携機能に関する制限事項

プリンタードライバーが対応していない場合、以下の制限事項があります。

- ・プリンターのプロパティでオプション構成や給紙トレイ用紙の自動設定のための双方向通信が出来ません（RPCS ドライバー、PS ドライバー）
- ・印刷通知（完了通知 / エラー通知 / 自分のジョブ一覧）が使用できません（RPCS ドライバー）（データ転送完了までの状態を通知します）
- ・ジョブごとの印刷通知設定が出来ません。

印刷ポートについての注意と制限事項

- ・IPP ポートはプリンターの準備ができていない場合や、印刷中の場合、印刷されない場合があります。その場合は再度印刷を行ってください。

8

TCP/IP 使用時の注意と制限

◆ 印刷時

- ・印刷データの受信を始めた時点で、印刷データのサイズがハードディスクまたはメモリーの残り容量よりも大きい場合、その印刷データは受信することができません。印刷データが受信容量を超えた場合、クライアントによっては即時再送信をするものがあります。このとき、クライアントがハングアップしたように見えます。対処として、クライアント側でその印刷データの送信を中止する必要があります。
- ・コンピューター側で IP アドレスやコンピューター名を変更した場合、プリンター側での問い合わせ処理や取り消し処理が正常に行われなくなります。プリンター側でスプールに印刷データがない状態にして、電源を切 / 入してください。

◆ 設定時

- ・プリンター側の設定
 - ・IP アドレスの設定には十分注意してください。IP アドレスは、システム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。

- ・使用するネットワーク環境においては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要項目を設定してください。
- ・パソコン側の設定
 - ・IP アドレスの設定には十分注意してください。IP アドレスは、システム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
 - ・NIS (Network Information Service) の管理下で使用されている上位装置で、ネットワーク (IP アドレスなど) の設定をする場合は、NIS の管理者に相談してください。

◆電源切時

- ・本製品の電源を切るときは、以下の点に注意してください。
- ・印刷出力中の印刷データを含め、プリンターのメモリーにスプールされた印刷データは、すべて削除されます。再び電源を入れたときは、印刷指示された印刷データは存在しません。ただし、印刷指示をした直後に電源を切った場合、印刷データはコンピュータ上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときは、新しく印刷指示された場合でも、保存されている印刷データから順に出力されます。

ハードウェアに関して

使用上の条件

- ・用紙については、取扱説明書の「印刷用紙について」を参照してください。
- ・カード紙の印刷にはいろいろな制約があります。事前に十分な評価を行った上でご使用願います。
- ・給紙トレイに用紙を補給するときは、用紙なしになってからにしてください。用紙をつぎたすと、紙づまりや重送の原因になります。給紙トレイで異なる用紙を使用する場合は前の用紙を取り除いてご使用ください。異なる用紙をつぎたすと、紙づまりや重送の原因になります。
- ・使用する用紙によっては、給紙時に用紙をさばく音 (分離音) が発生する場合がありますが、異常ではありません。
- ・推奨紙をご使用の場合でもプリンターの設置環境や推奨紙の保管方法や取り扱い方法が悪い場合は、トラブルの原因となることがあります。また、用紙によっては (印刷済み用紙含む)、寿命・ジャム等の仕様を満足できないことがあります。
- ・推奨紙以外の紙をご使用の場合、以下のトラブルの原因になるおそれがあります。
 - ・用紙のカール、紙づまり、重送、紙シワ、斜行、印刷位置ズレ等
 - ・印刷品質の劣化等
 - ・プリンターの故障
- ・他のプリンターで使用できていた用紙が必ずしも使用できるとは限りません。プリンターをリプレースする場合は、実際に使用する用紙により事前に十分ご確認ください。
- ・両面印刷ユニットを装着している場合でも、普通紙、再生紙、およびレターヘッド付き用紙以外の用紙は両面印刷できません。

用紙の保管について

- ・本製品に適切な用紙でも、取り扱いや保管状態が悪いと用紙が変質し、紙づまりや故障

の原因となります。用紙は以下のことに注意して取り扱い、保管してください。

- ・給紙トレイに合ったサイズの内紙を用意してください。
- ・バラバラになった用紙を寄せ集めて使用しないでください。
- ・複数枚重なって排出された場合など、装置を一度通った用紙は再利用しないでください。
- ・直射日光の当たらない、湿気の少ない場所に保管してください。
- ・開封後用紙トレイにセットせずに残った用紙または、長時間使用しない用紙は、包装されていた紙に包み、湿気の少ない場所に保管してください。
- ・用紙は立てかけず、平らな場所に保管してください。
- ・シワ、折れ、カール等がつかないように保管してください。

再生紙について

- ・推奨紙以外の再生紙は、一般の普通紙に比べ以下のような不具合を発生させやすいので、使用できる用紙の注意事項に加えて以下の事項をご留意の上、使用してください。
 - ・吸湿しやすいため、紙カール量、シワ、折れが増大する場合があります。にじみ、重送、給紙ミスや紙づまりの原因となることがあります。
 - ・紙粉、抜きカスなどによる印字品質への影響、給紙ミスや各種センサ系の誤検出の原因となることがあります。
 - ・用紙強度、剛度が弱いため、スタック性、折りたたみ性が劣る場合があります。
 - ・普通紙に比べて長期保存性に劣るため、保存文書等へのご使用は避けてください。
 - ・比較的可変色しやすいので、直射日光は避けてください。
 - ・紙厚が若干厚いため、用紙トレイや多重手差しトレイの内紙セット枚数は普通紙に比べて少なくなります。
 - ・紙粉が多いため、清掃、点検を確実に実施してください。
 - ・用紙を装置にセットしたまま長期間放置しないでください。印刷しない場合は、用紙を取り外し包装紙に包んで保管してください。

8

再生紙の購入、保管

- ・再生紙は、原料として使用される古紙によって品質が大きく変化します。このため、再生紙を大量に購入される場合は、事前に本装置で印刷の確認を行うことをお勧めします。
- ・再生紙は空調された室内に保管し、包装を開封した用紙は速やかに使用してください。

用紙がつまったとき

- ・プリンターの電源を入れたままで紙づまりの処置を行ってください。電源を切ると、プリンター内のメモリーに保持されているデータが消えてしまいます。
- ・つまった用紙にはトナーが付着しています。手や衣服などに触れると汚れますのでご注意ください。
- ・つまった用紙はプリンター内部に残らないようすべて取り除いてください。用紙は複数箇所、つまっていることがあります。用紙を取り除くときは、表示以外の箇所に用紙があるか確認しプリンター内でつまっている用紙全てを取り除いてください。
- ・つまった用紙を勢いよく引っばると用紙が破れ、機器の内部に紙片が残る可能性があります。
- ・つまっている用紙を取り除く前にカバーを閉じたり電源を入れなおさないでください。プリンター内に残っている用紙が移動して取り除くのが困難になることがあります。用紙が取り除けない場合は、プリンターの電源を切り、保守会社に相談してください。
- ・紙づまり処置後に印刷された用紙は、表面や裏面に汚れが付着することがあります。数枚印刷すると汚れは消えます。特に定着ユニットに詰まった用紙を引き抜くと、汚れがひどくなりますのでご注意ください。

注意と制限事項

- ・感光体カバーは、中の感光体（ドラム）に光が当たらないように保護しています。感光体カバーをむやみに開けないでください。
- ・トナーカートリッジ・定着ユニットは、連続印刷に対してドラムの回転数が増える間欠印刷を行うと、寿命が最大半分程度に低下することがあります。
- ・トナーが手や衣服についたときはすぐに冷水で洗ってください。
- ・トナーカートリッジの交換などを行う際は直射日光や強い光の当たる場所を避け、室内の明かりの下でも、速やかに作業してください。
- ・トナーカートリッジをプリンターから取り外した場合は、強い光に当てないように、厚い布などに包んでください。
- ・トナーカートリッジを立てて置いたり、振ったりする事は行なわないでください。トナー漏れや印刷不良の原因となります。
- ・各消耗品の「印刷可能ページ数」は同梱品のトナーカートリッジも含め、A4 横 5% のデータを連続印刷をした場合の目安です。実際の印刷可能ページ数は印刷する用紙の種類・サイズ、印刷内容、1 ジョブあたりの連続印刷ページ数、環境条件によって異なります。またトナーカートリッジは使用期間によっても劣化するため、上記目安より早く交換が必要になる場合があります。
- ・寒い所から暖かい所に移動した場合は、1 時間以上室温に慣らしてから使用してください。
- ・トナーカートリッジは立てたり、逆さまにしないでください。
- ・前カバーを開けたまま長時間放置しないでください。感光体は、長時間光に当てると性能が低下します。感光体の交換はすみやかに行ってください。
- ・ドラム表面には手を触れないでください。ドラムを汚したり、傷つけることがあります。
- ・トナーカートリッジ等の消耗品や部品は、弊社指定の製品により、プリント品質を評価しています。品質維持のため、弊社指定のトナーカートリッジ、消耗品または交換部品をご使用ください。
- ・PC-PL2660 用トナーカートリッジはご使用できません。

- ・本製品のトナーカートリッジは、2成分です。交換時にはトナーシールを2本引き抜いてください。
- ・トナーカートリッジ（消耗品）は保証対象外です。ただし、ご購入になった時点で不具合があった場合は購入された販売店にご連絡ください。
- ・トナーカートリッジは安定した印刷品質を維持するために、ご購入から2年以内でのご使用を推奨します。
- ・トナーシールを引き抜いた後でトナーカートリッジに振動を与えると、印刷面に汚れが出たり、トナーこぼれや故障の原因になります。誤ってトナーカートリッジを振ってしまったときは、印刷面に汚れが出なくなるまで（50枚程度）印刷を繰り返してください。

トナー寿命について

- ・プリンター購入時に添付されているトナーカートリッジはスタータートナーカートリッジです。印刷可能ページ数は約3,000ページ（A4、黒比率5%）です。お早めにトナーカートリッジのご購入をお勧めします。
- ・本製品には、消耗品が使用されています。寿命（枚数、時間）はA4横送り、5%のデータを連続印刷した場合の値です。用紙サイズや用紙方向、連続印刷ページ数、使用環境などによって異なります。また、連続印刷に対してドラムの回転数が増える間欠印刷では、寿命が最大半分程度に低下することがあります。寿命になった消耗品（トナーカートリッジ）は交換してください。

消耗品名	寿命目安
トナーカートリッジ	
スタータートナー：	約3,000ページ
PZ26401A:	約6,000ページ
PZ26401B:	約15,000ページ

8

保守・運用

運用上の注意事項

- ・本製品の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本製品の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- ・装置や部品の寿命値の算出はA4換算で行っています。印刷用紙サイズや印刷デュティによっては印刷枚数より早く寿命となることがあります。

保守・運用について

- ・本製品に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作を誤ったり本製品に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- ・オプションの拡張HDDに記録されたデータについて
 - ・拡張HDDが故障した場合、HDDに記録されていた印刷データ、PSダウンロードフォントの内容は保証されませんのであらかじめご承知ください。
- ・本製品は日本国内向けに製造されており、電源仕様の異なる諸外国では使用できません。

本製品を日本国外に移動させた場合は、保守サービスの責任は負いかねます。また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は各国異なります。これらの規則に違反して、本製品および消耗品等を諸外国に持ち込むと罰せられることがあります。本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は弊社担当営業にお問い合わせください。

- ・本製品またはリサイクル対象外の消耗品は不燃物として、または法令、条例に従って産業廃棄物として、お客さまにて処分、処理をお願いします。
- ・本製品を設置時、プリンターが入っていた箱は保管しておいてください。
- ・本製品には、有寿命有償部品が使用されています。寿命（枚数、時間）は A4 推奨紙を常温常湿環境にて連続印刷した場合の値です。再生紙や幅狭用紙、厚紙、穴あき用紙などの特殊紙を使用した場合は寿命が低下します。また、寿命を超えた使用は、ジャムなどの印刷不良や用紙搬送不良につながります。定期的な保守による部品交換（定着ユニットや給紙ローラ、フリクションパッド等）が必要です。

性能低下の条件

- ・下記条件において、印刷速度が低下することがあります。
 - ・画像が入ったデータを印刷する場合
 - ・画質優先設定実行時
 - ・大量印刷実行時
 - ・小サイズ用紙印刷時
 - ・用紙種類を「普通紙」以外にした場合
 - ・印刷位置変更時
 - ・トナーセーブ使用時
 - ・Adobe Acrobat Reader を使用しての印刷時
 - ・拡張インターフェースボードを使用しての印刷時
- ・C/S560 のシステム性能はプリンターの性能に比例しません。なお、用紙のサイズや種類、印刷条件によって、印刷速度は低下します。

その他

形名の読み替え

本製品の形名は PC-PL3541 となりますが、プリンタードライバー、PostScript ドライバーのインストール時の表示や README など、提供している資料やソフトウェア上で異なった形名で表示や説明している部分があります。下記に従い読み替えるようお願い致します。

- ・IPSiO SP 6320 → PC-PL3541

USB について

- ・USB ポート接続していたプリンターをネットワーク接続する場合は、CD-ROM から「Network Monitor for Client」をインストール願います。Network Monitor for Client ポート（TCP/IP ポート）が使用できます。

C/S560 について

- ・オプションの C/S560 用 LAN アダプタ (PC-PB20211) を使用すると、日立 C/S560 プロトコルを用いたメインフレーム印刷がご使用できます。他の機種ではご使用できません。
- ・プリンターが標準装備している LAN ボードでは、日立 C/S560 プロトコルを用いたメインフレーム印刷は、ご使用いただけません。プリンターが標準装備している LAN ボードと、オプションの C/S560 用 LAN アダプタ (PC-PB20211) は IP アドレス設定などの操作画面や方法が異なります。詳細は LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。CommuniNet の 560 + (プラス) (パススルー印刷、ページ印刷) は、ご使用いただけません。
- ・C/S560LAN アダプタはパラレルケーブルで接続できません。

印刷結果の相違について注意事項

- ・ご使用の環境や用紙・プリンターの状態により色味が異なることがあります。
- ・ご使用になるドライバーの種類や OS の種類によって、使用できる機能および印刷結果に相違がでることがあります。
- ・他のプリンターと印刷結果が必ずしも同じにはなりません。プリンターをリプレースする場合は実際にご使用になるデータにより事前に十分ご確認ください (線の太さ、網掛け、印刷領域等)。

印字品質について

- ・印刷結果は、同一機種内でのバラツキが存在します。厳密な印刷の必要がある場合は、バラツキを考慮した帳票設計と運用をお願いします。
- ・バーコード・QR コードの印刷について
下記項目等により、読み取り可否が変動する場合がありますので、事前に十分ご確認ください。また、使用開始後にも確認してください。
 - ・帳票デザイン
 - ・印刷の向き
 - ・用紙のアプリケーション (コードのデザイン、補正有無等)
 - ・環境
 - ・プリンターの状態・設定
 - ・純正トナーカートリッジの使用
 - ・リーダーの読み取り性能
- ・料金代理収納用バーコード「GS1-128 コンビニバーコード」(以降 GS1-128 コンビニバーコード) の印刷が可能です。読み取りに関しては、帳票デザイン、バーコードの配置 (向き)、アプリケーション、用紙、プリンター、環境、印刷結果の取り扱い、バーコードリーダーなどの要因により影響され、読取れない場合があります。実環境で実際に印刷したバーコードの読み取りを事前に確認して頂く必要があります。バーコードは黒一色のみで作成してください。
- ・GS1-128 コンビニバーコードの事前注意点
 - ・純正トナーカートリッジを使用する
 - ・バーコードデザインの補正が可能なアプリケーションを使用する
 - ・紙送り方向とバーコードのバー方向が平行になるようにバーコードを配置する
また、プリンターの設定やアプリケーションの設定は機種により異なり、印刷位置は

プリンターごとに異なる場合がありますので、パソコンやプリンター毎の調整が必要な場合があります。なお、印刷は、用紙や環境、プリンターの状態により変化する場合がありますので、定期的なバーコードの読み取り確認を推奨いたします。それとともに、収納代行業者での事前評価をお願いいたします。

移行に関する注意事項

- PC-PL2650 等の LIPS や、PC-PK4720 等の ESC/Page を PDL（プリンター制御言語）とするプリンターからのリプレース時の、PDL に関する問題点は下記になります。
 - 1) OS にインストールされたプリンタードライバーを使用していない場合。
 - 例. アプリケーションにて直接 LIPS コマンドを生成している
(Communitnet 560 + (プラス) ページモード等)
 - この場合、アプリケーションで本製品に対応した PDL を生成できるようにするか、アプリケーションの出力を OS にインストールされたプリンタードライバーにする必要があります。
 - 2) プリンタードライバーの DevMode 構造体を、アプリケーションが UI を用いないで直接制御している場合。
 - 例. アプリケーションが印刷を実行するとき、プリンタードライバーを使用しているが、UI (Word 等で "印刷" を実行すると出てくるプリンターの設定画面。通常給紙部や、両面印刷等の指定が出来る) を経由しないで直接 DevMode 構造体の値を取得している。(PC-PDE 等)
 - この場合、上記 PDL だけの問題では無く、プリンタードライバーが変更されると DevMode の値が変わることがあり、思った通りの印刷結果が得られない場合があります。
 - 但し、アプリケーションを作成したときのドライバーと変更後のドライバーで使用している DevMode の値が同じであれば問題は発生しません。
 - 3) 現在 LIPS、または ESC/Page をドライバー経由で通常の使用方法で使用しており、他 PDL での評価をしていない場合。
 - 通常のプリンタードライバー経由の印刷の場合、PDL が切り替わることによる問題はありません。
 - 但し、機種により固有値や機能がありますので、厳密な印刷を求める場合は確認が必要です。
- PC-PL2640/3530/3540 とは主に下記の点が異なります。移行の際十分ご確認ください。また、操作の際にマニュアルをご確認ください。
 - 操作パネルの操作性
 - パラレルポートが標準からオプションに変更
 - 電源 OFF のしかた
 - PS3 ドライバーの UI
 - 隠しモードへの入り方

清掃について

- プリンターを良好な状態に保ち、きれいに印刷するために、以下の部分を定期的に清掃してください。(プリンター内部に、ほこりや汚れがあるときは、乾いた清潔な布で拭いてください。)
 - フリクションパッド、給紙コロ

- ・レジストローラー周辺
- ・専用器具があるものは専用器具を使って清掃してください。専用器具を使用するよう指示があるものの場合、専用器具以外のもを使用して清掃すると、キズや故障が発生することがあります。
- ・電源プラグは年に1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を乾いた布で、ほこりを取り除いてください。ほこりがたまると、火災の原因になります。
- ・本製品の清掃方法について
 - ・クリーナーなどの薬品類、シンナーやベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。すきまからしみこんだり、本体のプラスチックが溶けたりして、故障の原因になります。
 - ・機械内部など、本書で説明している部分以外の清掃は保守会社に依頼してください。
- ・機器設定値エクスポートについて
 - ・異なる構成（オプション）のプリンターとの、設定項目データの引継ぎも出来ます。（構成の違いによって、引き継げない設定項目はインポート時にその設定を更新しません。）
 - ・バックアップ/リストアのみでバックアップしたデータを編集することは出来ません。
 - ・同一の設定項目データを複数のプリンターへリストアして利用する場合は、IP アドレス等も引継がれて設定されて同一 IP アドレスに設定されてしまうので注意してください。
 - ・SD カードに同時に登録できる機器設定は1つだけです（2つ目を入れると、最初の登録が上書き消去されます）。
 - ・SD カードは下側のスロットに挿入してください。（SD カードの抜き差しは電源 OFF で実施してください）

内蔵フォント

以下のフォントを使用できます。

搭載フォント

アウトライン：明朝 L、明朝 L プロポーショナル、ゴシック B、ゴシック B プロポーショナル、Courier10、Prestige Elite12、Letter Gothic15、BoldFace PS、Courier 4 書体、Arial 4 書体、TimesNewRoman 4 書体、Wingdings、Century 朝 L、ゴシック B、平成明朝、平成ゴシック
ビットマップ：Courier10、Prestige Elite12、Letter Gothic15、BoldFace PS

ポストスクリプト：平成 2 書体（平成明朝 W3、平成角ゴシック W5）、欧文 136 書体^{*1}

PDF フォント：平成 2 書体（HG 平成明朝 W3、HG 平成角ゴシック）、欧文 136 書体^{*1}

その他：OCR-B

^{*1} PS/PDF オプション装着時

有償定期交換部品と有償寿命部品について

以下の部品は有償定期交換部品です。

本機の性能を十分に発揮させるために、以下の期間で必ず交換してください。

交換に関しては、担当営業または保守会社までご連絡ください。

★重要

- ・定期交換部品を交換しないと、きちんと印刷できなくなるだけでなく、重送、紙づまりの原因となり故障が多くなることがあります。交換目安は操作パネルで確認したメーターの値か、スタートページプリントまたはプリンター設定リストに印刷されているプリント総ページ数を参考に担当営業または保守会社にご連絡ください。
- ・次の一覧表の数値はあくまで目安であり、故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。

	項番	品名	交換目安 (A4 横 / 片面印刷時)	備考
有償定期交換部品	1	フリクションパッド	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	本体トレイ用
	2	フリクションパッド	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	増設トレイ用
	3	給紙コ口	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	本体トレイ用
	4	給紙コ口	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	増設トレイ用
	5	転写ローラー	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	
	6	定着ユニット	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	
	7	防じんフィルター	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	

	項番	品名	交換目安 (A4 横 / 片面印刷時)	備考
有償 寿命 部品	8	DC 電源 : 136W : DOM/NA	約 5 年 *2	プリンター本体用
	9	複合高圧電源 : BCT	約 5 年 *2	プリンター本体用
	10	操作部 : KRIS-P2B/C:DOM : 総組立	約 5 年 *2	プリンター本体用
	11	PCB:EGB:KRS-P2B/C:総組立	約 5 年 *2	プリンター本体用
	12	PCB:Kir-P4:DCB2	約 5 年 *2	両面ユニット用
	13	PCB:BANK:250:組立	約 5 年 *2	250 枚増設トレイユニット用
	14	PCB:BANK:500:組立	約 5 年 *2	500 枚増設トレイユニット用
	15	ポリゴンスキャナ	約 5 年 *2	プリンター本体用
	16	ブラシレスモータ	約 5 年 *2	プリンター本体用
	17	コントローラボード	約 5 年 *2	プリンター本体用
	18	HDD オプション	5 年あるいは 20,000 時間稼動まで *2	オプション

*1 項番 1～7 の交換目安の印刷枚数は用紙サイズ A4 の横送り連続印刷時の目安となります。ただし、お客様の使用条件、使用環境によっては半分以下になる場合があります。

*2 項番 8～18 の部品には、アルミ電解コンデンサーが搭載されています。

⚠ 注意



- ・アルミ電解コンデンサーについて
このプリンターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週日 8 時間使用で約 5 年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に電源ユニットでの電解液漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を越えて使用する場合は、保守部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では 5 年より寿命は短くなります。

寿命および保守について

装置寿命

本機の装置寿命は通常の使用状態で 5 年または 1,200,000 ページ *1 のいずれか早いほうです。

*1 平均 8 時間 / 日、20 日 / 月稼働で 5 年間で。両面印刷は 2 ページ分です (A4 横換算)。

⚠ 注意



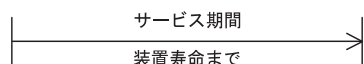
- ・特殊紙の使用割合が極端に多い場合は、寿命が短くなる場合があります。

保守部品の保有期間

本機の保守部品の保有期限は製造打ち切り後 5 年間です。

サービス期間について

本機のサービス期間は下記のとおりです。



サポート対象外機能一覧

次の機能は、サポート対象外となっております。

印刷および動作等の保証はしておりません。

また、質問などにもお答え出来かねますのでよろしくご理解願います。

この機能をご利用になる場合には、お客様ご自身で充分に動作確認をしていただき、お客様の責任においてご利用いただくようお願いいたします。

(弊社では、この機能に関してのテスト、評価等の確認は行っておりません。)

- NEC PC98 環境での印刷
- EtherTalk
- エミュレーションモード (201H、ESC/P、HP-GL/2、TIFF、RPDL)
- 次の用紙サイズへの印刷レジャー (ダブルレター)、リーガル 14 インチ (リーガル)、リーガル 13 インチ (ガバメントリーガル)、レター、八開
- Salutation6.SunOS 環境での印刷
- PostScript English 版ドライバーでの印刷
- PC-PL3541 用プリンタードライバー以外を使用しての印刷 (PDF ダイレクトプリントは除く)
- Win9x、WinMe、Win NT、Win 2000、MAC OS
- 日本語以外の Windows OS
- NetWare
- DEVmode 構造体を制御した印刷
- Web Image Monitor、NetWork Monitor for Client/Admin 以外の機器の監視
- 下記に示すオプションおよび機能はサポートしません
 - 1) SDRAM モジュールVIII 128MB
 - 2) PDF ダイレクトプリントカード
 - 3) R98/R16 カード
 - 4) PCL カード
 - 5) BMLinkS カード
 - 6) 蓄積文書暗号化カード
 - 7) 個人認証カード
 - 8) 個人認証 IC カード
 - 9) IC カード
 - 10) IC カード管理ソフト

本体、オプション、消耗品一覧

PC-PL3541 ページプリンターは、以下のオプション品、消耗品を用意しています。

形名	品名	備考
PC-PL3541	ページプリンター	本体
PC-PF26401	250 枚増設トレイユニット	オプション ^{*1}
PC-PF35412	500 枚増設トレイユニット	オプション ^{*1}
PC-PW2660	両面印刷ユニット	オプション
PC-PA35411	拡張 HDD タイプ M	オプション
PC-PA35412	PS3 カード タイプ E	オプション ^{*2}
PC-PA35503	拡張 1284 ボード タイプ A	オプション
PC-PA35414	拡張無線 LAN ボード タイプ A	オプション
PC-PA35415	1Giga イーサネットボード タイプ B	オプション
PC-PA35416	セキュリティカード タイプ E	オプション
PC-PM35501	SDRAM モジュールⅧ 256MB タイプ C	オプション
PC-PC1025H	インターフェースケーブル タイプ 4BH	オプション
PC-PC2020AB	USB ケーブル	オプション
PC-PB20211	C/S560 対応 LAN アダプタ	オプション
PC-PZ26401A	トナーカートリッジ (6K)	消耗品
PC-PZ26401B	トナーカートリッジ (15K)	消耗品

^{*1} 各々最大 2 つまで増設できますが、組み合わせる場合は、1 つずつとなります。

^{*2} 本オプション装着時は、SDRAM モジュールⅧ 256MB タイプ C のメモリー増設を推奨します。

↓ 補足

・消耗品購入先

- ・ (株) 日立システムズ
- ・ インターネットショップ Prinfin_M@LL <https://mall.rps.ricoh.co.jp/>
- ・ プリンターを購入された販売店

最新ソフトウェアのダウンロード

最新版ソフトウェアは、インターネットのホームページで提供しております。
なお、通信費用はお客様の負担となりますのでご了承ください。
弊社のホームページのアドレス（URL）は以下のとおりです。

<http://prinфина.jp/>

最新の OS について

最新の OS についての情報は、インターネットのホームページで提供しております。
なお、通信費用はお客様の負担となりますのでご了承ください。
弊社のホームページのアドレス（URL）は以下のとおりです。

<http://prinфина.jp/>

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat について

本製品に搭載しているコントローラなどのソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

- expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

Copyright © 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper

Copyright © 2001, 2002 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

8

↓ 補足

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。
<http://expat.sourceforge.net/>

NetBSD について

[I] Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product: This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at <http://www.netbsd.org/>.

Copyright (c) 1996-2005 The NetBSD Foundation, Inc.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE

[II] Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation.

This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed for the NetBSD Project. See <http://www.netbsd.org/> for information about NetBSD.

This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.

This product contains software written by Ignatios Souvatzis and Michael L. Hitch for the NetBSD project.

This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)

This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)

This product includes software designed by William Allen Simpson.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.

This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.

This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.

This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch

This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.

This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.

This product includes software developed by Mika Kortelainen

This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.

This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.

This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.

This product includes software developed by Adam Glass.

8

This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.

This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Alex Zepeda.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks.

This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.

This product includes software developed by Allen Briggs

This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.

This product includes software developed by Bill Paul.

This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)

This product includes software developed by Boris Popov.

This product includes software developed by Brad Pepers

This product includes software developed by Bradley A. Grantham.

This product includes software developed by Brini.

This product includes software developed by Causality Limited.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor.

This product includes software developed by Charles Hannum.

This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed by Charles M. Hannum.

This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.

This product includes software developed by Christian E. Hopps.

This product includes software developed by Christian Limpach

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed by Christos Zoulas.

This product includes software developed by Chuck Silvers.

This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Colin Wood.

This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited

This product includes software developed by Daishi Kato

This product includes software developed by Dale Rahn.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.

This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Darrin B. Jewell

This product includes software developed by David Miller.

This product includes software developed by Dean Huxley.

This product includes software developed by Eduardo Horvath.

This product includes software developed by Eric S. Hvozda.

This product includes software developed by Eric S. Raymond

This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)

This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.

This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.

This product includes software developed by Ezra Story.

This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Gardner Buchanan.

This product includes software developed by Gary Thomas.

This product includes software developed by Gordon Ross

This product includes software developed by Gordon W. Ross

This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.

This product includes software developed by Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by Harvard University.

This product includes software developed by Herb Peyerl.

This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Iain Hibbert

This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.

This product includes software developed by Ian W. Dall.

This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.

This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.

This product includes software developed by James R. Maynard III.

This product includes software developed by Jared D. McNeill.

This product includes software developed by Jason L. Wright

This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, <http://www.and.com/>

This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.

This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.

This product includes software developed by Joerg Wunsch

This product includes software developed by John Birrell.

This product includes software developed by John P. Wittkoski.

This product includes software developed by John Polstra.

This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Jonathan Stone.

This product includes software developed by Jukka Marin.

This product includes software developed by Julian Highfield.

This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.

This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.

This product includes software developed by Kenneth Stailey.

This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.

This product includes software developed by Klaus Burkert, by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.

This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Leo Weppelman.

This product includes software developed by Lloyd Parkes.

This product includes software developed by Luke Mewburn.

This product includes software developed by Lutz Vieweg.

This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.

This product includes software developed by Manuel Bouyer.

This product includes software developed by Marc Horowitz.

This product includes software developed by Marcus Comstedt.
 This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.
 This product includes software developed by Mark Brinicombe.
 This product includes software developed by Mark Murray
 This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe
 This product includes software developed by Markus Wild.
 This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.
 This product includes software developed by Masanobu Saitoh.
 This product includes software developed by Masaru Oki.
 This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.
 This product includes software developed by Mats O Jansson.
 This product includes software developed by Matt DeBergalis
 This product includes software developed by Matthew Fredette.
 This product includes software developed by Matthias Pfaller.
 This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.
 This product includes software developed by Michael Graff.
 This product includes software developed by Michael L. Hitch.
 This product includes software developed by Michael Shalayeff.
 This product includes software developed by Michael Smith.
 This product includes software developed by Mike Glover and contributors.
 This product includes software developed by Mike Pritchard.
 This product includes software developed by Minoura Makoto.
 This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.
 This product includes software developed by Niels Provos.
 This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.
 This product includes software developed by Niklas Hallqvist.
 This product includes software developed by Onno van der Linden.
 This product includes software developed by Paul Kranenburg.
 This product includes software developed by Paul Mackerras.
 This product includes software developed by Per Fogelstrom
 This product includes software developed by Peter Galbavy.
 This product includes software developed by Phase One, Inc.
 This product includes software developed by Philip A. Nelson.
 This product includes software developed by Philip L. Budne.
 This product includes software developed by RiscBSD.
 This product includes software developed by Roar Thronaes.
 This product includes software developed by Rodney W. Grimes.
 This product includes software developed by Roger Hardiman
 This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.
 This product includes software developed by Rolf Grossmann.
 This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.
 This product includes software developed by Ross Harvey.
 This product includes software developed by Scott Bartram.
 This product includes software developed by Scott Stevens.
 This product includes software developed by Shingo WATANABE.

This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.

This product includes software developed by Soren S. Jorvang.

This product includes software developed by Stephan Thesing.

This product includes software developed by Steve Woodford.

This product includes software developed by Takashi Hamada

This product includes software developed by Takumi Nakamura.

This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Terrence R. Lambert.

This product includes software developed by Tetsuya Isaki.

This product includes software developed by Thomas Gerner

This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tobias Weingartner.

This product includes software developed by Todd C. Miller.

This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.

This product includes software developed by ToolS GmbH.

This product includes software developed by Toru Nishimura.

This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.

This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.

This product includes software developed by Waldi Ravens.

This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. <http://www.zembu.com/>

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.

8

This product includes software developed by Yasushi Yamasaki

This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.

This product includes software developed by the Alice Group.

This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.

This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.

This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.

This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.

This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.

(<http://www.OpenSSL.org/>)

This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.

This product includes software developed by the RiscBSD kernel team

This product includes software developed by the RiscBSD team.

This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.

This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.

This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.

This product includes software developed for the FreeBSD project

This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas

This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.

This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET, Swedish University Computer Network.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.

This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.

"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

This software includes software developed by the Computer Systems Laboratory at the University of Utah.

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>).

This product includes software developed by Allen Briggs.

In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:

This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems.

"Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).

In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:

This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

FreeBSD 4.6.2 について

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

Sablotron (Version 0.82)

8

Copyright (c) 2000 Ginger Alliance Ltd. All Rights Reserved.

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, "Sablotron 0.82"), with modifications made by the product manufacturer.

The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, "MPL 1.1"), and the application software of this product constitutes the "Larger Work" as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: <http://supportdownload.com/services/device/sablot/notice082.html>

e) The source code of the Sablotron software is available at: <http://www.gingerall.com>

f) MPL 1.1 is available at: <http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html>

JPEG LIBRARY

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

SASL

Copyright (c) 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission.

For permission or any other legal details, please contact:

Office of Technology Transfer

Carnegie Mellon University

5000 Forbes Avenue

Pittsburgh, PA 15213-3890

(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395

tech-transfer@andrew.cmu.edu

- 4.Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

RSA BSAFE®



- This product includes RSA BSAFE® cryptographic or security protocol software from RSA Security Inc.
- RSA is a registered trademark and BSAFE is a registered trademark of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
- RSA Security Inc. All rights reserved.

Open SSL

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact opensslcore@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "<http://www.cs.hut.fi/crypto>".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh -source code

Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.

All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.

Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>

<<http://www.core-sdi.com>>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl
 Theo de Raadt
 Niels Provos
 Dug Song
 Kevin Steves
 Daniel Kouril
 Wesley Griffin
 Per Allansson
 Jason Downs
 Solar Designer
 Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller

Theo de Raadt

Damien Miller

Eric P. Allman

The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open LDAP

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

Heimdal

Copyright (c) 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan(Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

IPS™ print language emulations

Copyright (c) 1987-2006 Zoran Corporation. All rights reserved.

AppleTalk

Copyright (c) 1990,1991 Regents of The University of Michigan. All Rights Reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of The University of Michigan not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. This software is supplied as is without expressed or implied warranties of any kind.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

SPX/IPX

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

WPA Supplicant

Copyright (c) 2003-2009, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and /or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name (s) of the above-listed copyright holder (s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

nana

Copyright (c) 1995,1996,1997,1998 Phil Maker All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

ILU

Copyright (c) 1991-1999 Xerox Corporation. All Rights Reserved.

Unlimited use, reproduction, modification, and distribution of this software and modified versions thereof is permitted. Permission is granted to make derivative works from this software or a modified version thereof.

Any copy of this software, a modified version thereof, or a derivative work must include both the above copyright notice of Xerox Corporation and this paragraph. Any distribution of this software, a modified version thereof, or a derivative work must comply with all applicable United States export control laws.

This software is made available AS IS, and XEROX CORPORATION DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, AND NOTWITHSTANDING ANY OTHER PROVISION CONTAINED HEREIN, ANY LIABILITY FOR DAMAGES RESULTING FROM THE SOFTWARE OR ITS USE IS EXPRESSLY DISCLAIMED, WHETHER ARISING IN CONTRACT, TORT (INCLUDING NEGLIGENCE) OR STRICT LIABILITY, EVEN IF XEROX CORPORATION IS ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

racoon

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.
All rights reserved.

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

- a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and
- b) in the case of each subsequent Contributor:
 - i) changes to the Program, and
 - ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent(s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

↓ 補足

- 本製品に搭載している TrouSerS (Version 0.27) に関するソースコードは、次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。HITAC カスタマ・アンサ・センター (HCA センター) にお問い合わせください。
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。 http://sourceforge.net/cvs/?group_id=126012

Samba(Ver 3.0.4)

For SMB transmission, this machine uses Samba ver 3.0.4 (hereinafter referred to as Samba 3.0.4).

Copyright (c) Andrew Tridgell 1994-1998

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.



補足

- The source code for SMB transmission by this machine can be downloaded from the following website: <http://support-download.com/services/scbs>

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price.

Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have.

You must make sure that they, too, receive or can get the source code.

And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents.

We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and a brief idea of what it does. Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

索引

アルファベット索引

8021x	210
access	211
authfree	212
autonet	213
AutoNet 機能	301
bmlinks	214
BMLinkS カード	345
CD-ROM 収録ソフトウェア	289
devicename	216
DHCP	301
dhcp	216
dhcp6	217
diprint	217
dns	218
domainname	219
/etc/hosts	275
/etc/printcap	275
etherauth	220
etherconfig	220
expat	348
ftp	295, 299
help	220
hostname	220
ifconfig	221
info	222
lpr	224
IPP	25
ipp	222
ipsec	223
ipv6	223
IP アドレス	11
IP アドレスの設定 (UNIX)	272
ISDN	305
logout	224
lpr	295, 298
LPR ポート	33
NetBSD	349
Network Monitor for Admin	186, 187, 291
Network Monitor for Admin の インストール	182
Network Monitor for Admin を使う	181
Network Monitor for Client	199, 200, 268, 292, 293
Network Monitor for Client で IPP を 使用する	201
Network Monitor for Client の インストール	21
Network Monitor for Client ポート	21
Network Monitor for Client ポート (設定変更)	28
OK キー	13
passwd	224
pathmtu	225
PDF パスワードの設定	80
PDF ファイルの送信	80
PostScript 3 ガイド	9
prnlog	225
PS3	290
rcp	295, 298
bonjour	215
rhpp	226
route	226
RPCS	290
set	228
sftp	295, 300
show	230
smb	231
SNMP	244
snmp	231
SNMPv1	244
SNMPv2	244
SNMPv3	244
SNMP コミュニティ名設定ツール	244
sntp	234
spoolsw	235
ssdp	235
ssh	236
SSL (暗号化通信)	309
Standard TCP/IP ポート	30
status	236
syslog	237
TCP/IP	22

TCP/IP 使用時の注意と制限	334
telnet	209
upnp	237
USB 接続	40
USB 接続 (Windows 2000)	40
USB 接続 (Windows 7、Windows Server 2008 R2)	44
USB 接続 (Windows Server 2003/2003 R2)	41
USB 接続 (Windows Server 2008)	43
USB 接続 (Windows Vista)	43
USB 接続 (Windows XP)	41
web	237
Web Image Monitor	169, 302
wiconfig	238
Windows 2000	48
Windows 7、Windows Server 2008 R2	50
Windows Server 2003	48
Windows Server 2003 R2	48
Windows Server 2008	49
Windows Vista	49
Windows XP	48, 49
Windows ネットワークプリンター	37, 267
Windows の印刷ポート	15
wins	242
WINS サーバーの設定	302
WINS サーバーを使用する場合	302
WSD ポート	35
wsmfp	243

あ行

合紙	76
アドレス情報の管理	198
印刷準備	15
印刷設定メニュー	146
印刷設定を表示する	55, 56
印刷中止	118
印刷中止 (印刷開始前)	119
印刷中止 (印刷途中)	118
印刷部数 (UNIX)	284
インストールシェルの実行 (UNIX)	272
インストールシェルの実行結果 (UNIX)	275
インターフェース設定メニュー	158
エミュレーション切替	120
エミュレーションとプログラム (UNIX)	279
エラー履歴	167
おすすめインストール	19
オプション構成	51
オプション構成 (自動設定)	51
オプション構成 (手動設定)	52
オプション指定 (UNIX)	278
オプション指定の変更方法 (UNIX)	286
オプション装着状況	140
オプションの名称	12

か行

解像度 (UNIX)	285
カウンター情報	140
拡張無線 LAN ボード	305
仮想プリンター	86
仮想プリンター (印刷)	91
仮想プリンター (削除)	90
仮想プリンター (設定確認)	89
仮想プリンター (設定変更)	88
仮想プリンター (追加)	86
監視する機器の設定	199
漢字フィルター (UNIX)	280
かんたんセットアップ	9
管理者モード	173
機器情報	249
機器の監視	169, 181, 199, 202, 245, 250, 259
機器の状態表示 (UNIX)	287

機器の状態を表示	200
機能別ウィンドウ	53
基本タブ	71
機密印刷	105
機密印刷 (操作部からの印刷指示)	106
機密印刷 (文書消去)	108
給紙トレイ (UNIX)	281
強制印刷	95
強制印刷 (印刷中止)	96
クイックガイド	9
ゲストモード	173
困ったときは (USB 接続)	45
困ったときは (インストール)	48
コミュニティー名	244
コメントの変更	196

さ行

最新ソフトウェアのダウンロード	347
最新の OS について	347
サポート対象外機能一覧	345
仕上げタブ	71
システム設定メニュー	142
システムログ情報	259
自動メール通知	206
集約印刷	64
集約印刷の種類	65
取得情報の内容	250
寿命および保守について	344
省エネモード	193
使用上の注意	305
使用説明書一覧表	10
使用説明書について	9
状態表示 (Network Monitor for Admin)	195
スクロールキー	13
スタンプ印字	67
スタンプの種類	68
スプール印刷	78
スプール印刷ジョブ一覧の確認	197
スプールディレクトリの作成	276
セキュリティーガイド	9
セキュリティー管理メニュー	153
セキュリティー対策	307
接続方法	15
セットアップ	
UNIX	271
選択キー	13

選択文書印刷	115
全不定形サイズ・用紙種類許可	73
全文書印刷	116
全用紙サイズ・用紙種類許可	73
双方向通信	51
ソート	77
ソート部数 (UNIX)	284
その他タブ	71
ソフトウェアガイド	9

た行

ダイナミック DNS 機能を使用する	303
試し印刷	102
試し印刷 (1 部目)	102
試し印刷 (2 部目以降)	103
試し印刷 (文書消去)	104
調整管理メニュー	132
直接印刷	79, 295, 297
著作権	348
通常印刷	57
手差しトレイからの印刷を継続する	97
テスト印刷メニュー	137
搭載エミュレーション情報	140
トップページ (Web Image Monitor)	171
ドライバー (PS3)	290
ドライバー (RPCS)	290
トラブルシューティング (USB 接続)	45
48	
トラブルシューティング (インストール)	48
48	
トレイの用紙設定を変更して印刷する	94

な行

内蔵フォント	343
ネットワークインターフェースボード	183
ネットワークインターフェースボードの情 報	252
ネットワーク経由で確認できる情報	245
ネットワーク接続	15
ネットワークプリンターの設定	267

は行

排紙トレイ (UNIX)	283
パスワード	
(Network Monitor for Admin)	194
パラレル接続	46
表紙	75
表示画面とキー操作について	13
表示言語切替	164
ファームのバージョン情報	140
ファイル一覧	
(CD-ROM 収録ソフトウェア)	289
ファイルにコピーする場合 (UNIX)	287
不正コピーガード機能	81
不正コピー抑止印刷	81
プリンター言語情報	140
プリンタードライバ	
(インストール)	18
プリンタードライバ画面	53
プリンタードライバ (サポート)	18
プリンタードライバ設定画面	54
プリンタードライバ	
(ダウンロード)	18
プリントサーバー	16
プリントジョブ情報	250
プリントログ情報	251
プロパティを表示する	54
文書一覧画面	99
文書一覧画面 (文書印刷)	102
文書印刷機能	99
文書複製の抑止	81
文書複製の抑止 (おことわり)	84
ヘルプ (Web Image Monitor)	175
便利な機能	71
補助メニュー	165
ホスト名	296
ホスト名 (DHCP)	296
ホスト名 (DNS)	296
保存文書	112
保存文書 (操作部からの印刷指示)	113
保存文書 (文書消去)	114
保留文書	109
保留文書 (操作部からの印刷指示)	110
保留文書 (文書消去)	111
本書のマーク	11
本体名の変更	196

本体、オプション、消耗品一覧	346
----------------------	-----

ま行

マスクパターン	83
マニュアル	294
メール通知機能	202
メール通知用アカウント	204
メール認証	205
メッセージ一覧	259
メニュー (Web Image Monitor)	173
メニューキー一覧	121
メニューロック	184
メモリー内残存データ状態	
確認メニュー	126
メモリー容量と用紙サイズ	92
モード (Web Image Monitor)	173
戻るキー	13

や行

ユーザー ID 一覧画面	99
ユーザー ID 一覧画面 (文書印刷)	115
ユーザーコード (UNIX)	286
ユーザー情報管理ツールの起動	186
ユーザー情報の管理	186
ユーザー認証 (Web Image Monitor)	172
ユーザー別印刷枚数情報の保存	187
ユーザー別印刷枚数の表示	187
有償定期交換部品と	
有償寿命部品について	343
要求時メール通知	207
要求メール	208
用紙サイズ (UNIX)	282
用紙種類 (UNIX)	283
用紙設定 (Network Monitor for Admin)	185
用紙設定メニュー	127
よく使う印刷	57

ら行

両面印刷	59
両面印刷 (UNIX)	285
両面印刷可能な用紙サイズ	60
両面印刷可能な用紙種類	60
両面印刷の種類	61
ローカル接続	17
ログアウト (Web Image Monitor)	172
ログイン (Web Image Monitor)	172
ログファイルの作成	277

わ行


ワンクリック設定	53, 70
----------------	--------

HITACHI

株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 ITプラットフォーム事業本部
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

■製品に関するお問い合わせ■

HITACカスタマ・アンサ・センター（HCAセンター）

 0120-2580-12

ご利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

PL3541B-002

製造元:株式会社リコー

© Hitachi, Ltd. 2014. All rights reserved.